佐久市埋蔵文化財調査報告書　第216集

龍岡城跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ

長野県佐久市田口　西洋式城郭の石垣修理等に伴う発掘調査

２０１４.３

長野県佐久市教育委員会

佐久市埋蔵文化財調査報告書　第216集

龍岡城跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ

長野県佐久市田口　西洋式城郭の石垣修理等に伴う発掘調査

２０１４.３

長野県佐久市教育委員会

報告書の概要

黒門西側石垣：東端から全景。道路を下げて根石まで出す。

穴門排水口Ｂ面：修理前で石垣が孕んでいる。

旧プール撤去

市道改良舗装工事：上が現道路面、下が旧道路面である。

本書は、1866年（慶応二年十二月）に竣工した龍岡城跡（田野口陣屋）の穴門排水口水門堰の石垣解体修理（ＴＴＴⅠ）・旧プール撤去作業（ＴＴＴⅡ）・黒門西側石垣の解体修理（ＴＴＴⅢ）・市道改修舗装（ＴＴＴⅣ）工事に伴う発掘調査の報告書である。

穴門排水口：　水門堰の石垣の修理に際して、築城時または、昭和８年の陸軍築城部本部の復旧工事そして、最終の修理年代の把握が課題であった。水門堰上面から2m下の石組暗渠の中程まで太平洋戦争中の陶磁器、戦後の針金や空き缶、ガラス類、プラスチック製品がみられた。この暗渠の蓋石には石垣の天頂に使用した跳ね出し石の転用したものもあり、後世の手が入っている。石組暗渠の北下方に木樋状の材が粘土中にあり、築城時の工法を残していると考え、そのまま埋め戻している。

約２ｍ下あたりからは裏込めの内側に異なる粘土を挟んで防水する「はがね巻き工法」が残り、南岸の堤も同様な防水工法が施されている。

水門の南裾に発見された低い石垣は、水門の裾の崩壊を防ぐために築かれたとみられ、この南裾石垣は切開することなく埋めているので、時代は分からない。

２つの面の石垣の裏込めに築城時であろう一部残っている。南岸東側石垣の上から６段目の石列の裏込めで丁寧な造りである。また今回、解体しなかった堰下部の石垣は築城時のままの可能性がある。

資料からは昭和８年、昭和28年に石組暗渠までの修理、昭和48年には半年がかりの清掃作業が確認されている。

旧プールの撤去：　撹乱の範囲内で撤去作業を納めるように行なったので、新たな成果は少ないが、プールの南端に排水用の石組暗渠が残っていた。佐久石をくり抜き凹型の樋を作り、接合は凹凸の溝を作り繋げている。扁平な石を載せて蓋としている。暗渠の周囲は粘土で巻いている。

黒門西側石垣：約100mにわたる石垣で、今回の解体では築城時の痕跡は確認されなかった。東端・西端の未解体部は残存の可能性がある。陶磁器は少ないが大量の瓦が出土しており、昭和35年の御台所の修理瓦、２トレンチからの昭和44年の百円の出土など昭和の後半の修理を物語っている。

市道改修舗装工事：現道路面下に旧道路面が確認される。西端の道路の側石には佐久石が転用して使用されていた。現道は旧道路面より高いところにある。

穴門排水口　解体修理後全景　（西より）　平成20年４月撮影

黒門西側石垣解体修理後　石垣東側全景（北西より）　H22.12撮影

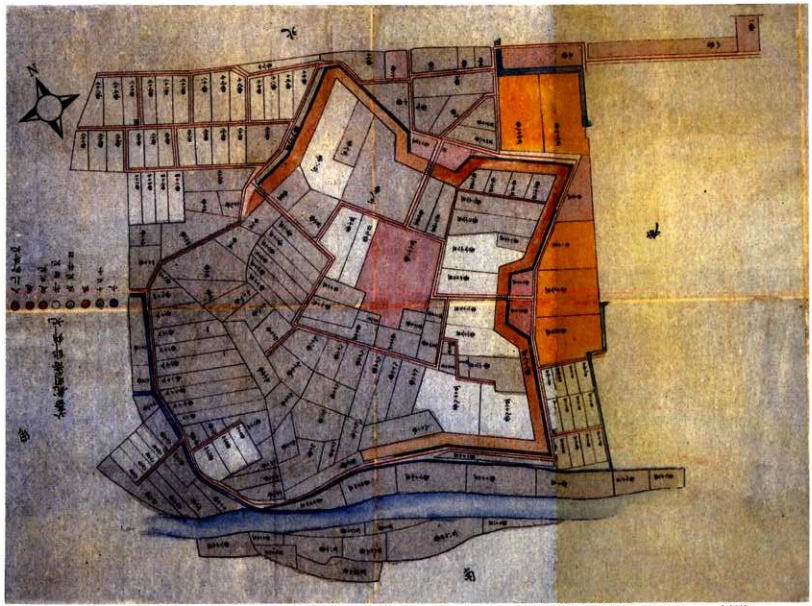
黒門西側石垣解体修理後　石垣西側全景（北西より）　H22.12撮影

N

龍岡城設計図

S＝約1：2,000

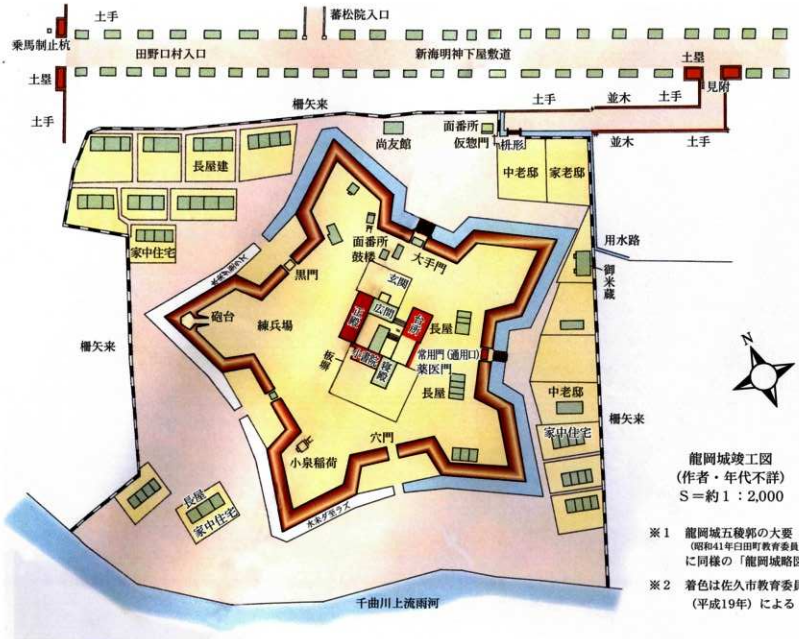
龍岡城大工棟梁堀内家伝承図（軸装）
平成24年堀内幸重氏より寄贈
佐久市所有



「龍岡城－明治初年(54×103cm) －」

明治初期長野縣町村繪地圖大鑑　I　東信篇
昭和60年6月30日刊行　郷土出版社
（明治7年（1874）の頃、明治政府が各府県に提出させた資料）

参照四



龍岡城竣工図
（作者・年代不詳）
S＝約１：2,000

※１　龍岡城五稜郭の大要
（昭和41年臼田町教育委員会）
に同様の「龍岡城略図」掲載

※２　着色は佐久市教育委員会
（平成19年）による

10 「岐 101」
各務甚三郎
カネ甚製陶所
（土岐郡笠原町）

288 「岐 416」
田中徳五
（土岐郡土岐津町定林寺）

283 「岐 314」
加藤亮平
（土岐市土岐口）

19 「岐 86」
服部辨三
（土岐郡笠原町）

638 「岐 491」
宮川隆治
（土岐郡肥田村肥田）

430-2

430-1
「岐 252」
吉川　勇
山万製陶所
（多治見市滝呂）

658 「㊎陸軍被服本廠」
工場食器

178 「岐 79」
大岩丹三
（土岐郡笠原町）

26 「瀬 8」
瀬戸の呉須印

85 「肥 55」
肥前の呉須印

S＝約 1：2

883 黒門西側 I 工区中石裏込め

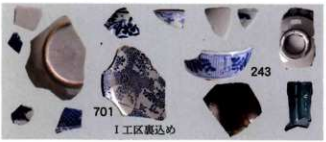
戦時下の統制陶磁器、軒瓦

Ⅰ工区土壇解体時出土

Ⅱ工区土壇解体時出土

Ⅰ工区天端石裏込め

Ⅰ工区根石裏込め



Ⅰ工区裏込め

Ⅱ工区裏込め（重機除去土内）

Ⅰ工区根石前粘土

土壇トレンチ

Ⅰ工区中石裏込め

Ⅰ工区道路埋土

700は幕末から明治初頭頃の皿である。

黒門西側石垣修理　地点別出土遺物

例　言

1．本書は史跡　龍岡城跡にかかわる以下の埋蔵文化財発掘調査の報告書である。
　穴門排水口（堰）石垣修理工事に伴う発掘調査　　龍岡城跡Ⅰ（ＴＴＴⅠ）
　旧プール撤去工事に伴う発掘調査　　龍岡城跡Ⅱ（ＴＴＴⅡ）
　黒門西側石垣修理工事に伴う発掘調査　　龍岡城跡Ⅲ（ＴＴＴⅢ）
　市道改良舗装工事に伴う発掘調査　　龍岡城跡Ⅳ（ＴＴＴⅣ）
2．調査原因者　佐久市教育委員会文化財課（龍岡城跡Ⅳは土木課）
3．調査主体者　佐久市教育委員会文化財課
4．遺跡名および所在地
　史跡　龍岡城跡（たつおかじょうせき）Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ（略称ＴＴＴ）
　長野県佐久市田口3000他
5．発掘調査期間及び調査面積と石垣修理工期間
（平成17年）
　2005.11.20　穴門排水口（堰）石垣調査業務　着工
　（公財）文化財建造物保存技術協会に委託
　　協力者　調査工事　小林石材工業（東京都港区麻布）
　　測量図化　パスコ長野支社　東日本事業部技術文化財課
　　・調査工事であらわした各石垣面の立面と平面を写真測量し、図面化する。
　　・排水口石垣周辺の平面（36m×30m）を測量し、図面化する。
　2005.12.19　穴門排水口（堰）石垣調査業務　完了
（平成18年）
　2006.7.4　（公財）文化財建造物保存技術協会（以下「文建協」と記す）石垣の修理範囲確認業務等を行う。
　2006.8.7～2007.12.19　穴門排水口発掘調査
　2006.10.27　「排水口石垣レーザー測量図化業務」（株）みすず綜合コンサルタント
（平成19年）
　2007.9　「龍岡城跡Ⅱ　現況測量図」（プール測量図）イー・ティー・シー企画
　2007.9.14～2008.3.4　旧プール撤去工事に伴う発掘調査
（平成20年度）
　2008.10.6～10.19　黒門西側石垣修理に伴う発掘調査（Ⅰ工区）
　2008.11　「黒門西側石垣調査（測量図化）業務」　エイペクス測量設計
　2008.12.1～3.24　市道改良舗装工事（ＴＴＴⅣ）
（平成21年度）
　2009.10.19～12.15　黒門西側石垣解体・積工（Ⅰ工区）
　2009.11「黒門西側石垣測量図化業務」有限会社タイム社
（平成22年度）
　2010.8.26～2010.9.7　黒門西側石垣修理に伴う発掘調査（Ⅱ工区）
　2010.9.20～2010.12.2　石垣解体・積工（Ⅱ工区）
　2010.10.　「黒門西側石垣測量図化業務」有限会社タイム社
　2010.12.8.9　土塁の復旧
6．本書に掲載した地図は佐久市発行の都市計画図（1：2,500）、国土地理院発行（1：25,000）、佐久市教育委員会作成の遺跡詳細分布地図である。また、掲載している城郭の平面図は各図にその出自を記載している。
7．本書の作成は主として森泉かよ子が行い、図面修正・割り付けは細谷秀子、デジタルトレースは

上原美千代・柳沢亜矢子、拓本柳沢亜矢子、遺物実測は堺益子・柳澤孝子が担当して行った。

8．穴門排水口使用の図面は文化財建造物保存協会（測量図化　パスコ長野支社）・（株）みすず綜合コンサルタント・文化財課手取り図を合成している。基本は文化財建造物保存協会（以下「文建協」）を使用し、石垣断面図の文建協にないものをみすず綜合の図から使用している。
石垣の裏込め・石組暗渠・南裾石垣・C面の西端3個の石・土質図は文化財課の手取り図面である。

9．黒門西側石垣、旧プールの測量図は以下の通りである。
平成19.9　「龍岡城跡Ⅱ　現況測量図」（プール測量図）イー・ティー・シー企画
平成20.11　「黒門西側石垣調査（測量図化）業務」　エイペクス測量設計
平成21.11　「黒門西側石垣測量図化業務」有限会社タイム社作成（Ⅰ工区期分）
平成22.10　「黒門西側石垣測量図化業務」有限会社タイム社作成（Ⅱ工区期分）
掲載するにあたり、
・郭内は基本として当初の平成19年作成の現況測量図を使用している。
・石垣の立面図・断面図は2社あり、平成20年度の測量図は、道路下の部分は図化されていない。
平成21・22年のタイム社は平成20年のエイペクス社のデータに道路下の石積を合成して図を作成している。したがって石垣の図面はタイム社を使用している。
なお跳ね出し石の平面図は手取りである。

10．第Ⅲ章の第1節、第Ⅴ章の第１節の文章は
財団法人　文化財建造物保存技術協会の
平成18年2月「平成17年度　史跡龍岡城跡排水口石垣調査業務成果品」
平成21年1月「平成20年度　史跡龍城跡黒門西側石垣修理工事実施設計業務成果品」
から抜粋している。
また第Ⅲ章の第２節、第Ⅴ章の第3節の文章は
財団法人　文化財建造物保存技術協会の
平成18年9月「平成18年度　史跡龍岡城跡排水口石垣修理工事実施設計業務成果品」
平成20年3月「平成19年度史跡龍岡城跡排水口石垣修理工事監理業務成果品」
平成21年1月「平成20年度　史跡龍岡城跡黒門西側石垣修理工事実施設計業務成果品」
平成22年2月「平成21年度　史跡龍岡城跡黒門西側石垣修理工事実施設計業務成果品」
施工業者丸山工務店　竣工書類
「平成21年度　史跡龍岡城跡黒門西側石垣工事　平成21年９月８日～22年2月26日」
「平成22年度　史跡龍岡城跡黒門西側石垣工事　平成22年度８月10日～23年3月25日」
から抜粋している。

11．戦争中の統制陶器について多治見市美濃焼ミュージアムには多数の資料を提供していただきました。ここに記して御礼申し上げます。

12．本遺跡の遺物等の資料は佐久市教育委員会の責任下に保管されている。

凡　例

1．挿図中の遺構の縮尺は1/100である。異なる場合は図中に明記してある。
2．挿図中の遺物の縮尺は、陶磁器1/4、石器は1/4と1/6、鉄製品1/2である。
3．図版中の遺物写真の縮尺は鉄製品ほぼ1/2、陶磁器1/4、石製品1/4・1/6である。異なる場合は明記してある。
4．挿図中のスクリーントーンは各図の凡例にしたがっている。
5．排水口では通水部のＢ・Ｇ面の上面の石の「葛石」を「葛」と略してある。
黒門西側石垣では　略号K－跳出し石、T－天端石、N－根石を使用している。天端石と根石の間の石は「中石」としている。

目　次

報告書の概要
巻頭図版
例　言
凡　例
目　次
第Ⅰ章　発掘調査の概要 …… 1
　第１節　発掘調査の経緯 …… 1
　第２節　調査体制 …… 2
　第３節　史跡龍岡城跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ工程表 …… 3
第Ⅱ章　遺跡の立地と環境 …… 5
　第１節　自然環境・基本層序 …… 5
　第２節　歴史的環境 …… 5
　第３節　龍岡藩の歴史 …… 10
　第４節　龍岡城跡の変遷 …… 12
　第５節　龍岡城跡周辺の調査記録 …… 16
　　史料１　昭和十年刊行『南佐久郡の古城址調査』龍岡城跡 …… 18
　　史料２　昭和八年十月　「龍岡城復旧計画要領書」　陸軍築城部本部 …… 19
　　史料３　「龍岡城五稜郭の歴史」田口小学校の生徒が作った年表 …… 20
　　史料４　「龍岡城址文化財指定区域図」（平成２年） …… 21
第Ⅲ章　穴門排水口石垣修理工事に伴う調査 …… 22
　第１節　穴門排水口の概要 …… 22
　第２節　穴門排水口石垣修理工事の経過と結果 …… 26
　第３節　穴門排水口発掘調査結果 …… 39
第Ⅳ章　旧プール撤去工事に伴う調査 …… 54
　第１節　旧プール撤去工事に伴う発掘調査の経過 …… 54
　第２節　旧プール撤去工事に伴う発掘調査トレンチ …… 54
　第３節　砲台南石垣にある石組暗渠 …… 54
第Ⅴ章　黒門西側石垣修理工事に伴う調査 …… 59
　第１節　黒門西側石垣の概要 …… 59
　第２節　黒門西側石垣修理工事に伴う土塁発掘調査の経過と結果 …… 63
　第３節　黒門西側石垣修理工事の経過と結果 …… 70
　第４節　黒門西側石垣発掘調査の結果 …… 87
第Ⅵ章　遺　物 …… 87
第Ⅶ章　市道改良舗装工事に伴う調査 …… 89
引用参考文献 …… 91

付表目次

第１表　龍岡城跡周辺遺跡一覧表 …… 6
第２表　龍岡城跡復旧工事経費仕譯書 …… 19
第３表　龍岡城跡Ⅰ・Ⅲ　石材一覧表 …… 115
第４表　龍岡城跡出土遺物一覧表 …… 121

挿図目次

第1図　史跡　龍岡城跡位置図 …… 1
第2図　龍岡城跡基本層序模式図 …… 5
第3図　周辺遺跡分布図 …… 7
第4図　史跡　龍岡城跡変遷図 …… 11
第5図　昭和初期の龍岡城跡図 …… 18
第6図　史跡　龍岡城跡文化財指定区域図（平成2年） …… 21
第7図　穴門排水口全体図 …… 23
第8図　穴門排水口石垣現化図 …… 41
第9図　穴門排水口トレンチ設定図 …… 43
第10図　穴門排水口（1）石垣上面と裏込め …… 44
第11図　穴門排水口（2）石組暗渠 …… 45
第12図　穴門排水口（3）南縦石垣・F・Gトレンチ …… 46
第13図　穴門排水口（4）土質図 …… 47
第14図　穴門排水口　H面築城時裏込め図 …… 48
第15図　穴門排水口　石材番号一覧図 …… 49
第16図　穴門排水口　破損・修復石材区分図 …… 50
第17図　穴門排水口　石積工（1） …… 51
第18図　穴門排水口　石積工（2） …… 53
第19図　旧プール撤去に伴う全体図・トレンチ配置図 …… 55
第20図　石組暗渠（旧プール撤去時検出） …… 58
第21図　黒門西側石垣全体図 …… 61
第22図　黒門西側　土塁Ⅰトレンチ設定図 …… 64
第23図　黒門西側　土塁1トレンチ …… 65
第24図　黒門西側　土塁2トレンチ …… 66
第25図　黒門西側　土塁3トレンチ …… 67
第26図　黒門西側　土塁4トレンチ …… 68
第27図　黒門西側　土塁5トレンチ …… 69
第28図　黒門西側石垣　横断面設定図 …… 79
第29図　黒門西側石垣修理前A地点現況図（1） …… 80
第30図　黒門西側石垣修理前B・C地点現況図（2） …… 81
第31図　黒門西側石垣修理前D～G地点現況図（3） …… 82
第32図　砲台南側石垣H・I地点現況図 …… 83
第33図　黒門西側石垣　番号・破損・修復石材区分図（1） …… 84
第34図　黒門西側石垣　番号・破損・修復石材区分図（2） …… 85
第35図　黒門西側石垣　番号・破損・修復石材区分図（3） …… 86
第36図　市道改良舗装工事　位置図 …… 89
第37図　市道改良舗装工事　B地点 …… 89
第38図　市道改良工事　A地点 …… 90
第39図　出土遺物　茶碗（1） …… 92
第40図　出土遺物　茶碗（2） …… 93
第41図　出土遺物　茶碗（3） …… 94
第42図　出土遺物　湯呑 …… 96
第43図　出土遺物　壺 …… 99
第44図　出土遺物　地利 …… 100
第45図　出土遺物　皿（1） …… 101
第46図　出土遺物　皿（2） …… 102
第47図　出土遺物　丼 …… 103
第48図　出土遺物　壺・鉢 …… 104
第49図　出土遺物　擂鉢 …… 105
第50図　出土遺物　醤油甕 …… 106
第51図　史跡　龍岡城跡御台所瓦設計図（昭和35年） …… 107
第52図　出土遺物　瓦（1） …… 108
第53図　出土遺物　瓦（2） …… 109
第54図　出土遺物　金属製品 …… 111
第55図　出土遺物　銭貨　拓影図 …… 113
第56図　出土遺物　石製品 …… 114

図版目次

報告書の概要　黒門西側石垣・穴門排水口
　旧プール撤去・市道改良舗装工事
巻頭一　穴門排水口（解体修理後）全景
巻頭二　黒門西側石垣（東側）・黒門西側石垣（西側）
巻頭三　龍岡城設計図
巻頭四　龍岡城明治初年頃の図
巻頭五　龍岡城境工図
巻頭六　戦時下の統制陶磁器、軒瓦
巻頭七　黒門西側石垣修理　地点別出土遺物
史跡　龍岡城跡修理写真（S46、S49、S51.）、
黒門石橋架替工事写真 …… 17
田口村五輪塔の石塁（西北隅）（昭和五年頃）… 18
穴門排水口修理前 …… 22
穴門排水口（仮設・発掘調査） …… 26
穴門排水口（発掘調査） …… 27
穴門排水口（発掘調査・解体工事） …… 28
穴門排水口（解体工事） …… 29
穴門排水口（解体工事・石組暗渠の検出） …… 30
穴門排水口（発掘調査） …… 31
穴門排水口（解体工事） …… 32
穴門排水口（発掘調査） …… 33
穴門排水口（発掘調査） …… 35
穴門排水口（積工工事） …… 36
穴門排水口（F・G面解体工事） …… 37
穴門排水口（積工工事・竣工） …… 38
穴門排水口　B面石垣　築城時の裏込め …… 39
穴門排水口　B・D・E・G面石垣 …… 41
穴門排水口　Gトレンチ …… 43
穴門排水口　Cトレンチ …… 45
穴門排水口　H面石垣6列目に残る築城時の裏込め …… 48
穴門排水口　A・B面、B・C面石垣 …… 50
旧プール撤去　トレンチ・撤去・整地 …… 54
旧プール撤去　トレンチ …… 56
旧プール撤去　トレンチ …… 57
旧プール撤去　石組暗渠 …… 58
黒門西側石垣　土塁トレンチ …… 63
黒門西側石垣　土塁1トレンチ …… 65
黒門西側石垣　土塁2トレンチ・遺物 …… 66
黒門西側石垣　土塁3トレンチ …… 67
黒門西側石垣　土塁4トレンチ …… 68
黒門西側石垣　土塁5トレンチ …… 69
黒門西側石垣　Ⅰ工区仮設・発掘調査 …… 71
黒門西側石垣　Ⅰ工区解体工事 …… 72
黒門西側石垣　Ⅰ工区解体工事 …… 73
黒門西側石垣　Ⅰ工区解体工事 …… 74
黒門西側石垣　Ⅰ工区積工工事 …… 75
黒門西側石垣　Ⅱ工区発掘調査 …… 76
黒門西側石垣　Ⅱ工区解体工事 …… 77
黒門西側石垣　Ⅱ工区積工工事 …… 78
黒門西側石垣　修理前A地点 …… 80
黒門西側石垣　修理前B・C地点 …… 81
黒門西側石垣　修理前D・E・F・G地点 …… 82
黒門西側石垣　砲台南側 …… 83
市道改良舗装工事　B地点 …… 89
市道改良舗装工事　A地点 …… 90
出土遺物　茶碗（1） …… 92
出土遺物　茶碗（2） …… 93
出土遺物　茶碗（3） …… 94
出土遺物　茶碗（4） …… 95
出土遺物　茶碗（5）・湯呑（1） …… 96
出土遺物　湯呑（2） …… 97
出土遺物　湯呑（3） …… 98
出土遺物　湯呑（4）・壺（1） …… 99
出土遺物　壺（2）・徳利・花瓶・
プラスチック・タイル・ガラス …… 100
出土遺物　皿（1） …… 101
出土遺物　皿（2） …… 102
出土遺物　皿（3）・丼 …… 103
出土遺物　壺・鉢・鍋・甕 …… 104
出土遺物　擂鉢 …… 105
出土遺物　醤油甕 …… 106
出土遺物　瓦質甕・土器・その他 …… 107
出土遺物　瓦（2） …… 109
出土遺物　瓦（3） …… 110
出土遺物　金属製品（1） …… 111
出土遺物　金属製品（2） …… 112
出土遺物　金属製品（3）・銭貨 …… 113
出土遺物　石製品・レンガ・木 …… 114

第Ⅰ章　発掘調査の概要

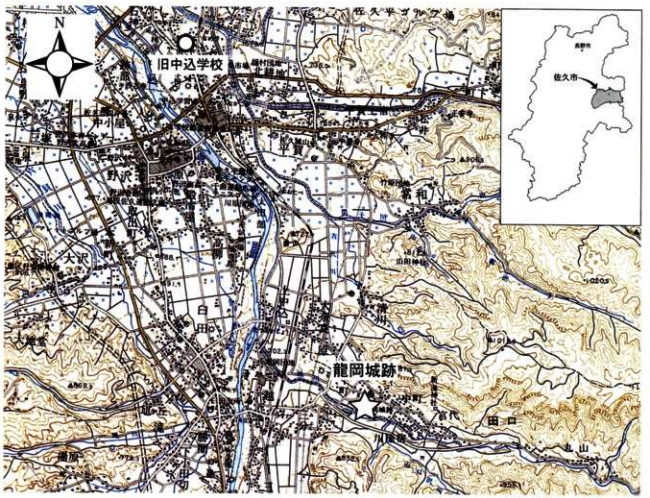
第１節　発掘調査の経緯

史跡龍岡城跡は、千曲川支流の雨川の流れる沖積地にあって、函館五稜郭とともに日本に二つしかない様式の星形稜堡城郭である。昭和９年５月１日に国の指定史跡とされている。築城は元治元年三月（1864）より着工して慶応三年四月（1867）に竣工している。築城から140年近くを経過し、径年による石垣の孕みが大きくなり、小規模な維持修理では困難な状況となっている。そのため全体的な整備計画をたて、年次計画による総合的な補修工事を行う必要性が生じている。

また大手門や通用門の復元整備等を行い、周辺整備を含めて将来的には史跡公園として整備を図ってゆきたいところである。

ことに損傷が著しい龍岡城南側に位置する排水口石垣と黒門西側の石垣を平成17年度から平成20年度の四年計画で国の補助金を使って修理することとなった。

石垣を修理保存するに際し、昭和八年の陸軍築城部による五稜郭復旧工事の痕跡確認、その他にどのような修理がなされたか、また築城当時の様子が残存しているのか調べる必要性が生じたのである。



第１図　史跡　龍岡城跡位置図

第２節　調査体制

（平成17年度）

教育長	三石　昌彦
教育次長	柳沢　健一
文化財課長	中山　悟
文化財保護係長	高村　博文
文化財保護係	荻原　留美
文化財調査係長	高柳　正人
調査担当者	出澤　力
文化財調査係	赤羽　太郎（～9月）
	林　幸彦・神津　格（10月～）
	須藤　隆司・羽毛田卓也
	小林　真寿・上原　学
	冨沢　一明・出澤　力

（平成18年度）

教育長	三石　昌彦
教育次長	柳澤　義春
文化財課長	中山　悟
文化財保護係長	高村　博文
文化財保護係	荻原　留美
文化財調査係長	高柳　正人
調査担当者	羽毛田卓也
文化財調査係	
	林　幸彦・神津　格
	須藤　隆司・羽毛田卓也
	小林　真寿・上原　学
	冨沢　一明・出澤　力

（平成19年度）

教育長	三石　昌彦
教育次長	柳澤　義春
社会教育次長	山崎　明敏
文化財課長	中山　悟（～6月退職）
	森角　吉晴（7月～）
文化財保護係長	高柳　正人
文化財保護係	荻原　留美
	高橋　浩一
文化財調査係長	三石　宗一
調査担当者	羽毛田卓也
文化財調査係	
	林　幸彦・神津　格
	須藤　隆司・羽毛田卓也
	小林　真寿・上原　学
	冨沢　一明・出澤　力

（平成20年度）

教育長	木内　清
社会教育部長	内藤　孝徳
社会教育次長	柳沢　本樹
文化財課長	森角　吉晴
文化財保護係長	酒井　順一
文化財保護係	須恵久美子
	高橋　浩一
文化財調査係長	三石　宗一
調査担当者	羽毛田卓也
文化財調査係	
	林　幸彦・羽毛田卓也
	須藤　隆司・神津　格
	小林　真寿・上原　学
	冨沢　一明　出澤　力

（平成21年度）

教育長	木内　清（～5月）
	土屋　盛夫（6月～）
社会教育部長	内藤　孝徳（～6月）
	工藤　秀康（7月～）
社会教育次長	金澤　英人
文化財課長	森角　吉晴
文化財保護係長	酒井　順一
文化財保護係	佐々木ふく江
	須恵久美子
文化財調査係長	三石　宗一
調査担当者	羽毛田卓也
文化財調査係	並木　節子
	林　幸彦・羽毛田卓也
	須藤　隆司・神津　格（～9月）
	小林　真寿・井出　泰章（9月～）
	冨沢　一明・上原　学
	出澤　力

（平成22年度）

教育長	土屋　盛夫
社会教育部長	工藤　秀康
文化財課長	森角　吉晴
文化財保護係長	酒井　順一（～9月）
	岡部　政也（10月～）
文化財保護係	佐々木ふく江
	須恵久美子
文化財調査係長	三石　宗一
調査担当者	羽毛田卓也
文化財調査係	並木　節子
	林　幸彦・井出　泰章
	須藤　隆司・羽毛田卓也
	小林　真寿・上原　学
	冨沢　一明・出澤　力

（平成23年度）

教育長	土屋　盛夫
社会教育部長	伊藤　明弘
社会教育部次長	藤牧　浩
文化財課長	吉澤　隆
文化財保護係長	岡部　政也
文化財保護係企画員	井出　幸恵
文化財保護係	佐々木ふく江
文化財調査係長	三石　宗一
調査担当者	羽毛田卓也
文化財調査係	並木　節子
	須藤　隆司・井出　泰章（～9月）
	小林　真寿・神津　一明（10月～）
	冨沢　一明・出澤　力（～5月）退職
	上原　学・林　幸彦（～3月）退職

（平成24年度）

教育長	土屋　盛夫
社会教育部長	伊藤　明弘
文化財課長	吉澤　隆
文化財保護係長	岡部　政也
文化財保護係	井出　幸恵（～9月）
	比田井清美（10月～）
	佐々木ふく江
文化財調査係長	三石　宗一
調査担当者	羽毛田卓也
文化財調査係	
	須藤　隆司・神津　一明
	小林　真寿・並木　節子（～3月）退職
	冨沢　一明・久保浩一郎
	上原　学

（平成25年度）

教育長	土屋　盛夫
社会教育部長	矢野　光宏
文化財課長	三石　宗一
文化財保護係長	羽毛田卓也
文化財保護係	大工原こずえ（～5月）
	高橋　宏美（10月～）
	佐々木ふく江
文化財調査係長	比田井清美
調査担当者	森泉かよ子
文化財調査係	
	須藤　隆司・神津　一明
	小林　真寿・久保浩一郎
	冨沢　一明
	上原　学

第３節　史跡龍岡城跡Ⅰ（穴門排水口）・Ⅱ（旧プール撤去）・Ⅲ（黒門西側石垣）　工程表

穴門排水口（堰）（TTTⅠ）

調査工事期間　　平成17年11月20日～平成17年12月19日
発掘調査・石垣修理期間　　平成18年 8月 7日～平成20年 3月18日

平成17年度事業
（平成17年）

調査工事	2005/11/20	2005/12/19								
	着工	完了								

平成18年度事業
（平成18年）

発掘調査			2006/8/7	2006/9/6	2006/10/23	2006/11/22			2007/2/2	2007/2/20
			開始	中断	再開	終了			再開	終了
石垣工事						2006/12/16	2007/1/9	2007/1/13	2007/1/22	2007/1/29
						施工打合せ	仮設水替工	石垣解体工	石垣積工	積工完了

（平成19年）

発掘調査	2007/4/17	2007/4/26								
	再開	終了								
石垣工事	2007/4/17	2007/5/8	2006/5/9	2007/5/28		2007/5/31				
	石垣解体工	解体完了	石垣積工	石垣積・盛土工完了		竣工				

平成19年度事業
（平成19・20年）

石垣工事	2007/10/4	2007/12/26～		2008/1/19	2008/1/20	2008/2/18	2008/2/19.20	2008/2/26	2008/2/29	2008/3/18
	現地打合せ	資材搬入・仮設工		石垣解体工	仮積	積工終了	堀底粘土工	植生土嚢・土盛		竣工

旧プール撤去に伴う発掘調査（TTTⅡ）　　発掘調査期間　　平成19年 9月14日～平成20年 3月 4日

平成19年度
（平成19・20年）

試掘調査	2007/9/14	2007/10/17	2008/1/		2008/1/15	2008/2/1	2008/3/4			
	開始	終了	旧プール撤去		旧プール下調査	石組暗渠調査	㋐トレ新排水口			

黒門西側石垣工事・発掘調査（TTTⅢ）　　発掘調査・石垣修理期間　　平成20年11月 4日～平成22年 3月14日

平成20年度事業
（平成20年）

土塁トレンチ		2008/11/4	2008/12/24						
		開始	終了						
石垣工事	2008/7/8	2008/8/25・12/4							
	着手打合せ	仮設計画打合せ							

平成21年度事業
（平成21・22年）Ⅰ工区

発掘調査	2009/10/6	2009/10/14								
	開始	終了								
石垣工事	2009/9/16	2009/9/25～	2009/10/19		2009/10/21	2009/11/3	2009/11/20	2009/12/15	2009/12/21	2010/2/9
	着手打合せ	工事着手	土塁・跳ね出し石解体工	裏込め解体工		石垣積工	仮積み	積工終了	撤去	Ⅰ工区竣工

平成22年度事業
（平成22・23年）Ⅱ工区

発掘調査	2010/8/26	2010/9/7								
	着手打合せ	調査								
石垣工事	2010/9/17～	2010/9/20		2010/10/3	2010/12/2	2010/12/8	2010/12/9	2011/3/14		
	解体準備	土塁・跳ね出し石解体		石垣積工	積工完了	土塁の復旧	出来形検査	竣工		

第Ⅱ章　遺跡の立地と環境

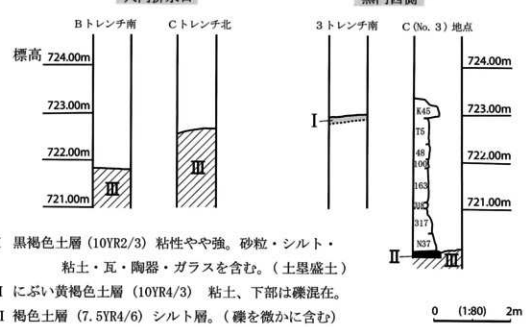
第１節　自然環境・基本層序

佐久市は長野県中位の東に位置し、市の東側は群馬県と接している。史跡龍岡城跡は、佐久市臼田地区田口の千曲川の東にあって、その支流である雨川の北の平坦地、標高723m内外にある。

龍岡城跡周辺の表層地質は千曲川と雨川沿いの新生代四期の新しい堆積岩類の扇状低地であり、龍岡城跡付近は砂礫台地となっている。（2013.3『史跡　龍岡城跡　保存計画書』ｐ11

龍岡城跡の石垣に使用している石は、通称「佐久石」と呼ばれる溶結凝灰岩である。

溶結凝灰岩は佐久市内山峡に模式的に露出し、東部山地西半に広く分布し、南は大日向の抜井川の右岸まで広がっている。岩石は紫蘇輝石安山岩ないし石英安山岩であるが、多孔質で軟らかく、普通の溶岩より凝灰岩の部分が多い。柱状節理がよく発達しているため、絶壁を作り、山頂部はきり立って特異な山容をなしている。（佐久市志　自然編ｐ62）軟質で加工しやすい石材である。



Ⅰ　黒褐色土層（10YR2/3）粘性やや強。砂粒・シルト・粘土・瓦・陶器・ガラスを含む。（土塁盛土）

Ⅱ　にぶい黄褐色土層（10YR4/3）粘土、下部は礫混在。

Ⅲ　褐色土層（7.5YR4/6）シルト層。（礫を微かに含む）

第２図　龍岡城跡基本層序模式図

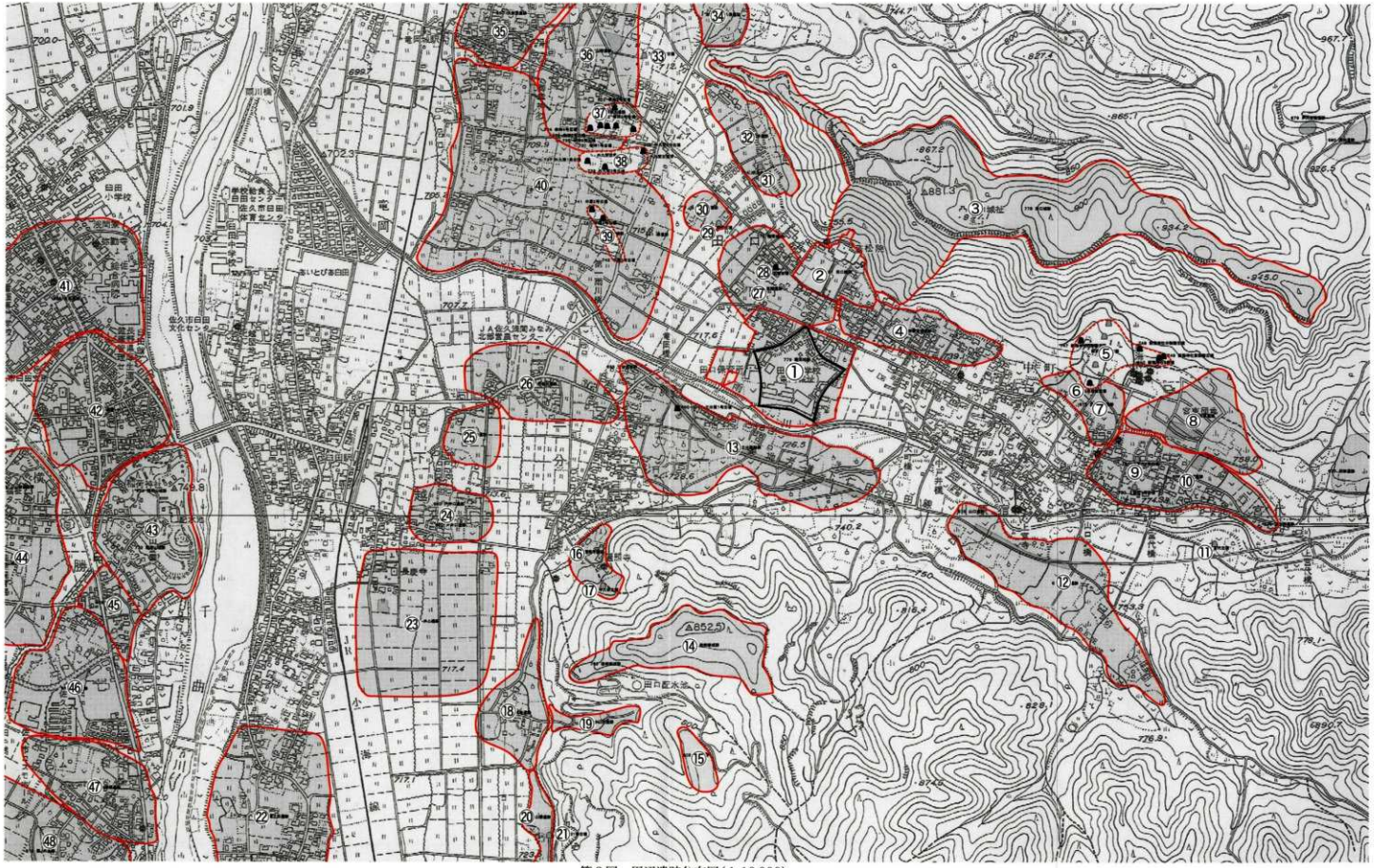
第２節　歴史的環境

龍岡城跡は旧臼田町田口地区にあり、平成17年4月1日に旧佐久市・旧望月町・旧浅科町と合併し所在地は佐久市田口となっている。城跡は雨川右岸の河岸段丘上に立地している。その右岸の山際は⑩大工原遺跡、⑧宮東遺跡、⑦英田地畑遺跡、④神原道場遺跡、②田口館跡、㉗五庵遺跡、㉚割塚遺跡、㉜明法寺遺跡、（ここに石材を採集した石切場がある。）㉞恵下久保遺跡と遺跡が連続している。時代は縄文から平安時代の遺跡である。

これらの遺跡群には古墳が構築されており、⑨上宮代古墳、⑥英田地畑古墳、⑤新海神社古墳群、

第１表　龍岡城跡周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	種別	年代	所在地	出土遺物	備考	佐久市遺跡番号
①	龍岡城跡	城館跡	近世	田口3000			779
②	田口館跡	城館跡	奈良・平安				801
③	田口城跡	城館跡	中世				778
④	神原道場遺跡		縄文～奈・平				672
⑤	新海神社古墳群	古墳	古	宮代・英田地畑・宮の沢		『佐久市埋蔵文化財調査報告書第11集 幸神古墳群』	747～749・810
⑥	英田地畑古墳	古墳	古	宮代・英田地畑	土師器・須恵器・鉄製品・銅製品・玉		746
⑦	英田地畑遺跡		古～中	宮代・英田地畑	土師器・須恵器・刀		673
⑧	宮東遺跡	散布地・集落跡	縄・古～中	宮代・宮東	土師器・須恵器・石器		674
⑨	上宮代古墳	古墳	古	上宮代・宮代			750
⑩	大工原遺跡	散布地・その他	縄～古・奈・平	宮代・上ノ平	土師器・須恵器		675
⑪	宮代古墳	古墳	古	主計原			806
⑫	山口遺跡	散布地・集落跡	縄・古・奈・平	河原前・岩溝・山口	縄文土器・土師器・須恵器・石器		676
⑬	三分遺跡群	散布地・集落跡・古墳	縄・古・奈・平・近	三分・塚畑・芝宮・北手塚	縄文土器・土師器・須恵器・石器	『2005　長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書73　三分遺跡』	695
⑭	岩崎砦城跡	城館跡	中世	三分		『千曲之真砂』『編年集成』	780
⑮	いづた砦	城館跡	中世	いづな			805
⑯	遍照寺遺跡		縄・弥・中	三分・寺久保	弥生土器・土師器・石器		692
⑰	寺久保古墳	古墳	古	寺久保			804
⑱	荒巻遺跡		弥～中	三分・荒巻・薬師田	弥生土器・土師器・石器内耳土器・陶器		693
⑲	小山沢遺跡		縄	三分・小山沢	石器		694
⑳	山際遺跡		弥～中	入沢・山際	弥生土器・土師器・須恵器・灰釉陶器・土製品・陶器		696
㉑	山際１号古墳	古墳	古	入沢・山際	勾玉		752
㉒	観正田遺跡		奈・平・中	三条・観正田	土師器・土師質土器		716
㉓	井上遺跡	散布地・集落跡	縄～奈・平	三分・上の田			691
㉔	戸井口遺跡		縄・古・奈・平	三分・上川原・下川原	須恵器・石器		690
㉕	田中遺跡		縄～奈・平	三分・中川原	弥生土器・土師器・須恵器・石器		689
㉖	西塚田遺跡		古・奈・平	三分・西塚田	土師器・須恵器		688
㉗	五庵遺跡		縄・古・奈・平	下町・五庵	須恵器・石器		671
㉘	五庵古墳	古墳	古	下町・五庵	太刀・刀装具・鉄鏃・耳環・管玉・切子玉・瑪瑙	『佐久市埋蔵文化財調査報告書第11集 幸神古墳群』	745
㉙	割塚古墳	古墳	古	下町・割塚			743
㉚	割塚遺跡		弥～奈・平	下町・割塚	土師器・須恵器・石器		670
㉛	明法寺古墳	古墳	古	下町・明法寺			744
㉜	明法寺遺跡		縄～奈・平	下町・明法寺	弥生土器・土師器・須恵器・石器	採石場あり	669
㉝	山崎古墳	古墳	古	大奈良・山崎	勾玉		730
㉞	恵下久保遺跡	散布地	奈・平	恵下久保			800
㉟	大奈良遺跡		縄～奈・平	大奈良・金石他	縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器・石器		660
㊱	山崎遺跡	散布地・集落跡	弥～奈・平	大奈良・山崎	弥生土器・土師器・須恵器・金環		662
㊲	幸神古墳群	古墳	古	原・幸神	太刀・小刀・刀子・刀装具・鉄鏃・耳環・土師器・須恵器・土製	『佐久市埋蔵文化財調査報告書第11集 幸神古墳群』	731～736
㊳	外九間古墳群	古墳	古	原・外九間	土師器・須恵器	『佐久市埋蔵文化財調査報告書第11集 幸神古墳群』	737～739
㊴	中原古墳群	古墳	古	原・中原	太刀・刀子・刀装具・鉄鏃・耳環・土師器・須恵器	『佐久市埋蔵文化財調査報告書第11集 幸神古墳群』	740～742



第３図　周辺遺跡分布図（１:10,000）

㊵	原遺跡（はらいせき）	散布地・集落跡	弥～奈・平	原・切合・幸神・中原館	縄文土器・土師器・須恵器		661
㊶	反田遺跡（そりたいせき）		縄	臼田・反田	石器		606
㊷	城下遺跡（しろしたいせき）		縄	臼田・城下	縄文土器		607
㊸	稲荷山城跡（いなりやまじょうせき）	城館跡	中	臼田・勝間		『千曲之真砂』・『南佐久郡古城址調査』・『編年集成』・『芦田記』	773
㊹	小山崎遺跡群（こやまざきいせきぐん）	集落跡	縄～中	臼田・小山崎	石器		609
㊺	城山遺跡		縄・古・奈・平	臼田・城山	縄文土器・土師器		608
㊻	丸山遺跡（まるやまいせき）		縄～奈・平	下小田切・勝間	縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器・灰釉陶器・石器		610
㊼	勝間原遺跡（かつまはらいせき）	散布地・集落跡	縄～奈・平	下小田切・勝間	弥生土器・土師器・石器		611
㊽	栗ノ木遺跡（くりのきいせき）		縄～奈・平	下小田切・栗ノ木	弥生土器・土師器・土製品・石器		612

㉘五庵古墳、㉙割塚古墳、㉚明法寺古墳がある。臼田町は平成６・７年に雨川右岸の古墳の清掃発掘調査を実施し、この地域の古墳の様相が明らかになっている。⑤新海神社古墳群の４基は無袖の横穴式古墳で、土器の出土はないが装飾品の勾玉・ガラス小玉・管玉・水晶の切小玉・蛇紋岩の大玉、鉄鏃、直刀が出土している。鉄鏃の年代などから６世紀後半から７世紀前半の古墳とされている。昭和40年３月に調査された⑥英田地畑古墳は両袖型の古墳とみられる。遺物は蕨手刀・直刀・刀装具・鉄鏃・三輪玉・須恵器・土師器杯・人骨が出土し、奈良時代とされている。

平成７年に調査された㉘五庵古墳は横穴式片袖型の石室の古墳とみられ、直刀・刀装具・鉄鏃、装飾品では金環・紺色ガラス小玉・水晶のガラス小玉（片面穿孔）・碧玉製の管玉がある。特殊なものとしては、鉄製の雄鎌が出土している。長頸箆被片切刃造調三角形の雄鎌が６世紀後半としている。

平成４年に調査された⑧宮東遺跡からは平安時代中頃から後半の８棟の竪穴住居址が検出されている。縄文中期後半～後期の住居も確認されている。

雨川が谷から出た平坦地あたりの右岸の微高地には㊵原遺跡、㉟大奈良遺跡があり、旧臼田町有数の縄文時代から奈良・平安時代に至る遺跡である。㊵原遺跡は昭和63年に農道拡幅に伴う調査がなされ、古墳時代後期と平安時代の竪穴住居があり、㊲幸神（さいのかみ）古墳群が北東に分布する。

平成15年の道路拡幅に伴う発掘調査により、㉟大奈良遺跡が調査されている。㉟大奈良遺跡は縄文中期後半～後期の集落を中心として、古墳時代後期から平安時代の集落が展開している。縄文中期では佐久系の深鉢土器が出土し、遺跡付近の石材で作られた打製石斧が破損品を含め3,500点近く出土している。この微高地には㊲幸神（さいのかみ）古墳群、㊳外九間古墳群、㊴中原古墳群がある。これらの古墳も平成６・７年に12基が調査されている。旧臼田町内は50基ほどの古墳の内、雨川右岸に幸神古墳群をはじめ半数の古墳が分布している。（『臼田町誌考古・古代・中世編』）

雨川の左岸にある㉓井上遺跡、㉕田中遺跡は発掘調査がなされている。㉕田中遺跡は平成22年道路拡幅部分の調査により、古墳・平安時代の竪穴住居址９棟、掘立柱建物址２棟、土坑４基が検出されている。㉓井上遺跡は縄文時代からの遺跡で、弥生時代後期の土器が見られ、また古墳後期の竪穴住居址が調査されている。

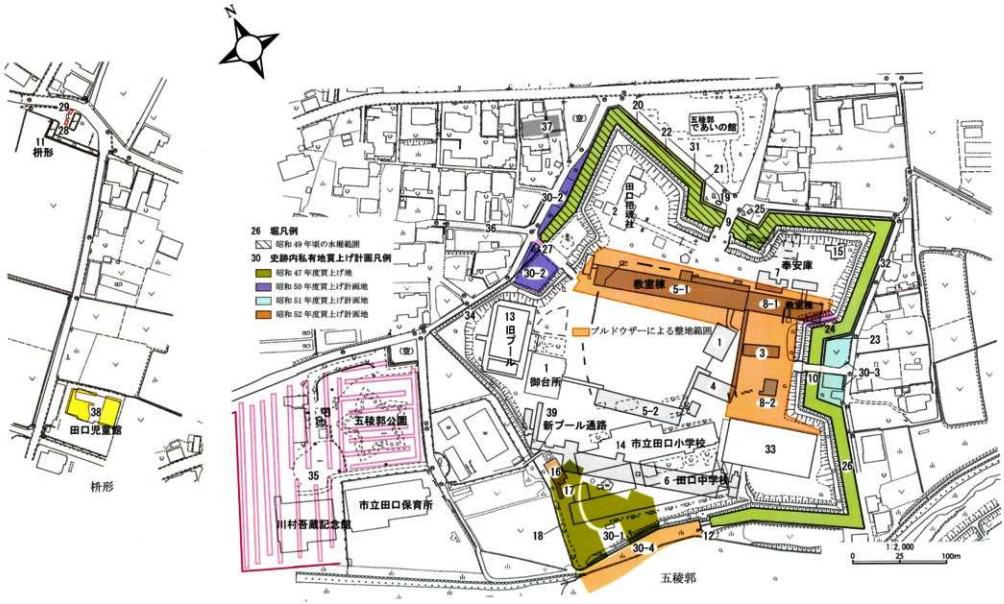
中世から近世では②田口館跡、③田口城跡は龍岡城跡の北にあって、③田口城跡は山頂に郭・堀が残っている。大塔物語に応永７年佐久郡田口氏と見え、諏訪上宮神長官文書に寶徳四年（1452）文明九年（1477）、田口式部少輔長綱、同十四年入澤長義、田口式部少輔長綱、入澤惣領の由を申すと見え、同十五年長享三年田口山城守長慶とあり。神宮寺三重の塔風鈴の銘に永正十二年（乙亥、1515）九月十日大旦那山城守長慶・勧之衆長秀・長綱・長高・長満・長俊・秀義と見えている。長綱は長慶の父である。その他は一族であろう。また上宮寺鐘楼の梵鐘には天文十二年（癸卯、1543）十一月、旦那田口左近将監長能とある。然るに天文の末に至り武田氏のために一族が滅亡した。その後依田能登昌朝之に居る。武田滅亡後北條氏に属し田口城に籠る。のち城を捨てて、小田原に逃げる。②田口館跡は蕃松院にあり、依田信蕃の子松平康國が父の追福として城下に蕃松院を創立して、その家臣に城を守らしめたという。（『南佐久郡の古城址調査』）

第３節　龍岡藩の歴史

下記の資料より作成。
明治45年６月『大給亀崖公伝』全
昭和41年　龍岡城五稜郭の大要（臼田町教育委員会）
昭和46年11月、「田野口藩（前奥殿藩　後龍岡藩）略年表」　尾崎行也

奥殿藩初代藩主真次は大給松平本家第五代真乗の二男に生まれ、大給（おぎゅう）城に居た。（愛知県東賀茂郡松平村（現豊田市）大字大給）兄の家乗に従って大給から家康の関東移封に伴う。

天正18年　真次上州那波城一萬石賜う
慶長５年　関ヶ原役には三河の吉田城を守る
慶長６年　美濃岩村城に入る、恵那・土岐二郡二萬石を領す、これで大給城は古城となる
元和１年　夏の陣の功績により徒歩頭となる、一千石賜う
寛永４年　大番頭となり、二千石加増（上州）
寛永９年　四千石加増（上総）
　　祖先の領地を領することを請う
　　二代乗次　江戸藩邸に生まれる
寛永12年　三河の大給に替え地を許される、奥殿周辺を知行
天和２年　丹波の二千石加増
貞享１年　乗次大阪定番となり、播津　三河　丹波の一萬石加増
元禄16年　四月五日　四代乗真　播津　三河　丹波　三国の一萬二千石を信濃国佐久郡に賜う
天保11年　乗利の三朗次郎（のち乗謨（のりかた））・大給恒（おぎゅう　ゆずる）生まれる
（中略）
嘉永５年　乗謨襲封
安政２年　大砲稽古、不成功
文久２年　八月幕府は参勤交代制を改めて、三年一勤・在府百日、妻子を在所に帰ることを許した
文久３年　乗謨大番頭となる
　　六月に田野口に築城を決める、知行の大部が信州にあるので居を田野口の地に移すことにする
　　九月縄張を了り、築城十一月着手
文久５年　乗謨若年寄となる
元治１年　乗謨若年寄罷免、程なく再任
元治２年　乗謨若年寄辞任
慶応１年　三河領に在所替え反対運動おこる
　　乗謨陸軍奉行となる
慶応２年　乗謨老中格となる
　　諸代足軽隊を先手銃隊組と改名
　　乗謨陸軍総裁となる
　　十二月城の普請竣工
慶応３年　田野口藩新殿落成



第４図　史跡　龍岡城跡変遷図

第４節　龍岡城跡の変遷（○数字は第４図史跡龍岡城跡変遷図参照、資料は節末に掲載）

慶応２.12.　（1866）龍岡城竣工
慶応３.4.19　（1867）新殿落成
明治１.4.29　（1868）北越出兵命令
明治１.5.18　（1868）龍岡藩と改称
明治２.4.22　（1869）藩籍奉還・乗謨龍岡藩知事に任命される
明治４.4.　（1871）龍岡城廃毀　石塁・①御台所残る
明治４.6.2　（1871）龍岡藩廃止
明治８.9　（1875）尚友学校龍岡城内に移転　①御台所を校舎として使用（6才から14才まで）（資27）
明治13.10.25　（1880）②田口招魂社建願聞届
明治27.　（1894）③東校舎（障子校舎）建築　昭和13年に取り壊し（資27）
明治31.　（1898）④小学校雨天体操場新設（五間に十二間六十坪）（Ｓ29.12.5公民館報47号）
明治35.　（1902）⑤-１北校舎・⑤－２南校舎建築（資27）
大正８.　（1919）⑧-1東校舎増築　（資27）この頃と思われる校舎配置図に雨天体操場の東に⑧－２中島氏宅あり
大正15.　（1926）⑤北校舎二階増築（資27）
昭和３.　（1928）⑦湯沸場・小使室、便所増設（資27）
昭和４.8　（1929）①御台所現在の地に移転（Ｓ36年の御台所半解体復元工事の棟札に「東方より移動」とあり。）
昭和５.5.1　（1930）大手橋付近⑩標識及び説明板の設置
昭和８.10.　（1933）龍岡城復旧計画要領書陸軍築城部本部
龍岡城保存会が組織され、陸軍築城部本部により龍岡城跡の旧状復旧がなされる
昭和９.　（1934）⑨大手橋・⑩通用門橋新設（史跡名勝天然記念物保存管理状況調査に記載）
昭和９.5.1　（1934）龍岡城跡「史跡名勝天然記念物龍岡城跡」に指定される。（資１）
昭和10.3.4　（1935）②田口招魂社、鳥居・水鉢・石灯籠造立、社務所は建設年月不明
昭和10.　（1935）『南佐久郡の古城址調査』龍岡城の図城内に大手東に「奉安庫」あり
昭和13.　（1938）③東校舎（障子校舎）撤去（資27）
昭和14.　（1939）④雨天体操場3間５間の増築で七十五坪とする（資27）
昭和15.　（1940）⑤－２南校舎東５教室、二階増築（資27）
昭和23.12.21　（1948）⑥南校舎新制中学新築工事　着手（6.3制に伴う中学校施設、資29）
昭和24.5.15　（1949）⑥南校舎新制中学新築工事　完了（昭和24年8月25日『田口民報』第12号、資29）
昭和24.7　（1949）校舎は立派に完成し、グランドは拡張されて固定バックネット、スコアボードまで完備（昭和24年8月25日『田口民報』第12号、資29）
昭和26.8.20　（1951）①御台所が公民館全景として掲載される（田口村公民館報7号月刊、資29）
昭和26.12.10　（1951）史跡名勝天然記念物保存管理状況調査（岩崎長思）
⑨大手橋・⑩通用門を昭和9年に新設し、小破修理はなされるが架替えが必要
①御台所の屋根が雨漏りが激しく、屋根替えが急務。⑪桝形の石垣修理が必要
昭和27.11.15　（1952）「龍岡城石垣、⑪桝形石積修理始まる」（公民館報第22号、資29）
―（前略）年代経過により、四ヶ所の補修箇所と各城址には特異なものとされている桝形の石積みにも修理を要する箇所ができ、この度、予算三〇万を以て、修理が計画され、村内請負人により、それぞれ各工事の分担請負となり、着工している。工事は大体、十二月十五日頃完成の予定とのこと、修理費用は国庫補助15万円、県費補助5万円、村費負担10万円でまかなわれる。―
昭和28.7.5　（1953）「五稜郭石垣　⑪桝形石積修理工事なる」（公民館報30号、資29）
―（前略）総じて国宝修理とか、文化財史跡の補修とかはその修理方法がなかなかむづかしく、も

と通りに直すと云う事が修理の眼目であって只、破損箇所を新しく立派にと云うのではなく、石垣ならばその石一個一個の形状そっくり再現すると云うのにあるので、当事者は非常に苦心して、県、国の指導を受け乍慎重、確実に修理が行われたわけである。修理箇所は、濠の石積三ヶ所、⑫水門暗渠一ヶ所、⑪桝形一ヶ所であった。（掲載写真に⑫穴門排水口の写真「五稜廓南方の拂まち」とあり。）

昭和29.11.28　(1954) ㉝田口学校大体育館建設　着工　(田口村公民館報47号、資29)
昭和30.5.31　(1955) ㉝田口学校大体育館建設　終了　(田口村公民館報55号、資29)
昭和31.　(1956)「五稜郭大要」臼田町教育委員会
昭和34.12.15　(1959) 6月に着工した②招魂社拝殿できる（臼田町公民館報28号、資28)
昭和35.7.　(1960) ①御台所災害復旧に伴う半解体復元工事　着工（資23　図面あり)
昭和36.5.31　(1961) ①御台所災害復旧に伴う半解体復元工事　竣工　総額二八〇万円
昭和36.7.31　(1961)「龍岡城お台所完成―解体修理で原型になる―」(臼田町公民館報第41号、資28)
―さる34年の台風よって被害を受けたのを機会に解体修理がなされたものである。これまで田口小学校音楽室、公民館として利用されていたが、これに郷土の古文書、土器、民俗資料を集め博物館にする予定。修理され原型になったお台所―
昭和36.1.18　(1961) ⑬プール建設現状変更許可申請（資2)
昭和36.5.15　(1961) ⑬プール建設　着手（資2)
昭和36.8.10　(1961) ⑬プール　竣工　プールと御台所の間に生垣、御台所とプールの間にブロック造りの建造物、井戸の竣せつ、排水口竣工の付帯項目あり。（資2)
昭和37.9.11　(1962) 100万円の工事の補助金50万円確定（資2)
昭和38.3.　(1963) 新たに下越地区に臼田中学校開校。田口中学校、青沼中学校、中部中学が統合
昭和39.　(1964) 雨天体操場取壊し（資31－P39)
昭和46.1.5～3.31 (1971)　⑥南校舎田口中学校校舎撤去（資2)
昭和46.　(1971) ⑨大手橋修理（資31－P39)
昭和46.10.16　(1971) 日本宝くじ協会より文化財愛護標識設置　龍岡城2本（資3)
昭和47.6.17　(1972) 文化庁へ　⑭田口小学校改築による現状変更等の許可申請（資2)
昭和47.8.7　(1972) 文化庁へ　史跡龍岡城の環境整備について許可申請（資2)
1、田口小学校改築事業完了以後に⑮校長住宅、⑦公使室、⑧便所を撤去
2、⑭の校舎2棟共に平行して校庭の北へ4m移設
3、①御台所移転の際は、旧地に戻す
(昭和49.4.1現在　文化庁に報告　①は実施済、但し⑮校長住宅は史跡外に代替え住宅を建設中②は実施済とある。)
昭和47.9.1　(1972) 史跡龍岡城跡現状変更（⑥南校舎旧臼田中学校校舎撤去）許可（資2)
⑭田口小学校校舎改築工事　許可（資2)
昭和47.10.2　(1972) ⑭田口小学校校舎改築工事　着工（資2)
昭和48.11.6　(1973) ⑭田口小学校校舎改築工事　竣工　旧木造校舎取壊し・グランド造成（資31－P39)
昭和49.2.12　(1974) 文化庁へ⑯倉庫・⑰自転車置き場、⑱防護柵設置の許可申請（資2)
昭和49.4.1　(1974) 文化庁へ　⑭田口小学校改築工事　完了報告（資2)
昭和49.　史跡龍岡城跡整備保存計画（資4)
昭和50年度　記念物保存修理　　名称　史跡「龍岡城跡」保存事業
①事業内容　　⑨大手橋、⑩東通用門橋保存整備復元
事業費予定　　8,000千円
②事業内容　史跡内土塁復元
事業費予定　　4,000千円
③事業内容　　史跡堀石垣保存修理（昭和50・51年以降)
事業費予定　　4,000千円

史跡等保存管理計画策定　名称　史跡「龍岡城跡」保存整備事業（資４）
事業内容　史跡「龍岡城跡」保存整備計画実施
事業費予定　２１，０００千円
史跡等購入　名称　史跡「龍岡城跡」保存整備事業
事業内容　史跡内民有地買い上げ７００㎡
事業費予定　５，６００千円

昭和49.5.25　(1974) ㉖堀の清掃。（館報うすだ　163号、資28）
龍岡城・五稜郭を守ろう－保存会が清掃・植樹―

「四月二十八日龍岡城保存会（中条忠雄会長　三千五百人）の手により、城郭の濠縁に桜の苗木50本が植えられました。同保存会は龍岡城の荒廃を憂い、貴重な文化財を守り、後世に継承しようという地元住民の熱意により一月三十日結成されました。以来、濠の清掃、（後略）」、写真掲載「堀の清掃に精出す保存会の会員」（㉖の空堀の底の萱を刈っている写真）

昭和49.7.17　(1974) １、⑤北校舎旧小学校校舎撤去跡地の整備　（ブルドウザーによる）
２、（通用門北の）⑲土塁破損箇所の暫定措置として、整地による残土を暫定的に土盛する。（⑤の北校舎により㉞土塁は削平されていた。）
３、堀の浚渫（予定）　※雑草浚渫を主とする。機械力によるが、石垣保全のため両側より１m以内を手掘りで実施（資２）

昭和49.8.30　(1974) 文化庁へ史跡名勝天然記念物のき損届出書（資２）
史跡「龍岡城跡」堀石垣　昭和49.8.26　台風通過に伴う
⑳・㉑崩壊箇所２ケ所　２０㎡　４００，０００円
㉒・㉓・㉔崩壊状態箇所3ヶ所　１６２．５㎡　４，０６３，０００円

昭和49.11.13　校地と護国神社の境界を決定する（資６）

昭和50.1.16　(1975) 史跡名勝天然記念物の現状変更等の許可申請書（資２）
（⑯倉庫、⑰自転車置場、⑱防護柵設置）

別紙史跡龍岡城跡の整備復元計画の概要（資２）

臼田町長期新興計画により、昭和50年度を初年度とする重要文化財史跡「龍岡城跡」の整備復元計画に着手し昭和54年度を最終目標とする計画案が長期新興計画審議会で、検討されこれが更に同企画会で決定されましたがその計画概要は下記のとおりです。

１、昭和50年度に於いて大手橋、東通用橋の修理を含む史跡内の私有地の公有化を実現し、長期計画の実施方法の調査に着手。
２、昭和51年度において史跡土塁の整備復元と併せ私有地の公有化を進める。
３、昭和52年～54年において土塁整備、堀、石垣、漏水防止対策を実施し又、旧田野口藩建造物の一部買戻し復元。
４、上記についてはいづれも文化庁と協議その指示により実施する予定である。

昭和50.2.7　(1975) 文化庁へ出張、史跡保存管理計画策定事業は実施困難と回答される。
昭和50.3.6　(1975) ⑯～⑱倉庫等新築の許可通知（資２）
昭和50３.20～３.31（1975）⑯～⑱倉庫等新築着工、竣工（資４）
昭和50.5.17　(1975) 龍岡城五稜郭保存会　第１回総会（資４）
昭和50.5.28　(1975) ⑯～⑱倉庫等新築工事現状変更終了報告書（資４）
昭和50.10.27　(1975) ㉕龍岡城跡地域図板設置（大手橋左側）にかかわる史跡名勝天然記念物の現状変更等の許可申請書（資４）
昭和50.11.22　(1975) ㉕龍岡城跡地域図板設置許可通知（資４）
昭和50.11.30　(1975) 昭和50年度文化財保存事業費補助金申請（資５）
昭和50.12.5　(1975) 文化財保護事業龍岡城石積復旧工事（⑳～㉒大手橋付近の石垣工事）着工（資5）
昭和51.1.17　(1976) 昭和50年度文化財保存事業費補助金決定通知（資５）

昭和51.1.23　(1976) 昭和51年度文化財補助事業計画（国庫）について（回答）（資９）
㉓堀石積復旧・㉗石橋架替・㉔土塁復元・桝形説明板設置（㉘説明板・㉙地域図板）・㉚史跡内土地買い上げ
昭和51.2 28　(1976) 文化財保護事業龍岡城石積復旧工事（㉖～㉒大手橋付近の石垣）完成。（資5）
昭和51.2.12～3.26　(1976)　㉕龍岡城跡地域図板設置着工、完了（資４）
昭和51.5.1　(1976) 昭和51年度文化財関係国庫補助事業の内定について（通知）（資９）
昭和51.7.29　(1976) 昭和51年度文化財補助金交付申請（資９）
昭和51.9.27　(1976) 昭和51年度国補重要文化財等保存整備工事（資９）
㉓通用門石積・㉔通用門土塁土盛・㉗黒門石橋架替）工事着工
昭和51.12.20　(1976) 昭和51年度国補重要文化財等保存整備工事（資９）
㉓通用門石積・㉔通用門土塁土盛・㉗黒門石橋架替）終了
昭和52.2.25　(1977) 昭和51年度文化財保存事業実績報告書（㉓・㉔・㉗）　提出（資９）
昭和54.8.31　(1979) 龍岡城跡㉛土塁設置整備の史跡名勝天然記念物の現状変更等の許可申請（資11）
昭和54.9.27　(1979) 龍岡城址㉛土塁復元工事　着工（L＝105mW＝120mH＝50㎝）2100,000円（資11）
昭和55.3.20　(1980) 龍岡城址㉛土塁復元工事　竣工（資11）
昭和57.2.　(1982) 昭和56年度　橋梁架替工事　南佐久郡臼田町龍岡城⑨大手橋設計計算書
南佐久土木振興会（橋長11m）（資23）
昭和57.　(1982) 地下式オイルタンク・オイル配管工事（資31－P39）
昭和59.3.1～3.30（1984）龍岡城跡案内板屋根葺き工事　着工・終了（資12）
昭和62.　(1987) 黒門の左右に岡崎市・函館市の花木園設置（資31－P39）
平成1.　(1989) 田口小学校非常階段設置（資31－P39）
平成2.1.8　(1990) 龍岡城址文化財指定区域図 複写（資23）
（平成二年一月臼田町教育委員会作成　構図複写縮尺六〇〇分の一）
平成5.10.26　(1993) 平成６年度文化財関係事業計画について（回答）（資15）
㉜龍岡城跡石垣修理　幅5m高さ3m範囲に今にも崩れそうな箇所が発見。
平成6.4.4　(1994) 農業集落排水事業取り付け管敷設工事現状変更許可（委保第4－160号、資31）
平成6.7.7　(1994) 長野県教育委員会教育長あて、平成７年度文化財補助事業計画について（回答）
⑨大手橋改修工事（木部不朽が見られる）、①御台所の避雷針設置工事、
①御台所屋根葺替工事（雨漏り）（資13）
平成7.1.27～3.15（1995）⑨大手橋改修工事14,883,000円　橋幅6.2m橋長11.0m（資13）
平成7.6.5　(1995) 平成７年度文化財保護事業補助金の内示（通知）　㉜龍岡城跡石垣修理（資15）
平成7.9.27　(1995) 国宝重要文化財等保存整備費補助金交付決定通知㉜龍岡城跡石垣（資15）
平成7.10.16～8.3.25・平成8.6.10～10.31（1995～1996）　①御台所屋根葺替修理（資13）
平成8.8.8～10.31（1996）①御台所　避雷針設置（資13）
平成8.3.15　(1996) 国宝重要文化財等保存整備史跡龍岡城跡石垣修理工事㉜龍岡城跡石垣
着工1,627,400円（資15・16）
平成8.3.25　(1996) 国宝重要文化財等保存整備史跡龍岡城跡石垣修理工事㉜龍岡城跡石垣竣工（資15・16）
平成10.　(1998) プール新築（郭外西の隣接地に移動、⑲プールへの通路の設置（資31－P39）
平成14.6.21　(2002) 平成14年度公立学校施設整備費国庫負担（補助）大規模改造工事・田口小学校トイレ改修工事における下水管敷設工事　現状変更許可（委庁財第4—309号）
平成18.8.7～20.3.16（2006～2008）⑫穴門排水口石垣修理工事
平成19.4.20　(2007) 旧⑬プール撤去工事申請
平成19.9 14～20.3.4　旧⑬プールに伴う発掘調査と⑬プール撤去
平成19.11.1～20.3.19（2007～2008）④田口小学校屋内運動場耐震診断着手・終了
平成20.11.4～22.3.14（2008～2010）㉞黒門西側石垣修理工事着手・終了

第５節　龍岡城跡周辺の調査

平成18.7.12～19.3.31（2010）㊳五庵遺跡　（田口児童館用地）
　　遺構―竪穴遺構１、単独ピット45、遺物―瀬戸灰釉破片、土鍋2小片、加工痕のある剥片２
平成20.３.24～3.28.　㉟龍岡城跡・五庵遺跡１試掘調査　（遺構遺物なし）→圃場整備（Ｓ53頃）
　　（2008）　により基盤層が削平される
平成20.10.22（2008）　㊱龍岡城跡・五庵遺跡２（遺構遺物なし）
平成20.12.１～21.３.24　㊲龍岡城跡Ⅳ　市道改良舗装工事に伴う立会い・本調査
　　（2008）　表土より　瓦4片、飯椀、呉須小皿（蓋）近代陶磁器6片出土、遺構なし
平成22.7　（2010）　㊴鷲見・岩田宅改築（武家屋敷）
　　雷文小皿（型紙作り）、他２片

資料一覧

1	明治九年五月一日	史跡名勝天然紀念物関係書類綴　国宝指定関係書類　田口村役場
2		史跡龍岡城跡現状変更に関する綴 臼田町教育委員会
3	自昭和四十六年度至昭和四十八年度	文化財保護調査委員会他書類　臼田町教育委員会
4	昭和50年度	史跡龍岡城雁保存整備事業綴
5	昭和50年度	史跡龍岡城石垣保存修理事業
6	昭和50年１月	文化財関係（行政事務）臼田町教育委員会
7		史跡龍岡城跡保存資料 臼田町教育委員会
8	昭和五十年七月調	龍岡城御台所所蔵　旧田野口役所文書　目録　臼田町教育委員会
9	昭和51年度	文化財保護史跡「龍岡城跡」石垣修理等国庫補助事業綴　臼田町教育委員会
10	昭和51年度	文化財関係綴　臼田町教育委員会
11	昭和五十四年度	史跡龍岡城五稜郭土塁復元工事　臼田町教育委員会
12	昭和42～62年度	臼田町文化財調査委員会関係文書綴　臼田町教育委員会
13	平成2～13年度	文化財調査委員会関係綴（臼田町文化センター）
14	平成三年度	文化財保護関係綴　臼田町教育委員会
15	平成七年度	龍岡城跡石垣修理　臼田町教育委員会
16	平成7年度	国宝重要文化財等保存整備事業 史跡龍岡城跡石垣修理工事 しゅんこう届
17		文化財関係１(庶務書類関係) 臼田町内
18		『幕末期小諸藩の郷村に対する法的規制』　尾崎行也
	S44頃	龍岡城客図
	昭和51年	『龍岡城五稜郭の大要』　臼田町教育委員会
		『竜岡城と大給恒について』 水野茂
19	昭和49年度	陣屋日誌他古文書整理指針　臼田町教育委員会
	昭和51年11月	『地理研究第2号（特集-幕末築城龍岡城）』国学院大学地理研究室
	昭和52年2月	「大給恒と臼田町」『歴史地理研究』
20	昭和45年4月	『田野口藩維新期客年表稿』 尾崎行也
21	昭和34年10月26日	龍岡城（五稜郭）設計図　臼田町教育委員会(１枚)
		他　御殿・御台所姿図・招魂社配置図・田口小学校校舎平面図(計６枚)
		「龍岡城由来」の封筒に但し書きあり
22		龍岡城御殿平面図(市川武治作図)・御台所平面図(他33枚)
23		龍岡城五稜郭設計図(5枚)・御殿向之図(5枚)・瓦図(1枚)
		文化財指定区域図(1枚)
	昭和34・35年	御台所改修工事用図面(6枚)
	昭和56年度	大手橋設計計画書と橋梁架替工事図面(3枚)
24		竜岡城御台所1階2階平面図(4枚)・屋根屋佐藤様瓦の図面(3枚)他5枚
25	昭和45年2月28日	臼田町古城図原図-龍岡五稜郭・田口城址・入沢城址・湯原城址・雁峯城址
		下ノ城址・醫王寺城址・稲荷山城址・上小田切城址-
26	昭和57年	『明治と大給恒』（「もう一つの五稜郭」櫟出版抜粋）
27	平成15年10月10日	『田口小学校130周年記念誌』　田口小学校130周年記念事業実行委員会
28	昭和52年11月3日	臼田町公民官報縮刷版　第１集
29	昭和54年11月3日	臼田町公民官報縮刷版　第４集
30	昭和54年11月3日	臼田町公民官報縮刷版　付録
31	2013.3	『史跡龍岡城跡　保存管理計画書』佐久市教育委員会
32	平成3年７月14日	「龍岡城五稜郭遺品目録（１）」―佐久市岸野小学校所蔵分）

昭和 46.1.5～3.31（1971）
⑥南校舎田口中学校校舎撤去申請時の写真

昭和 49.8.26　台風通過に伴う㉑崩壊ケ所（大手橋付近）

昭和 51.1.23（1976）　文化財補助事業計画（国庫）の回答に載る㉙-4 南石垣下未買収地。用水の U 字溝が新しい。

昭和 51（1976）　重要文化財等保存整備工事
㉒黒門石橋架替　解体中

昭和 51.9.27（1976）　重要文化財等保存整備工事㉒黒門石橋架替工事　着工前

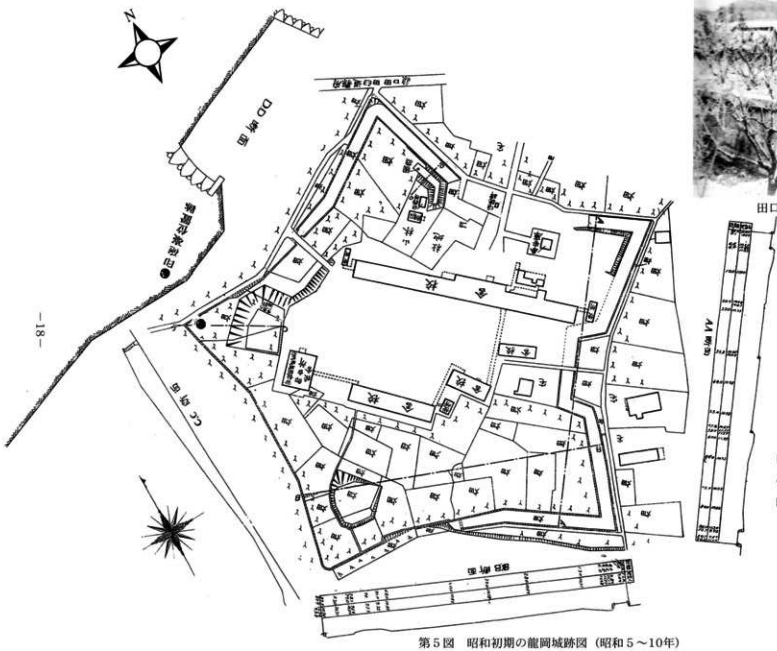
㉒黒門石橋架替工事　竣工

昭和 51（1976）　国補重要文化財等保存整備工事
㉔通用門土塁土盛工事

昭和 51（1976）　国補重要文化財等保存整備工事
㉓通用門石積工事着工前

※〇数字は第 4 図史跡龍岡城跡変遷図を参照

田口村五稜郭の石畳（西北隅）



『南佐久郡古城址調査』龍岡五稜郭
信濃教育会南佐久部会より転載
昭和十年刊行

断面は縮尺 1:650
DD 断面は縮尺 1:180

1:1,000
0　25　50m

第５図　昭和初期の龍岡城跡図（昭和５～10年）

史料2

表紙
昭和八年十月

龍岡城復旧計画要領書
―陸軍築城部本部―

龍岡城復旧計画要領書

第一　本計画ハ史蹟保存ノ為メ旧龍岡城ヲ概ネ往時ノ状態ニ修理復旧スルニ在リ

第二　本計画ニ基ク復旧ノ箇所左ノ如シ

1、土塁　全部
2、石垣　一部
3、濠ノ浚渫　全長
4、水門壁及堰ノ新設
5、水取入路ノ新設
6、大手門及通用門橋梁架設
7、植樹其ノ他保存上必要ナル施設

第三　復旧工事ノ要領概ネ左ノ如シ

一　土塁ハ計画図ニ示ス如ク盛土、土端造ヲ為シ之ニ張芝ヲ施スモノトス
大手並通用門穴門口土塁ノ端末ハ堅石乱層積トシ為スモノトス

二　濠ノ石堰中埋没又ハ崩壊セルモノハ之ヲ旧状ニ修理復旧スルモノトス

三　濠ハ概ネ外岸石垣頂ヨリ二米四〇ノ深サニ浚渫スルモノニシテ此際漏水防止ノ粘土層欽除ノ部分ハ之ヲ補填シ且ツ濠底裏面ニ約十糎ノ厚サニ切込砂利ヲ敷込ムモノトス

四　水門壁及堰ハ計画圖ニ示ス如キ鉄筋「コンクリート」（「コンクリート」の配合一：二：四）造トシ為スモノトス
本工事ノ為メノ石垣積直シ箇所ハ練積トシテ水密ヲ計ルモノトス
水門下流雨川ニ注ク間ニハ水路ヲ設ケ水叩キノ部分ハ特ニ粗石張「モルタル」目地トス尚ホ雨川の浸食ニヨリ水門壁及石垣ノ崩壊セラルヽヲ顧慮シ護岸用鉄筋「コンクリート」壁を適当長設ケルモノトス

五　導水渠ハ経五〇ノ鉄筋「コンクリート」管ヲ埋設スルモノトス
取入口ニハ制水門ヲ設ケ流入量ヲ調節シ得ル如クス

六　大手門橋梁ハ径間八米一五幅員四米七五ニシテ床版桁部ヲ鉄筋「コンクリート」構造トシ親柱、欄干ハ古風擬寶殊型ノ木造トス

袖柱、橋臺部石垣ハ特ニ練積トシ為シ堅固ニ補強スルモノトス
通用門木橋ハ径間三米八〇、二連全径間七米六〇幅員二米六二、ニシテ小学校児童の通学ヲ主トセル簡単ナル木造トス

七　植樹其ノ他保存上必要ナル施設ハ土塁上及風致ノ為メノ植樹ニシテ別ニ計画スルモノトス

第四　添附計画圖及工費仕譯書ハ上記ノ主旨ニ基キ其ノ大要ヲ示スモノトス

龍岡城復旧工事経費仕譯書

名称	数量	単位	単価	計	備考
土塁及濠復旧		一式		5,000,000	除土及積土4500㎥
石垣修理	400	米2	12,000	4,800,000	内100？ハ土塁一分を含む
大手鉄筋コンクリート橋	1	箇所	1,700,000	1,700,000	径間8.15幅員4.75欄干木造
通用門木橋	1	〃	700,000	700,000	径間3.8二連幅員2.6
鉄筋コンクリート水門壁	1	〃	800,000	800,000	
濠水取入用暗溝	20	米	5,000	100,000	径50種コンクリート管理設水制堰央
鉄筋コンクリート堰	1	箇所	25,000	25,000	
植樹及雑費		一式		1,000,000	
人件費監督其他		〃		1,000,000	
計				15,125,000	

「龍岡城五稜郭の歴史」

田口小学校の生徒が作った年表（昭和49年で終了）

慶応２年	1866	龍岡城の築城工事が終わる。
明治４年	1871	龍岡藩廃藩
		建物は御台所を残して売られたり取り壊されたりした。
		表御殿→佐久市落合時宗寺本堂
		書院→佐久市野沢小池さん宅
		納戸→佐久市中込山岡さん宅
		東通用門→佐久市野沢成田山の門
		書院の門と塀→田口宮代丸山さん宅
		御台所は大きすぎて売れずに残る。
		お堀には土るいの土が少し入れられ大手橋付近のお堀は完全にうめられた。
明治８年	1875	御台所が村に寄付された。
		五稜郭の中はほとんど畑となる。
		お堀は使いみちがなく、しだいにゴミすて場になった。
		悪臭が漂いそれを消すために土が放りこまれた。
		それが、５年10年と続くうちに堀はいつしかうめられ、何とか畑に使える見通しも出てきた。
		農民たちは土るいをこわし、その土を放りこみ、桑の木を一面に植えた。
明治31年	1897	お堀も畑に変わった。
昭和４年	1929	「招魂社も大事だがそれより堀を復元して、普通の龍岡城にもどそう」
		「龍岡城は、函館五稜郭とともにわが国でたった二つだけの五稜郭である」
		佐々木鉄之助　大工原滝三朗　田代常
昭和７年	1932	「龍岡城の堀をもう一度掘りおこそう」田口村の人たちが村をあげてこの運動にとりかかった。ツルハシとクワ、モッコだけが復元作業の道具だった。掘り起こされた土はモッコにかつがれて堀の外へと運びだされた
昭和5～10年		全く人力だけの作業だった。村の主婦たちも応援ににぎり飯やサツマイモをふかしてはげました。五千人の村人の心が一つなっての作業だった石垣も修理された。
昭和８年	1933	二年がかりで昔のようなお堀や石垣に戻った。
昭和９年	1934	文部省から史跡に指定された。新しい大手橋ができた。
		龍岡城の復元は村人だけでなく佐久のすべての人たちから歓迎された。
戦争中		戦争中お堀の東側南側は水田になってしまった。
		大手橋付近から、石橋まではお堀だったが、水があったりなかったりの状態だった。
昭和20年	1945	終戦
昭和20年代半ば		戦後の食糧がまだ少なかった時代少しの空き地も許されず、お堀（東側　南側）は水田にされていた。
昭和30年代半ば		田んぼをやらなくなってから、お堀はほうっておかれた。荒れ地になり、アシやヨシが生いしげり、石ころだらけのゴミ捨て場に変わっていった。
昭和40年	1965	周辺の地元住民から「ちょっとひどいなあ」という声が上がりはじめた。
		「国の史跡地だからなんとかしてほしい」と町へ環境整備を訴えた。
昭和48年	1973	「このままでは五稜郭がまた荒れてしまう」住民たちがスコップやカマを持ち集まり城の清掃作業をした。
		雑草をきりひらき、土や石を取りのぞいた。ゴミは連日トラックで何台も運ばれた。
		南側の堀には耕運機も入れて土をすっかり耕し、漏水を防ぐ手だてもこうじられた。
		48年秋から半年がかりの大仕事だった。
昭和49年	1974	『龍岡城五稜郭保存会』の設立（一月）
		「地元にある史跡・歴史的な文化遺産を大切に保存し、のちの世に残したい。
		みんなで龍岡城五稜郭を守っていこう」定期的な清掃作業・草刈り作業
		49年夏お堀に水が入った。魚の放流。

第6図　史跡　龍岡城跡文化財指定区域図（平成2年）

第Ⅲ章　穴門排水口石垣修理工事に伴う調査

第１節　穴門排水口の概要

1.排水口石垣の構造

（１）概要

穴門排水口の石垣は水堀の終点に位置し、堀の深さの1/2強（下流では1/3）まで石積みの堰を築き、これより上部は通水部を狭めて、さらに石垣を築く。

通水部の上流側には幅15cm程度の溝が彫られており、ここには堰板を落としこんでいたものと推測される。

堀の側壁を成す北面と南面の石垣の裏は、ともに土坡を築いて納めている。

石積みは安山岩（佐久石）を用いた切込接ぎ布積みを基本とし、部分的に亀甲積やその崩しのような目地模様が混入している。

排水口石垣修理前　上流側

排水口石垣修理前　下流側

石垣修理前　上流側水替え工事

（２）堀の主要な寸法

区分	上流側	下流側	通水部
上幅	5.85m（19.3尺）	5.85m（19.3尺）	幅2.42m（8尺）
下幅	4.5m（14.9尺）	4.05m（13.4尺）	長5.45m（18尺）
深さ	2.5m（8.2尺）	3.15m（10.4尺）	1.06m（3.5尺）
水深	1.2m（4.0尺）		

（３）水抜口と放水口

水抜口：堀を仕切る石垣の上流面の堀底に接して水抜きのための穴が設けられている。
周囲の積石の仕上げや目地模様から見ると、積極的に後世改造されたようには見えないが改造の可能性も否定できない。

放水口：堀を仕切る石垣の下流面の下方に放水のための穴が設けられている。
周囲の積石の使い方や目地の模様から、後世の修理もしくは改造の痕跡が見られる。
現在の穴の向かって左下にも欠き取り穴のようなものがあり、旧状は不明である。

（４）堀底の構造

・堀底の断面状況

上層：厚10cm程度の砂利層で、この上に石垣の根石を据える。

中層：厚6～10cm程度の黄色粘土層

下層：褐色の粗い砂・砂利層で栗石のような礫も混入する。

所見

下層は雨川の堆積土と推定され、中層の粘土は防水を目的に人為的に敷かれたものと推測される。この上に砂利層を設けて根石を据えているので、中層の粘土は石垣の裏面で防水層として立ち上げられているか、石垣の裏込め材中に粘土が混入されている可能性もある。

第７図　穴門排水口全体図

2.破損の状況

（1）概況

排水口とその周囲の石垣については、上流側では水面より上の部分、下流側では河床より上の部分に変形が見られる。

特に中央通水部の側壁を成す石垣は根石が沈下し、上部の石垣面の乱れが激しい。

原因は、堀水の漏水により、石垣の裏面に詰められていた土砂が流出したためと考えられる。

土砂の流出により、裏込めの栗石や各積石に施された飼い石がゆるんで石垣面に歪みが生じたものと推測される。

また下流の南側入隅部については、積石が広範囲で欠失している。原因は農業用水路建設時に土坡の法面尻が掘削されて法面の土砂が流出したためと推測される。

（2）上流側

堀の水面より上部の狂いが目立つ。概して石垣上方が後退し、ほぼ垂直であるべき勾配が緩くなっている。

この状態は、石垣の入隅部において直交する積石が後退し、石垣の内部が見える状態となっているのでわかりやすい。

特に南側の入隅部では、上方の積石が大きく移動し、仰向いている。これは背後の土坡表面が雨水等で浸食されて流失したためである。

（3）通水部

北側の壁面の変形が著しい。根石が沈下し、本来直線であるはずの天端線の中央が大きく下がりこれに伴って、壁面が孕み出しており、崩壊寸前の様相を呈している。原因は壁面石垣の根石を支える土砂の流失と考えられる。

対する南側の壁面では、沈下は少ないが、下流側で壁面が大きく石垣の内側に倒れこんでいる。

この原因は、この石垣に続く下流側西面を成す石垣が崩壊し、その裏側にあるべき土坡が著しく流失しているためと考えられる。

（4）下流部

北面と西面北半分の石垣については、現状の河床より上方に石積の歪みが見られるが、変形の度合いは小さい。特に西面は目地の模様や積石の一部に近年使われている矢穴を持つ石が用いられていることなどから、ここ30年程の間に積直し修理を受けた可能性がある。

西面南半分および矩折れに続く南面の石垣では、入隅部とこれより西方の積石の矢穴が著しく欠失し、原形を止めていない。

この入隅部の原形は、上流側南隅と同様であったと推定されるが、末端の状況は不明である。

この破損の原因は、農業用水を引く際に石垣背後（南側）の土坡を削り取ったことによる裏込め材の流失と考えられる。

なお、西面南半分は後世の積直しにより積石が入れ替わり、各目地に隙間を生じている。また、西面石垣の現況河床付近には、凍害により破損した積石が3石見られる。これらの劣化部分から堀水が流れ出しており、さらなる劣化を招いている。

3.修理方針

（1）石垣面の歪みのみられる上半については、解体・積直し修理を行う。

（2）原形の不明な下流側については、西方へ続く石垣の残存状況を修理工事の際にさらに調査し、その状況に応じて整備計画を立案し、文化庁と協議のうえ、施工へ移す。

（3）石垣の解体に際して石垣内部の在来工法を調査し、これに倣って石積みや裏込め工事を実施することを原則とする。

（平成18年２月「平成17年度　史跡龍岡城跡排水口石垣調査業務成果品」財団法人　文化財建造物保存技術協会より抜粋転載）

第２節　穴門排水口石垣修理工事経過と結果

（平成16年度）
2004/7/17　臼田町教育委員会龍岡城跡石垣改修工事申請
（平成17年度）
2005/11/20　工事着工　施工業者準備工
2005/11/22　文建協指導　着手時打合せ（田口小学校教頭、保存会会長、文化財課（課長・係長）、石材会社、㈱文化財建造物保存技術協会（以下、「文建協」とする））
調査工事　石垣測量図化　石垣脚部は土砂に埋もれているため、これらを撤去し、石垣の全面を現す。石垣測量と調査が終了したのち掘内の土砂を埋め戻す。これらの作業に必要な締め切りと水替え工事および仮設を行う。
調査管理　調査工事で現した各石垣面の立面と平面を写真測量し、図面化する。排水口石垣周辺の平面（36×30m範囲）を測量し、図面化する。

黒門西に設けた仮設橋

仮囲いと進入路

通水部D面石垣と堰板溝

2005/12/1　文建協指導
堀内土砂撤去　上下流共、堆積していた土砂を堀底まで撤去を確認。
堀の深さ　石垣天端から堀底まで、上流側で約2.6m（8.5尺）、下流側で約3.3m（10尺９寸）となっている。
石組み暗渠排水　上下流の石垣面下部に水抜き口があり、現在は土砂がつまっている。
指示事項　12月５日に五味盛重先生の指導後、６日から測量作業に入る。先だって、石垣上の土嚢をはずして天端石を現し、南側の土坡法面の草木を刈って現す。

平成18年発掘調査　排水口上流側石垣　表土除去状態

2005/12/5	文建協指導	五味盛重先生による現地指導。
	測量作業	6日から測量作業に入る。
2005/12/16	文建協指導	調査工事終了後の仮設物引き上げ状況確認。
2005/12/19	文建協指導	調査終了　調査工事完了に伴う関係者による現地確認。

上流側（F・G・H面）掘り下げ

下流側（B面）掘り下げ

D面石垣裏込め

北岸土塁上面表土除去

北岸土塁表土除去（上流東より）

南岸H面土塁表土除去（西より）

（平成18年度）

2006/6/1		平成18年度文化財国庫補助（史跡関係）交付決定
2006/7/4	文建協指導	石垣の修理範囲の確認。
		積み石の実測。
		仮設計画策定に必要な周辺部分の確認・実測。
	修理範囲と内容	修理範囲は昨年度に実施された調査業務報告書の中で示された範囲とする。
	C面積み工	石垣が欠失している西南入隅部の復元は、今回は取り扱わず、現状維持修理とする。
	仮設計画	搬出入り口となる黒門の石橋は、昨年の調査業務時に実施した程度の補強を行う。
	発掘調査	佐久市教育委員会は工事着手前に石垣表面の現況を記録し、堀底の状態を調査する。
		また石垣上面ついても、解体範囲内の表土を取り除き、その状況調査する。
		石垣解体中には一段解体するごとに、その平面状況を写真にして記録する。
2006/7/13	仮設計画	大型重機を使用する方向で計画を見直し、石橋に負担を掛けない仮橋を設定する。
2006/7/23	発掘調査事前打ち合せ	調査指導者、地質石質鑑定者、県文化財担当者、文化財課
2006/7/25	文建協指導	大型クレーンを石垣西側の河川敷に設けて石積みを行う。
	仮設計画	仮設費用がかさみ、単年度では困難なので、２カ年継続工事の可能性を検討する。
	工事期間	文建協より「修理工事実施設計業務」履行期間延長の契約変更申請。
2006/8/7～23	発掘調査	排水口付近の土塁部分、排水口通水部分の表土を剥ぎ、裏込めの確認のため、石垣の上面を現す。トレンチセクション図、石垣上面の平面図を作成する。

2006/8/25		D・F・G面石垣（跳ね出し石・天端石）平面図
2006/8/30	文建協指導	架設工事の費用が大幅増となることが判明し、単年度の事業を２カ年の継続事業とし、
	工事の分割	工事は単年度発注を前提に工事計画を組み直す。 初年度で、南側の半分、次年度で北川半分を工事することとした。
2006/9/13	文建協指導	小学校側に石置き場と中型クレーンを据える作業場を設置。 ２カ年の継続事業とすることが認められたので、この方向で設計を詰める。
2006/10/23～11/22	発掘調査	８月に続き、排水口周辺の表土掘り下げる。西下流域からの多量の近現代遺物を回収。
2006/11/7	工事着工	A・C・Eトレンチセクション追加
2006/11/20	文建協指導	施工業者　施工計画書作成
2006/11/24	安全性の確保 石垣工事	工事着手に際する打合せ。 工事現場が田口小学校の校内に当たるため安全性の確保に努める。 石垣工事の石屋は「史跡またはこれに準ずる近世城郭石垣の実績が豊富でかつ優良であるもの」とすること。工事範囲と内容を確認。石垣の裏込めについては内部状況を調査確認しながら解体範囲を決定する。

A面石垣裏込め

D面調査風景

E面側通水部掘り下げ

D面のD１石列除去後裏込め

D面のD２石列裏込めとモルタル

D面のD２石列のモルタル

D面の最下D３石列東側

D面の最下D３石列西側

D面の最下D３石列東側

2006/12/16	仮橋設置	黒門仮設橋設置
2006/12/12	小学校と打合せ	田口小学校と打合せ（文化財課、施工業者）
2006/12/16	文建協指導	施工打合せ（文建協、文化財課、施工者）解体調査・粘土材料等
	計画変認申請	計画変更承認申請、本年度施工監理範囲を概ね南の半分の範囲に縮小。
2006/12/25	文建協指導	解体準備と仮遣り方を終え、五味先生の指導を受ける。
	監理の体制	解体中に石垣一段ごとの状況を撮影し、記録する。通水口については構造の確認調査と内部の土の採集を行う。残土掘削、搬出、処理

E面のＥ１石列西側と裏込め

E面Ｅ１石列東側の裏込め

E面Ｅ１石列東側の裏込め

石垣解体仮遣り方（下流側）

石垣解体仮遣り方（上流側）

E面石垣解体準備終了

E面のＥ２石列と裏込め

E面のＥ１石列除去後の裏込め

E面の最下Ｅ３石列東側

E面の最下Ｅ３石列西側

平成19年

2007/1/9		除雪、足場工、仮設水替工を始める。
2007/1/11		B・C面起工測量、丁張り升目工。
2007/1/13	文建協指導	五味先生による石組み時の形態および基準の検討。番付、基準枡目は仕様書の通り付されていた。
	解体準備工	設計書にもとづいた仮遣り方が設けられていた。
	石垣解体工	石垣解体工に入る。～22日
2007/1/20	文建協指導	石垣解体後の状況に付いて五味先生の指導を受ける。
	排水口裏込め	石垣の裏側にモルタルを飼い込んだ箇所があり、裏込めは砂礫が大半で、ビニール製品や近年の瀬戸物などの遺物が混入している。
	石組み暗渠	排水暗渠の蓋石のうち、中央部の３石は石垣の築石が転用されており、暗渠内は泥状の土砂が充満し、流水不可能状態である。
	粘土層	今回解体した部分には漏水防止層が皆無である。裏込めをさらに掘り下げて、漏水防止層を確認する。
	石垣の修理年代	石垣内部の異物の様子から昭和40年代頃に修理されたものと推察される。
	漏水防止層	石垣修理に当たり、漏水防止層（粘性土版築）を設け、止水防止効果を高めるために、止水シートを挿入したり、通水部の石垣（D・E面）を支える盛り土にセメント系硬化材を混練して強度を高め、石垣の沈下を予防するなど現代的工法の併用も必要と思われる。
	修理範囲の変更	五味氏の指導をもとに、修理範囲の変更に必要な実測を行い、写真を撮影。
	補足粘土	補足粘土の透水性、試験結果の報告では、24時間の経過では、水位の差はなく、石垣裏に用いる止水用粘土としては問題はない。

解体終了　石組み暗渠検出

石組み暗渠内には泥土が充満

石組み暗渠（北より）

石組み暗渠と下流Ｂ面にある排水口

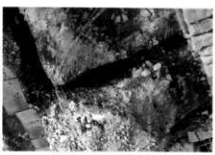
石組み暗渠とＧ面（西より）

石組み暗渠　蓋石下面とその周囲が加工されている。（南より）

2007/1/23	文建協指導	五味氏の見解を報告。
	発掘調査の必要性	築城時の裏込め工を確認するため、堀を横断する方向にトレンチを中央に入れ、断面を観察する。現状の裏込め工は締まりがなく、この上に新しい裏込め工を築くことができないので、すべて取り除く必要がある。その前にトレンチを入れ断面を調査し、築城時の裏込め、盛り土層を確認する必要がある。
	取り替え石材特定	解体石材について、取り替えが必要なものを決定する。
	実測作業	残存する石垣の各部について必要な実測調査を行った。
	計画変更の必要	発掘調査期間の増、修理範囲の拡大が見込まれるので、計画変更の手続きが必要となる。
2007/2/2	文建協指導	文建協より、五味先生の見解を説明。
	発掘調査	発掘調査の目的、位置、範囲について調査係から説明。
	変更計画書	２月末までに変更設計書を文建協で作成する。
2007/2/2～2/20	発掘調査（第８～10図参照）	排水口に南北のトレンチを設定し、排水堰の構築土の確認をする。石組み暗渠の北隣に粘土に包まれた木樋を検出する。止水防止粘土層が所々で確認された。南岸の堤に入れたＦトレからは堤に粘土が貼られ「はがね巻き工法」という白色粘土が挟まれている。

平成19年２月の発掘調査風景

Ｃトレンチ北側５層


Ｃトレンチ南側５層

堰に３本のトレンチを設定

Ｂトレンチ北側下部に黄褐色粘土

Ｂトレンチ南側下部に黄褐色粘土

Ｂ面北側の止水用青灰色粘土

Ｂ面南側の止水用白色と青灰色粘土

南岸で部分的に残る粘土層

2007/2/9　文建協指導　　発掘調査の成果の説明と確認

1．近年の改修は広範囲に及んでおり、石組み暗渠施設も据え直されている。この時期の盛り土は砂質で、ビニール片や陶磁器片が多量に含まれており、締まりのない不安定な土である。
2．上流側の東面（G面）の石垣裏にはモルタルが充填されている。積み石の艫（とも）飼い石に用いたコッパ（割石片）の使い方がごく最近の施工であることを物語っている。
3．石組み暗渠の天端石（蓋石）は通水部の敷き石を転用している可能性がある。
4．古そうな盛土層は、小学校側の下部と対岸に一部残っている。東面（G面）の石垣の裏側には茶褐色粘土の粘土層が残り、それより内部には栗石が混入した粘土層が残っている。
5．小学校側の通水部の石垣の下方に粘土層が残っており、止水を目的に施工されたものと考えられる。
6．石組み暗渠の北隣（小学校寄り）に木製の通水施設のようなものが検出され、周囲は青灰色粘土で覆われている。
7．この位置は、下流側の西面石垣に設けられた石組み暗渠排水口（B面）の北隣にある穴に通じていると考えられる。
8．対岸下流側の南面土塁の中から高さ1.2m程の石垣（南裾石垣）が検出された。その積み方により、修理されたものか、後世新たに築かれたものと考える。（農業用水路を整備した時法面の崩壊防ぐ目的で築かれた可能性がある。）
9．木製通水施設については、築造当初の可能性があるので、その構造や下流側の石垣面に開いている口に通じているか否かを調査すべきである。また上流側では石垣の根石より下に位置しているので、石垣面の上流側に何らかの施設があった可能性がある。

排水口（堰）北側

A面とB面入り隅部裏込め

F面裏込め

H面裏込め（西より）

石組み暗渠の隣下にある木製埋設物と脇の青灰色粘土

木製埋設物が通じる位置にあるB7-1石の下の穴

H面野面積み部裏込め

H面の根石と築城当時と思われる裏込め

H面根石の裏には近年の遺物は含まれていない

10. 石組みの暗渠施設については、蓋石や側石に通水部の敷き石を転用した可能性があるので調査する。
11. 「はがね」とはこちらでは田んぼの止水効果を高めるために、施した帯状の粘土層を言う。龍岡城の「はがね巻き工法」もこのような止水層の意味と考えられる。
12. 陸軍が築城本部を作り、各地の城の調査を進めた。その延長線上の史料が「昭和８年10月」の記のある「復旧計画要領書」といえそうである。
13. 対岸下流側の南面土塁の中から高さ1.2m程の石垣が検出された。その積み方により、修理されたものか後世新たに築かれたものと考える。（農業用水路を整備した時に法面の崩壊を防ぐ目的で築かれた可能性がある。）
14. 高遠の石工は、本来加工石工で墓石や石像を作っていた。これが石垣石工に変わっていくのだが、龍岡城を含めて周辺の石文化はその過程を物語る文化財であり、見直しが必要。

2007/2/20		計画変更承認通知
2007/2/26	石組み暗渠施設	昭和９年５月１日の指定当時に石組み暗渠施設は存在していたと思われる。 対岸土塁側の近年の裏込め土が不安定なものならば石垣を安定させるために必要な範囲は修理すべきである。土塁部分が指定外であっても指定範囲内の石垣を安定させるために必要ならば修理対象としてよい。
2007/3/13	計画変更申請②	年度内に工事完了が無理なため、繰越明許事業となる。
2007/3/15	施工打合せ	今後の方針について（文化財課、監督員、施工業者）
2007/3/31	計画変更承認②	計画変更承認

B面の裏込めと粘土

C面石垣と南裾石垣

石材整理と計測

Gトレ全景

Fトレ全景

Fトレ肩にある粘土

2007/4/18　文建協指導

1．小学校の対岸側土塁尻に検出された石垣は存置し、その裏込めを残して内側にある近年の盛り土を取り除く。本日午後より調査員を入れ、旧盛り土の残存状況を確認する。
2．今後の工事日程は発掘終了後、連休明けから石垣の解体に着手し、続いて石積み工を進め、５月末には石垣工事を終えたい。

2007/4/20　発掘調査を進める。

2007/4/27　現地協議　　石垣裏の盛土撤去および発掘調査が終了。現地確認と課題の協議。

築造後の修理履歴の概要

1．昭和初期に石組み暗渠が設けられ、これに伴う工事によって石垣内部の構造体が大規模な改修を受けた。

2．この後G面北側とH面の石垣が根石をのこして、上部を修理された。時期は不明。

3．この後石垣に沈下や変形が生じ、昭和40年代後半以降に上・下流面を修理した。

4．農業用水路側の石垣を昭和40年代後半～50年代前半にかけて構築、その後50年代後半には土砂に埋まった。

築造時の石垣内部の構造

1．石垣裏には粘土が上流側で４層、下流側で３層に築かれており、その奥行きは石垣表面から上流側で1.8m、下流側で1.7m程度である。この粘土層は上流の土堤へも続いている。

2．上記の粘土層内部はシルト・粘土・礫を混入した人為的盛土が築かれている。

石垣の基礎工法

1．平成17年度の調査では根石の下には黄色粘土層が確認された。しかし、粘土の上に直接根石を据えるだけでは石垣が変形するので、根石を支えるための何らかの地業が施されていると考えられる。今回、根石一石を選んで取り外し、その下の状況を調査した方がよい。（五味）

その他

1．近年の南裾石垣は土塁尻の処理に必要なのでこのまま残す。

2．上流側では築造時の石垣裏込めと粘土層との取り合いが不明なので、今後の石垣解体に際し、明らかにする。

3．粘土層を３～４層に築く意味が現段階では分からないが、石を積む際は奥行き寸法を踏襲して粘土層を築く。
また残存している粘土層は出来るだけ保存する。なお石垣裏30cm位は粘土のなかに出来るだけ栗石を入れる方が強度が出ると思われる。

4．石組み暗渠については、昭和初期に作られたものであることが判明したので、調査して取り外すことが理想的だが、工期的に問題が生ずる。

5．D面・E面の石垣を粘土だけで支えると、すぐに石垣が変形することは明らかなので、石垣の下に平たい雑石のような石を据えて石垣を支える。

2007/5/9　現地協議　　予定範囲の石垣解体作業が終了。現況確認と今後の石積みついて

1．南裾石垣の実測、暗渠施設から南の構築土の確認をする。G－４面の石垣の高さでは裏込めに添って粘土層が確認された。

2．石垣裏の盛土撤去および発掘調査が終了。

3．H面の入り隅部に築造時の裏込めが検出された。奥行きは石垣表面から３尺ほど、長さ５～６尺の範囲で、大き目の栗石を小横立てに詰め、間に小さい川原石と粘性土（シルトと粘土混合土）を詰めている。根石の裏は砂と粘土であるが、本来は川砂だけで、後年内部の粘土が吸いだされてこのようになった可能性がある。

4．石組み暗渠の蓋石下場から53cm程下に溝底が検出された。これは栗石を敷き並べた層で、栗石間にはヘドロが詰まっているが、地山を掘り込んで栗石を敷いたものと思われる。

5．B面の石組み暗渠排出口周囲の石組みは安定していると思われる。

6．G面の根石下部の調査は全体的に総持ちで安定しているので、一部を取り外すと復旧後沈下することが懸念されるので、今回の調査は見合わせる。

7．裏込め工の奥行き寸法は、石垣表面よりG面・H面で0.6m（２尺）、B面・C面で0.9m（３尺）とする。なおH面で新補材（控長0.6m）が入る所では奥行きが増えてもよい。

8．粘土層の奥行き寸法は、石垣表面より、G面・B面で1.8m（６尺）H面・C面で1.5m（５尺）とする。

9．石組み暗渠は、上流側の蓋石３石を取り外して、中の土砂をさらい、粘土を詰めて止水する。同様にこの範囲の暗渠側石の両脇も後世の盛土をさらい粘土に入れ替える。石組み暗渠の周囲に薄く粘土を巻き、これをベントナイト・シートで覆って止水する。

盛土を除去（西より）

G面G－5列のモルタル

B・C面入隅部根石の飼い石と裏込めは築城時か

南裾石垣発掘調査風景

南裾石垣（南西より）

南裾石垣東端

G面とH面の入隅部に残る築城時とみられる粘土層と南岸の堤に残る粘土層
南岸堤の粘土層はFトレンチまで続く。

排水口南側で面的に確認された粘土範囲
上は北より、下は南より

2007/5/18	裏込め工法	積石を安定させるため、大きな飼い石の間にも小さな栗石をたくさん詰めたので、盛土が間に入らなかった。→強度的に問題はない。盛土は後年流出して変形の原因になるので、今後もこの方法でよい。
	H面の通り	入隅を仮積みし、２部勾配となった。H面東端先の野面積みは４分勾配である。 →東端を３分勾配にし、入隅２分からねじって納める。
	D面・E面石垣下の粘土の厚さ	通水部の粘土の厚さ→葛石より下に１尺は欲しいので葛石上端より50㎝下がりの間に粘土層を設ける。
	G面	G面の下から３段目の小学校側入隅２石は築城当時のままと考えられる。

2007/6/11　最終確認　　主要工事が終了したので、現地での最終確認および協議を行う。
出来形設計図を作成し提出する。

石組み暗渠の東端に粘土を充填

石組み暗渠を粘土・シートで覆う

石積み工（上流側）
石組み暗渠のG面側３石の蓋を取り、中に粘土を詰めて止水する。暗渠全体は粘土・防水シートで覆う。石積みはG面から行い、築城時に倣って、裏込め、粘土、盛土を構築した。

G面から石積みを行う

H面の裏側地業

上流側のH３列まで復元

B面石組み暗渠

B面を積む、B６－６は新材にする

B面とC面の裏込め

石積み工（下流側）
B面の暗渠排水口は安定していることが確認される。上流側のD面とE面の石積み検討の結果をもとにB面の勾配を決定する。

南裾石垣の土盛

H19年度の工事を終了し、シート養生

（平成19年度事業）

2007/10/4　現地打合せ

解体工事

1．A面・F面については最小の範囲で設計する。

2．石垣の内部については裏込め栗石の奥行きの分までの解体とし、工事の状況により、必要な変更をする。

3．南岸および通水部の石垣は昨年度と同様の施工をする。

4．通水部については、堰水の侵入による石垣の変形と下流面への漏れをできるだけ少なくするために、通水部を横断してD面・E面の石垣裏込め裏で立ち上がる形状にベントナイトシートを入れる。シートは積石二段目まで立ち上げる。

5．上流側の堰底に水漏れを防ぐため、粘土を補足する。下流側は掘り下げた土砂を旧状のように埋め戻すのみ。

6．通水部上面にも粘土層を形成し、粘土の表面に砂利を叩き込んで、流水による浸食を予防する。

7．南岸法面と石垣上面は、盛土の流失を予防するため、植生シートで覆う。シートはワラ芝系とする。

2007/10/17	設計図の確認	現地打合せ・施工業者着工
2007/12/26	小学校と打合せ	田口小学校と打合せ（施工業者、文化財課）
（平成20年）	準備工	水替工、敷鉄板、土嚢除去
2008/1/8	文建協現地指導	工事区域内に生徒が入ることのないよう仮囲いを確実に設置すること。
2008/1/16	安全性の確保	工事範囲と内容の確認
	石垣工事	石垣の裏込めについては内部状況を調査確認しながら解体範囲を決定する。また裏込めに用いられている粘土については施工時に凍結しないよう養生方法を検討する。 上記の粘土については昨年同様に、土質検査を行い、その結果を報告すること。 解体準備工、仮遣り方設定工
2008/1/19	石垣解体	石垣解体工F面・G面、跳ね出し石解体、裏込め解体、残土搬出、石材整理工、取り替え石材調査
2008/1/20	石垣仮積み	F面・G面仮積み
2008/1/21		A面・B面解体工、跳ね出し石解体、裏込め解体、残土搬出、石材整理工、取り替え石材調査
2008/1/22		石積み工　A面仮積み、B面勾配修正、G・F面石垣積み工・裏込め工
2008/1/23		石積み工　A・G・F面石垣積み工、裏込め工

▲F面石垣積み工

F面石垣解体と裏込め状況

A面石垣解体工▶

F面・G面の解体、仮積みをして、A面・B面の解体をする。

2008/1/23　文建協現地指導

1．石垣解体および石積み状況の確認。D・E面脚部の納め方協議。
2．A面・B面・F面については設計範囲が解体されていることを確認。
3．解体範囲の裏込めには、粒径15～20cm位の川原石と粒径3cm位の川砂利が使われていた。
4．その裏側の盛土には粒径3～5cmの川砂利が混ざった土砂が使われており、粘土はみられなかった。今回解体した積み石では取り替え必要なものはなかった。
5．D・E面の根石下端の通りはかなりの凹凸が生じるので各面での最も低い根石の下に、止水用のベントナイトシートを敷き込み、この上に平たい飼い盤石で高さを調整しながら根石を据える方法を試みる。

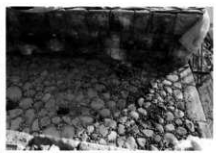
2008/1/24	石垣積み工	A・B・F面石垣積み工、裏込め工、補足粘土、補足土工、A・F面跳ね出し石仮振り付け
2008/2/4	石垣積み工	石垣積み工、裏込め工、粘土補足土工、D面下栗石・ベントナイトシート工 各面の仮積み状況の確認
2008/2/9	文建協現地指導	石積み状況の確認。五味氏の指導
2008/2/13	文建協現地指導	石積み状況の最終確認。五味氏の指導、出来高寸法実測
2008/3/18		出来形検査（佐久市検査課）竣工

D面石垣下の敷石

積み工　G面・D面出隅部裏側

積み工　D面・B面出隅部裏側

積み工　E面


通水部敷石（E面を見る）

C面の土嚢養生と上面の土盛り

竣工　上面に芝を張る

第３節　穴門排水口発掘調査の結果

まず石垣の上面の観察のために、穴門排水口付近の石垣を堀に平行して14m、幅12m範囲で表土を剥いだ。また裏込めの厚さを見るために、石垣を壊さない程度の狭いトレンチを入れ確認した。第10図に示したが、石垣上方は河床礫を主体とした裏込めであり、H面のAセクション面のみ18層のシルトと砂が込められていた。裏込めの幅は石垣の全面から1m～1.5mである。

石垣の解体作業に入り、D・E面の通水部の石垣の解体を進める。その中で、構築時ないし昭和８年の陸軍の復旧の痕跡を確認するため、水門に南北3本のトレンチを設定した。その結果、水門を構築している5層は粘質土ながら、土の中には陶磁器、ガラス、ガラス瓶、ビニール、プラスチック、金属を含んでいた。陶磁器はかなり多量である。この５層は通水部D・E面の石垣上面から約２m下まで及んでいた。その地点からは石組暗渠が堀と並行して検出された。上流側G面の下にある排水用とみられる水抜口と、B面の放水口をつなぐもので蓋石は長さ60～84cm、幅30～50cm、厚さ18～28cmの扁平に加工された石を並べている。暗渠の内口の大きさは32cm四方である。石組暗渠の側面まで５層が及んでいる。暗渠の側面と上部からプラスチック容器の内蓋や、ガラス片、青色のガラス瓶片が出土している。暗渠の蓋石には、跳ね出し石を転用した可能性がある石材もあり、構築時のままではないと思われる。

しかし、第11図にみるように底面付近には12bの青灰色粘土が見られ、後世の影響は受けていないとみられる。この石組暗渠の北に並列して、石組暗渠の底面と同じ高さに木樋とみられる木片が12bの青灰色粘土中に見られた。これは下流側B面石垣にみられた石組暗渠の口のほかに北に開く口と一致している。ただ、上流側のG面石垣では口が確認出来ていないがBトレンチ地点では粘土と木製埋設物の一部の木片がみられる。

第12図に示したが排水口の南裾からは石垣が検出された。南裾石垣としたが長さ10m、高さ1m、裏込めを含めた幅約1mを測る。南の水路と方向が一致していることから、水路による堰の崩壊を防ぐために設けられた石垣であろう。南裾石垣自体は切断していないので遺物は出土していない。五味氏の見解では新しいものとしている。

第13図は、５層除去後の土質図で、粘土の「はがね巻き工法」を確認したものである。B面でB６列のレベルで石垣の面から1.1mの内側に幅１m、中央に0.3m幅の白色粘土を入れている。G面ではG５列レベルで石垣面から1.2m内側に0.9m幅で同様に白色粘土を挟んでいる。H面のH４列レベルで石の面から1.8m内側に0.9mの幅で粘土を持ち、中に白色粘土を挟んでいる。

石垣の裏込めの背後に1m幅に粘土を貼り、その粘土の芯に幅30cmの異なる白色粘土を挟んでいる。佐久地方では水田の水漏れ防止として在来で行われている方法である。対岸にあたる堀の南岸に設けたFトレンチも同様に粘土層が検出され、南岸の堤にも「はがね巻き工法」がなされ、水漏れ防止をしていることが確認されている。

B面石垣　築城時の裏込め

裏込めは栗石が詰められていたが、構築時のものと見られる裏込めが2か所にみられた。その一つは第14図に示した。H面の石垣のH6列レベルで部分的に確認された裏込めである。この部分は石垣の面から幅1mの裏込めであり、飼い石と裏込めの確実で念入りな仕事から築城当時とみられる。また同様にB面とC面の入隅部にあって、B６列の下レベルとC１列下レベルでも築城時の裏込めが残っていた。

これらにより、穴門排水口は築城時に堰として構築され、明治の廃藩後、堀は埋められて桑が植えられた（南佐久郡の古城址調査の図参照）。昭和８年から２年がかりで陸軍築城部本部により、旧状

に戻された。このときの陸軍の「復旧要領書」では、水門は「新設コンクリート作り」としているが、今回の調査で、下部の粘土や裏込めに築城時のままの部分が残っていることから、上部のみコンクリート造りで復元したのと思われる。そして、第二次世界大戦の最中、堀の東・南側は水田耕作され、戦後も20年代半ばまで同様であった。（P20　史料3小学生の年表）戦時中は水堀としては機能しないもののの水のたまる状態であったことは確かで、また秋になれば排水の必要もあったとおもわれる。この堰は昭和28年に修理が必要な状態であったことは確かである。昭和28年田口村公民官報に「五稜郭石垣修理なる」の見出しで、桝形石積、濠の石積3ヶ所、水門暗渠1ヶ所とある。「水門暗渠1ヶ所」は穴門排水口のことで、その写真に「五稜郭南方の払いまち」と注があり、穴門排水口が掲載されている。このときに暗渠まで手が加えられたようである。（P16　資料29）

そして昭和48年秋半年がかりで清掃した（小学生の年表）とあり、この年は現在の田口小学校が新築された年であり、関連して手を加えられたようである。ここには工事に関することはかかれていない。

これらから排水口は築城時には存在し、その後上面は崩壊し、昭和8年に復元され、昭和28年に石組暗渠まで修理されていることになろう。

昭和48年にどこまで手が加えられたかは「南側の堰には耕運機も入れられて土をすっかり耕し、漏水を防ぐ手だてもこうじられた」と小学生の年表にあり、土や石も取り除いたようであるから、穴門排水口の表層はこの時に整えられたであろう。今回修理した構築土の中に戦争中の陶磁器が大量に含まれており、ガラスやプラスチックも含むが、それほどに多くない。暗渠付近はこれらの陶磁器・プラスチックの混入量が少ないことからも、昭和28年の修理が妥当とおもわれる。しかし、昭和48年の範囲はつかめていない。

解体した石と石材の情報については、第15・16図に示した。また今回の石積工については第17・18図に示した。参照願いたい。

龍岡城跡排水口出土木製埋設品（遺物番号1043）の樹種

高橋　敦（パリノ・サーヴェイ株式会社）

はじめに

龍岡城跡（長野県佐久市田口）は、江戸時代末期に築城された城郭であり、北海道函館市の五稜郭と同様の五芒星形の西洋式城郭として著名である。

本報告では、龍岡城跡の用水排から出土した木樋とみられる木製品の樹種を明らかとするため、樹種同定を実施した。

1．試料

試料は、用水排から出土した木樋（1043；FF-1）の1点である。

2．結果および応札

木樋は、針葉樹のマツ属複維管束亜属に同定された。以下に、解剖学的特徴等を記す。

・マツ属複維管束亜属（Pinus subgen. Diploxylon）　マツ科

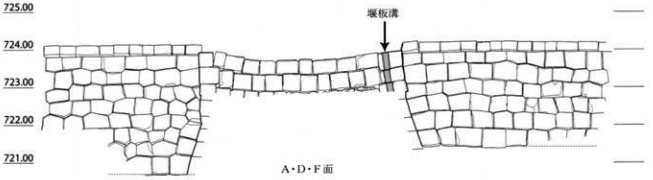
軸方向組織は仮道管と垂直樹脂道で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行は急～やや緩やかで、晩材部の幅は広い。垂直樹脂道は晩材部に認められる。放射組織は、仮道管、柔細胞、水平樹脂道、エピセリウム細胞で構成される。分野壁孔は窓状となる。放射仮道管内壁には鋸歯状の突起が認められる。放射組織は単列、1-15細胞高。

分析に供された木樋（1043；FF-1）は節に相当する部分にあたり、本来の形状や木取りは不明である。本資料は、樹種同定の結果、針葉樹のマツ属複維管束亜属に同定された。本州に生育するマツ属複維管束亜属は、アカマツとクロマツの2種があり、アカマツは二次林等に広くみられ、クロマツは海岸砂丘等によく生育する。いずれも常緑高木で、木材は軽軟であるが強度と保存性が高く、とくに水中にある時の保存性が高いとされる。木樋にマツ属複維管束亜属が利用された背景には、木製品の用途を考慮した用材選択があったと考えられる。

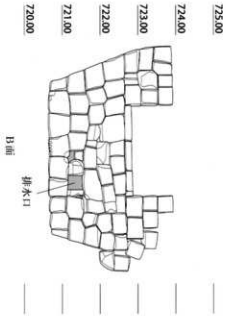
引用文献

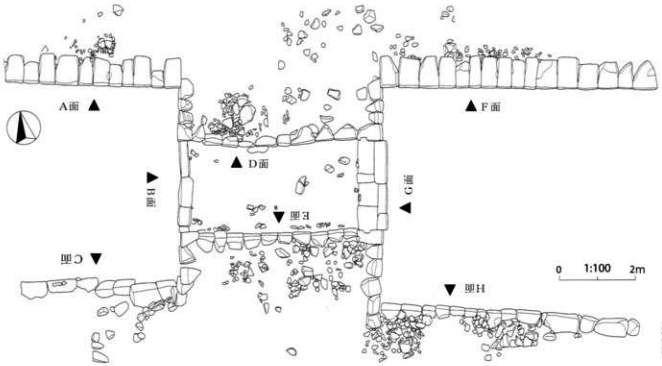
Richter H.G.,Grosser D.,Heinz I. and Gasson P.E.（編）,2006,針葉樹材の識別　IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト.伊東隆夫・藤井智之・佐野雄三・安部　久・内海泰弘（日本語版監修）.海青社,70p.［Richter H.G.,Grosser D.,Heinz I. and Gasson P.E.,2004,IAWA List of Microscopic Features for Softwood Identification］.

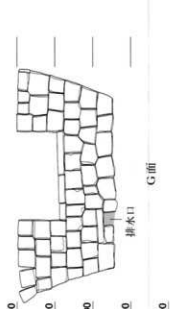
島地　謙・伊東隆夫,1982,図説木材組織.地球社,176p.

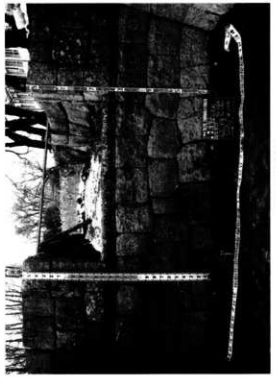


D面（南より）

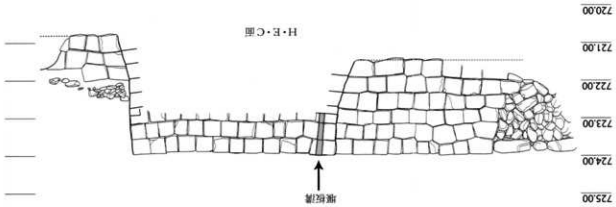








G面（東より）



B面（西より）

E面（北より）

第８図　穴門排水口　石垣現況図

※平面図は文建協が作成したものに手取りの裏込め石とC面を合成した。
立面図は文建協作成。

※平面図は文建協が作成したものに手取りの
南堀石垣・石組暗渠・裏込め石を合成している。

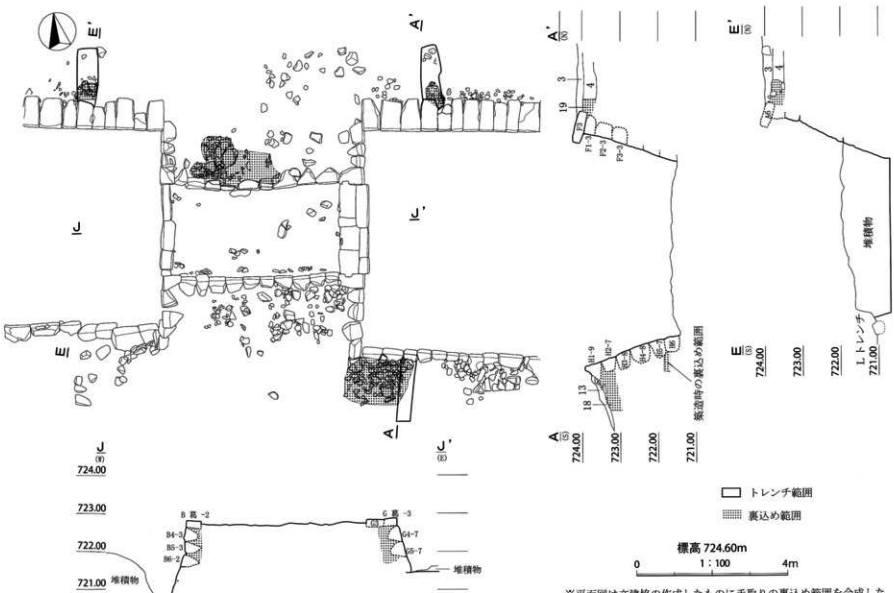
Eトレンチ
Dトレンチ
Lトレンチ
Bトレンチ
Cトレンチ
Aトレンチ
Gトレンチ
Fトレンチ

0　1：100　4m

石組み暗渠
表土除去範囲
トレンチ範囲

Gトレンチ（南より）

第9図　穴門排水口　トレンチ設定図



※平面図は文建協の作成したものに手取りの裏込め範囲を合成した。
断面図はみすず綜合コンサルタント作成のものに手取りを合成した。

第10図　穴門排水口（1）　石垣上面と裏込め

第11図　穴門排水口（2）　石組断面

第112図　穴門排水口（3）　南壁石垣・F・Gトレンチ

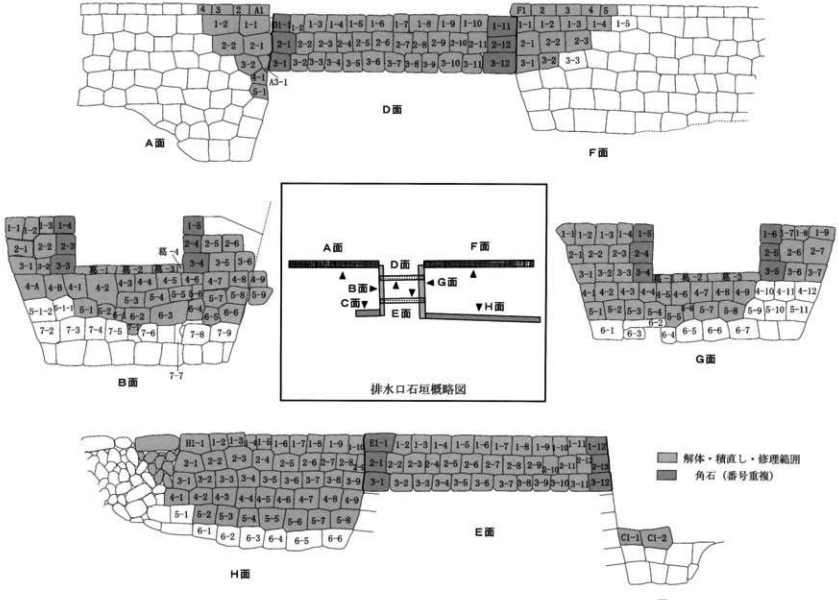
第13図　穴門排水口（4）　土質図

H面石垣　6列目に残る築城時の裏込め（南より）

第14図　穴門排水口　H面の築城時裏込め図

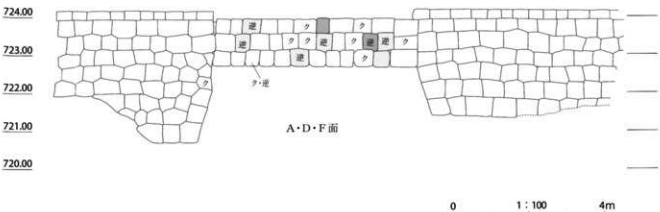
穴門排水口土層説明

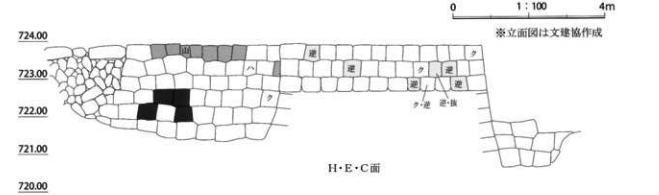
1. 暗褐色土層（10YR3/4）ゴミ堆積層。ビニール等を多量に含む。
2. 黒褐色土層（10YR2/3）土塁補修時の山砂か？
3. 暗褐色土層（10YR3/4）ガラス・瓦等を多量に混入。大・小礫を含む。
4. 暗褐色土層（10YR3/3）φ1～5cmの礫を多量に含み、暗褐色の粘土ブロック少量混入。
5. 灰黄褐色土層（10YR4/2）粘質土。礫を多量に含み、締まり無し。カクラン土。陶磁器・ガラス・ガラス瓶・ビニール・プラスチック・スチール缶・アルミ缶を多量に含む。
6. 灰黄褐色土層（10YR4/2）5層中に粘土を多く含むもの。5層より陶磁器・ガラス・ビニール・プラスチック・スチール缶・アルミ缶等は少ない。漏水を防ぐ為の版築土。
7. 石垣の裏込め。
8. 褐色土層（10YR4/4）砂質土。φ15cm大礫を多く含む。陶磁器・ガラス片を含む。
9. 南側石垣の裏込め。下部締まる。ビニール・陶磁器片等を含む。
10. 褐色土層（10YR4/4）砂層。（石組暗渠内）
11. 花崗。（石組暗渠内）
12. 粘土層。
    a. 褐色土層（10YR4/6）・にぶい黄橙色土層（10YR7/3）
    b. 青灰色土層（5b5/1）青灰色粘土。
    c. 白色粘土。
13. 褐色土層（10YR4/4）地山。砂質土。
14. 黒褐色土層（10YR3/1）表土。締まり・粘性あり。
15. 黄褐色土層（10YR5/6）締まり・粘性弱い。砂層。
16. 暗褐色土層（10YR3/3）締まり・粘性弱く、小礫を多く含む。
17. 暗褐色土層（10YR3/4）締まり・粘性弱く、こぶし大の礫を含む。
18. H面石垣裏込め。シルト・砂混合土。
19. G・H面裏込め。礫主体。
20. 黒褐色土層（10YR3/2）締まりなし。砂質土。シルト質土を含み、大小礫を多量に含む。
21. 灰黄褐色土層（10YR4/2）締まる。粘質土を多量に含み、シルト質土・砂・礫を含む。

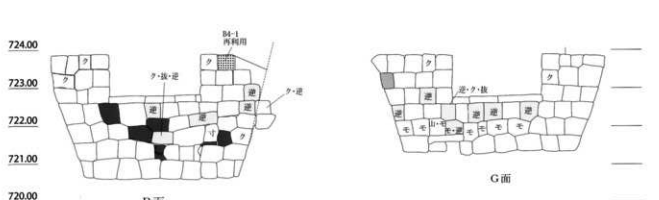


第15図　穴門排水口石材番号一覧図

※立面図は文建協作成





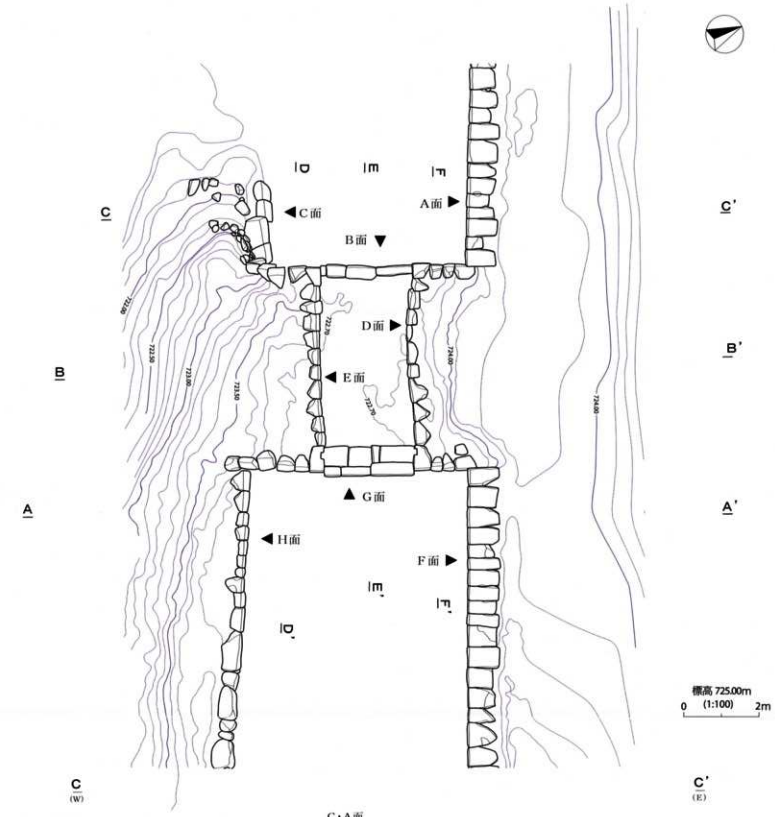


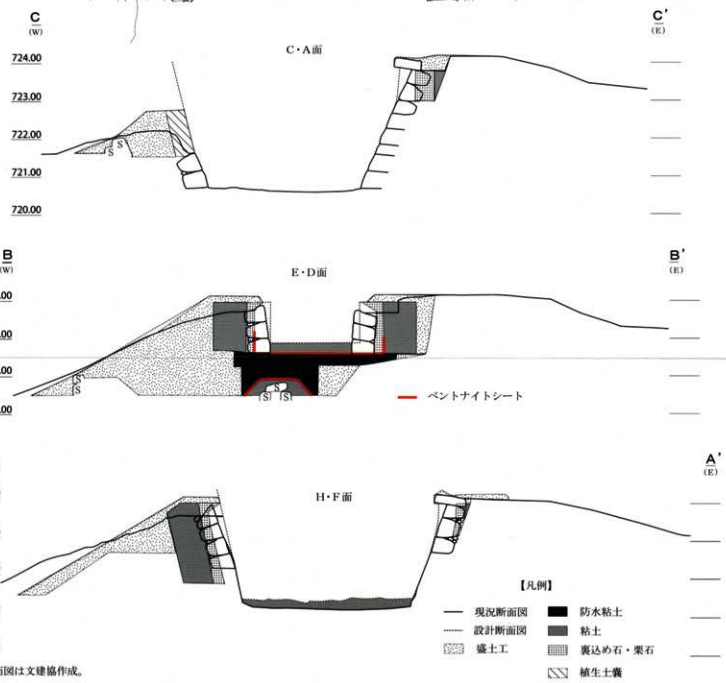
A・B面（南より）

B・C面（北より）

山（山傷）
ク（クラック）
寸（寸法不足）
抜（欠損）
ハ（剥離）
モ（モルタル付着）
逆（逆さ石）
加工
取替え（新材）

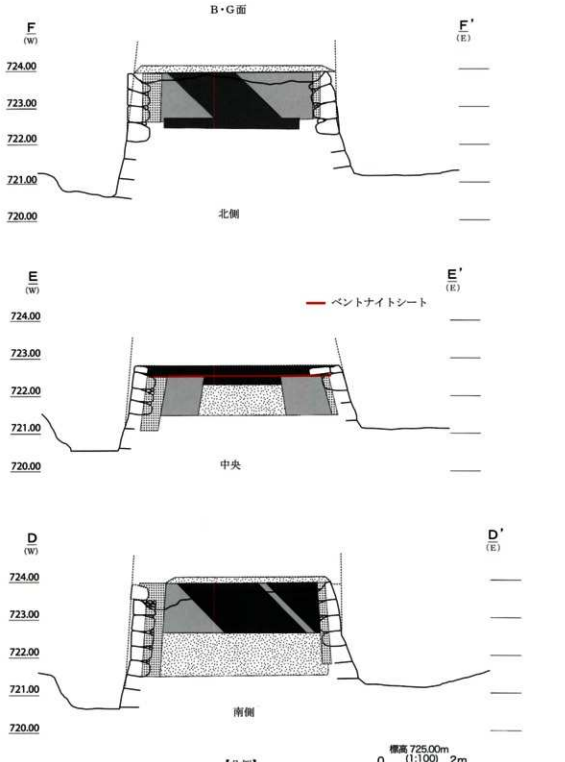
第16図　穴門排水口　破損・修復石材区分図





※断面図は文建協作成。

第17図　穴門排水口　石積工（1）
（平成18・19年度）



第18図　穴門排水口　石積工（2）

第Ⅳ章　旧プール撤去工事に伴う調査

第１節　旧プール撤去工事に伴う発掘調査の経過

国史跡内のプール撤去・埋め戻し工事に際しては、工事による破壊が行われないよう慎重に進める必要がある。また、発掘調査により旧プール建設工事による破壊範囲・深度の確認するために工事の前に本調査、工事に際しては立ち会いを行った。その結果旧プール撤去範囲は撹乱されており、築城時の土層は確認されなかった。

（平成19年）

2007/４/20	現状変更申請 旧プール撤去工事（プールフェンスの外側１ｍを限度としてプールの施設のすべてを撤去する。）
2007/５/１	旧プール解体許可
2007/９/14	旧プールの北側の土塁との間にトレンチを設定し、掘り始める。
2007/9/28	プールサイドのブロックをはがしトレンチを入れる。
2007/10/17	各地点のトレンチを掘り下げ、埋め戻し、ほぼ終了する。

（平成20年）

2008/1/	プール撤去
2008/1/15	プール内のコンクリート下の調査。
2008/１/31	プール南に石組暗渠を検出（砲台南石垣石組み暗渠）。
2008/3/４	新たに設ける排水溝付近の調査。 北東の井戸付近の調査。

第２節　旧プール撤去工事に伴う発掘調査・トレンチ

旧プール撤去工事が国の史跡内であることから、撤去・埋め戻しに際して、旧プール建設工事に伴う破壊範囲を確認し、破壊範囲が広がらない様、工事前にプール外周にトレンチを入れ表土層を除去し、撹乱範囲の確認をした。その結果、今回の撤去範囲には構築時の土層は残っていないことが確認された。工事に際しては担当者が立ち会った。

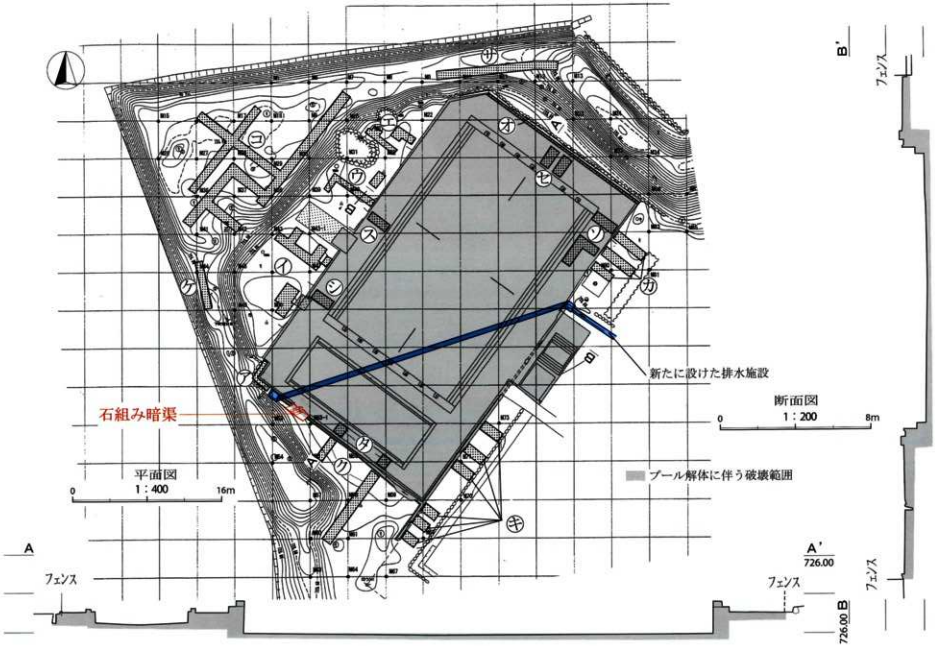
第３節　砲台南石垣にある石組暗渠

プール短辺に当たるプール南端に石組暗渠が検出された。プール内はすでに破壊されて残っていない。第19図に示したが石垣と直交するもので、石垣外面からの写真（Ｐ58）をみるとよくわかるが外側で長さ60cm、幅72cm、高さ50cmの石をくり抜いて凹型に加工し、凹型溝の接合部は南の石を凹に北の石を凸にカットして整合し連続している。蓋石は幅70cm、厚さ16cmを測る。長さは分からない。凹型溝の断面形はほぼ28cmの正方形を呈する。石材は石垣と同じ凝灰岩である。

旧プール西側にトレンチ

旧プール撤去　南より

旧プール撤去後の整地　西より



第19図　旧プール撤去に伴う全体図・トレンチ配置図

㋐トレンチ（南西より）

㋑-1トレンチ（西より）

㋓トレンチ（西より）

㋑-2トレンチ（北より）

㋒-1トレンチ（西より）

㋔トレンチ（東より）

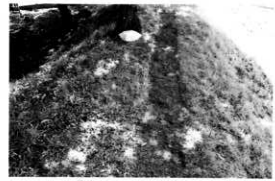
㋒-2トレンチ（西より）

㋔トレンチ（西より）

㋐～㋔トレンチ

㋐トレンチ（東より）

㋑トレンチ（北東より）



㋒トレンチ（北より）

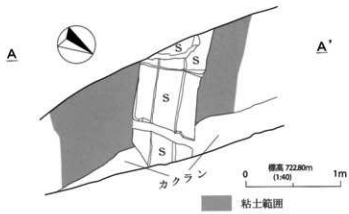
㋓トレンチ（東より）

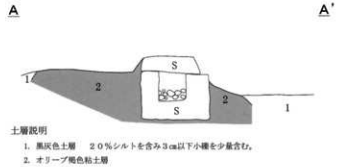
㋔トレンチ（西より）

㋕トレンチ（東より）

㋖トレンチ（西より）

㋗トレンチ（西より）





土層説明

1. 黒灰色土層　２０％シルトを含み３cm以下小礫を少量含む。
2. オリーブ褐色粘土層

第 20 図　石組暗渠（旧プール撤去時検出）

石組暗渠・郭内（東より）

石組暗渠端部（東より）

石組暗渠アップ（東より）

▼砲台南石垣外側（西より）

第Ⅴ章　黒門西側石垣修理工事に伴う調査

第１節　黒門西側石垣の概要

１．概要

龍岡城の西辺にあり、黒門の西側にあたる。佐久石（安山岩）を用いた切り込み接ぎの落とし積みとし、石垣天端には、跳ね出し石を据える。

石垣上面に土塁を築き、背後は法面とする。落とし積みは過去の修理で改変されたもので、石垣の東端の入隅部から約２ｍの範囲と西端の出隅部から約３ｍの範囲は当初と思われる亀甲崩しの布積みが残っている。

２．石垣の寸法

区　分	寸　法	区　分	寸　法
跳ね出し石	延長５０.３１８ｍ（１６６.０尺）	せい	０.２４２ｍ（０.８尺）
石垣上端	延長５０.０７８ｍ（１６５.２尺）	高さ	２.７２７ｍ（９.０尺）
石垣下端	延長４９.９０９ｍ（１６４.７尺）	石垣全体　高さ	２.９６９ｍ（９.８尺）

３．破損状況

（１）概況

黒門西の石垣は全体に石垣面の乱れが著しく、「孕み出し」「上部の後退」「壁面の前のめり」が連続して続く。このため石垣面は全体に波うった状態を呈している。

各積石は目地の開きが大きくなっているものや、積石のトモが下がったために目地位置で石垣面に食い違いを生じている箇所が散見される。

石垣天端に据えられている跳ね出し石は積み石の変形の影響を受けて通りの乱れや不陸が著しく、背面側へ転倒している箇所もみられる。また部分的に表面や角が欠損している石材も確認される。

積石が変形した原因は、裏込めの栗石や各積石間にほどこされた飼石がゆるんで石垣面に歪みが生じたものと推定される。また裏込めの施行不良や根石の沈下および積石の控えの長さが短い可能性もあり、これらも破損を助長した遠因と考えられる。

（２）積石

東西端部の石垣面より50cm離した位置に前面道路の勾配なりに水糸を張った状況から観察すると、石垣面は著しく歪みを生じているのに加えて緩みもみられ、積石間の目地が大きく開いている箇所が散見される。石垣面の破損として「孕み出し」「上部の後退」「壁面の前のめり」の三種が混在していることがよくわかる。

（３）跳ね出し石

石垣天端には「跳ね出し石」が据えられているが、積石の変形の影響を受けたため本来直線であるはずの天端線は不陸を生じている。この他、石垣の孕み出しに伴い、天端位置が移動したため、跳ね出し石の座りが悪くなり、道路側に前転びになっているものや、逆に背面側に転倒しているものが見られ、全体的に不安定な状態といえる。

小口表面は積石よりも経年劣化が進んでおり、部分的に角が欠損しているものや小口全面が欠失しているものが見られる。

（４）昭和50年代の修理の痕跡

佐久市教育委員会が実施した調査により、昭和50年代に行われた修理工事の概要があきらかになった。

まず、積石表面に残る擦り傷の痕跡により積直範囲を概ね把握することができた。

この擦り傷は修理の際に、重機のバケットや積石を吊り上げるために挿入した鉄筋の擦り傷と推定され、特に中央部に残る傷は、番付けを削り落とした可能性も考えられる。

また聞き取り調査によると既存の栗石に砕石を補充しながら積み直し、モルタルは使用していないとのことで、積み直しを行ってから一年経過せずに孕み出してしまったとのことであった。

上記の孕み出しの原因として考えられるのは、裏込めに用いた資材および施工の良否が考えられ、本修理工事では解体時に破損原因の究明に努めることが求められる。

4．修理方針の設定

前項に記したような破損状況を基に、修理方針を以下のように設定する。

【修理方針】

① 現状維持修理とし、復元的な修理は行わない。

② 石垣は全体に歪みが見られるが、比較的健全な東端の出隅部分は存置することとし、これ以外の部分については、一旦解体して積み直す。

③ 石垣の積み直しに伴い、上面の土塁も必要最小限の範囲で一旦撤去して復旧する。

④ 石垣の解体に際して石垣内部の工法を調査する。在来の工法の中で、築城当時の工法が判明した場合は、これに倣って石積みや裏込め工事を実施することを原則とする。

⑤ 工事対象の石垣の前面は道路で石垣が足元まで埋まっているため、根石の状況確認を目的として、トレンチ調査を行う。これに伴い、道路石垣のアスファルト舗装を一旦撤去して調査を行い、石積み工事終了後に復旧する。

【考え方】

・史跡龍岡城跡については、来年度以降に保存管理計画を初めとする各保存整備計画を策定していく予定である。

・今回の修理工事はこれからの策定以前に行う応急処置であり、現状を維持するための修理として限定し、復元的な内容については上記の計画を策定していく段階で、保存整備に関する委員会を設置し、審議して決めるべきものと考える。

このため工事対象の石垣は過去の修理工事で、布積みから落とし積みに改変されているが、布積みへの復元は本修理工事では行わない。

5．修理工事の内容

（1）修理範囲の設定

工事区域を東と西の２工区に分けることとし、２カ年の工事として設計する。

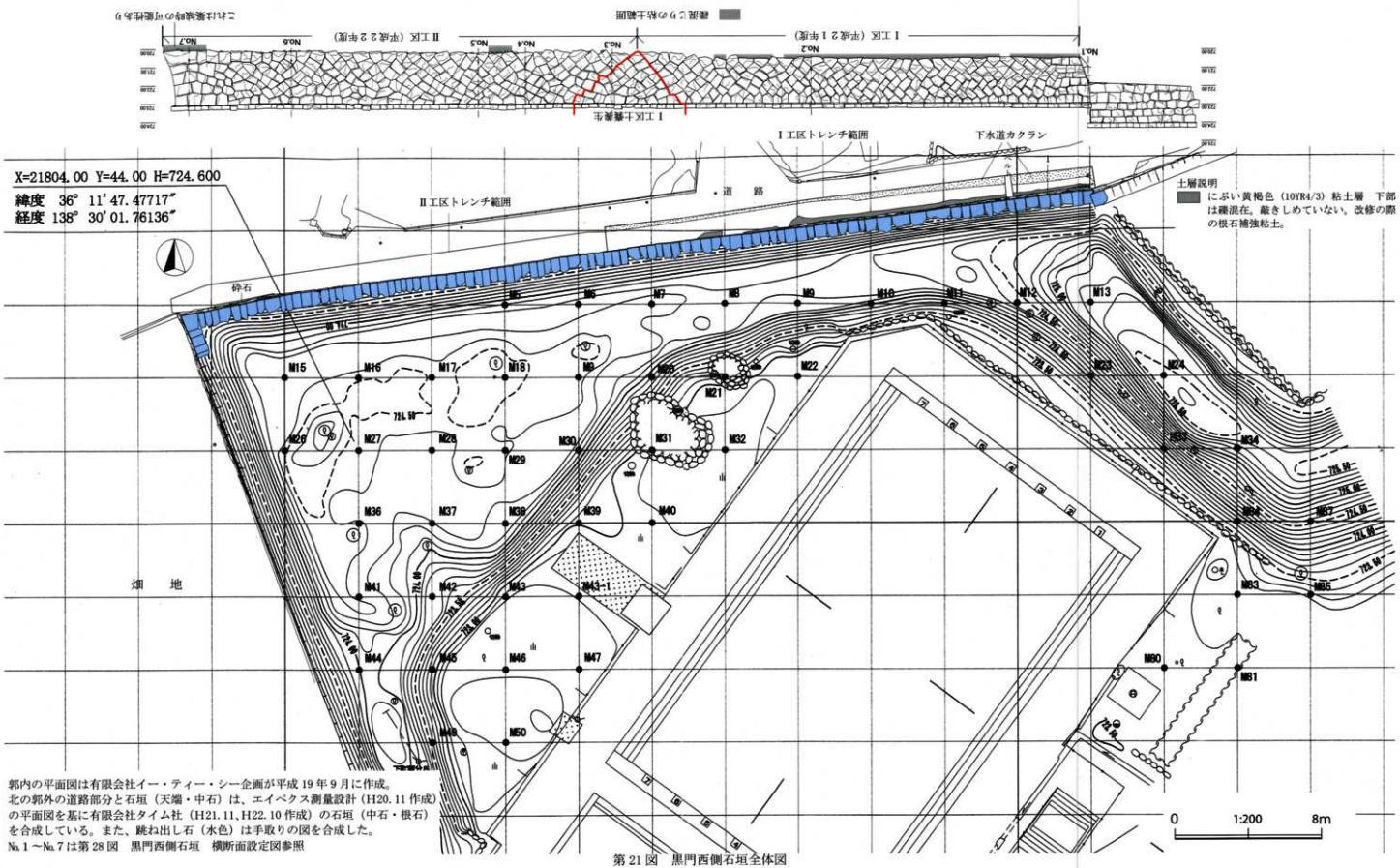
（2）石垣形状の設定

【形状設定の基準】

・変形が最も少ないと思われる測量点№５と７において、推定標準石垣勾配と測量基準線Ｂから根石の位置を求めた。

・石垣を解体する前に石垣足元のトレンチ調査を行い、根石の位置を確認して基準線を再設定する必要がある。

（財）文化財建造物保存技術協会「平成20年度　史跡龍岡城跡黒門西側石垣修理工事実施設計業務成果品」平成21年１月より抜粋転載



郭内の平面図は有限会社イー・ティー・シー企画が平成19年9月に作成。
北の郭外の道路部分と石垣（天端・中石）は、エイペクス測量設計（H20.11作成）の平面図を基に有限会社タイム社（H21.11、H22.10作成）の石垣（中石・根石）を合成している。また、跳ね出し石（水色）は手取りの図を合成した。
№1～№7は第28図 黒門西側石垣 横断面設定図参照

第21図 黒門西側石垣全体図

第２節　黒門西側石垣修理工事に伴う土塁発掘調査の経過と結果

（平成20年）

2008/11/4　機材搬入

2008/11/5　石垣解体範囲にトレンチを設定する。

2008/12/24　５カ所に設定し、順次掘り下げ、測量、埋め戻しを行い終了する。

１トレンチ　石垣の東端にあって、高石垣に接するため土塁は60cmほど高くなっている。
土塁表層10～20cm程を剥ぎ、多量の大小河床礫層を検出。瓦の破片が約4.6kg、鉄製の楔、近代陶磁器２片、ガラス製おはじき１、ガラス片が出土している。

２トレンチ　表層は最大で16cm程の厚みを持ち、砂粒・シルト・粘土が混在する。粘性はやや強い。
１層中より、約2.3kg、近代陶磁器１片、ガラス片が出土している。下層の２層は36cm程下げたところで止めている。30×10cm大の大礫を多量に含み、暗褐色土層である。粘土ブロック、砂を含んでいる。瓦片は約6.9kg、スレート瓦、ガラス瓶、近代陶磁器片、丸釘、大正９年の一銭、昭和44年の百円硬貨が出土している。→昭和44年以降の補修である。

３トレンチ　黒門西側石垣の中央に設定したトレンチである。２トレンチ同様１層が34cm、２層が36cmあり、下に３層の黒褐色土と暗褐色土の混在土層が36cm程確認された。さらに下に４層暗褐色土層がみられた。４層は粘土を５割ほどに砂を含む層で、版築層である。４層の下面に付いては確認していない。この地点でも瓦片が１層中より約4.6kg、２層中より約6.9kg出土している。２層中からは近代陶磁器片、ガラス片、プラスチック製品、鉄製のねじなどが出土している。３層からは瓦約2.3kg、近代陶磁器の湯呑みが出ている。３層は２層とあまり変化のない土層である。

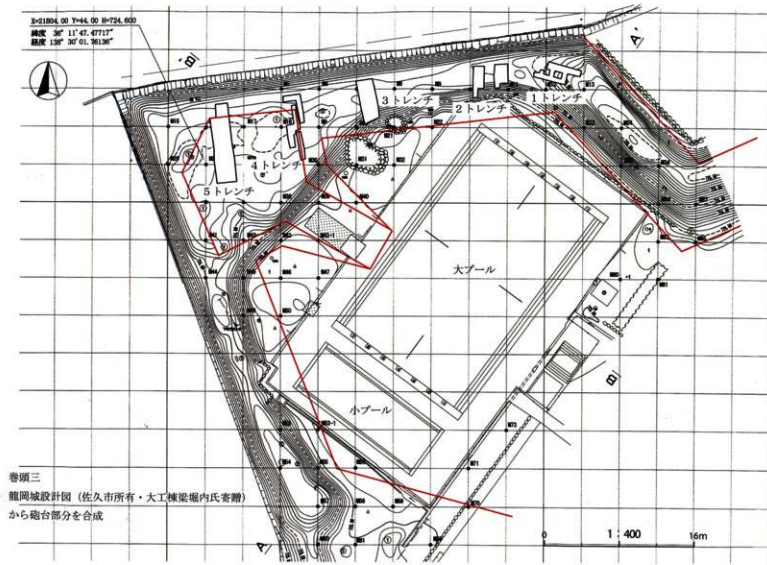
４トレンチ　１層からは約2.3kgの瓦と釘金、近代陶磁器片、ガラス、ガラス瓶、昭和35年の10円玉硬貨が出土する。
また東側からは旧プール建設時に盛り上げた土が確認された。

５トレンチ　西端の出隅部に設定したトレンチである。１から４トレンチの上に１層の黒褐色土を盛っているようである。１層は最大24cm、２層は20cm、下の３層は礫主体の層である。10cm～20cmの円礫が主体である。下層の４層はにぶい黄褐色土層で礫主体の層である。１層からは近代陶磁器、ガラス、ガラス瓶、プラスチック製品、瓦が約2.3kg出土している。２層から瓦が6.9kg、近代陶磁器、角釘、丸釘、王冠、針金、ガラス、ガラス瓶、ビー玉、おはじき、昭和34年の10円硬貨が出土する。３層からは近代陶磁器、角釘、丸釘、ガラス片、瓦が約2.3kg出土している。４層では瓦は出土しないが締まりのない土層である。トレンチ内に重機の爪痕が見られる。

トレンチを埋め戻す

１トレンチ

３トレンチ

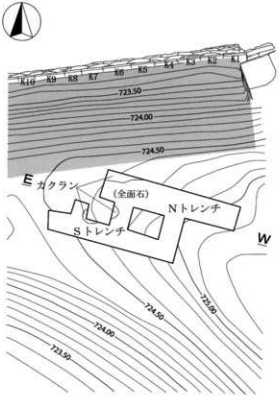


巻頭三
龍岡城設計図（佐久市所有・大工棟梁堀内氏寄贈）
から砲台部分を合成

第22図　黒門西側土塁　トレンチ設定図

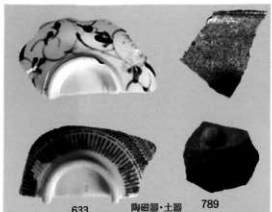
1トレンチ（西より）

1トレンチ（西より）



第23図　黒門西側石垣　土塁1トレンチ

1トレンチ遠景（西より）

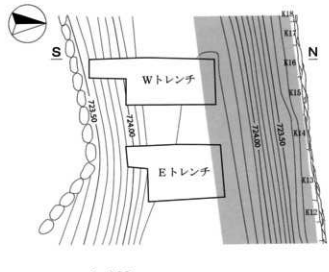


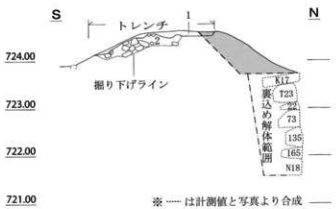
2トレンチ出土遺物

2トレンチ（西より）

2トレンチ（南西より）

2-Eトレンチ（南より）





土層説明

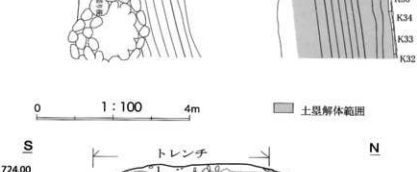
1. 黒褐色土層（10YR2/3）粘性やや強　砂粒・シルト・粘土・瓦・陶器・ガラスを含む。
2. 暗褐色土層（10YR3/3）粘性やや強　粘土ブロック・シルト・粗砂・瓦・陶器・ガラスを含む。
※1・2とも後世のもの

第24図　黒門西側石垣　土塁2トレンチ

3トレンチ付近土塁（西より）

3トレンチ（西より）

3トレンチ南側（西より）



土層説明

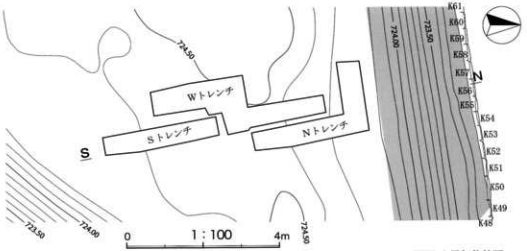
1. 黒褐色土層（10YR2/3）粘性やや強　砂粒・シルト・粘土・瓦・陶器・ガラスを含む。
2. 暗褐色土層（10YR3/3）粘性やや強　粗砂・シルト・粘土ブロック・瓦・陶器・ガラスを含む。
3. 黒褐色・暗褐色土層（10YR2/3・3/3）粘性やや弱　シルト30%・粘土ブロック20%・粗砂10%
4. 暗褐色土層（10YR3/4）粘性やや強　粘土50%・砂30%（版築状）

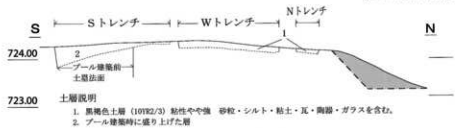
第25図　黒門西側石垣　土塁3トレンチ

4-N・Wトレンチ（南より）

4トレンチ（北西より）

4トレンチ附近北
土塁版築状況模式図
1. 栗石層 30cm
2. 粘土層 15cm
3. 砂層 15cm
4. 粘土層 15cm





第26図 黒門西側石垣 土塁4トレンチ

4トレンチ（南より）

4-Nトレンチ（南より）

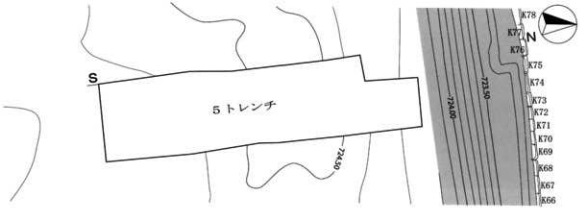
4-Sトレンチ（南より）

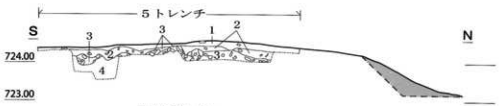
5トレンチ（東より）

5トレンチ（西より）

5トレンチ（東より）

5トレンチ（南より）





―― 掘り下げライン

土層説明

1. 黒褐色土層（10YR2/2）表土。粗砂・粘土・シルト
2. 黒褐色土層（10YR2/3）粘土30%・シルト10%
3. 暗褐色土層（10YR3/3）礫主体。シルト・粘土を含む。
4. にぶい黄褐色土層（10YR4/3）礫主体。粗砂・シルト・粘土。瓦無し。軟らかく土壌構築土とは考えにくい。

第27図　黒門西側石垣　土塁5トレンチ

第３節　黒門西側石垣修理工事の経過と結果

（平成20年度）

2008/7/8	着手時打合せ	文化財課（係長・担当）・測量業者（エイペクス）・文建協
	測量内容	測量後に設計を進めるので、測量を早めにすすめる。 測量図は石の輪郭線と隙間を描き、断面は裏側の法面及び地盤面まで描くこと。
	測量の要点	平面的基線は両端部入り隅と出隅を結んだ線とする。
	その他	修理方針は現状の孕み出し・変形を修整することとし、斜め積みを布積に復することはしない。 整備委員会を立ち上げ、石垣小部会を設ける予定。
2008/8/25	仮設計画打合せ	文化財課（係長・担当）、文建協
	提出書類	「史跡龍岡城跡黒門西側石垣修理工事の仮設計画について」（文建協）
	通学路について	大手橋からのルートを通学路とし、黒門は使用しないようにする。
	居住者の車両の出入	車両の出入りが可能なように仮設計画を立てることが望ましいが止むを得ない場合も考慮する。
	石垣根石の確認	工区を分けて根石の確認。
	解体石材置き場	置き場はパレットか鉄板で養生。
	近年の石垣修理	平成元年か２年に下水道の引き込み時に修理している。その際、跳ね出し石が12個ほど落下したため復旧している。
	版築および盛土	土塁部分は版築の遺構が検出されず単なる盛土であった。
	周辺工事	校舎の耐震補強工事、保育園北側で公園整備と道路の拡幅工事を実施している。
	現場にて	Ⅱ工区の足元全面とⅠ工区の出隅部分のトレンチによる根石確認で工事対象面の基準墨が設定できる。計画案で示した工区を入れ替えて、入隅部をⅠ工区、出隅部をⅡ区とする。 通学路として工事期間中に道路を使用することは困難。 石垣上の盛土はⅡ工区時に一括して行ってよいが冬期間はさける。
2008/12/4	仮設計画打合せ	
	提出書類	「史跡龍岡城跡黒門西側石垣修理工事　Ⅰ工区解体・石積検討図」（文建協） 「史跡龍岡城跡黒門西側石垣修理工事　Ⅱ工区解体・石積検討図」（文建協）
	Ⅰ工区について	根石確認調査のトレンチが深い為、通路約80㎝しか確保できないため、通学路としては困難。 石垣上の盛土はⅠ工区時は撤去のみで、Ⅱ工区時に一括で復旧する。 Ⅰ工区石積後、Ⅱ工区の解体に着手するまで、取合い部は土嚢積とする。 Ⅰ工区石積後、Ⅱ工区の解体に着手するまで、現場作業のない期間石材・栗石・土砂はシート養生し、周囲に高さ1.5mの安全柵を設置する。
	Ⅱ工区について	クレーンを使用せず、トラックにより場内の石材置き場へ搬入する。 解体作業は石垣全面道路にて行うため、既存のフェンスを一旦撤去し、復旧する。道路と畑地段差に土嚢を積んで鉄板で道路を養生し、2.9tクレーンと石材運搬用2tトラックを併用して作業したい。
	Ⅰ工区・Ⅱ工区の共通事項	仮囲いの範囲は黒門周囲の土塁から児童が工事区域内に入らないよう設置範囲を広げる。 ミニバックホーが走行する土塁上の養生はベニヤまたはゴムマット程度でよい。 小学校体育館の耐震補強工事をしている。今年度は8/10～11/30まで実施され、来年度も予定している。仮設橋の設置はどちらで行うか発注時期によって検討する。

仮置き場の囲い	今回対象区の石積みは、本来布積みであったものが谷積みに変更されており、また何度も積み直しが行われているので、今回、積み直しを行っても隙間を生じてしまう。
送付資料について	50年代に積み直した範囲がわかった。石材にバケットの擦り傷や石材をつり上げる際に挿入した鉄筋の擦り傷が確認され、図面に落としたところそのころの範囲がわかった。 聞き取りでは裏込めは既存の栗石に砕石を補充しながら積み直したようで、モルタルは使用していないとのこと。積み直して一年も経過せずに孕みだしてしまった。（羽毛田） プール建設時の配管のため解体した石積みの範囲はわかっていないがおそらくNo.2地点と思われる。（羽毛田）
土塁トレンチ調査の結果	北面の土塁は石垣の天端高が異なる地点に版築が確認されたがそれ以外は土塁の中にはガラスやビニール製品が混じっており、近年の盛り土であった。（羽毛田） 北西隅部分はプール建設時に撤去した土砂置き場とされていたと思われる。（羽毛田）
その他	砲台南石垣に石材の欠損がみられる。応急補修として、裏込めが流出してしまった部分に土嚢を充填し、外側にトンパックで押さえを設置する。

黒門西側石垣Ⅰ工区工事

（平成21年度）

2009/9/8	学校と打合せ	施工業者、文化財課で田口小学校教頭先生打ち合わせ
2009/9/14	業務委託契約締結	文建協と業務委託契約締結
2009/9/16	着手打合せ	現場で施工協議。（文建協、測量会社、文化財課）
2009/9/25	工事着手	工事着手。仮囲いの設置。
2009/9/28		トレンチ掘削。単管バリケード設置。
2009/10/5	打合せ・根石確認	五味先生に指導。石垣前面の埋もれた石垣部分を現すため掘削を進める。部分的に粘土層が確認されたため、掘削を中止し、調査する。堅い粘土は西側はほとんど欠失。根石まで前面を掘削し、根石が直接白色粘土層の上に据えられており、栗石地業は行っていなかった。
2009/10/6～8	発掘調査	仮囲いおよび出入り口ゲートの設置が完了した状況を確認。 裏込め用の補足栗石のサンプル確認。千曲川源流に近い部分で採取した川玉石。

黒門西に仮設橋

仮置き場の囲い

前面の道路を掘削して脚部を出す

掘削後部分的に堅い粘土層がある

根石Ｎ１～Ｎ４付近亀甲崩しの布積み

黒門西側石垣　解体準備

2009/10/9	発掘調査	トレンチ掘削。進入路敷き鉄板設置。
2009/10/15		解体準備工、番付けを始める。
2009/10/16	打合せ・根石確認	五味先生の指導。発掘トレンチが完了。各積み石にはガムテープを貼り付け、解体番付け打ち完了。
	旧石積みの残存状況	石垣根石が現れる。道路下の埋め戻した土内には昭和30年代に修理した際に不要となった積み石が混入していた。積み石の控えの長さは40～50cm程度で、また「毛抜き合端」となっていることが破損原因と思われる。
	根石の状況	昭和30年代の修理で本来の亀甲崩し積みから落とし積みに変更され、その際根石からやりなおされているため、根石の固定には下前角に滑り止めに飼い石を入れていた。 この部分の根石下の地業は礫混じりの粘土である。（根石No.30付近）
	解体範囲の策定	東端部の根石２と一段目積石１石を除き、根石から修理する必要がある。根石については解体せずに勾配の修正のみで行えるのか判断してからとなるため、根石のみ残して解体を行うこととする。
	高石垣との取り合い部詳細	東端部は高石垣に取り付く。高石垣の積石側面を加工して、積み石３段と根石を20mm程度嵌め込んでいる。
	根石の出入り	根石が全体に波うっていることを確認。
	解体準備工	根石の上端高を基準の水平墨とした。石垣面に墨付けを行う。縦墨は東端部根石の上東角を基準に墨打ちする。
2009/10/19		上部土塁解体、跳ね出し石解体、石材整理・調査に入る。
2009/10/21		裏込め解体・石垣解体・石材整理・調査に入る。

土塁掘削

跳ね出し石解体　K１～K３

天端石を見る

天端石T46～49を見る

中石１～８を見る

天端石解体後中石を見る（西より）

2009/10/31　解体完了確認	五味先生の指導。根石を除いて解体が完了。
裏込め背面の盛り土の状況	昭和37～38年修理時に施工された盛り土は栗石を混ぜた土を互層状に盛っていたが、昭和50年代の修理時盛り土は層状を呈していなかった。またいずれの盛土も締め堅めが十分でなかった。
高石垣への取り付き部分の加工痕	高石垣に残る加工痕より、今回施工する石垣の東端部法勾配を求めたところ、二分勾配であった。
裏込めの状況	裏込めは石面から2.5尺までの範囲、幅は平均１尺程であった。昭和修理時に裏込め材にクラッシャーラン（中砕・細砕）をもちいており、締め堅めが行われていないことが石積み破損の原因となっていた。
解体石材整理状況	解体した石材は部位ごとに整理して城内工事エリアに置いている。裏込め材は土と石材を篩いわけている。
跳ね出し石の矢穴	跳ね出し石の控え長さは2.0～2.8尺で平均は2.5尺。K22に矢穴が残っており、上幅2.0寸下幅1.5寸、深さ2.0寸、5.0寸タッチであった。
天端石の矢穴	T44は後補材（明治材）であるが、矢穴が残っている。矢穴寸法は上幅2.0寸下幅1.5寸、深さ2.0寸で3.0寸ピッチであった。
天端石の加工痕	天端石T35にはテッポウ（電動ドリル）穴が残る。これは昭和修理時の加工痕と判断された。
積み石の状況	積み石は当初から控えが短いものであった。控え長が40cm以下、逆石、寄り友の積み石は取り替えることとするが、見付面積が大きい積み石はできるだけ再利用する。 山傷や軽度のクラックが生じている石材は再利用することとした。
根石状況	根石の補修を施すのは以下の部分とする。 ①根石が下がった影響で上部積み石同士に隙間が生じている場合。 ②根石の前転びが著しい部分は座りを調整する。 ③根石の座りを修正しても、控え部分の形状が凸となっており、上の積み石が前に滑り勝手になってしまう場合は、控え部分をはつり落として調整する。（根石N30） 西端部出隅の引き通し勾配は1.75分、５段積みである。各角石の勾配は下から４分、３分、２分、１分、０であった。東端部の勾配は２分勾配、西端端部出隅の勾配は1.75分であった。石垣中間部分の勾配は両端部の中間勾配（1.875分）に設定する。

K50・T55・178・229の裏込め

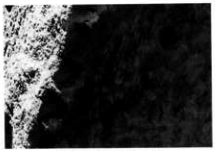
96～98裏込めクラッシャーラン

Ｉ工区解体作業風景

K1～K3の跳ね出し石と天端解体後の裏込め

K1と接する高石垣の裏込め

K22跳ね出し石の矢穴



T44天端石の矢穴

石材整理状況

116～123中石

116～119中石と根石

根石N１～N５

左：N30の下の飼い石

右：根石下の地業は礫混じりの粘土であった。

2009/11/13	石垣積み工	石垣解体から石垣積み工に入る。
2009/11/14	文建協指導	石積み状況の確認。13日まで積み直しが完了した部分を確認。飼い石、飼盤石の施工
	石垣積み工	状況を確認。
	仮積み	仮積みを行い合端の隙間状況を確認し、根石の修正をどのように行うか見通しをつける。
	積み石の状況	根石下に飼い石を施し、根石の据え直しを行う。根石の修正が終わった段階で、２段目までの積み石の座りを修正する。→３段目の積み石を仮積みする。さらに修正が必要な場合いは、必要な修正方向を検討し、根石から修正を加える。
		ⅠとⅡ期の間に積む養生土嚢の製作と設置。
2009/11/24	小学生見学	小学生石垣見学（11/24・26・27）
2009/12/4	五味先生の指導	根石の前面に押さえ石を据え付けて、根石の移動を押さえるように施工。
		石垣下部の積み直しが完了した状況を確認。
		裏込め栗石を丁寧に施した後、背面盛土面との境を含めて、目潰し砕石を施し、ランマーで締め固める。裏込め栗石に小学校生の名前・夢などを書いてもらった。
2009/12/11	跳ね出し石の仮据え状況	跳ね出し石の仮据え状況を確認。丁張りを確認し、西面石垣にならって一部修正する。来年度工事範囲との境部分に設置した養生土嚢の施工状況確認。
		裏込め状況を確認し、跳ね出し石裏側は、天端より３㎝下まで栗石地業とし、上３㎝は砕石で均す。土塁の復旧は来年度工事。

N34～N36付近の根石をはずす

T23～T26石積み工

I工区東の石積み工

石積み工
裏込めの状況
　控えの短い積み石に胴飼い石、尻飼い石、尻押石を施工する。

跳ね出し石石積み工

田口小学校の生徒の見学。見学の際に裏込めの栗石に生徒の名前・夢などを書いてもらい、天端石T１～T５の裏に入れる。

控えの短い跳ね出し石の裏の補強

上面は３cm厚の砕石で仕上げる。

2009/12/15	石垣積み工終了	裏込めをして、石垣の積み直し終了。
2009/12/16	出来形検査	発掘トレンチ埋め戻しの前に出来形検査。発掘トレンチの埋め戻し。
2009/12/17	道路分復旧	トレンチ分の舗装復旧工事。
2009/12/18	土塁の養生	土塁にシートを張り養生する。
2009/12/21	撤去	鉄板、ガードフェンス、現場事務所を撤去。現場の作業終了。

（平成22年）

2010/1/30	黒門仮橋撤去
2010/2/9	I工区竣工検査

黒門西側石垣Ⅱ工区工事

（平成22年度）

2010/8/26	工事着手打合せ	丁張り、行程、施工上の留意点（文建協・文化財課・測量会社）
2010/8/29	仮設橋	黒門仮設橋設置
2010/8/30	仮囲	仮囲い設置
2010/9/6	道路の掘削	舗装を切り離し、発掘トレンチ掘削。
2010/9/7		石垣前面掘削・根石状況の確認、解体工事工程の協議
	根石前発掘調査	文化財課で根石足元まで下げる。根石の下の粘土層はなかった。
	第Ⅱ工区の根石	西端隅部より８石は布積み状に根石が据えられていた。この部分の根石下の地業は礫混じりの粘土で栗石地業は行っていなかった。N64からN68までは根石前の埋め戻しは砕石となっており、N63とN64、N64とN65の根石間の表面の合端に朱の合い墨が残っていた。昭和50年代の修理と思われる。
2010/9/9	土塁解体撤去	上部土塁解体撤去
2010/9/17	解体準備	解体準備工の施工状況の確認、上部土塁解体完了の確認、解体工事工程の協議 跳ね出し石解体に入る。養生土嚢撤去。
2010/9/20	解体工	

第Ⅱ工区の根石前面を掘り下げる。N64～N68の根石前は砕石となっている。根石の前面に粘土層はなかった。西端の出隅部３石の根石の下は礫混じりの粘土である。

出隅部の裏込め　昭和修理時にクラッシャーラン（中砕・細砕）を使用、かつ締め固めが不十分。

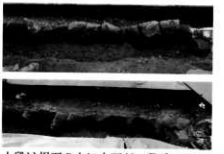
出隅部石垣　根石８石までは布積みになっている。ただし据え直されている。

出隅部の跳ね出し石　上部の土塁を解体して石を出している。

出隅部の天端石をはずしている

解体石材整理状況　解体した石材は部位ごとに整理している。採寸・記録や目視及び打音検査をしている。

跳ね出し石を解体する。



上段は根石の上に中石が一段乗っている。
下段は根石N36～N45まで。

2010/10/5	五味先生の指導	解体完了確認、石積みおよび補足石材の協議。
	モルタルが使用	昭和50年代の修理部分には石垣合場端の胴飼い石を固定するためにモルタルを使用。
	大きめの栗石	Ⅱ期工事の裏込め材を篩い分けたところ、昨年度工事範囲に比べ、大振りの栗石を使用。
	昭和修理の破損原因	昭和修理時に裏込め材にクラッシャーラン（中砕・細砕）ももちいており、締め固めが行われていないことが石積み破損の原因となっていた。積石の控えが短いにもかかわらず、裏込めで強度的な工夫することなく積み上げたことも石積み破損の遠因である。 昭和37～38年修理時に施工された盛り土は栗石を混ぜた土を互層状に盛っていたが、昭和50年代の修理ではこの仕様を踏襲せずに、発生土を埋め戻した程度であった。
2010/10/3	石積み工	石垣積み工に入る。
2010/10/22	文建協指導	10/21までの石積み状況の確認 本年度の石積みは石垣前面道路からクローラークレーン、ダンプトラック、バックホウを使用して作業を行っている。
2010/10/25	保存会・小学生見学	龍岡城五稜郭保存会・田口小学校の見学会開催。小学校生徒に、裏込め栗石に生徒の名前・夢などを書いてもらい、保存会には役員名を記した石板を用意する。
2010/11/5	文建協指導	石積み状況の確認
	出隅に残る布積み	根石は出隅より９石までは当初の亀甲崩し布積みの根石が残っている。ただし据え直しの手は加えられている。
	根石下の地業	N53より西側の根石下には固い白色粘土層はなく、修理時に取り除かれた可能性が高い。根石下が軟弱なことによる沈下や前転びが生じていた。
2010/11/19	五味先生指導	石積み状況の確認
2010/12/2	文建協指導	石積み完了確認、跳ね出し石の仮据え状況の確認、本据え高さ調整指示、新材加工状況の確認
	石積み終了	跳ね出し石の裏込め工を行い石積みを終了。
2010/12/7	文建協指導	
2010/12/8	土塁の復旧	上部土塁復旧
2010/12/9	出来形検査	発掘トレンチ埋め戻し前の石積み工事の出来形検査を実施、土塁復旧の施工状況の確認
2010/12/13	埋め戻し	発掘トレンチ埋め戻し
2010/12/15	道路の舗装	発掘トレンチ埋め戻し、アスファルト舗装復旧。
2010/12/23	雑工事	雑工事の完了確認。芝張り完了。
（平成22年）		
2011/1/22	仮橋撤去	黒門仮橋撤去
2011/3/14	竣工検査	竣工検査

積み工　N37～N40下に栗石設置

積み工　西端根石N61付近裏込め

積み工　西端裏込め状況

積み工　中石194・243付近

積み工　N55・中石295付近

積み工　ステンレス棒でジョイント
中石214・213・212

積み工　西端出隅に保存会の役員名を書いた石板と子供の夢を書いた栗石を入れる。

根石前の押え石　根石部分は埋まるので補強

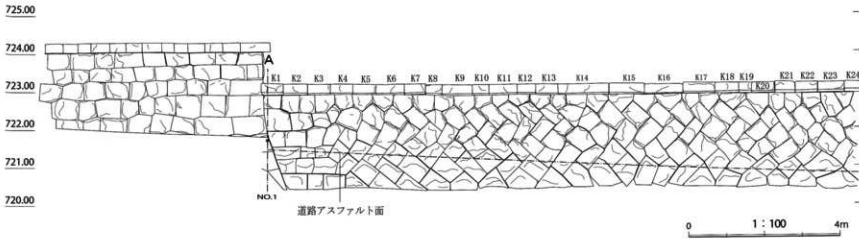
石垣の上に土盛り

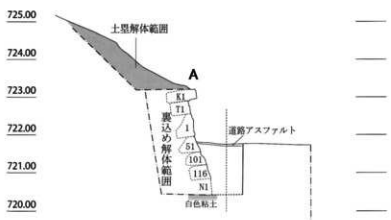
石垣の上に土盛り

土盛りに芝張り

芝張り後泥を載せ寒冷沙で養生

第28図　黒岸西側石垣　横断面設定図

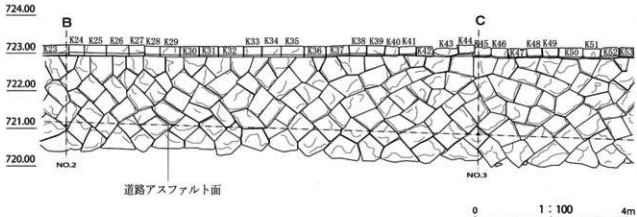


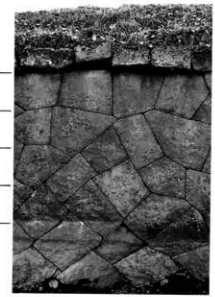


※計測図と写真より石の断面図を作成

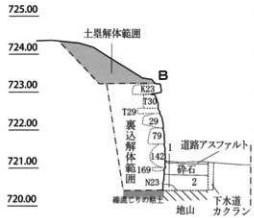
A地点（北より）

第29図　黒門西側石垣　修理前A地点現況図





C地点（北より）

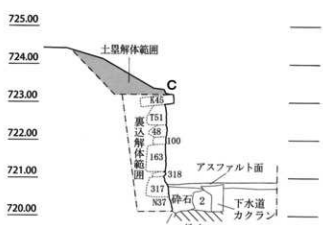


※計測図と写真より石の断面図を作成

土層説明

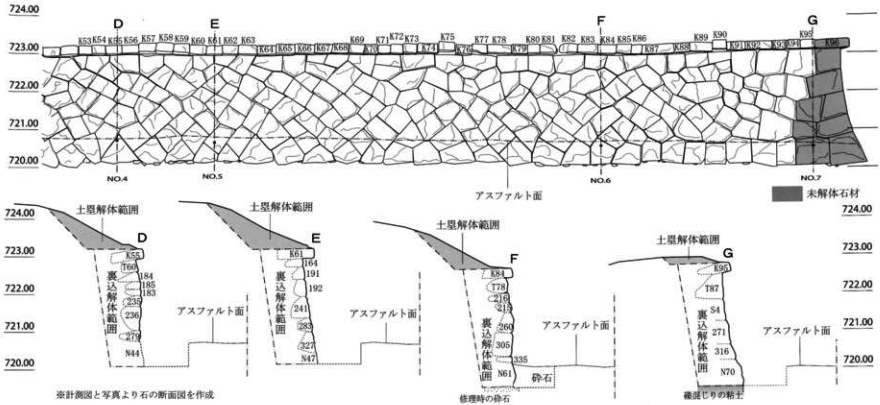
1 にぶい黄褐色土層（10YR4/3）粘土。下部は礫混在。
　礫きしめていない。改修の際の栗石補強粘土。
2. 暗褐色土層（10YR3/3）シルト 30%・粘土 30%の混合カクラン土。礫多い。
　石垣不用材の大型石を内包。

B地点（北より）



※計測図と写真より石の断面図を作成

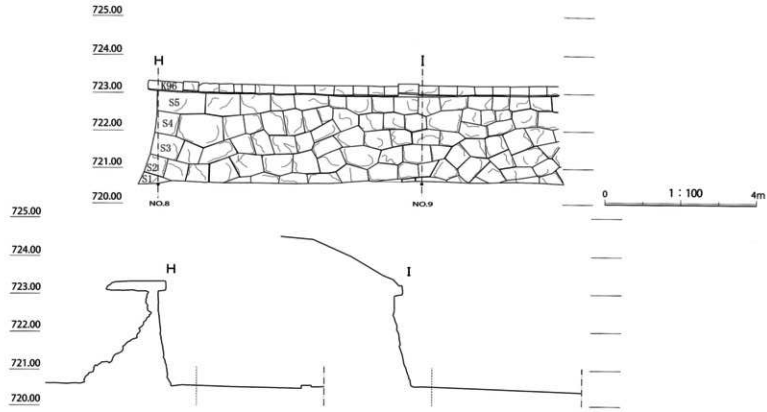
第30図　黒門西側石垣　修理前B・C地点現況図



D・E地点（北より）

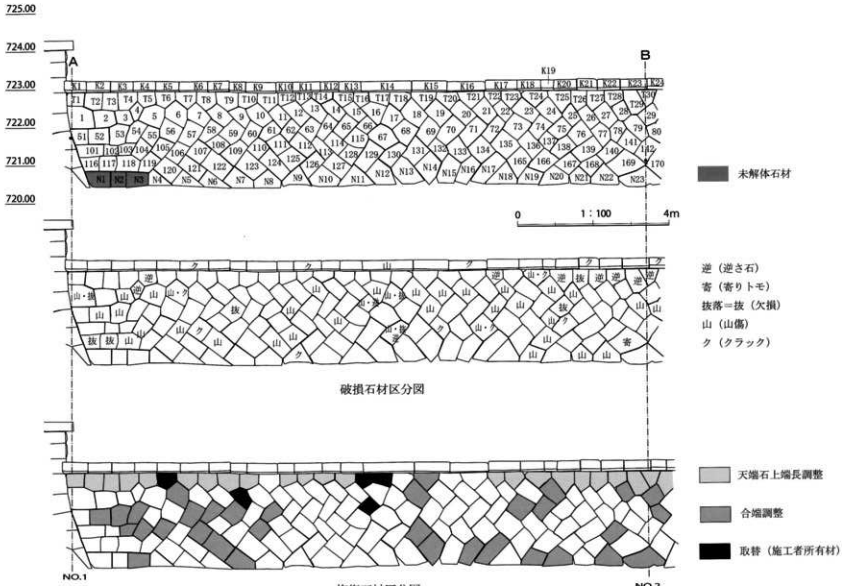
F・G地点（北より）

第31図　黒門西側石垣　修理前D・E・F・G地点現況図

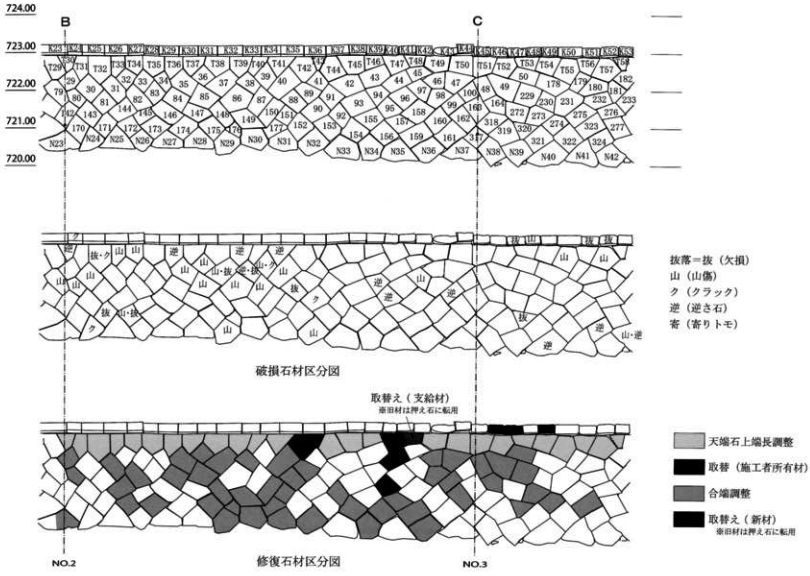


H・I地点（西より）

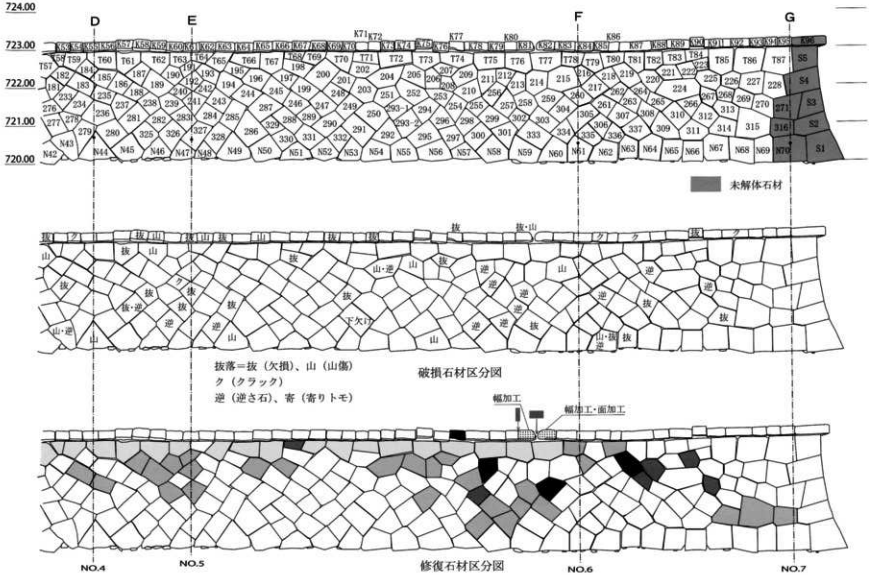
第32図　砲台南石垣　H・I地点現況図



第33図　黒門西側石垣　番号・破損・修復石材区分図（1）



第34図　黒門西側石垣　番号・破損・修復石材区分図（2）



第35図　黒門西側石垣　番号・破損・修復石材区分図（3）

第４節　黒門西側石垣発掘調査の結果

今回の石垣修理に伴う解体では、どんな修理が以前に行われたかということも課題のひとつであった。まずわかるのは、昭和の初めである。『南佐久郡の古城址調査』の掲載図によると、この黒門西側石垣の半分ほどが崩れていることがわかる（Ｐ18の史料１）。昭和８年の復旧工事の際に積み直されたことは確実であろう。その他にこの地点の具体的修理記録は今回探しだせなかった。今回の修理中に地元の方からの聞き つけによる昭和37・38年、昭和50年代の修理の記録は分からないままである。この本を機会にわかることを期待したい。実際に、砕石の裏込めや重機で釣った山傷など修理の傷の石材があるのであるから、戦後の修理はあきらかである。また旧プール建設時に重機が土塁に乗ったため石垣が崩れたという話もある。そうであれば昭和36年のことである。土塁トレンチから昭和44年の百円硬貨が出土していることやプラスチック製品が出土していることからも言えることである。

また、『南佐久郡の古城址調査』では旧プール地点は窪地となっている。地元の人の話では池のようになって、瓦がいっぱい入っていたそうである。今回の修理工事の際に出土した多量の瓦片は御台所の屋根の瓦であろうか。御台所が昭和４年に現在の地に移され、昭和35年に半解体修理がなされている。その際に多量の瓦が旧プール地点に廃棄されたのであろうか。昭和36年の旧プール建設に際してはその瓦の一部は土塁に盛られたであろう。今回の黒門西側の石垣修理の瓦に、昭和35年の御台所の半解体修理の際のものと思われる破片があり、それ以降の盛土であろうことも推測される。現在砲台址はなく土塁となっている。本来砲台自体は土塁より低い所に設けられるであろうから、プール建設時に盛られたようである。

築城当時の石垣の状況が残っている所は、高石垣との取り付け部分の根石下に粘土が確認され、栗石を敷かずに直接粘土の上に置いていた。また西端のＮ１～Ｎ３の出隅部は、今回解体しなったが築城時のまま残っているようである。また築城時ではないとしているが、根石の下に粘土層が残る所で根石Ｎ30の下は礫混じりの粘土である。

第Ⅵ章　遺物

１．陶磁器

茶碗・湯呑など近代陶磁器が排水口の構築土から多量に出土した。旧プール・黒門西側石垣からも出土しているが量は少ない。大半は第二次世界大戦中または以後のものである。黒門西側石垣の根石裏込めからは明治初期の小皿（700）が出土している。

茶碗（飯碗）は218種を分けたが、未分類を含めれば数は増えるであろう。破片は大テン箱で３箱以上ある。湯呑は253種を拾い出し大テン箱２箱出土している。盃48、徳利31、花瓶11、皿100、丼15、壺18、鉢24、擂鉢６、醤油甕４、鍋６、甕17、瓦質甕１、焙烙１、内耳１、土製鍋１、器台形土器２、陶製工具４、陶製フック１、合子３、急須９、佛飯１、植木鉢７、土管１、タイル３を分類した。

これらの主な時代は戦争中またはそれ以降の陶磁器・土器であることが判ってきた。第二次世界大戦中に産地と生産番号の記録された陶磁器である。それは産地と製造工場の番号が陶磁器の底にしるされたものであり、例えば「岐86」は土岐郡笠原町の服部辨三さんの工場で作ったものである。こうした場所と番号のわかる陶磁器は、第二次世界大戦に入る前、経済統制により戦争の遂行を容易にしようということで、窯業界も生産から販売まで完全に統制下に入った。岐阜県陶磁器工業組合連合会によって定められた「生産者別標示番号」で、生産者に番号を付して製品を完全に管理下に置いたのである。製品に「岐〇〇」の番号が表示されたものは、岐阜県において昭和16年３月から５年間に製造されたとわかる生産者表示の陶磁器が各地に出荷された。この時期は金属回収に即応して生産の改良に努めることで、鍋・おろし器・湯たんぽなどの代用品が陶磁器で作られた。穴門排水口から出土

した陶磁器はこの統制陶器を主体としている。（2008年　岐阜県陶磁資料館『萩谷コレクション全国の戦時中のやきもの』・平成11年美濃古窯研究会『美濃の古陶』美濃古窯研究会報　8号）

皿類は皿660など明治期にさかのぼるものもある。670・701など型紙文様の明治25年以降のものと、皿696・700の幕末から明治初頭のものがある。700は黒門西側石垣Ⅰ工区根石前粘土から出土する。

2.瓦

瓦はいずれも破片で完存するものはない。穴門排水口の水門の構築土から大テン箱2、堀からは大テン箱1で63kgを出土する。旧プール地点では大テン箱5で76kg、黒門西側の石垣修理ではⅠ工区から大テン箱17で167kg、土塁のトレンチ調査で、大テン箱2で41kg出土した。黒門西側Ⅱ工区では主だった破片のみを選択したためテン箱2で36kg出土した。黒門西側の瓦の破片量は合計244kgと多量になる。P16の資料一覧の資料24に「竜岡城御台所図面」と鉛筆書きされた封筒の中に、青焼きの瓦の図面が保管されている。御台所の平面図・建具図・出格子図の青焼きが一緒にあることから、昭和35・36年の御台所半解体修理の際に焼かれた瓦の図とみられる。しかし現在の御台所の屋根に載っている軒瓦は蔦に細かい葉脈が見られ、青焼き図とは異なっている。青焼き図と同様の瓦は824の巴瓦、885～887の軒瓦が該当しているものとみられる。文様は雲形に区画され、蔦の葉脈は省略されている。この青焼き図（第51図に掲載）の軒桟瓦の大きさは長さ39㎝、幅30㎝、垂れ幅最大5.25㎝、巴径8.5㎝を測る。また巴瓦は径14.7㎝、長さ38㎝である。『臼田町公民館報縮刷版付録』には御台所のものとみられる瓦が注釈年代なしで掲載されている。上段に885～887の瓦と同様、つまりこの青焼き図瓦と同じものである。下段に載っている瓦は垂れがほそくて文様は四角で区画され、蔦は葉脈のないものとなっている。895がこの破片とみられ、黒門西側遺跡の裏込めから出ている。これらのことからも、黒門西側の石垣は昭和35年の御台所の半解体修理、昭和36年の旧プール建設以降に積直しされたことは明らかである。

883の軒瓦の垂れ幅は広く、蔦が最も写実的で、新海神社に乗謨の父乗利が天保六年に再建した手洗鉢の家紋と近いものである。黒門西側石垣のⅠ工区根石の裏込めから出土の884の瓦は垂れ幅が広く、蔦の葉に葉脈がある。883・884の瓦の様相は築城時に近いものであろう。

3.ガラス

今回、透明ガラス片、青色の薬瓶、緑色の瓶片などが出土した。透明ガラスは学校の窓ガラスであろうか。大テン箱1ほどの破片ある。黒門西側石垣の西側からは健康飲料の茶瓶が出土する。

4.プラスチック

掲載したプラスチックは写真にできるものの一部で、他には畑に使うマルチ、畔シート、ビニール袋、ヘルメットなどがある。これらの大型プラスチックの大半は穴門排水口の水門堰上部と下流側の堀底から出土している。表採の資料である。

5.金属製品

金属では釘、雨樋の受け、ボルト、針がね、火具、空き缶などが出土した。

釘は丸釘と角釘の両者がある。918は断面二等辺三角形を呈する鉄製品である。針金は細いものから太い番線がある。火具はストーブの蓋、網などがある。空き缶は鉄とアルミ製があり、缶類の飲み口がプルトップになるのが昭和60年頃であるため、それ以前である。

6.貨幣

最も古いものは寛永通宝2枚ある。新しいものでは、昭和44年の百円硬貨が黒門西側土塁の2トレンチより出土している。黒門西側の土塁は昭和44年以前の土盛であることが確認された。

7.石製品

硯、石板などの学用品、茶臼、引き臼、打製石斧が出土している。

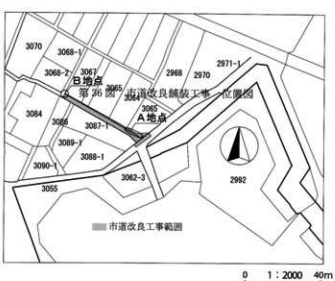
まとめ

穴門排水口の水門堰の構築土では量的には表層に多量のプラスチックがみられる。穴門排水口は上面から約２m下まで、プラスチック製品の薬蓋や近代陶磁器が出土している。また構築土には多量の陶磁器が混入し、長らくゴミ捨て場となっていたという証言どおりに、そのゴミを入れたまま石垣の修理をしていた。

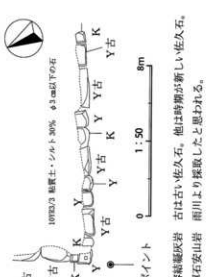
黒門西側石垣は瓦の破片が多く、御台所の屋根の修理と関連し、石垣の修理は御台所半解体修理・旧プール以降であることは確かである。

第Ⅶ章　市道改良舗装工事に伴う調査

調査は平成20年12月１日から12月12日に現地の調査を行った。黒門と直交する市道と接する地点をA地点とし、市道の北端をB地点とした。A地点では現道路より北の下段に旧道路面とみられる面が確認された。B地点の石垣に凝灰岩が使用されており、築城時のものが転用されて使われていた。



第36図　市道改良舗装工事　位置図

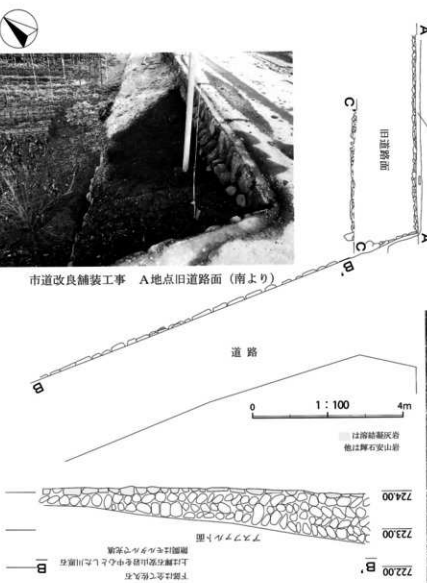


第37図　市道改良舗装工事　B地点

市道改良舗装工事　B地点（南より）

市道改良舗装工事　B地点（南より）

市道改良舗装工事　A地点旧道路面（南より）



第38図　市道改良舗装工事　A地点

市道改良舗装工事　A地点（西より）

旧道路面の盛土
上層 10YR3/3 シルト・粘質土30%
畑より捨てられた φ 4 cm以下の小石を含む。
下層 10YR3/3 粘質土・シルト 20%
畑作土

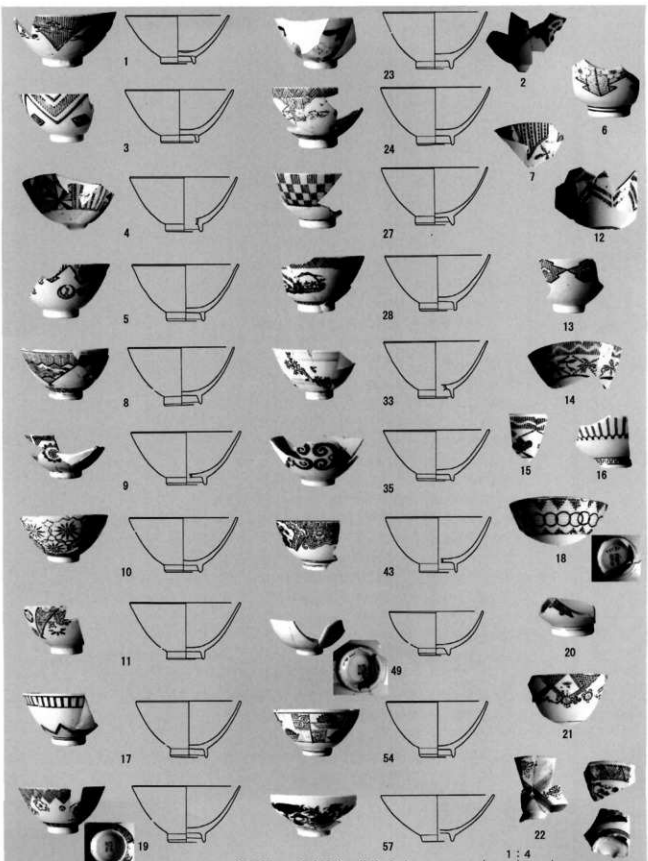
市道改良舗装工事　A地点（西より）

引用参考文献

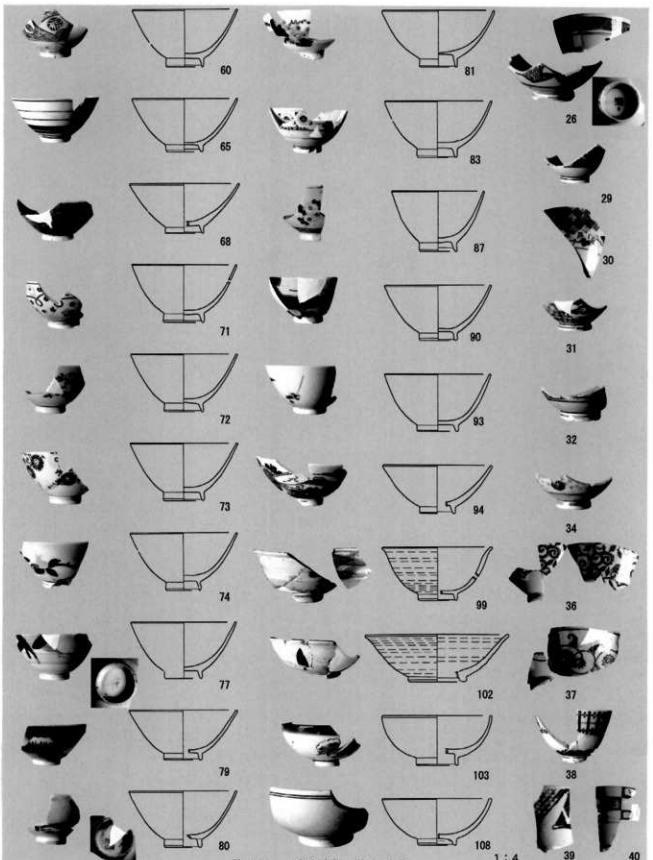
1．1966(S41)　臼田町教育委員会『龍岡城五稜郭の大要』

築城大要
一、所 在 地　信濃国佐久郡田野口村字竜岡
一、総 面 積　弐万七拾五坪
　内 内城　五千六百四拾坪
　　外城　壱万四千五百三十五坪
一、設　　計　堀巾四間、深サ一丈二尺但大手門前五間
　　土塁、高サ七尺五寸、巾四間但大手門前五間
　　周囲堀、長サ参百七十五間即六町十五間
　　大手門ヨリ最後方角（西正中角）マデ百
　　参間通用門ヨリ北門マデ八拾間
一、着工及竣工　文久三年九月着工シ慶応二年十二月竣工
一、総 費 用　四万余円
一、普請奉行　藩の老中　衣川　幾之

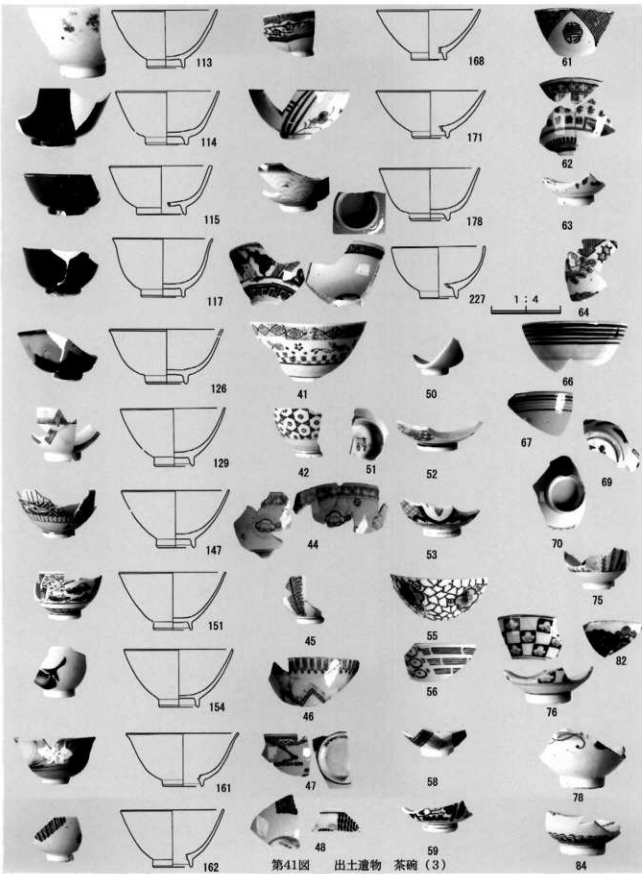
2．1971.3.31　「大給亀崖公伝」再版委員会　長野県南佐久郡臼田町役場　教育委員会事務局内
　　復刻版 榎本半重著『大給亀崖公傳 全』
3．1978.1.31　信濃教育会 南佐久部会　『南佐久郡古城址調査』P53-龍岡五稜郭
4．1985.6.30　郷土出版社　『明治初期 長野縣町村繪地圖大鑑Ⅰ東信篇』 38龍岡城
5．1988.3　佐久市志編纂委員会『佐久市志』自然編
6．1996.3　臼田町教育委員会　『幸神古墳群』
7．2007.10　佐久市教育委員会　『国史跡龍岡五稜郭 築城140周年記念事業』
8．2007.3　臼田町誌編纂委員会『臼田町史』第三巻 考古・古代・中世編
9．2007.3　佐久市教育委員　『市内遺跡発掘調査報告書2005』P80 五稜郭であいの館東側電柱設置
10．2007.3　佐久市教育委員会　『五庫遺跡』
11．2008.3　小諸市教育委員会　『重要文化財 小諸城大手門保存修理工事報告書』
12．2009.3　佐久市教育委員会　『市内遺跡発掘調査報告書2007』P51 五稜郭公園と川村吾蔵記念館
13．2010.3　佐久市教育委員会　『市内遺跡発掘調査報告書2008』P4 五稜郭公園と川村吾蔵記念館、
　　P80-五稜郭であいの館に案内板設置
14．2012.3　佐久市教育委員会　『田中遺跡』
15．2012.3　佐久市教育委員会　『市内遺跡発掘調査報告書2010』P49・P50-鷲見・岩田宅立ち合い、
　　P59-川村吾蔵案内板設置
16．2012.3.31　石川県金沢城調査研究所『金沢城跡』 二の丸内堀・菱櫓・五十間長屋・橋爪門続櫓Ⅱ
17．2013.3　佐久市教育委員会　『史跡 龍岡城跡 保存管理計画書』



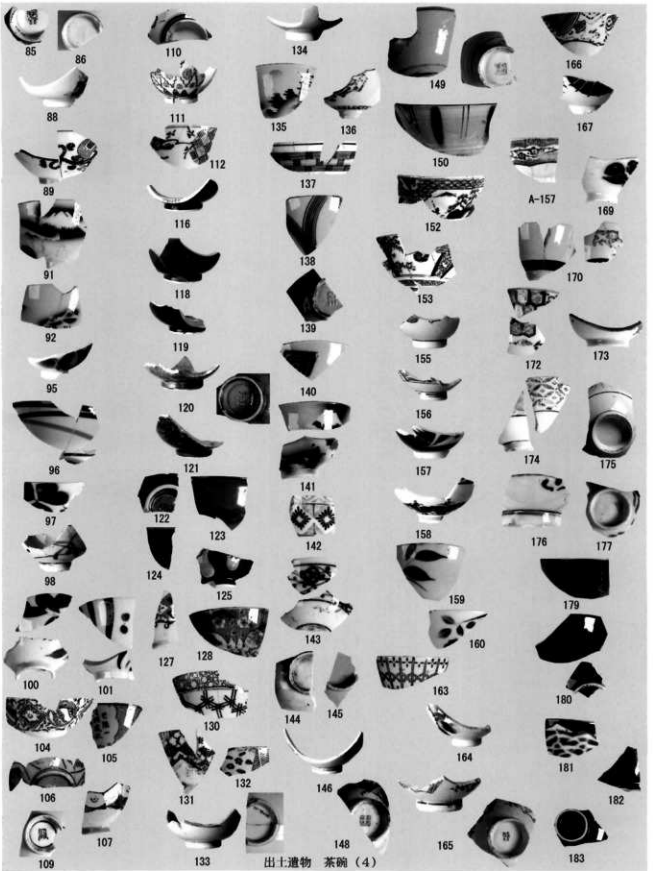
第39図　出土遺物　茶碗（1）



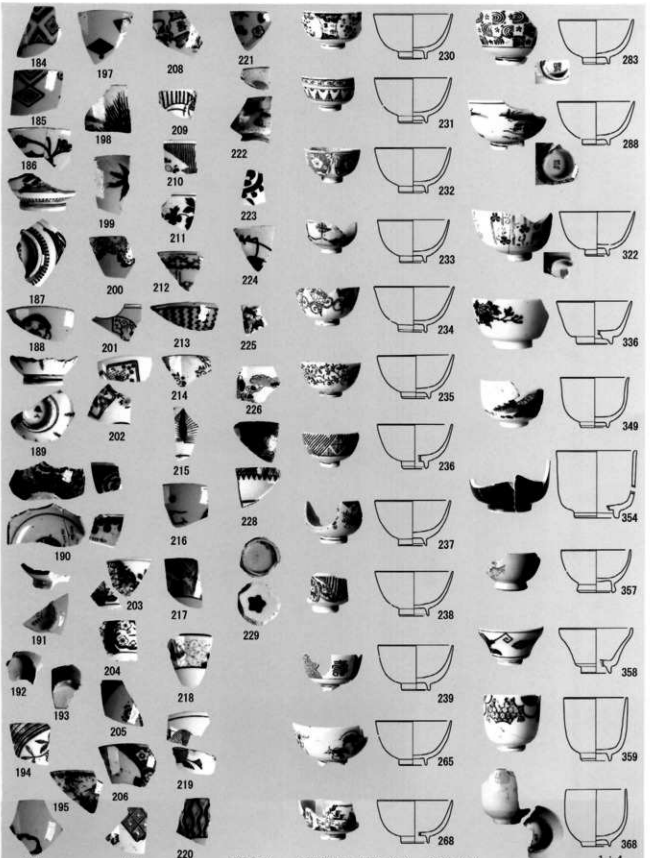
第40図　出土遺物　茶碗（2）　1：4



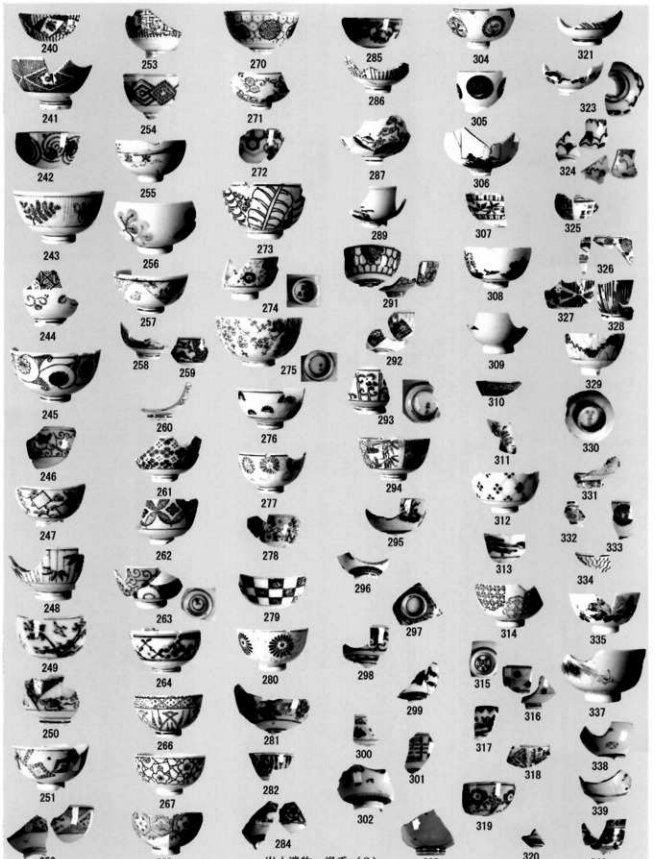
第41図　出土遺物　茶碗（3）


85
86
88
89
91
92
95
96
97
98
100
101
104
105
106
107
109
110
111
112
116
118
119
120
121
122
123
124
125
127
128
130
131
132
133
134
135
136
137
138
139
140
141
142
143
144
145
146
148
149
150
152
153
155
156
157
158
159
160
163
164
165
166
167
A-157
169
170
172
173
174
175
176
177
179
180
181
182
183

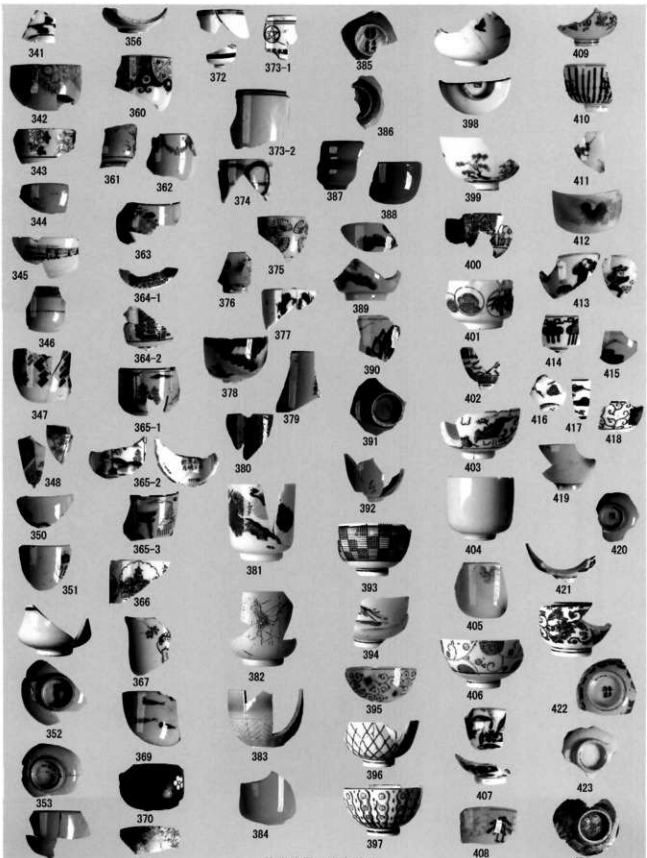
出土遺物　茶碗（4）



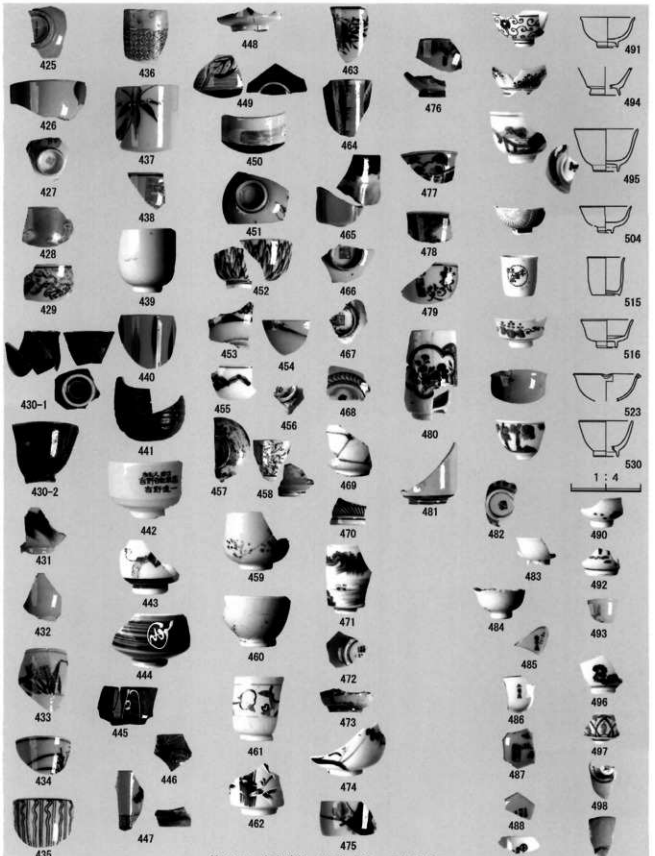
第42図　出土遺物　茶碗（5）・湯呑（1）


240
241
242
243
244
245
246
247
248
249
250
251
252
253
254
255
256
257
258
259
260
261
262
263
264
266
267
269
270
271
272
273
274
275
276
277
278
279
280
281
282
284
285
286
287
289
291
292
293
294
295
296
297
298
299
300
301
302
303
304
305
306
307
308
309
310
311
312
313
314
315
316
317
318
319
320
321
323
324
325
326
327
328
329
330
331
332
333
334
335
337
338
339
340

出土遺物　湯呑（2）


341
342
343
344
345
346
347
348
350
351
352
353
355
356
360
361
362
363
364-1
364-2
365-1
365-2
365-3
366
367
369
370
371
372
373-1
373-2
374
375
376
377
378
379
380
381
382
383
384
385
386
387
388
389
390
391
392
393
394
395
396
397
398
399
400
401
402
403
404
405
406
407
408
409
410
411
412
413
414
415
416
417
418
419
420
421
422
423
424

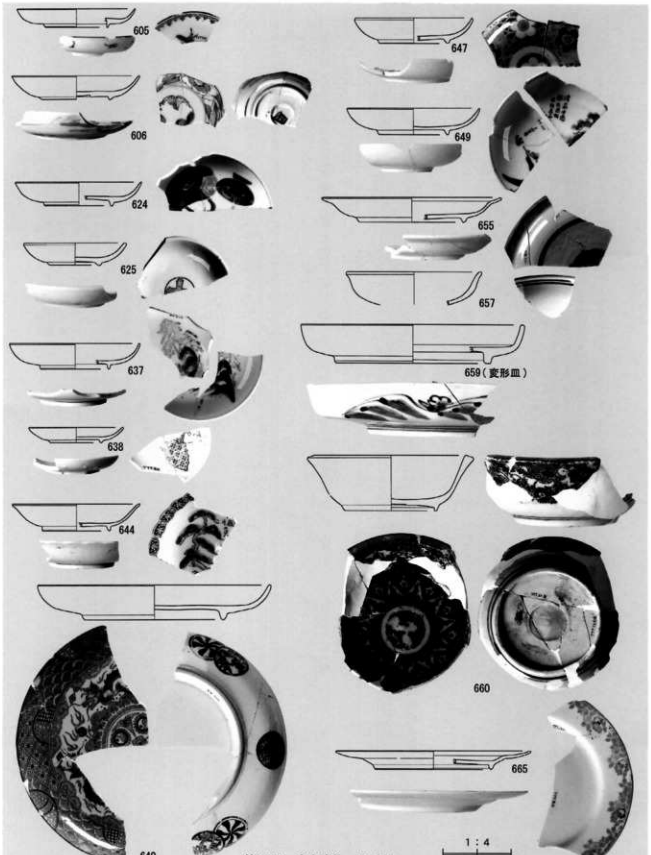
出土遺物　湯呑（3）



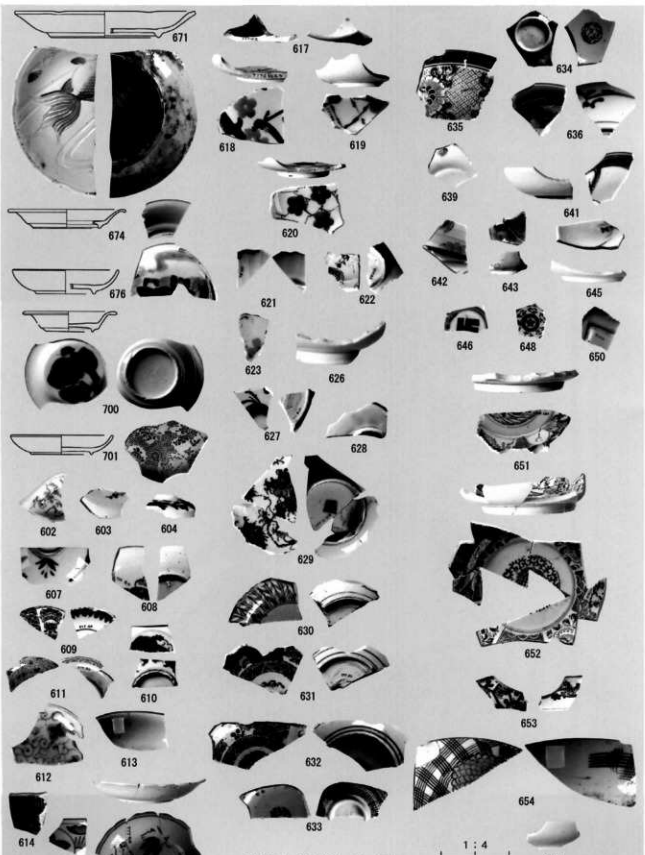
第43図　出土遺物　湯呑（4）・盃（1）

S＝約1：4（577・580・582は約1：2）

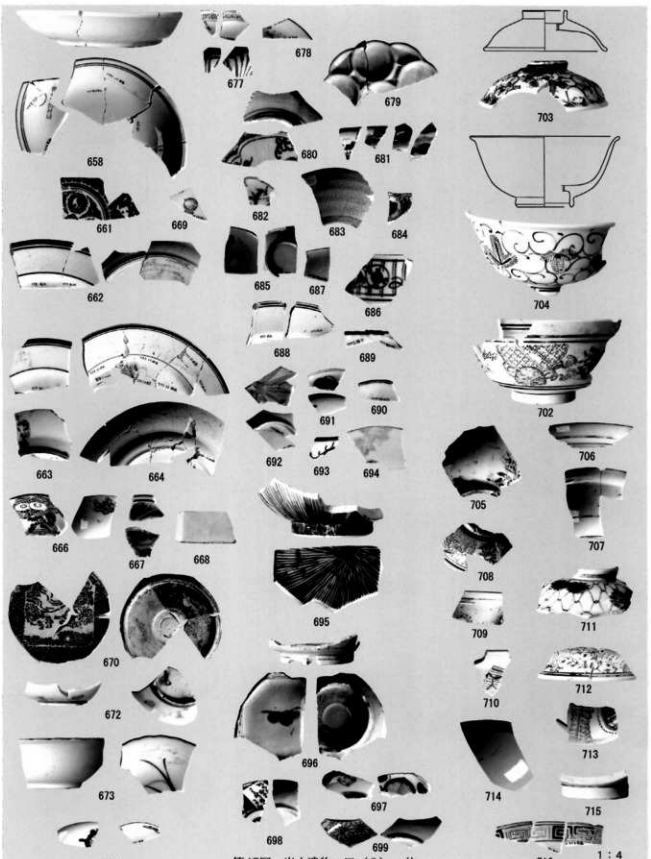
第44図　出土遺物　盃（2）・徳利・花瓶・プラスチック・タイル・ガラス


605
606
624
625
637
638
644
640
647
649
655
657
659（変形皿）
660
665
1：4

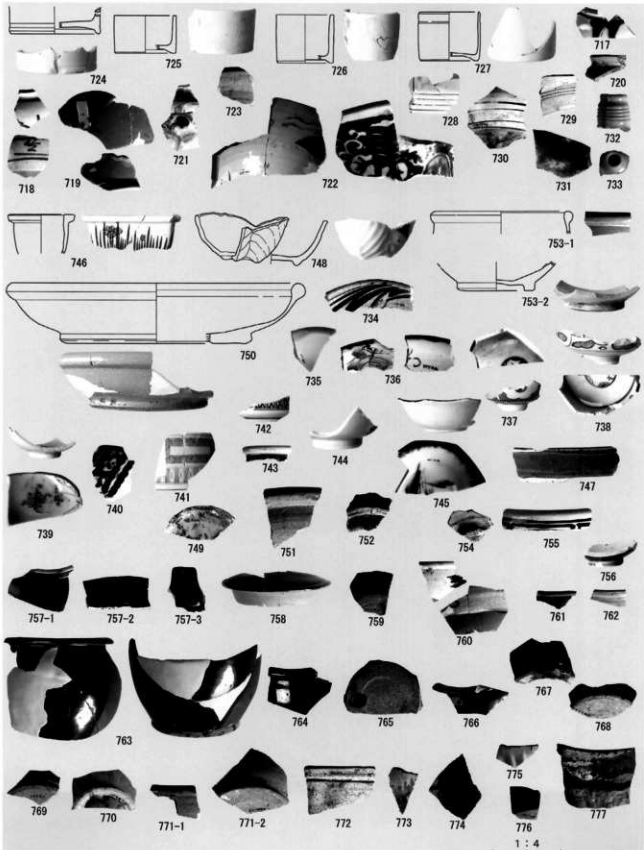
第45図　出土遺物　皿（1）


671
617
634
635
636
618
619
639
641
620
674
642
643
645
676
621
622
646
648
650
623
626
700
627
628
651
701
602
603
604
629
607
608
652
630
609
610
611
631
653
612
613
632
654
614
633
615
616
1 : 4
656

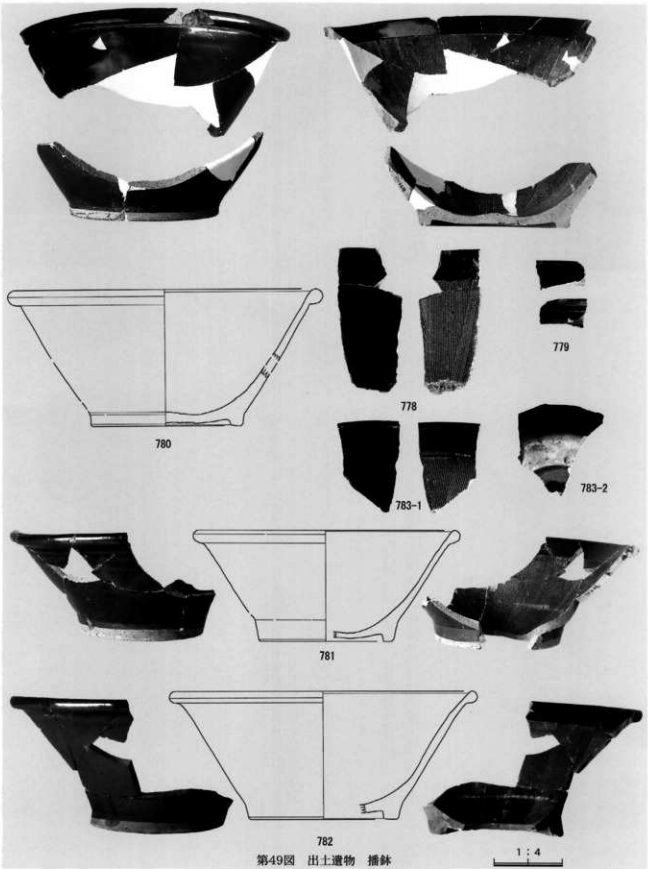
第46図　出土遺物　皿（2）



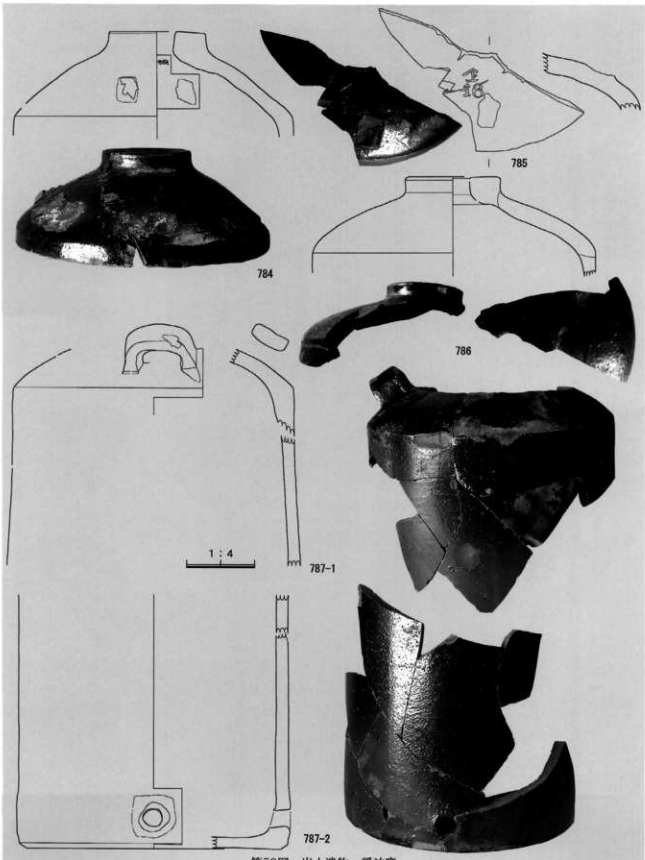
第47図　出土遺物　皿（3）・丼



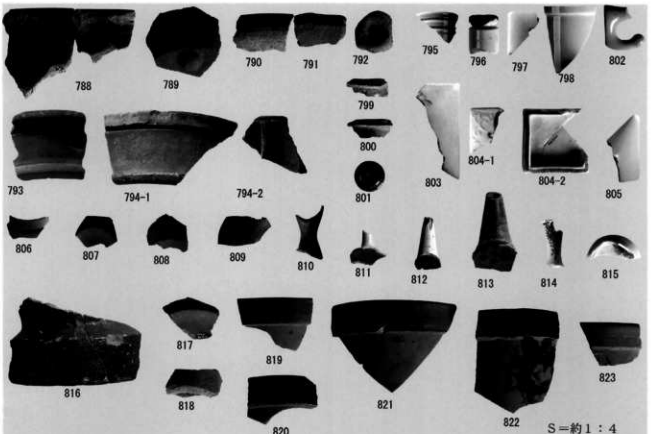
第48図　出土遺物　壺・鉢・鍋・甕



第49図　出土遺物　播鉢

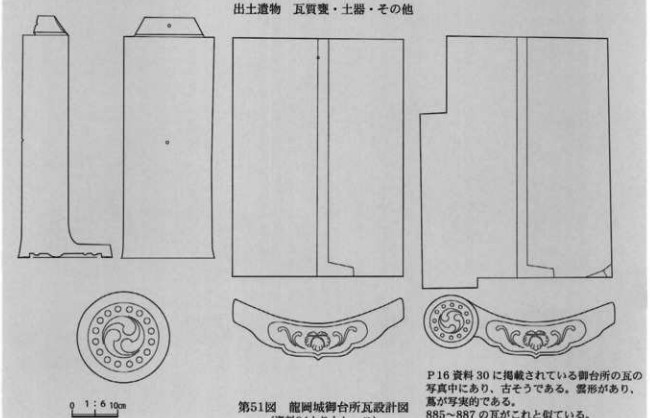


第50図　出土遺物　醤油甕



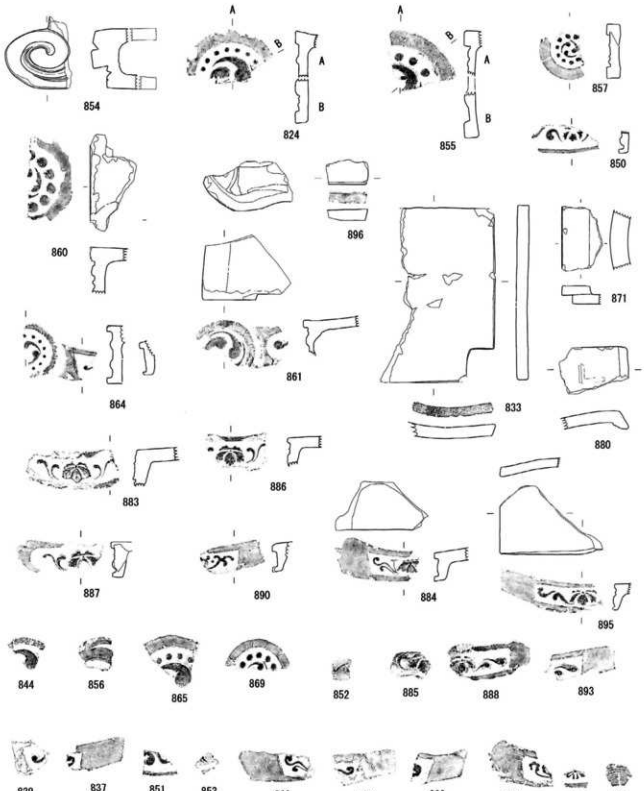
S＝約１：４

出土遺物　瓦質甕・土器・その他

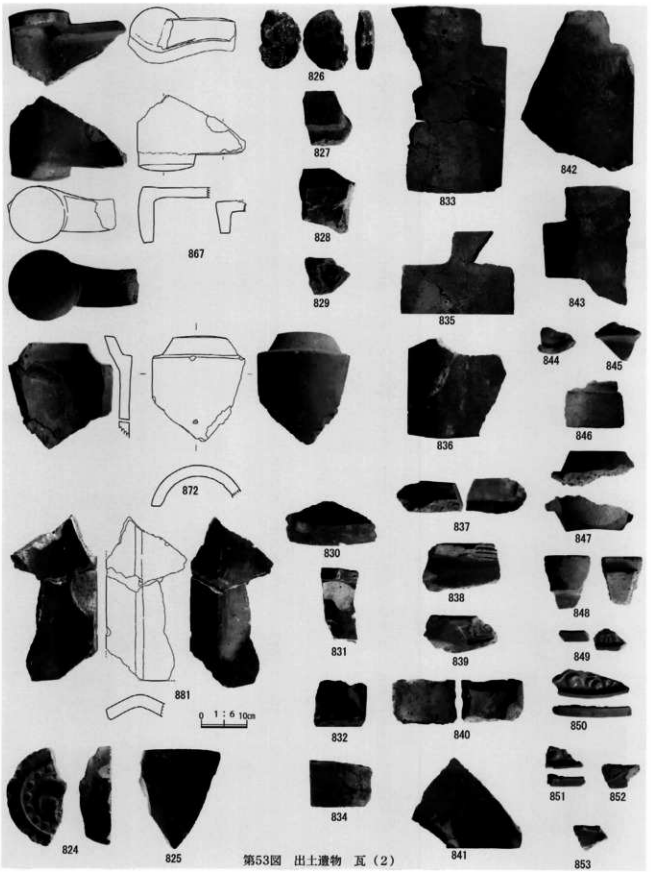


第51図　龍岡城御台所瓦設計図
（資料24よりトレース）

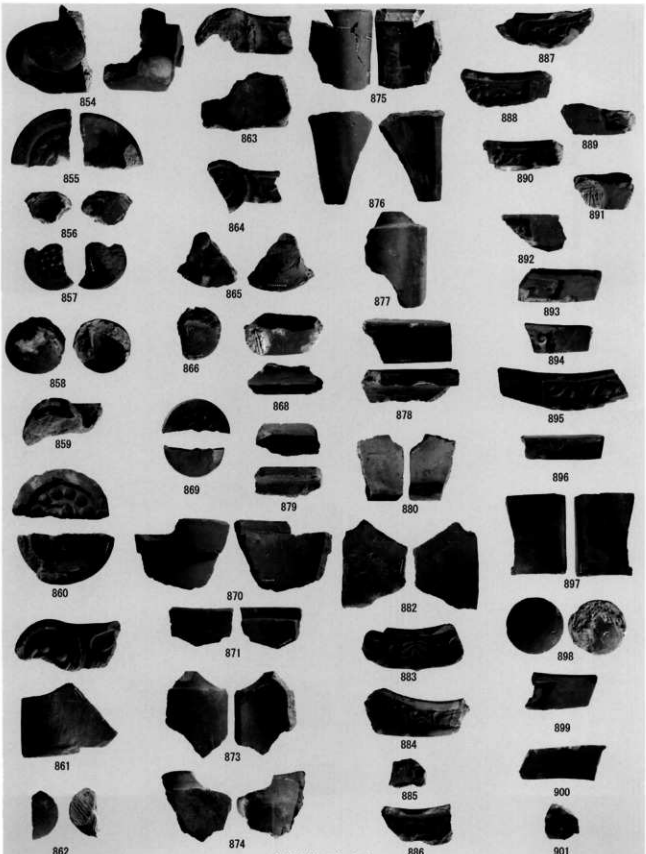
P16 資料 30 に掲載されている御台所の瓦の写真中にあり、古そうである。雲形があり、蕪が写実的である。
885～887 の瓦がこれと似ている。


854
824
855
857
850
860
896
871
861
864
833
880
883
886
887
890
884
895
844
856
865
869
852
885
888
893
829
837
851
853
889
894
899
839
849
901

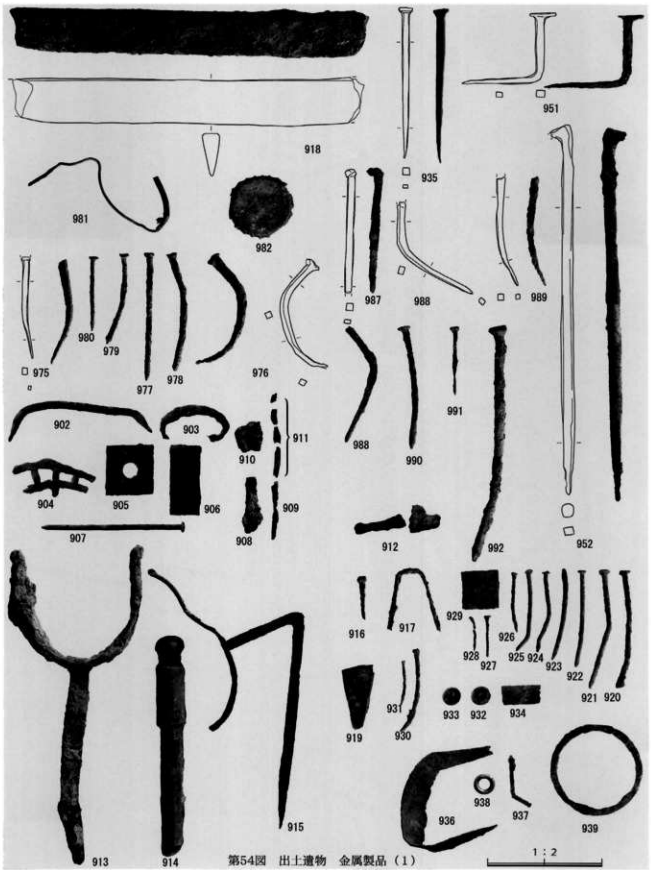
第52図　出土遺物　瓦（1）


826
827
828
829
867
833
835
842
843
844
845
836
846
872
837
847
830
838
848
831
839
849
881
0 1:6 10cm
832
840
850
834
841
851
852
824
825
853

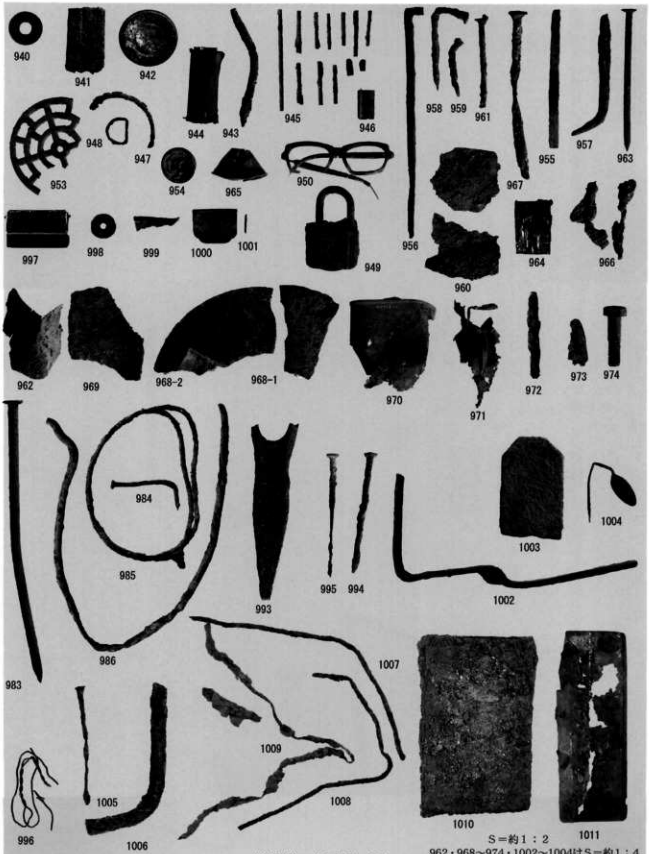
第53図　出土遺物　瓦（2）


854
855
856
857
858
859
860
861
862
863
864
865
866
868
869
870
871
873
874
875
876
877
878
879
880
882
883
884
885
886
887
888
889
890
891
892
893
894
895
896
897
898
899
900
901

出土遺物　瓦（3）　S＝約1：6



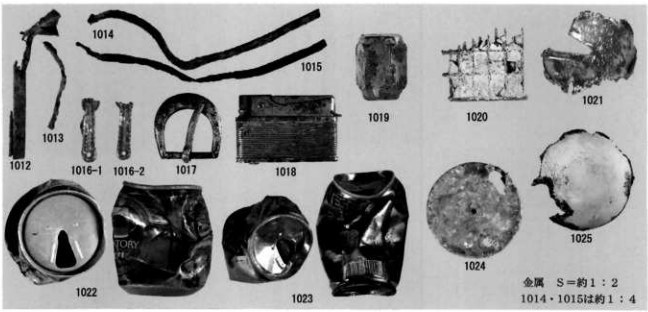
第54図　出土遺物　金属製品（1）

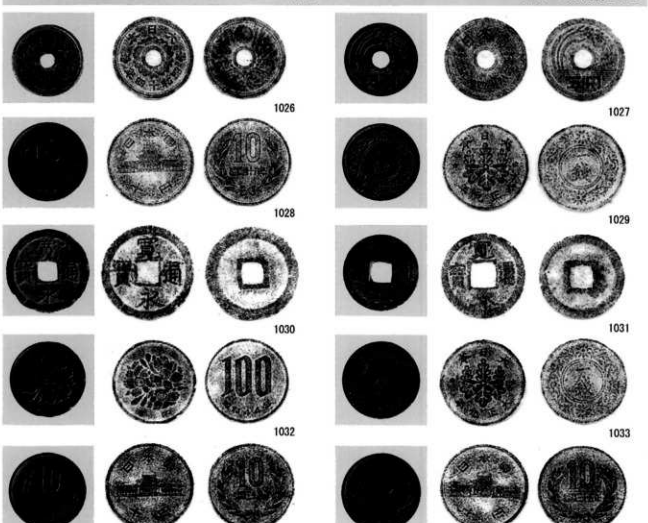


S＝約1：2

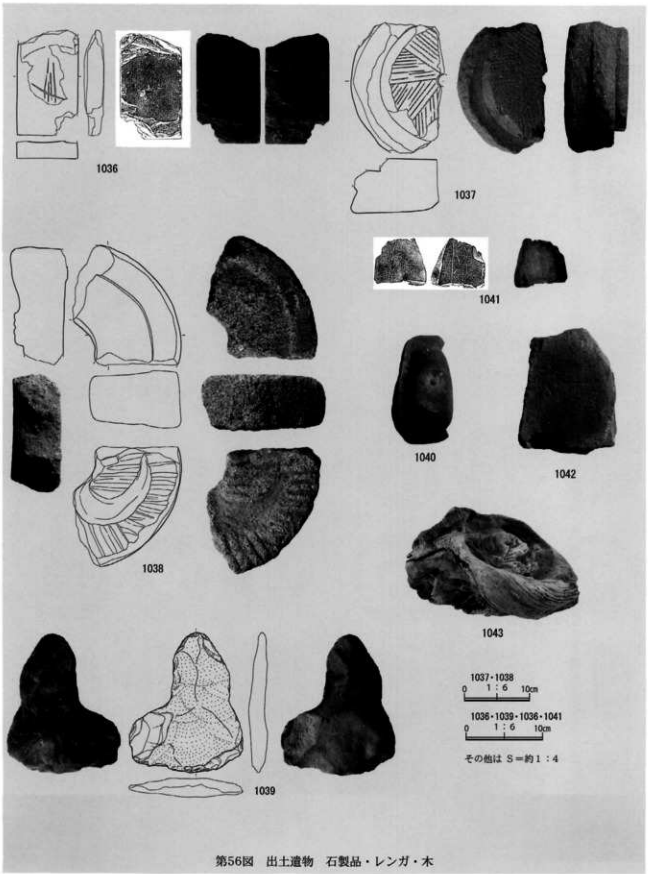
962・968～974・1002～1004はS＝約1：4

出土遺物　金属製品（2）





第55図　出土遺物　金属製品（3）・銭貨



第56図　出土遺物　石製品・レンガ・木

第３表　龍岡城跡Ⅰ・Ⅱ石材一覧表

龍岡城跡Ⅰ穴門排水口石垣修理工事石材一覧表

利用状況の○＝再利用、△＝補足石材である。

石材番号	石材整理（長：m、重：kg）				石材調査	利用状況	備考	修理年度
	縦長	横長	控長	重量	目視			
A1	280	430	780	195		○		H19
A2	290	330	750	110		○		H19
A3	290	460	790	230		○		H19
A4	270	300	780	115		○		H19
A面 中石								
A1-1入隅	420	660	460	190		○		H19
A1-2	400	800	580	235		○		H19
A2-1入隅	470	590	500	180		○		H19
A2-2	600	670	500	225		○		H19
A3-1入隅	660	350	400	105		○		H19
A3-2	510	580	460	175		○		H19
A4-1入隅	410	430	420	75		○		H19
A5-1入隅	340	440	430	65	ﾗｲﾝ有	○		H19
B面 基石								
B基-1	210	950	170	68		○		H18
B基-2	330	780	180	77		○		H18
B基-3	300	540	170	58		○		H18
B基-4	270	180	290	12		○		H18
B面 中石								
B1-1	510	530	570	188		○		H18
B1-2	510	350	500	87.5		○		H18
B1-3	390	310	350	61	ﾗｲﾝ有	○		H18
B1-4角石	370	470	-	114		○	D1-1と同じ	H18
B1-5角石	420	420	-	125	ﾗｲﾝ有	○	B1-1-2と同じ	H18
B2-1	370	650	500	142	ﾗｲﾝ有	○		
B2-2	520	480	300	114		○		
B2-3角石	460	390	-	156		○	D2-1と同じ	H18
B2-4角石	400	360	-	95		○	B2-13と同じ	H18
B2-5	400	440	410	107		○		H18
B2-6	380	410	430	92		○		H18
B3-1	400	630	530	148		○		H18
B3-2	420	300	430	485		○		H18
B3-3角石	430	540		168		○	D3-1と同じ	H18
B3-4角石	450	540		168		○	E3-12と同じ	H18
B3-5	430	560	480	156		○		H18
B3-6	430	400	390	76		○	逆さ石	H18
B4-A入隅	620	700	430	260		○		H19
B4-B	580	410	520	200		○		H19
B4-1	550	500	500	209	ﾗｲﾝ有	△	B1-6に再利用	H18
B4-2	630	680	550	334		○		H18
B4-3	400	410	340	72		○	逆さ石	H18
B4-4	400	450	420	92		○		H18
B4-5	350	560	440	77		○		H18
B4-6	260	480	550	74		○		H18
B4-7	400	550	520	138		○		H18
B4-8	360	420	390	68		○	逆さ石	H18
B4-9	400	370	370	95	ﾗｲﾝ有	○	逆さ石	H18
B5-1	470	540	410	145		○		H18
B5-2	470	440	440	85	抜落ち	△		H18
B5-3	370	600	440	90	劣化磁器	△		H18
B5-4	360	570	450	109		○		H18
B5-5	340	490	460	84		○	逆さ石	H18
B5-6	320	290	440	48		○		H18
B5-7	410	490	330	104		○		H18
B5-8	400	500	400	141		○		H18
B5-9	390	530	470	130		○		H18
B5-B	580	410	520	200		○		H19
B6-1	300	180	380	25	ﾗｲﾝ有	△		H18
B6-2	350	610	460	135	ﾗｲﾝ・抜落ち	○	逆さ石	H18
B6-3	510	830	290	185		○		H18
B6-4	460	340	410	105	寸法不足	○		H18
B6-5	500	320	470	100	抜落ち	△		H18
B6-6	460	550	420	170	ﾗｲﾝ有	○		H18
B7-1	260	390	400	27	抜落ち	△		H18
D面 中石								
D1-1角石	370	360	-	114		○	B1-4と同じ	H18
D1-2	390	270	380	53.5		○		H18
D1-3	380	480	420	84.5		○	逆さ石	
D1-4	370	420	490	88		○		H18
D1-5	360	410	580	92		○		H18
D1-6	350	570	450	161	ﾗｲﾝ有	○		H18
D1-7	380	360	430	86		○		H18

石材番号	石材整理（長：m、重：kg）				石材調査	利用状況	備考	修理年度
	縦長	横長	控長	重量	目視			
D1-8	370	660	450	139		○		H18
D1-9	360	500	390	86	ﾗｲﾝ有	○		H18
D1-10	390	600	400	106		○		H18
D1-11角石	440	520	-	209		○	G1-6と同じ	H18
D2-1角石	450	520	-	156		○	B2-3と同じ	H18
D2-2	480	370	380	74		○	逆さ石	H18
D2-3	430	490	400	119		○		H18
D2-4	450	350	410	79		○		H18
D2-5	440	440	460	103	ﾗｲﾝ有	○		H18
D2-6	460	470	420	116	ﾗｲﾝ有	○		H18
D2-7	450	480	500	121		○	逆さ石	H18
D2-8	440	320	560	89		○		H18
D2-9	440	500	330	102.5	ﾗｲﾝ有	○		H18
D2-10	440	400	430	109		○	逆さ石	H18
D2-11	490	420	410	126		○	逆さ石	H18
D2-12角石	360	620	-	154	ﾗｲﾝ有	○	G2-8と同じ	H18
D3-1角石	540	410	-	168		○	B3-3と同じ	H18
D3-2	440	370	460	97.5		○		H18
D3-3	500	370	490	114	ﾗｲﾝ有	○	逆さ石	H18
D3-4	440	370	450	77		○		H18
D3-5	480	420	450	91		○		H18
D3-6	440	450	490	109		○	逆さ石	H18
D3-7	480	380	490	109		○		H18
D3-8	510	560	500	157		○		H18
D3-9	450	400	460	98		○		H18
D3-10	470	470	460	165	ﾗｲﾝ有	○		H18
D3-11	450	480	510	138		○		H18
D3-12角石	450	700	-	392		○	G3-5と同じ	H18
E面 中石								
E1-1角石	390	670	-	192.5		○	G1-5と同じ	H18
E1-2	460	350	450	90.5		○	逆さ石	H18
E1-3	410	420	370	82		○		H18
E1-4	420	460	410	110		○		H18
E1-5	410	500	380	85		○		H18
E1-6	410	380	480	82		○		H18
E1-7	420	440	240	84.5		○		H18
E1-8	420	460	480	95.5		○		H18
E1-9	420	450	400	98		○		H18
E1-10	440	320	460	94		○		H18
E1-11	420	420	500	97		○		H18
E1-12角石	410	460	-	125	ﾗｲﾝ有	○	D1-5と同じ	H18
E2-1角石	470	470	-	145		○	G2-4と同じ	H18
E2-2	470	400	600	104		○		H18
E2-3	470	480	500	111		○		H18
E2-4	460	320	480	83		○		H18
E2-5	450	500	380	112		○	逆さ石	H18
E2-6	460	430	400	109		○		H18
E2-7	440	440	450	114		○		H18
E2-8	440	460	470	116		○		H18
E2-9	420	430	490	99	ﾗｲﾝ有	○		H18
E2-10	430	350	410	75	抜落ち	○	逆さ石	H18
E2-11	410	400	420	94		○	逆さ石	H18
E2-12	410	320	500	89		○		H18
E2-13角石	390	390	-	95		○	B2-4と同じ	H18
E3-1角石	440	540	-	170		○	G3-4と同じ	H18
E3-2	470	510	480	136		○		H18
E3-3	510	470	450	125		○		H18
E3-4	490	400	500	132		○		H18
E3-5	440	430	510	122		○		H18
E3-6	460	500	550	148		○		H18
E3-7	510	490	470	97		○		H18
E3-8	460	350	480	89		○	逆さ石	H18
E3-9	500	410	500	131	ﾗｲﾝ有	○	逆さ石	H18
E3-10	470	400	520	124		○		H18
E3-11	470	410	450	102		○	逆さ石	H18
E3-12角石	450	470		168		○	B3-4と同じ	H18
F面 横ね出し石								
F1	300	420	830	180		○		H19
F2	400	540	750	220		○		H19
F3	280	540	800	200		○		H19
F4	250	440	780	180		○		H19
F5	300	350	660	120		○		H19

F面 中石

石材番号	石材整理（長：mm、重：kg）				石材調査	利用	備考	修理
	縦長	横長	控長	重量	目視	状況		年度
F1-1入隅	370	480	450	110		○		
F1-2	350	550	460	120		○		
F1-3	340	580	520	140		○		
F1-4	330	510	350	90		○		H19
F2-1入隅	570	600	490	240		○		H19
F2-2	500	560	500	200		○		H19
F2-3	500	540	400	180		○		H19
F3-1入隅	470	600	460	145		○		H19
F3-2	390	440	370	70		○		H19

G面 葛石

G葛-1	240	450	180	40		○		H18
G葛-2	220	750	180	53		○		H18
G葛-3	320	1150	190	141		○		H18

G面 中石

G-1	480	630	180	107		○		H18
G-2	510	620	170	126		○		H18
G-3	440	210	200	30		○		H18
G-4	430	910	200	148		○		H18
G1-1	470	410	80	67		○		H18
G1-2	490	440	430	109.5		○		H18
G1-3	480	450	450	116.5		○		H18
G1-4	470	350	470	93	ｸﾗｯｸ有	○		H18
G1-5角石	390	400	-	192.5		○	E1-1と同じ	H18
G1-6角石	440	450	-	209		○	D1-11と同じ	H18
G1-7	310	300	470	42		○		H18
G1-8	310	320	540	59		○		H18
G1-9	290	550	340	93.5		○		H18
G2-1	410	440	260	93		○		H18
G2-2	420	580	400	144		○		H18
G2-3	410	450	430	137		○		H18
G2-4角石	470	500	-	145		○	E2-1と同じ	H18
G2-5角石	390	420	-	154	キズ有	○	D2-12と同じ	H18
G2-6	520	550	440	151		○		H18
G2-7	550	700	510	240		○		H18
G3-1	450	500	460	106		○		H18
G3-2	410	380	340	68.5		○		H18
G3-3	440	450	500	110		○	逆さ石	H18
G3-4角石	450	410	-	170		○	E3-1と同じ	H18
G3-5角石	440	580	-	302		○	D3-12と同じ	H18
G3-6	430	460	370	124		○		H18
G3-7	420	450	470	128		○		H18
G4-1	430	370	430	80		○	逆さ石	H18
G4-2	450	540	350	110		○		H18
G4-3	400	460	450	450		○		H18
G4-4	480	400	360	69	ｸﾗｯｸ・抜落ち	○	逆さ石	H18
G4-5	520	320	450	83		○		H18
G4-6	520	420	510	115		○	逆さ石	H18
G4-7	500	500	350	107		○	逆さ石	H18
G4-8	460	510	370	105		○		H18
G4-9	480	500	420	125		○	逆さ石	H18
G5-1	480	520	470	170		○	モルタル付着	H18
G5-2	480	460	410	145		○	モルタル付着	H18
G5-3	510	430	430	115	キズ有	○	モルタル付着	H18
G5-4	430	460	410	100		○	逆さ石・モルタル付着	H18
G5-5	530	380	470	120		○	モルタル付着	H18
G5-6	400	240	340	45		○	モルタル付着	H18
G5-7	450	550	380	145		○	モルタル付着	H18
G5-8	510	630	400	155		○	モルタル付着	H18

H面 中石

石材番号	石材整理（長：mm、重：kg）				石材調査	利用	備考	修理
	縦長	横長	控長	重量	目視	状況		年度
H1-1	450	610	400	192		○		H18
H1-2	380	470	380	82.5		○		H18
H1-3	280	390	440	79.5		○		H18
H1-4	340	230	440	42.5	キズ有	○		H18
H1-5	330	320	400	53.5		○		H18
H1-6	430	380	400	82		○		H18
H1-7	460	370	300	94		○		H18
H1-8	420	350	470	83		○		H18
H1-9	430	550	260	94.5		○		H18
H1-10	460	500	400			○		H18
H2-1	460	690	450	188		○		H18
H2-2	460	500	400	135		○		H18
H2-3	520	620	560	243		○		H18
H2-4	500	450	360	138		○		H18
H2-5	410	550	430	142		○		H18
H2-6	440	450	370	88		○		H18
H2-7	430	330	340	79	ハクリ有	○		H18
H2-8	400	470	500	112		○		H18
H2-9	420	300	260	56		○		H18
H3-1	430	490	480	182.5				H18
H3-2	420	450	450	120				H18
H3-3	450	470	480	149				H18
H3-4	490	490	400	158				H18
H3-5	400	450	500	143				H18
H3-6	400	470	510	156				H18
H3-7	400	440	420	115				H18
H3-8	420	410	460	131				H18
H3-9	440	580	490	167				H18
H4-1	-	-	-	-	-	-		H18
H4-2	380	500	460	140		○		H18
H4-3	460	560	430	154	ｸﾗｯｸ・破断	△		H18
H4-4	470	390	390	124	ｸﾗｯｸ・破断	△		H18
H4-5	500	450	400	140		○		H18
H4-6	450	400	430	12		○		H18
H4-7	480	530	440	187		○		H18
H4-8	540	530	460	213		○		H18
H4-9	460	510	430	185	ｸﾗｯｸ有	○		H18
H5-1	-	-	-	-	-	-		H18
H5-2	460	490	430	129	ｷｽﾞ・破断	△		H18
H5-3	450	470	410	140				H18
H5-4	445	485	400	130	ｸﾗｯｸ・抜落ち	△		H18
H5-5	520	620	390	180		○		H18
H5-6	520	470	470	164		○		H18
H5-7	460	500	490	165		○		H18
H5-8	450	660	520	180		○		H18

補足石材

石材番号	石材整理（長：mm、重：kg）				石材調査	補足	備考	修理
	縦長	横長	控長	重量	目視	方法		年度
B4-1	560	500	560	281		購入	換算重量	H19
B5-3	640	380	600	275		購入	換算重量	H18
B6-1	450	650	650	340		購入	換算重量	H18
B6-4下	360	180	460	46		購入	換算重量	H18
B6-5	450	450	550	200		購入	換算重量	H18
B7-1	280	300	550	55		購入	換算重量	H18
B7-1下	300	300	420	40		購入	換算重量	H18
H4-3	410	490	610	185		購入	換算重量, 逆さ石	H18
H4-4	520	520	600	250		購入	換算重量	H18
H5-2	500	490	600	210		購入	換算重量	H18
H5-4	480	520	600	220		購入	換算重量	H18

龍岡城跡Ⅲ黒門西側石垣修理工事石材一覧表

跳ね出し台

石材番号	石材整理（長：mm、重：kg）				石材調査	利用	備考	修理
	縦長	横長	控長	重量	目視	状況		年度
K-1	250	610	800			○		H21
K-2	250	610	830	286		○		H21
K-3	250	610	780			○		H21
K-4	250	590	790			○		H21
K-5	250	610	740			○		H21
K-6	240	750	700		クラック	○		H21
K-7	250	560	770			○		H21
K-8	240	440	780			○		H21
K-9	240	800	760			○		H21
K-10	240	430	800			○	下端加工	H21

石材番号	石材整理（長：mm、重：kg）				石材調査	利用	備考	修理
	縦長	横長	控長	重量	目視	状況		年度
K-11	250	740	760		クラック	○		H21
K-12	240	490	750			○		H21
K-13	250	590	730			○		H21
K-14	250	1340	790	489	山キズ	○		H21
K-15	250	950	730			○		H21
K-16	240	1050	650		クラック	○		H21
K-17	240	840	970			○		H21
K-18	240	630	780			○		H21
K-19	230	340	740			○		H21
K-20	240	600	750			○		H21

石材番号	石材整理（長：mm、重：kg）				石材調査	利用状況	備考	修理年度
	縦長	横長	控長	重量	目視			
K-21	240	540	820		クラック	○		H21
K-22	240	590	820			○		H21
K-23	240	700	770			○		H21
K-24	230	410	710		クラック	○		H21
K-25	240	600	790			○		H21
K-26	250	620	800			○		H21
K-27	240	410	780			○		H21
K-28	235	380	790			○		H21
K-29	240	530	770			○	下端加工	H21
K-30	240	500	780			○		H21
K-31	240	540	790			○		H21
K-32	240	650	770			○		H21
K-33	250	490	750			○		H21
K-34	245	500	740			○		H21
K-35	250	605	820			○		H21
K-36	260	570	770			○		H21
K-37	245	615	750			○		H22
K-38	230	470	950			○		H22
K-39	250	475	900			○		H22
K-40	245	350	820			○		H22
K-41	210	445	830			○		H22
K-42	250	420	845			○		H22
K-43	230	650	860			○		H22
K-44	230	435	895			○		H22
K-45	240	440	935			○		H22
K-46	250	430	780			△	押え石に転用	H22
K-47	230	470	825		抜け落ち	△		H22
K-48	230	395	920		山キズ	○		H22
K-49	250	435	930			○		H22
K-50	250	630	685			△	押え石に転用	H22
K-51	250	470	850		抜け落ち	○		H22
K-52	240	500	800		抜け落ち	○		H22
K-53	250	370	800			○		H22
K-54	245	360	870		クラック	○		H22
K-55	245	410	890			○		H22
K-56	230	430	820			○		H22
K-57	250	460	960			○		H22
K-58	250	470	960		抜け落ち	○		H22
K-59	245	430	780		山キズ	○		H22
K-60	250	440	780			○		H22
K-61	250	410	960		抜け落ち	○		H22
K-62	250	425	850		山キズ	○		H22
K-63	250	510	910		抜け落ち	○		H22
K-64	250	505	800			○		H22
K-65	250	495	830		山キズ	○		H22
K-66	250	530	900			○		H22
K-67	235	480	840	146		○		H22
K-68	250	445	840			○		H22
K-69	250	425	800		抜け落ち	○		H22
K-70	250	360	850			○		H22
K-71	240	335	780			○		H22
K-72	250	320	780		抜け落ち	○		H22
K-73	240	380	900			○		H22
K-74	250	550	910			○		H22
K-75	250	450	880			○		H22
K-76	260	440	770			○		H22
K-77	260	395	800		抜け落ち	△	押え石に転用	H22
K-78	250	650	900			○		H22
K-79	250	430	890			○		H22
K-80	250	330	800			○		H22
K-81	250	450	790		抜け落ち・山キズ	○	幅加工（縮）	H22
K-82	245	500	860			○	幅加工（縮）・面加工	H22
K-83	250	545	825			○		H22
K-84	250	500	830			○		H22
K-85	250	390	890		クラック	○		H22
K-86	250	280	960			○		H22
K-87	250	840	800	271	クラック	○		H22
K-88	250	415	775			○		H22
K-89	250	605	820			○		H22
K-90	250	375	930		抜け落ち	○		H22
K-91	240	480	910			○		H22
K-92	230	695	830		クラック	○		H22
K-93	250	375	890			○		H22
K-94	245	360	850			○		H22
K-95	240	385	860			○		H22

天端石

石材番号	石材整理（長：mm、重：kg）				石材調査	利用状況	備考	修理年度
	縦長	横長	控長	重量	目視			
T-1	370	470	520			○	天端加工	H21
T-2	440	525	450			○	天端加工	H21
T-3	470	425	480			○	天端加工	H21
T-4	475	530	635			○	天端加工	H21
T-5	410	460	600			○	天端加工	H21
T-6	430	540	400		逆さ石	△	押え石に転用	H21
T-7	470	570	570			○	天端加工	H21
T-8	500	500	520			○	天端加工	H21
T-9	510	590	460			○	天端加工	H21
T-10	450	510	525			○	天端加工	H21
T-11	510	540	640			○		H21
T-12	400	450	520			○	天端加工	H21
T-13	350	450	520			○	天端加工	H21
T-14	330	540	560			○	天端加工	H21
T-15	420	550	460			○	天端加工	H21
T-16	430	410	520			△	押え石に転用	H21
T-17	400	575	515			△	押え石に転用	H21
T-18	480	550	550			○		H21
T-19	480	690	555			○	左側面加工	H21
T-20	470	600	450			○		H21
T-21	480	700	600			○	左側面加工	H21
T-22	400	465	470		逆さ石	○	天端加工	H21
T-23	460	510	615			○	天端加工	H21
T-24	460	720	680		山キズ・クラック	○	天端・左側面加工	H21
T-25	620	730	640		逆さ石	○	天端加工	H21
T-26	580	430	540		抜け落ち	○	天端加工	H21
T-27	555	465	520		逆さ石	○	天端加工	H21
T-28	460	515	600		逆さ石	○	天端加工	H21
T-29	660	545	605		逆さ石	○	天端加工	H21
T-30	470	520	380		逆さ石	○	天端・右側面加工	H21
T-31	700	400	520			○	天端加工	H21
T-32	800	600	680		抜け落ち・クラック	○	天端加工	H21
T-33	620	380	600		山キズ	○	天端加工	H21
T-34	550	460	470		山キズ	○	天端加工	H21
T-35	590	570	570	309		○	天端加工	H21
T-36	615	490	520		逆さ石	○	天端・右下端加工	H21
T-37	550	610	535			○	天端加工	H21
T-38	580	670	590			○	天端加工	H21
T-39	600	620	580		逆さ石	○	天端加工	H21
T-40	560	530	690			○	天端・下端加工	H21
T-41	600	740	510		逆さ石	○	天端加工	H21
T-42	700	720	640			△	押え石に転用	H21
T-43	370	340	410			△	押え石に転用	H21
T-44	680	680	650			○	天端・左側面加工	H21
T-45	510	685	555			○		H22
T-46	410	550	430			○	天端加工	H22
T-47	600	800	520			△	購入	H22
T-48	330	570	340			△	支給	H22
T-49	500	710	560			○	天端加工	H22
T-50	550	630	440			○	天端加工	H22
T-51	580	640	530			○	天端加工	H22
T-52	570	650	630			○	天端加工	H22
T-53	380	630	335			○	天端加工	H22
T-54	520	675	480			○	天端加工	H22
T-55	710	720	460		山キズ	○	右側面・天端加工	H22
T-56	480	610	520			○	天端加工	H22
T-57	610	810	450		山キズ	○	天端加工	H22
T-58	370	400	470			○	天端加工	H22
T-59	490	650	480			○	右側面・天端加工	H22
T-60	490	810	450			○	左側面・天端加工	H22
T-61	590	660	570		抜け落ち	○	左下側面・天端加工	H22
T-62	600	780	540		山キズ	○	左側面・天端加工	H22
T-63	435	570	370	140		○	天端加工	H22
T-64	330	620	480			○	天端加工	H22
T-65	560	730	580			○	右側面・天端加工	H22
T-66	440	810	430			○	天端加工	H22
T-67	620	650	470			○	右下端・天端加工	H22
T-68	270	560	360			△	押え石に転用	H22
T-69	380	650	500			○	右側面・天端加工	H22
T-70	560	750	490			○	天端加工	H22
T-71	345	720	390			○	天端加工	H22
T-72	440	930	440			○	天端加工	H22
T-73	500	770	370			○	左下端・天端加工	H22
T-74	420	920	310			○	天端加工	H22

石材番号	石材整理（長：m，重：kg）				石材調査		利用状況	備　考	修理年度
	現長	横長	控長	重量	目　視				
T-75	470	840	570				○	天端加工	H22
T-76	560	730	570				○	天端加工	H22
T-77	520	850	490				○	天端加工	H22
T-78	395	600	570				○	下端加工	H22
T-79	550	590	620				○		H22
T-80	430	660	460				○	下端加工	H22
T-81	560	550	590				○		H22
T-82	485	490	590				○		H22
T 83	370	600	570				○		H22
T-84	320	620	530				○		H22
T-85	710	670	720				○		H22
T-86	685	870	610				○		H22
中台									
1	600	750	450		山キズ・抜け落ち		○		H21
2	490	620	430				○		H21
3	400	510	590		山キズ		○		H21
4	530	340	530		逆さ石		○		H21
5	650	700	630		山キズ		○		H21
6	730	550	410		山キズ・クラック		○	下端加工	H21
7	680	630	480				○		H21
8	650	710	550				○		H21
9	580	580	530				△	押え石に転用	H21
10	680	700	440				○		H21
11	670	590	520				○		H21
12	700	800	500				○		H21
13	700	720	700		山キズ		○		H21
14	630	650	620				○		H21
15	600	600	600				○		H21
16	600	690	600		山キズ		○		H21
17	680	620	530		山キズ・抜け落ち		○		H21
18	810	720	430		山キズ		○	右天端加工	H21
19	730	710	610		山キズ		○		H21
20	690	700	320		山キズ		○	左側面加工	H21
21	740	660	600				○		H21
22	620	520	520		山キズ		○		H21
23	700	750	610				○		H21
24	740	660	710				○	右側面加工	H21
25	620	490	550		山キズ		○		H21
26	660	550	510		山キズ		○		H21
27	710	560	530				○		H21
28	550	460	520				○	天端・右側面加工	H21
29	610	560	540				○	左側面・右天端・下端加工	H21
30	760	740	580		赤キズ		○		H21
31	760	650	520				○	左天端加工	H21
32	580	540	460				○		H21
33	630	570	550				○		H21
34	560	470	500				○		H21
35	730	710	740		山キズ		○	右天端加工	H21
36	560	600	520		山キズ		○	左右天端加工	H21
37	790	810	720		山キズ・抜け落ち		○	左右天端・下端加工	H21
38	600	660	630		逆さ石・抜け落ち		○	左右天端加工	H21
39	770	550	450		山キズ・クラック		○		H21
40	890	900	450		山キズ		○	左天端加工	H21
41	540	580	570				○		H21
42	620	930	550				○		H21
43	650	860	420				○		H22
44	620	800	455				△	押え石に転用	H22
45	430	690	555				○		H21
46	430	620	495				○	左天端加工	H22
47	600	800	530	367			○	天端加工	H22
48	690	590	495				○	天端加工	H22
49	750	880	470				○	天端加工	H22
50	500	790	520				○	左右側面・天端加工	H22
51	440	430	560				○		H21
52	550	530	680		山キズ		○	左側面加工	H21
53	550	540	560		山キズ		○	左天端加工	H21
54	600	570	690				○	天端加工	H21
55	530	450	500				○		H21
56	700	590	590				○		H21
57	690	680	460				○	天端加工	H21
58	640	620	630				○	右天端加工	H21
59	660	650	590		抜け落ち		○	右天端加工	H21
60	670	650	650				○		H21
61	640	590	530				○	右天端加工	H21
62	620	510	600		山キズ		○		H21

石材番号	石材整理（長：m，重：kg）				石材調査		利用状況	備　考	修理年度
	現長	横長	控長	重量	目　視				
63	660	590	470				○		H21
64	760	540	440				○		H21
65	720	640	540				○		H21
66	480	540	540		山キズ・逆さ石		△	押え石に転用	H21
67	730	800	530				○		H21
68	750	690	610				○		H21
69	820	630	590		山キズ		○		H21
70	830	760	780	314			○	左側面加工	H21
71	860	720	610				○		H21
72	760	600	630		山キズ		○	右天端加工	H21
73	730	740	580		山キズ		○	右天端加工	H21
74	660	650	520				○	右側面加工	H21
75	590	660	450				○		H21
76	690	700	480		抜け落ち		○		H21
77	670	490	620				○		H21
78	600	430	610				○		H21
79	710	650	430		山キズ		○		H21
80	520	540	550		山キズ		○	右天端加工	H21
81	680	660	600				○		H21
82	750	670	540				○	下端加工	H21
83	690	540	520				○		H21
84	710	740	640				○	右天端加工	H21
85	730	840	630		山キズ		○	天端加工	H21
86	770	880	540		山キズ		○		H21
87	840	710	510		山キズ		○		H21
88	640	680	510		抜け落ち		○	天端加工	H21
89	660	710	670				○	天端加工	H21
90	710	760	510		クラック		○		H21
91	690	640	510				○		H21
92	690	590	400				○	左天端加工	H21
93	640	890	500				○		H21
94	580	640	450		逆さ石		○		H22
95	610	670	420		逆さ石		△	押え石に転用	H22
96	650	790	570				○		H22
97	590	650	440		山キズ		○		H22
98	550	700	440				○	天端加工	H22
99	610	620	500		逆さ石		○	右天端加工	H22
100	565	580	340				○		H22
101	350	710	500				○		H21
102	350	390	560				○		H21
103	400	510	670				○	天端加工	H21
104	640	540	475		山キズ		○	左天端加工	H21
105	610	560	605				○	天端加工	H21
106	680	600	480		山キズ		○		H21
107	700	670	560		クラック		○	左側面加工	H21
108	560	585	525				○		H21
109	640	740	500				○		H21
110	560	560	500				○	下端加工	H21
111	535	650	435				○		H21
112	750	750	535				○		H21
113	600	540	510				○		H21
114	640	595	580		山キズ		○		H21
115	600	620	460				○		H21
116	545	460	460		抜け落ち		○		H21
117	455	465	450		抜け落ち		○		H21
118	440	625	420		山キズ		○		H21
119	605	605	500				○		H21
120	720	680	575				○		H21
121	715	710	520				○		H21
122	930	840	535		山キズ		○	下端加工	H21
123	825	830	540				○		H21
124	920	780	595		山キズ		○		H21
125	610	640	535		山キズ		○		H21
126	720	625	605				○		H21
127	735	740	515				○		H21
128	560	530	380				○		H21
129	870	745	500				○		H21
130	690	570	490		山キズ・抜け落ち・逆さ石		○		H21
131	750	640	570				○	右天端加工	H21
132	700	585	580		クラック		○		H21
133	660	640	485				○		H21
134	720	740	495		山キズ・クラック		○		H21
135	820	785	450				○		H21
136	750	690	600				○		H21
137	555	505	520				○		H21

石材番号	石材整理（長：mm、重：kg）				石材調査	利用状況	備考	修理年度
	縦長	横長	控長	重量	目視			
138	670	640	480		山キズ・クラック	○		H21
139	690	760	480			○		H21
140	590	690	500			○	左側面加工	H21
141	660	630	480			○		H21
142	660	630	400			○		H21
143	800	680	450			○		H21
144	680	800	410			○	右天端加工	H21
145	520	600	460			○		H21
146	790	860	590			○		H21
147	570	800	590			○		H21
148	770	630	480			○	天端加工	H21
149	590	890	590			○	天端加工	H21
150	830	700	560			○	天端・下端加工	H21
151	570	580	560			○	控え上端加工	H21
152	850	645	480			○		H21
153	760	740	440			○		H21
154	770	740	410			○	右天端加工	H21
155	620	790	520			○		H21
156	700	780	435			○		H21
157	490	810	500			○	右天端加工	H22
158	660	900	470			○		H22
159	830	885	415			○	右天端加工	H22
160	780	740	590			○		H22
161	825	815	460			○		H22
162	750	750	500			○	左天端加工	H22
163	750	710	530			○		H22
164	530	550	410			○	左天端加工	H22
165	850	690	565			○		H21
166	690	755	410			○		H21
167	610	630	460			○		H21
168	635	580	340			○		H21
169	650	1000	590	294	左寄りトモ	○		H21
170	775	610	500			○		H21
171	760	500	440		抜け落ち	○		H21
172	610	635	530		山キズ・抜け落ち	○	左天端加工	H21
173	670	780	375			○	右天端加工	H21
174	760	760	480			○		H21
175	710	670	510			○	右天端加工	H21
176	480	410	435			○	右天端加工	H21
177	590	650	585			○	左側面加工	H21
178	630	930	460			○		H22
179	575	620	460			○		H22
180	520	810	350			○		H22
181	610	490	330			○		H22
182	520	680	500			○		H22
183	640	820	430			○	左天端加工	H22
184	530	610	570			○		H22
185	510	730	410			○		H22
186	620	690	410	205		○		H22
187	620	680	380			○	右下端・右天端加工	H22
188	510	710	380			○		H22
189	720	860	360			○	右下端加工	H22
190	560	610	390			○	右下端加工	H22
191	470	585	330			○	天端加工	H22
192	550	670	340			○	右天端加工	H22
193	540	640	365			○		H22
194	700	750	540			○		H22
195	440	685	445			○		H22
196	590	800	445			○	天端加工	H22
197	545	720	410			○	右天端加工	H22
198	520	800	440		抜け落ち	○		H22
199	655	790	520			○		H22
200	855	965	360			○		H22
201	590	680	380			○		H22
202	420	830	605			○		H22
203	700	750	490			○		H22
204	610	1055	390		逆さ石・山キズ	○	下端加工	H22
205	635	690	380		山キズ	○	右側面・天端加工	H22
206	550	415	460			○	右天端・下端加工	H22
207	390	680	430		抜け落ち	○	右下端加工	H22
208	430	450	540			○		H22
209	600	710	510			○		H22
210	640	760	540			○	右側面加工	H22
211	620	510	415		逆さ石	△	押え石に転用	H22

石材番号	石材整理（長：mm、重：kg）				石材調査	利用状況	備考	修理年度
	縦長	横長	控長	重量	目視			
212	480	525	350			○	天端・押え加工、中石212と[illegible]鋼棒でジョイント	H22
213	630	505	315			○	中石212・214・256とジョイント	H22
214	670	595	485	281		○	中石213と[illegible]鋼棒でジョイント	H22
215	695	880	450		山キズ	○		H22
216	530	540	550			○	左天端加工	H22
217	650	750	450			○		H22
218	580	685	390			○		H22
219	680	765	390			△	押え石に転用	H22
220	590	665	330		逆さ石	△	押え石に転用	H22
221	410	730	380			○		H22
222	455	560	430			△	押え石に転用	H22
223	330	445	445			○		H22
224	595	1200	425			○		H22
225	540	690	430			○		H22
226	470	510	500			○		H22
227	620	685	670			○		H22
228	710	620	520			○		H22
229	660	760	500			○	右側面加工	H22
230	590	520	385			○		H22
231	745	800	375			○		H22
232	485	790	530			○		H22
233	690	680	390		抜け落ち	○		H22
234	640	860	540			○		H22
235	510	670	490			○	右側面加工	H22
236	670	920	540			○		H22
237	695	700	610			○		H22
238	610	650	345		抜け落ち	○		H22
239	600	700	430	205		○	左側面加工	H22
240	440	630	400		クラック	○		H22
241	645	670	480		抜け落ち	○	右下側側面加工	H22
242	485	575	415			○		H22
243	650	730	450			○		H22
244	620	840	520			○		H22
245	770	800	510			○		H22
246	645	740	350			○		H22
247	685	795	470			○		H22
248	640	715	500			○		H22
249	690	755	430		抜け落ち	○		H22
250	770	935	455			○		H22
251	585	730	615			○		H22
252	725	910	455			○		H22
253	500	780	410			○		H22
254	760	630	480			○		H22
255	560	630	430			△	押え石に転用	H22
256	680	655	485		逆さ石	○	中石213と[illegible]鋼棒でジョイント	H22
257	750	645	380			○		H22
258	670	660	450		逆さ石	○	右下端加工	H22
259	640	800	520			△	押え石に転用	H22
260	550	790	440			○		H22
261	600	680	320		逆さ石	○		H22
262	560	680	455			○		H22
263	660	590	515	213		○		H22
264	530	540	370			△	押え石に転用	H22
265	535	715	405			○		H22
266	595	675	440			○		H22
267	560	450	395		逆さ石	△	押え石に転用	H22
268	470	490	510			○		H22
269	560	590	475			○		H22
270	640	580	420			○		H22
271					未解体	○	左側面加工	H22
272	600	630	550			○		H22
273	575	775	590			○	天端加工	H22
274	600	730	600	223		○	天端加工	H22
275	685	865	470			○		H22
276	455	780	540			○		H22
277	620	730	520			○		H22
278	510	625	390			○		H22
279	780	675	550		逆さ石	○		H22
280	790	870	450			○		H22
281	815	850	500		抜け落ち・逆さ石	○		H22
282	640	705	345			○		H22
283	680	710	400		抜け落ち	○		H22
284	640	770	435			○		H22

石材番号	石材整理（長：mm、重：kg）				石材調査	利用	備考	修理
	縦長	横長	控長	重量	目視	状況		年度
285	850	730	425		抜け落ち	○		H22
286	935	930	700			○		H22
287	765	960	375			○		H22
288	745	855	440			○		H22
289	575	630	315			○		H22
290	720	930	510			○		H22
291	900	895	500		下欠け	○		H22
292	700	820	390			○		H22
293-1	630	800	490			○		H22
293-2	800	780	350			○		H22
294	700	735	350			○	右天端加工	H22
295	730	950	430			○		H22
296	650	700	440			○		H22
297	660	720	320			○		H22
298	720	685	350			○		H22
299	620	895	440			○	左下端加工	H22
300	760	780	350		逆さ石	○	右天端加工	H22
301	730	710	410		逆さ石	○	左右下端加工	H22
302	590	560	360		逆さ石	○	右側面加工	H22
303	700	815	360		抜け落ち	○	左天端加工	H22
304	735	800	630			○		H22
305	770	860	550	346		○		H22
306	660	620	420			○		H22
307	645	820	720			○		H22
308	720	590	390		抜け落ち	○		H22
309	705	775	480			○		H22
310	750	780	445			○		H22
311	520	810	420			○		H22
312	665	730	435			○		H22
313	540	705	450			○		H22
314	565	750	465		抜け落ち	○	右側面・天端加工	H22
315	865	900	650			○	右側面・天端加工	H22
316						○	未解体・左側面加工	H22
317	560	735	585			○		H22
318	605	850	365			○		H22
319	720	855	540			○		H22
320	440	640	410		抜け落ち	○	天端加工	H22
321	715	770	550			○		H22
322	790	810	590	323		○		H22
323	735	830	490			○	左天端加工	H22
324	670	700	555		逆さ石	○		H22
325	750	750	460			○		H22
326	840	720	400		逆さ石	○		H22
327	760	795	450			○		H22
328	805	680	400		逆さ石	○		H22
329	525	670	390			○		H22
330	585	740	350			○		H22
331	680	840	450			○		H22
332	680	625	370			○		H22
333	790	950	480			○		H22
334	650	665	410			○		H22
335	585	770	420			○		H22
336	500	565	375			○		H22
337	625	800	380	238		○		H22

根石

N-1						○		H21
N-2						○		H21
N-3						○	天端加工	H21
N-4						○		H21
N-5						○		H21
N-6						○		H21
N-7						○	左側面加工	H21
N-8						○		H21
N-9					クラック	○		H21
N-10						○		H21
N-11						○		H21
N-12						○		H21
N-13						○		H21
N-14						○	右天端加工	H21
N-15						○		H21
N-16						○	左右天端加工	H21
N-17						○	左天端加工	H21
N-18						○		H21
N-19					山キズ	○	天端加工	H21
N-20						○	左天端加工	H21
N-21					山キズ	○		H21
N-22					山キズ	○	左天端加工	H21
N-23						○	右天端加工	H21
N-24					クラック	○		H21
N-25						○		H21
N-26						○		H21
N-27						○		H21
N-28						○		H21
N-29					山キズ	○	右天端加工	H21
N-30						○	右天端加工	H21
N-31						○	左右天端加工	H21
N-32					山キズ	○	右天端加工	H21
N-33						○		H21
N-34						○	左天端加工	H21
N-35						○		H21
N-36						○	左上側面加工	H22
N-37						○		H22
N-38						○		H22
N-39						○		H22
N-40					逆さ石	○		H22
N-41						○		H22
N-42						○		H22
N-43					逆さ石・山キズ	○		H22
N-44					山キズ	○		H22
N-45						○		H22
N-46						○		H22
N-47						○		H22
N-48						○		H22
N-49					山キズ	○		H22
N-50						○		H22
N-51						○		H22
N-52						○		H22
N-53						○		H22
N-54						○		H22
N-55						○		H22
N-56					山キズ	○		H22
N-57						○		H22
N-58						○		H22
N-59						○		H22
N-60						○		H22
N-61						○		H22
N-62					逆さ石・抜け落ち・山キズ	○		H22
N-63					抜け落ち	○		H22
N-64						○		H22
N-65						○		H22
N-66						○		H22
N-67						○		H22
N-68						○		H22
N-69						○		H22

補足石材

石材番号	石材整理（長：mm、重：kg）				石材調査	補足	備考
	縦長	横長	控長	重量	目視	方法	
K-46	270	420	1000			購入	跳ね出し石
K-47	250	500	970			購入	跳ね出し石
K-50	250	670	970			購入	跳ね出し石
K-77	270	440	930			購入	跳ね出し石
K-81と82間	270	420	950			購入	跳ね出し石
T-9	540	560	460			在石	天端石
T-16	460	440	490			在石	天端石
T-17	540	610	460			在石	天端石
T-42	800	760	610			在石	天端石
T-43	460	415	620			在石	天端石
T-47	550	800	500			購入	天端石
T-48	300	550	600			支給	天端石
T-68	280	580	650			支給	天端石
T-75と76間	410	140	550			支給	天端石
9	640	680	540			在石	中石
44	650	850	900			購入	中石
66	480	560	560			在石	中石
95	630	730	700			購入	中石
211	700	630	530			購入	中石
219	720	760	970			購入	中石
220	600	720	600			支給	中石
222	440	550	450			支給	中石
255	690	740	430			支給	中石
259	680	800	600			購入	中石
264	580	580	430			支給	中石
267	500	550	450			支給	中石

第4表　龍岡城跡出土遺物一覧表

※陶磁器の透明釉の施釉表記は省略している。
　施釉されないものは「釉なし」とした。
※出土位置ゴシックは掲載遺物の該当する地点である。

陶磁器〈A茶碗〉

〈残〉（推定）

通番	整理番号	種類	法量(cm) 口径〈長〉	底径〈幅〉	器高〈厚〉	重量(g)	調整・文様 内面	外面	底部	出土位置 六門排水口修理（TTTⅠ）	旧プール解体（TTTⅡ）	陶磁器統制番号住所氏名	他破片出土量(g)
1	A-1	磁器茶碗	(11.0)	(3.7)	5.1	58		呉須　プリント	畳付無釉	西下流・重機搬出土・Cトレンチ5層・Cトレンチ南表採・Cトレンチ南1層			260
2	A-2	磁器茶碗	-	-	4.1	34		呉須　プリント	畳付施釉	重機搬出土・Eトレンチ4層			40
3	A-3	磁器茶碗	(11.4)	(4.0)	5.6	78		呉須　プリント	無釉	重機搬出土・Cトレンチ北			80
4	A-4	磁器茶碗	(11.4)	(4.0)	5.7	52		呉須　プリント	無釉	重機搬出土・Eトレンチ			10
5	A-5	磁器茶碗	(11.3)	4.1	6.0	70		呉須　プリント	無釉	Cトレンチ・重機搬出土	⑦トレンチ表土層		190
6	A-5-2	磁器茶碗	-	3.7	〈5.0〉	48		呉須　プリント	無釉	堀・重機搬出土			-
7	A-6	磁器茶碗	(11.6)	-	〈4.3〉	27		呉須　プリント	−	重機搬出土			10
8	A-7	磁器茶碗	(11.3)	4.1	6.2	76		呉須　プリント	無釉	重機搬出土・Cトレンチ南・Bトレンチ北2層			90
9	A-8	磁器茶碗	(11.6)	4.3	5.6	52		呉須　プリント	無釉	重機搬出土・Cトレンチ南			120
10	A-9	磁器茶碗	(11.5)	4.1	5.7	120		呉須　プリント	「岐101」型印	重機搬出土・石垣H面上表採		土岐郡笠原町(林昇製陶所)	10
11	A-10-1	磁器茶碗	(11.7)	4.1	5.9	73		呉須　プリント	「岐100」型印	堀・Bトレンチ北2層・Cトレンチ1層・Cトレンチ5層・Cトレンチ南・Eトレンチ4層・北側土塁上面・重機搬出土	砲台南石垣石積暗渠	土岐郡笠原町(深川嗣一)	2125
12	A-11	磁器茶碗	-	-	〈5.2〉	38		呉須　プリント	−	重機搬出土・Cトレンチ1層・Cトレンチ5層			140
13	A-12	磁器茶碗	(10.0)	(4.0)	6.0	38		呉須　プリント		Bトレンチ南・Cトレンチ1層・重機搬出土			20
14	A-13	磁器茶碗	(11.7)	-	〈3.7〉	48		呉須　プリント		Cトレンチ5層・重機搬出土・Bトレンチ北2層・Cトレンチ南			210
15	A-14	磁器茶碗	(9.4)	-	〈4.5〉	12		呉須　プリント	−	重機搬出土			10
16	A-15	磁器茶碗	-	(4.0)	〈4.3〉	28		呉須　プリント		重機搬出土			10
17	A-16	磁器茶碗	(11.2)	4.0	6.0	84		呉須　プリント		Cトレンチ・Cトレンチ5層・西下流・重機搬出土			330
18	A-17	磁器茶碗	(11.0)	4.0	〈4.6〉	157		呉須　プリント	「岐67」呉須印	Bトレンチ北2層・重機搬出土・Cトレンチ・Cトレンチ1層・Cトレンチ5層・Cトレンチ北・Cトレンチ北3層・Cトレンチ南・Cトレンチ南表採・堀		土岐郡笠原町(桑山欄治)	1273
19	A-18	磁器茶碗	(11.5)	4.0	6.1	120		呉須　プリント	「岐86」呉須印	Cトレンチ北・Cトレンチ5層・重機搬出土・Cトレンチ北3層		土岐郡笠原町(服部伸三)	330
20	A-19	磁器茶碗	(10.1)	4.2	〈5.3〉	99		呉須　プリント		Bトレンチ北2層・重機搬出土・Bトレンチ南5層・Cトレンチ・Cトレンチ5層			110
21	A-20	磁器茶碗	(10.8)	-	〈5.7〉	62		呉須　プリント		重機搬出土・Bトレンチ南・Bトレンチ南5層・Bトレンチ北2層・Cトレンチ北3層・Cトレンチ5層・堀			410
22	A-21	磁器茶碗	(12.0)	(4.6)	5.6	40		呉須　プリント		Bトレンチ北2層・重機搬出土・Cトレンチ1層・Eトレンチ4層			30
23	A-22	磁器茶碗	(11.2)	4.0	6.0	100		呉須　プリント		重機搬出土			5
24	A-23	磁器茶碗	(11.6)	4.0	6.1	65		呉須(黒)　プリント	「岐88」型印	重機搬出土・Bトレンチ北2層・Cトレンチ南		土岐郡笠原町(宮川鈴太郎)	70
25	A-24	磁器茶碗	(10.7)	(4.3)	〈3.1〉	66		呉須(黒)　プリント		Bトレンチ南・Cトレンチ・重機搬出土・Cトレンチ南表採・堀			20
26	A-25	磁器茶碗	(10.8)	3.8	〈4.2〉	78		呉須(黒)　プリント	「瀬8」呉須印	Cトレンチ南・重機搬出土・堀			10
27	A-26	磁器茶碗	(11.4)	(4.2)	6.0	78		呉須　プリント		Cトレンチ5層・重機搬出土・Cトレンチ南表採			100
28	A-27	磁器茶碗	(11.2)	(4.0)	5.8	72		呉須　プリント		重機搬出土			60
29	A-28	磁器茶碗	(9.0)	(4.2)	〈4.8〉	40		呉須　プリント		重機搬出土・Cトレンチ南表採			10
30	A-29	磁器茶碗	(9.0)	-	〈5.5〉	18		呉須　プリント		Cトレンチ南表採・重機搬出土・Cトレンチ北3層・Cトレンチ南			20
31	A-30	磁器茶碗	-	4.0	〈3.9〉	63		呉須+銅　プリント		重機搬出土			8
32	A-31	磁器茶碗	-	(4.2)	〈4.0〉	52		呉須　プリント		Cトレンチ・重機搬出土			-
33	A-32	磁器茶碗	(11.1)	(3.6)	6.0	64		呉須+銅　プリント		重機搬出土・Bトレンチ北2層・Cトレンチ1層・Cトレンチ北・Cトレンチ北3層			40
34	A-33	磁器茶碗	(11.2)	4.0	〈4.1〉	84		呉須　プリント		Bトレンチ南・Bトレンチ北2層・重機搬出土・Cトレンチ5層・Eトレンチ3・4層			230
35	A-34	磁器茶碗	(11.3)	4.0	5.4	100		呉須　プリント		重機搬出土・Bトレンチ南・Cトレンチ北3層・石垣H面上表採			40
36	A-35	磁器茶碗	(12.0)	(4.2)	〈4.6〉	30		呉須　プリント		重機搬出土・Bトレンチ北2層・石垣B面B6-6東側石下			20
37	A-36	磁器茶碗	(11.4)	(3.6)	〈4.5〉	35		呉須　プリント		重機搬出土・Bトレンチ南			90
38	A-37	磁器茶碗	(10.4)	-	〈5.2〉	50		呉須　プリント		重機搬出土・堀・石垣B面B6-6東側石下			80

通番	整理番号	種類	法量(cm) 口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	重量(g)	調整・文様 内面	外面	底部	出土位置 穴門排水口修理（TTTⅠ）	旧プール解体（TTTⅡ）	陶磁器統制番号住所氏名	破片出土量(g)
39	A-38	磁器茶碗	-	-	〈6.8〉	20		呉須　プリント		重機搬出土・Cトレンチ南表採・Cトレンチ北3層・石垣B面B6-6東側石下			70
40	A-39	磁器茶碗	-	-	〈6.4〉	14		呉須　プリント		重機搬出土・Cトレンチ南			50
41	A-40	磁器茶碗	(10.6)	-	〈5.4〉	40		呉須　プリント		Cトレンチ南1層・Eトレンチ4層・重機搬出土・堀			40
42	A-41	磁器茶碗	(10.2)	(4.0)	〈6.1〉	33		呉須　プリント		重機搬出土			10
43	A-42-1	磁器茶碗	(11.2)	(4.0)	5.8	52	呉須(黒)+鉄　プリント	呉須(黒)+鉄　プリント	「東口局口行」呉須印	Bトレンチ北2層・Cトレンチ南1層・Cトレンチ南・Cトレンチ北・Eトレンチ・重機搬出土			132
44	A-43	磁器茶碗	(10.1)	-	〈6.0〉	54		呉須　プリント		重機搬出土・北側土塁上面・Cトレンチ・Cトレンチ5層・Cトレンチ南表採・Eトレンチ4層			110
45	A-44	磁器茶碗	(10.0)	(4.0)	6.1	46		呉須　プリント		Bトレンチ北2層・重機搬出土・Cトレンチ5層・Cトレンチ南表採			120
46	A-45	磁器茶碗	(10.7)	-	〈4.7〉	27		呉須　プリント		Cトレンチ北・Cトレンチ南・Bトレンチ南・Bトレンチ北2層・重機搬出土			30
47	A-46	磁器茶碗	(9.2)	(4.3)	〈4.2〉	50		呉須　プリント	「岐124」型印	重機搬出土・堀・Cトレンチ・Cトレンチ北3層		土岐郡笠原町(加藤代吉)	70
48	A-47	磁器茶碗	-	-	〈3.2〉	18		呉須　プリント		重機搬出土・Bトレンチ南			20
49	A-48	磁器茶碗	(10.0)	3.4	4.6	68		上絵付消失	「岐435」呉須印	重機搬出土		土岐郡土岐津町上岐[illegible](成沢寅久郎)	-
50	A-49	磁器茶碗	-	(3.3)	4.7	30		上絵付消失		重機搬出土			-
51	A-50	磁器茶碗	-	(4.3)	〈2.5〉	26		呉須	「岐87」呉須印	重機搬出土		土岐郡笠原町(ヤマ数製陶所)	-
52	A-51	磁器茶碗	-	(4.0)	〈3.1〉	54	呉須　プリント	呉須　プリント		Cトレンチ南表採			-
53	A-52	磁器茶碗	-	(4.4)	〈4.2〉	48	呉須　プリント	呉須　プリント		堀			-
54	A-53	磁器茶碗	10.8	3.9	5.9	124		呉須　クロム　プリント		Cトレンチ1層・重機搬出土			-
55	A-54	磁器茶碗	(11.6)	-	〈4.7〉	39		呉須　プリント		重機搬出土・堀			20
56	A-55	磁器茶碗	(10.1)	-	〈3.8〉	18		呉須　クロム　プリント		重機搬出土			21
57	A-56	磁器茶碗	(12.1)	(3.8)	5.0	48		呉須　クロム　プリント		Bトレンチ南・堀			-
58	A-57	磁器茶碗	-	(3.8)	〈3.4〉	30		呉須		重機搬出土			-
59	A-58	磁器茶碗	-	3.8	〈3.7〉	50	呉須+描	呉須　プリント+描	「(印)」型印	重機搬出土			-
60	A-59	磁器茶碗	(11.2)	(4.0)	6.1	95		呉須　プリント		Cトレンチ南1層・重機搬出土・堀			10
61	A-60	磁器茶碗	(11.4)	3.8	〈3.4〉	67		呉須　プリント		Cトレンチ南1層・堀			60
62	A-61	磁器茶碗	(11.0)	-	〈3.0〉	37	呉須+鉄　プリント	呉須+鉄　プリント		重機搬出土			-
63	A-62	磁器茶碗	-	(4.2)	〈3.8〉	40		呉須　プリント		重機搬出土			62
64	A-63	磁器茶碗	(9.2)	-	〈5.6〉	18		呉須(黒)　プリント		重機搬出土			-
65	A-64	磁器茶碗	11.2	4.0	5.6	84		呉須+銅　描		重機搬出土・Bトレンチ北2層・Cトレンチ3層			84
66	A-65	磁器茶碗	(11.2)	-	〈4.8〉	49		呉須+クロム　描		Bトレンチ南表採・重機搬出土			90
67	A-66	磁器茶碗	(10.6)	-	〈4.2〉	20		呉須+銅？　描		西下流			-
68	A-67	磁器茶碗	11.7	4.1	5.3	98	呉須　プリント	呉須　プリント		重機搬出土			2
69	A-68	磁器茶碗	-	(5.2)	〈3.0〉	28		呉須(黒)　プリント	「口東」呉須印	重機搬出土			20
70	A-69	磁器茶碗	-	4.2	〈3.3〉	52		呉須　プリント		堀			-
71	A-70	磁器茶碗	(11.2)	(4.4)	6.1	52		呉須　プリント		重機搬出土			-
72	A-71	磁器茶碗	(11.4)	(4.2)	6.1	42		呉須+銅　プリント	「口98」型印	重機搬出土			-
73	A-72	磁器茶碗	(11.5)	4.4	6.1	57		呉須　プリント		Cトレンチ・重機搬出土			15
74	A-73	磁器茶碗	(11.4)	3.8	6.1	71		呉須　プリント	「岐38」型印	重機搬出土		土岐郡笠原町(加藤聡一)	1
75	A-74	磁器茶碗	-	4.1	〈5.2〉	86		呉須　プリント		重機搬出土・Bトレンチ北2層・Cトレンチ南表採・Cトレンチ南・Cトレンチ北3層・Cトレンチ・Eトレンチ1層・西下流・堀			260
76	A-75	磁器茶碗	(11.0)	4.2	〈4.2〉	77		呉須　プリント		Bトレンチ北2層・重機搬出土・Bトレンチ南・Cトレンチ・Cトレンチ5層・Cトレンチ北・Cトレンチ南・Cトレンチ南表採・石垣B面B6-6東側石下・西下流・堀			400
77	A-76	磁器茶碗	(11.3)	4.1	5.9	94		呉須　プリント	「岐65」型印	重機搬出土		土岐郡笠原町(各務芳樹)	10
78	A-77	磁器茶碗	(10.4)	4.2	〈5.4〉	118		呉須+鉄　描？		重機搬出土・Cトレンチ南表採・Cトレンチ5層・堀			100
79	A-78	磁器茶碗	(11.6)	(4.1)	5.3	38		呉須+クロム　プリント・吹付		Bトレンチ南・重機搬出土			56

通番	整理番号	種類	法量(cm) 口径〈長〉	底径〈幅〉	器高〈厚〉	重量(g)	調整・文様 内面	外面	底部	出土位置 穴門排水口修理(TTT I)	旧プール解体(TTT II)	陶磁器統制番号住所(氏名)	他破片出土量(g)
80	A-79	磁器茶碗	(11.4)	(4.1)	6.0	36		呉須+銅　プリント	「岐10□8」呉須印	重機撹出土・Bトレンチ北2層・Cトレンチ北3層			162
81	A-80	磁器茶碗	(11.9)	(4.0)	6.0	67		呉須+銅　プリント		重機撹出土・堀			64
82	A-81	磁器茶碗	(11.6)	-	〈4.0〉	12		呉須+クロム　プリント		重機撹出土			47
83	A-82	磁器茶碗	(11.2)	(4.2)	6.0	120		呉須　プリント	呉須線	重機撹出土			-
84	A-83	磁器茶碗	-	(4.0)	〈3.5〉	58		呉須　プリント		Cトレンチ南表採・重機撹出土・西下流			39
85	A-84	磁器茶碗	-	(4.0)	〈2.0〉	16		呉須　プリント	「圏55」呉須印	重機撹出土			-
86	A-85	磁器茶碗	-	(4.0)	〈3.3〉	39		呉須　プリント	「岐45」型印	重機撹出土		土岐郡笠原町(加藤又三郎)	-
87	A-86	磁器茶碗	(9.8)	(4.0)	6.4	50		呉須　プリント	「岐□」型印	Cトレンチ・重機撹出土・Bトレンチ北2層			3
88	A-87	磁器茶碗	(9.4)	(4.8)	〈4.4〉	52		呉須　プリント		Cトレンチ南表採・重機撹出土			-
89	A-88	磁器茶碗	-	-	〈5.0〉	32		呉須+クロム　プリント		重機撹出土			-
90	A-89	磁器茶碗	(11.3)	(4.1)	5.8	58		呉須+クロム　プリント+描		重機撹出土			-
91	A-90	磁器茶碗	(11.0)	-	〈6.7〉	30		呉須+鉄　プリント		重機撹出土・堀			20
92	A-91	磁器茶碗	(9.0)	-	〈4.5〉	19		呉須(黒)　描・吹付		Cトレンチ南1層・重機撹出土			-
93	A-92	磁器茶碗	(11.2)	(4.4)	6.1	80		鉄		西下流			-
94	A-93	磁器茶碗	(11.6)	(3.8)	5.1	48		呉須+クロム　プリント		重機撹出土			-
95	A-94	磁器茶碗	-	(4.0)	〈3.8〉	59		呉須-鉄　プリント		重機撹出土・Cトレンチ南1層			112
96	A-95	磁器茶碗	(11.4)	-	〈5.1〉	22		呉須　プリント		Cトレンチ・重機撹出土・Cトレンチ5層			32
97	A-96	磁器茶碗	(11.6)	-	〈3.3〉	10		呉須+クロム　プリント		重機撹出土・Cトレンチ5層・西下流			65
98	A-97	磁器茶碗	(10.4)	(3.8)	〈5.6〉	98		呉須+銅　プリント+描		Cトレンチ5層・重機撹出土・Bトレンチ南・Cトレンチ・Cトレンチ南表採・堀			16
99	A-98	磁器茶碗	(11.6)	(4.2)	5.6	50		櫛目+灰+クロム		重機撹出土・Bトレンチ北2層・堀			54
100	A-99	磁器茶碗	(11.8)	(4.0)	〈2.6〉	42		呉須+クロム+銅　プリント		西下流・重機撹出土			48
101	A-100	磁器茶碗	(11.2)	(4.2)	〈2.3〉	35		呉須+クロム		重機撹出土・Cトレンチ1層			1
102	A-101	磁器茶碗	(15.2)	(6.2)	5.0	70	灰釉+鉄	灰釉+鉄		重機撹出土・堀			5
103	A-102	磁器茶碗	(11.6)	(4.4)	5.3	70	呉須	呉須+鉄　プリント		重機撹出土・Cトレンチ5層・Eトレンチ4層			68
104	A-103	磁器茶碗	(11.2)	-	〈4.2〉	18		呉須　プリント		Cトレンチ・重機撹出土			14
105	A-104	磁器茶碗	(10.6)	-	〈4.4〉	12		呉須　プリント		重機撹出土			6
106	A-105	磁器茶碗	(9.2)	(4.0)	〈2.8〉	27		呉須　プリント	呉須線	重機撹出土			17
107	A-106	磁器茶碗	(7.4)	(5.2)	〈5.1〉	34		呉須　プリント		Cトレンチ南表採・重機撹出土			28
108	A-107-1	磁器茶碗	(11.6)	(4.2)	5.0	56		クロム	刻印あり	Bトレンチ北2層・Bトレンチ南表採・Cトレンチ5層・Cトレンチ南・重機撹出土			140
109	A-107-2	磁器茶碗	-	(4.0)	〈2.3〉	28		クロム	「岐1070」 クロム印	西下流		土岐郡瑞浪町(山内利市)(工場食堂)	-
110	A-108	磁器茶碗	(8.8)	(4.0)	〈2.5〉	24		呉須　プリント		重機撹出土			7
111	A-109	磁器茶碗	(10.8)	(4.2)	〈5.3〉	67		呉須　プリント		Cトレンチ北3層・重機撹出土			1
112	A-110	磁器茶碗	(11.2)	-	〈4.0〉	24		呉須　プリント		Cトレンチ5層・重機撹出土・Cトレンチ南表採			22
113	A-111	磁器茶碗	(11.0)	(4.0)	6.1	82		上絵付　銅　銀		堀・Cトレンチ南表採・重機撹出土			62
114	A-112-1	磁器茶碗	(11.0)	4.6	5.6	100	鉄	鉄	「岐84」型印　鉄	重機撹出土		土岐郡笠原町(宮川眞吉)	153
115	A-112-2	磁器茶碗	(10.8)	(5.3)	5.1	70	鉄	鉄	鉄	重機撹出土			-
116	A-112-3	磁器茶碗	-	(4.8)	〈4.0〉	44	鉄	鉄	「岐240」型印	Cトレンチ南表採		土岐郡笠原町(大岩勝三)	-
117	A-112-4	磁器茶碗	(10.6)	(4.7)	6.2	92	鉄	鉄	鉄	重機撹出土			35
118	A-112-5	磁器茶碗	-	(4.8)	5.1	55	鉄	鉄	鉄	Cトレンチ南表採・重機撹出土			12
119	A-112-6	磁器茶碗	-	(4.5)	〈3.9〉	58	鉄	鉄	「岐124」型印　鉄	重機撹出土		土岐郡笠原町(加藤代吉)	42
120	A-112-7	磁器茶碗	(11.8)	4.5	〈5.0〉	96	鉄	鉄	「岐82」型印　鉄	重機撹出土		土岐郡笠原町(古川勝一)	

通番	整理番号	種類	法量 (cm) 口径〈長〉	底径〈幅〉	器高〈厚〉	重量(g)	調整・文様 内面	外面	底部	出土位置 六門排水口修理（TTTⅠ）	旧プール解体（TTTⅡ）	陶磁器統制番号住所(氏名)	他破片出土量(g)
121	A-112-8	磁器茶碗	-	(4.0)	〈5.0〉	55	鉄	鉄	「岐263」型印　鉄	Cトレンチ南1層		多治見市(樋口次郎)	
122	A-112-9	磁器茶碗	-	(4.2)	〈1.8〉	12	鉄	鉄	「岐252」型印　鉄	Cトレンチ南		多治見市滝呂(山万製陶所)	-
123	A-112-10	磁器茶碗	(11.0)	-	〈5.0〉	18	鉄	鉄		Bトレンチ北2層			
124	A-112-11	磁器茶碗	(8.6)	-	〈4.5〉	5	鉄	鉄		重機搬出土			8
125	A-113	磁器茶碗	-	(4.8)	〈3.1〉	19	クロム	クロム+鉄	クロム	重機搬出土			18
126	A-114	磁器茶碗	(12.0)	(4.6)	5.8	55	クロム	クロム+鉄	クロム	重機搬出土・Cトレンチ南・Cトレンチ5層			210
127	A-115	磁器茶碗	-	(4.2)	5.0	26		呉須　プリント		重機搬出土			-
128	A-116	磁器茶碗	(10.8)	-	〈4.7〉	18		呉須　プリント		Bトレンチ北2層・Cトレンチ5層・重機搬出土			12
129	A-117	磁器茶碗	(11.1)	4.2	6.1	80		呉須+銅　プリント		Cトレンチ5層・重機搬出土・Bトレンチ南・Cトレンチ南表採・堀			46
130	A-118	磁器茶碗	(10.8)	-	〈4.0〉	16		呉須　プリント		重機搬出土・Bトレンチ北2層			20
131	A-119	磁器茶碗	(10.2)	-	5.9	13		呉須　プリント		重機搬出土・Cトレンチ南			18
132	A-120	磁器茶碗	(10.3)	-	〈5.5〉	20		呉須　プリント		重機搬出土			-
133	A-121	磁器茶碗	-	(4.2)	〈4.8〉	64		呉須	「岐40」型印	Eトレンチ8面・Eトレンチ4層		土岐郡笠原町(加藤兼太郎)	-
134	A-122	磁器茶碗	-	(4.8)	〈4.1〉	40				重機搬出土			-
135	A-123	磁器茶碗	(10.6)	-	〈5.0〉	23		呉須+クロム+銅　プリント		重機搬出土			12
136	A-124	磁器茶碗	-	(2.0)	〈5.4〉	24		呉須　プリント		Bトレンチ北2層			-
137	A-125	磁器茶碗	(5.0)	-	〈3.2〉	12		呉須+銅　プリント		重機搬出土			1
138	A-126	磁器茶碗	(4.8)	-	〈5.4〉	16		呉須　プリント		Bトレンチ南・重機搬出土			18
139	A-127	磁器茶碗	-	(2.1)	〈3.1〉	16			「岐111」型印	西下流		土岐郡笠原町(水野己代治)	-
140	A-128	磁器茶碗	(12.4)	-	〈3.2〉	8		呉須　プリント		Cトレンチ5層			-
141	A-129	磁器茶碗	(10.6)	(4.0)	〈3.8〉	48		呉須+鉄		Cトレンチ・西下流・Cトレンチ北3層・Cトレンチ南1層・重機搬出土・堀			-
142	A-130	磁器茶碗	(10.2)	-	〈3.7〉	10		呉須　プリント		重機搬出土			9
143	A-131	磁器茶碗	(10.2)	-	〈3.0〉	28		呉須+鉄　プリント		Cトレンチ5層・重機搬出土・Cトレンチ1層・堀			14
144	A-132	磁器茶碗	-	(4.0)	〈2.9〉	32			「岐4口」型印	重機搬出土			-
145	A-133	磁器茶碗	-	(4.9)	〈2.9〉	14			「岐93」型印	重機搬出土		土岐郡笠原町(山田敬吉)	-
146	A-134	磁器茶碗	-	(2.0)	〈5.5〉	34		呉須　プリント		堀・Cトレンチ北3層			1
147	A-135	磁器茶碗	(11.3)	4.3	6.0	112		呉須　プリント		Bトレンチ南・石垣H層上表採・重機搬出土・Cトレンチ南表採			32
148	A-136	磁器茶碗	-	(2.2)	〈3.2〉	40		呉須　描	「三反田焼」呉須印	南側石垣ﾊｸﾗﾝ			-
149	A-137	磁器茶碗	(13.2)	(4.0)	〈4.6〉	62		呉須+銅　プリント	「太洋陶器」朱印	Cトレンチ1層・Cトレンチ			-
150	A-138	磁器茶碗	(14.8)	-	〈5.3〉	50		灰釉+鉄+刷目→クロム		南側石垣ﾊｸﾗﾝ			-
151	A-139	磁器茶碗	(11.3)	4.2	6.1	73		呉須　プリント+描		Cトレンチ南・重機搬出土			-
152	A-140	磁器茶碗	(10.3)	-	〈4.5〉	26	呉須　描	呉須　プリント		Cトレンチ南・重機搬出土			-
153	A-141	磁器茶碗	(9.6)	-	〈5.5〉	36		呉須　プリント		重機搬出土			4
154	A-142	磁器茶碗	(11.4)	(4.3)	6.1	40		呉須　プリント		Cトレンチ			-
155	A-143	磁器茶碗	-	4.0	〈4.0〉	59		呉須　プリント		Cトレンチ1層			-
156	A-144	磁器茶碗	-	(4.2)	〈3.5〉	34		呉須　プリント		西下流			-
157	A-145	磁器茶碗	-	(4.1)	〈3.9〉	42		呉須+クロム　プリント		重機搬出土			6
158	A-146	磁器茶碗	-	(4.0)	〈5.3〉	42		呉須　プリント		Cトレンチ南表採・Bトレンチ南・重機搬出土			18
159	A-147	磁器茶碗	(11.2)	-	〈4.7〉	17		呉須　プリント		重機搬出土			-
160	A-148	磁器茶碗	(11.0)	-	〈3.8〉	11		呉須(黒)　プリント		重機搬出土			-
161	A-149	磁器茶碗	(11.9)	(4.5)	5.6	44		刷目+クロム+白		Cトレンチ5層			-

通番	整理番号	種類	法量 (cm) 口径〈長〉	底径〈幅〉	器高〈厚〉	重量(g)	調整・文様 内面	外面	底部	出土位置 六門排水口修理（TTTⅠ）	旧プール解体（TTTⅡ）	陶磁器統制番号住所(氏名)	他破片出土量(g)
162	A-150	磁器茶碗	(10.9)	(4.2)	6.1	28		呉須　プリント		Cトレンチ・Eトレンチ3層・重機搬出土			10
163	A-151	磁器茶碗	(11.0)	-	〈3.3〉	12		呉須　プリント		Cトレンチ南・Bトレンチ北2層・重機搬出土			6
164	A-152	磁器茶碗	-	(2.0)	〈5.2〉	34		呉須　プリント		西下流			-
165	A-153	磁器茶碗	(10.4)	(4.1)	〈3.4〉	50		呉須　プリント	「岐53」呉須印	重機搬出土・堀・Cトレンチ南・石垣H面上表採		土岐郡笠原町(加藤継松)	15
166	A-154	磁器茶碗	(11.1)	-	〈4.0〉	16		呉須　プリント		Cトレンチ・Cトレンチ北3層・Cトレンチ南・Cトレンチ南表採・重機搬出土			26
167	A-155	磁器茶碗	-	(3.8)	〈4.0〉	28		呉須　プリント+描		EトレンチB面・重機搬出土			1
168	A-157	磁器茶碗	(11.0)	(3.8)	5.3	28		呉須　プリント		Bトレンチ南・堀・Cトレンチ南			13
169	A-158	磁器茶碗	-	(4.0)	〈4.0〉	19		呉須+クロム　プリント		重機搬出土			-
170	A-159	磁器茶碗	(7.6)	(4.0)	〈5.3〉	36		呉須+銅　プリント+描		重機搬出土			-
171	A-160	磁器茶碗	(11.6)	(4.0)	5.0	56		呉須+クロム+鉄　描		西下流・Eトレンチ			14
172	A-161	磁器茶碗	(10.8)	-	〈2.1〉	10		呉須　プリント		重機搬出土			6
173	A-162	磁器茶碗	-	(3.8)	〈3.1〉	28		クロム　プリント		重機搬出土			-
174	A-163	磁器茶碗	(10.6)	(4.4)	〈5.6〉	28		銀+銅　プリント		Cトレンチ5層・重機搬出土			25
175	A-164	磁器茶碗	-	3.7	〈3.7〉	34		銀+銅　プリント		重機搬出土			-
176	A-165	磁器茶碗	-	(4.0)	〈2.9〉	25		呉須　プリント		重機搬出土			-
177	A-166	磁器茶碗	-	3.8	〈1.7〉	25		呉須　プリント		重機搬出土			-
178	A-167	磁器茶碗	(10.7)	4.3	5.5	54	呉須	叩目→呉須	「岐79」型印	Cトレンチ・重機搬出土		土岐郡笠原町(大岩丹三)	10
179	A-168	磁器茶碗	(12.0)	-	〈4.0〉	18		クロム		Bトレンチ南・重機搬出土			10
180	A-169	磁器茶碗	4.4	(4.0)	〈4.4〉	36	クロム	クロム	クロム	重機搬出土			34
181	A-170	磁器茶碗	(10.6)	-	〈3.9〉	12		型抜きクロム		重機搬出土・Eトレンチ			30
182	A-171	磁器茶碗	-	(3.4)	〈3.6〉	12	クロム	クロム+鉄	クロム	重機搬出土			-
183	A-172	磁器茶碗	-	(3.4)	〈2.2〉	14		鉄	鉄	Eトレンチ4層			-
184	A-173	磁器茶碗	(9.2)	-	〈4.8〉	90		呉須　プリント		重機搬出土			80
185	A-174	磁器茶碗	(10.9)	-	〈4.2〉	12		呉須　プリント		重機搬出土			4
186	A-175	磁器茶碗	(10.8)	-	〈4.3〉	11		呉須　プリント		Cトレンチ北・重機搬出土・Cトレンチ南			18
187	A-176	磁器茶碗	-	5.2	〈4.0〉	30		呉須　プリント	印あり　呉須印	重機搬出土			22
188	A-177	磁器茶碗	(11.6)	-	〈3.1〉	16		呉須+クロム　描		重機搬出土・Cトレンチ南表採			4
189	A-178	磁器茶碗	-	(3.8)	〈2.8〉	38		クロム　プリント	「春山」クロム印	堀			-
190	A-179	磁器茶碗	(8.6)	-	〈3.3〉	40	呉須　プリント	呉須　プリント		重機搬出土			-
191	A-180	磁器茶碗	-	(4.1)	〈1.2〉	13	上絵付		「口03」呉須印	Cトレンチ南表採			-
192	A-181	磁器茶碗	(3.6)	-	〈2.1〉	10		呉須　描	「岐38」型印	重機搬出土		土岐郡笠原町(加藤総一)	-
193	A-182	磁器茶碗	-	(3.8)	〈4.3〉	14		呉須　プリント	「岐100」型印	重機搬出土		土岐郡笠原町(深川國一)	-
194	A-183	磁器茶碗	(10.0)	-	〈3.7〉	8		呉須　プリント		重機搬出土			8
195	A-184	磁器茶碗	(11.0)	-	〈4.0〉	10		呉須　プリント		重機搬出土			-
196	A-185	磁器茶碗	(9.5)	-	〈5.8〉	18		呉須　描		重機搬出土			-
197	A-186	磁器茶碗	(11.0)	-	〈5.3〉	14		呉須+鉄　プリント		堀			-
198	A-187	磁器茶碗	(8.3)	-	〈4.5〉	14		呉須　プリント		重機搬出土			-
199	A-188	磁器茶碗	(12.6)	-	〈6.0〉	16		呉須　プリント		重機搬出土			-
200	A-189	磁器茶碗	(10.4)	-	〈4.1〉	10		呉須　プリント		重機搬出土			-
201	A-190	磁器茶碗	(11.7)	-	〈4.0〉	6		呉須　プリント		重機搬出土			-
202	A-191	磁器茶碗	(11.0)	-	〈2.3〉	18		呉須　プリント		Cトレンチ南表採・重機搬出土			-

通番	整理番号	種類	法量 (cm) 口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	重量(g)	調整・文様 内面	外面	底部	出土位置 六門排水口修理 (TTT I)	旧プール解体 (TTT II)	黒門西側石垣(TTT III)	総破片出土量(g)
203	A-192	磁器茶碗	(11.0)	-	(3.8)	16		呉須　プリント		重機搬出土			-
204	A-193	磁器茶碗	(9.5)	-	(3.3)	8		呉須　プリント＋描		重機搬出土			-
205	A-194	磁器茶碗	(9.4)	-	(3.6)	8		呉須　プリント		Cトレンチ北・重機搬出土・堀			46
206	A-195	磁器茶碗	(5.4)	-	(4.0)	15		呉須　プリント		Cトレンチ南表採			-
207	A-196	磁器茶碗	(9.8)	-	(4.0)	10		呉須　プリント		Cトレンチ南表採			-
208	A-197	磁器茶碗	(13.0)	-	(3.2)	10		呉須　プリント		石垣H面上表採			-
209	A-198	磁器茶碗	(11.5)	-	(3.0)	8		呉須　プリント		Cトレンチ5層・重機搬出土			6
210	A-199	磁器茶碗	(11.6)	-	(3.0)	4		呉須　プリント		重機搬出土			2
211	A-200	磁器茶碗	(11.0)	-	(3.0)	7		呉須　プリント		石垣B面B6-6東側石下			-
212	A-201	磁器茶碗	(12.0)	-	(3.5)	8		呉須　プリント		重機搬出土・Bトレンチ北2層			8
213	A-202	磁器茶碗	(11.3)	-	(2.5)	8		呉須　プリント		重機搬出土			-
214	A-203	磁器茶碗	(11.3)	-	(2.5)	6		呉須　プリント		Bトレンチ北2層			-
215	A-204	磁器茶碗	-	-	(4.8)	8		呉須　プリント		重機搬出土・石垣H面上表採			6
216	A-205	磁器茶碗	(11.4)	-	(3.7)	16		呉須　描		Cトレンチ5層			-
217	A-206	磁器茶碗	(11.6)	-	(4.3)	8		呉須　プリント		Cトレンチ南・重機搬出土			6
218	A-207	磁器茶碗	(10.0)	-	(4.2)	15		呉須　プリント		重機搬出土・Bトレンチ北2層・Eトレンチ4層			34
219	A-208	磁器茶碗	(10.0)	-	(3.0)	12		呉須－クロム　プリント		重機搬出土			14
220	A-209	磁器茶碗	(8.7)	-	(4.6)	6		呉須　プリント		Cトレンチ・重機搬出土			8
221	A-210	磁器茶碗	(10.8)	-	(3.5)	8		呉須　プリント		重機搬出土			14
222	A-211	磁器茶碗	(9.2)	(4.8)	(4.1)	20		呉須　プリント		重機搬出土			-
223	A-212	磁器茶碗	-	-	(3.6)	5		呉須＋コバルト　描		重機搬出土			-
224	A-213	磁器茶碗	(11.0)	-	(4.0)	10	灰釉	呉須＋？　描		南堀石垣ｶｸﾗﾝ			-
225	A-214	磁器茶碗	-	-	(2.9)	4		鉄＋クロム＋銅　プリント		重機搬出土			-
226	A-215	磁器茶碗	(13.0)	-	(3.4)	10		鉄＋クロム＋銅　プリント＋描		石垣B面B6-6東側石下			-
227	A-216	磁器茶碗	(10.0)	(4.2)	5.5	28	呉須　プリント	呉須　プリント		南堀石垣ｶｸﾗﾝ		II工区土塁	42
228	A-217	磁器茶碗	(12.4)	-	(3.5)	10	呉須　プリント	呉須　プリント				II工区土塁	-
229	A-218	磁器茶碗	-	(4.1)	(1.1)	26	呉須(黒)　プリント	呉須（黒）　プリント				II工区通路埋土	-
230	B-1	磁器湯呑(丸形)	8.4	3.1	4.7	85		呉須　プリント	呉須線	重機搬出土・堀・Bトレンチ南・Bトレンチ北2層・Cトレンチ・Cトレンチ1層・Cトレンチ5層・Cトレンチ北・Cトレンチ北5層・Cトレンチ南・Cトレンチ南表採・Eトレンチ・Eトレンチ4層・Eトレンチ・北側土塁上面・西下流	㋐トレンチ表土層 ﾌﾟｰﾙ排水口表層上		8190
231	B-2	磁器湯呑(丸形)	(8.2)	3.2	4.8	72		呉須　プリント		重機搬出土・Bトレンチ北2層・Cトレンチ南・Cトレンチ南表採・Eトレンチ3層・西下流・堀	㋐トレンチ上層 ㋐トレンチ下層		988
232	B-3	磁器湯呑(丸形)	8.1	3.2	4.8	104		呉須　プリント	呉須線	重機搬出土・Bトレンチ北2層・Bトレンチ南・Cトレンチ・Cトレンチ1層・Cトレンチ南・Cトレンチ北・石垣H面上表採・堀			1375
233	B-4	磁器湯呑(丸形)	(7.6)	2.8	4.5	50		呉須　プリント		重機搬出土・Bトレンチ南・Cトレンチ・Cトレンチ1層・Cトレンチ南1層・Eトレンチ	櫓台南石垣石組暗渠		1036
234	B-5	磁器湯呑(丸形)	(8.5)	3.1	4.8	50		呉須　プリント		重機搬出土・Cトレンチ5層・Bトレンチ南5層・Cトレンチ北3層・Eトレンチ4層・Eトレンチ			260
235	B-6	磁器湯呑(丸形)	8.2	3.2	4.6	70		呉須　プリント		重機搬出土・Bトレンチ南・Bトレンチ北2層・Cトレンチ1層・Cトレンチ南・Cトレンチ南表採・Cトレンチ北3層・石垣H面上表採・堀	㋐トレンチ上層 ㋐トレンチ表土層		1320
236	B-7	磁器湯呑(丸形)	(8.0)	(2.8)	4.7	44		呉須　プリント	呉須線	重機搬出土・Cトレンチ1層・西下流・Cトレンチ・石垣B面B6-6東側石下			106
237	B-8	磁器湯呑(丸形)	(8.1)	(3.0)	4.8	42		呉須　プリント		重機搬出土			74
238	B-9	磁器湯呑(丸形)	(8.3)	3.2	4.7	38		呉須　プリント	呉須線	重機搬出土・Bトレンチ北2層			32

通番	整理番号	種類	法量(cm) 口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	重量(g)	調整・文様 内面	外面	底部	出土位置 穴門排水口修理（TTTI）	旧プール解体（TTTII）	黒門内側石垣(TTTIII)	陶磁器統制番号住所氏名	細破片出土量(g)
239	B-10	磁器湯呑(丸形)	8.0	(3.2)	4.8	56		呉須　プリント	呉須線	重機搬出土・Bトレンチ北2層・Cトレンチ南	砲台南石垣石組暗渠			274
240	B-11	磁器湯呑(丸形)	(8.0)	-	(3.0)	12		呉須＋クロム　プリント		Cトレンチ南5層・Cトレンチ南表採・重機搬出土				30
241	B-12	磁器湯呑(丸形)	(8.0)	(3.0)	4.8	28		呉須　プリント		重機搬出土・Bトレンチ南	㋐トレンチ上層			8
242	B-13	磁器湯呑(丸形)	(8.2)	-	(3.7)	24		呉須　プリント		重機搬出土				20
243	B-14	磁器湯呑(丸形)	8.2	3.0	4.8	62		呉須　プリント	呉須線	重機搬出土	㋐トレンチ表土層・表採	I工区土塁		128
244	B-15	磁器湯呑(丸形)	(8.0)	(3.0)	4.8	24		呉須　プリント	呉須線	重機搬出土				8
245	B-16	磁器湯呑(丸形)	7.8	2.6	4.6	63		呉須　プリント		石垣中櫓上表採・堀・Bトレンチ南・Cトレンチ1層・Cトレンチ南表採・重機搬出土				110
246	B-17	磁器湯呑(丸形)	(8.2)	-	(3.8)	15		呉須　プリント		Bトレンチ南・重機搬出土・Cトレンチ北・Cトレンチ北3層				10
247	B-18	磁器湯呑(丸形)	(7.8)	(3.0)	4.8	50		呉須　プリント	呉須線	重機搬出土・Bトレンチ北2層				14
248	B-19	磁器湯呑(丸形)	(8.2)	(3.2)	4.8	40		呉須　プリント	呉須線	重機搬出土				-
249	B-20	磁器湯呑(丸形)	(7.0)	-	(4.3)	30	みこみに呉須	呉須　プリント		重機搬出土				-
250	B-21	磁器湯呑(丸形)	(8.0)	(3.0)	4.8	32		呉須　プリント		重機搬出土・Bトレンチ南				106
251	B-22	磁器湯呑(丸形)	8.0	3.0	4.9	94		呉須　プリント	呉須線	重機搬出土				-
252	B-23	磁器湯呑(丸形)	8.6	(3.0)	(3.4)	22		呉須　プリント		重機搬出土・Bトレンチ北2層				18
253	B-24	磁器湯呑(丸形)	(7.4)	(2.8)	4.6	22		呉須　プリント	呉須線	重機搬出土				8
254	B-25	磁器湯呑(丸形)	(8.0)	(2.8)	4.8	22		呉須　プリント		Bトレンチ北2層・Cトレンチ北3層・重機搬出土				50
255	B-26	磁器湯呑(丸形)	(8.2)	(3.0)	4.6	46		呉須　プリント		重機搬出土・Bトレンチ南・Cトレンチ南・Cトレンチ・Bトレンチ4層	㋓トレンチ表土層			138
256	B-27	磁器湯呑(丸形)	(8.2)	(3.0)	4.8	48		呉須　プリント	呉須線	重機搬出土・Bトレンチ北2層・Cトレンチ南・Cトレンチ				235
257	B-28	磁器湯呑(丸形)	8.0	(3.0)	4.4	50		呉須　プリント	呉須線	重機搬出土				28
258	B-29	磁器湯呑(丸形)	-	(3.0)	(4.4)	24		呉須　プリント	呉須線	重機搬出土				-
259	B-30	磁器湯呑(丸形)	(8.0)	-	(3.8)	13		呉須　プリント		重機搬出土				-
260	B-31	磁器湯呑(丸形)	(7.8)	(3.0)	4.4	17		呉須　プリント	呉須線	Cトレンチ南表採・重機搬出土				22
261	B-32	磁器湯呑(丸形)	(8.1)	(3.0)	4.8	44		呉須　プリント	呉須線	重機搬出土・Bトレンチ南				40
262	B-33	磁器湯呑(丸形)	(9.0)	(3.2)	4.7	60		呉須　プリント	呉須線	重機搬出土・Cトレンチ5層・Bトレンチ南	㋐トレンチ上層			56
263	B-34	磁器湯呑(丸形)	(8.2)	3.2	4.8	60		呉須　プリント	「勝久」呉須印　呉須線	重機搬出土				-
264	B-35	磁器湯呑(丸形)	(8.0)	(3.2)	4.7	84		呉須＋鉄　プリント		重機搬出土				25
265	B-36	磁器湯呑(丸形)	(8.1)	3.0	4.7	74		呉須　プリント	「岐453」製印	Bトレンチ北2層			土岐郡土岐津町定林寺(成瀬金太郎)	-
266	B-37	磁器湯呑(丸形)	(8.4)	(3.0)	4.7	70	「仁 有田 練習電話「〇番」呉須	呉須　プリント	呉須線	Bトレンチ北2層・Cトレンチ1層・Cトレンチ5層・Eトレンチ B面・重機搬出土				339
267	B-38	磁器湯呑(丸形)	8.2	3.0	4.7	116		呉須　プリント		Cトレンチ・重機搬出土				-
268	B-39	磁器湯呑(丸形)	(8.0)	(3.0)	4.6	54		呉須　プリント	「岐口」呉須印　呉須線	重機搬出土				16
269	B-40	磁器湯呑(丸形)	(8.2)	(3.0)	4.7	46		呉須　プリント	呉須線	Bトレンチ北2層・重機搬出土				-
270	B-41	磁器湯呑(丸形)	(8.2)	(3.0)	4.6	42		呉須　プリント		重機搬出土				-
271	B-42	磁器湯呑(丸形)	(8.0)	(2.8)	4.6	35		呉須　プリント	呉須線	重機搬出土				3
272	B-43	磁器湯呑(丸形)	(8.6)	-	(4.0)	18		呉須　プリント		重機搬出土・Cトレンチ1層				6
273	B-44	磁器湯呑(丸形)	(8.8)	(3.2)	4.8	46		呉須　プリント	呉須線	重機搬出土				
274	B-45	磁器湯呑(丸形)	(8.2)	3.0	4.8	50		呉須　プリント	「キ 澤屋」呉須印　呉須線	重機搬出土・Cトレンチ南表採				82
275	B-46	磁器湯呑(丸形)	(7.9)	3.0	4.4	62		呉須　プリント	「恵山」呉須印　呉須線	重機搬出土				-
276	B-47	磁器湯呑(丸形)	7.4	2.8	4.4	72		呉須　プリント	呉須線	重機搬出土				-
277	B-48	磁器湯呑(丸形)	(7.9)	(3.0)	4.5	44		呉須　プリント	呉須線	重機搬出土・Cトレンチ南表採・石垣旧面上表採				48
278	B-49	磁器湯呑(丸形)	(7.2)	-	(3.7)	24		呉須　プリント		重機搬出土				-
279	B-50	磁器湯呑(丸形)	(8.7)		(4.0)	32		呉須　プリント		重機搬出土				14

通番	整理番号	種類	法量(cm)				調整・文様		底部	出土位置		陶磁器銘番号(住所氏名)	他破片出土量(g)
			口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	重量(g)	内面	外面		六門排水口修理（TTTⅠ）	旧プール解体（TTTⅡ）		
280	B-51	磁器湯呑(丸形)	(8.0)	3.0	4.7	70		呉須 プリント	呉須線	Cトレンチ北3層・重機搬出土			-
281	B-52	磁器湯呑(丸形)	(8.0)	(3.0)	4.5	34		呉須 プリント	呉須線	Cトレンチ5層・重機搬出土			1
282	B-53	磁器湯呑(丸形)	(9.3)	-	(3.6)	12		呉須 プリント		重機搬出土			28
283	B-54	磁器湯呑(丸形)	(8.0)	(2.9)	4.7	30		呉須 プリント	「岐314」呉須印	重機搬出土・Bトレンチ南		土岐郡土岐津町土岐口(加藤亮平)	9
284	B-55	磁器湯呑(丸形)	-	(2.8)	(4.2)	26		呉須 プリント	呉須線	重機搬出土・堀・Cトレンチ北3層			20
285	B-56	磁器湯呑(丸形)	(8.1)	-	(3.7)	30		呉須 プリント		堀・Cトレンチ5層・重機搬出土			41
286	B-57	磁器湯呑(丸形)	-	(3.4)	(4.1)	32		呉須 プリント	呉須線	Bトレンチ南・重機搬出土・西下流			36
287	B-58	磁器湯呑(丸形)	(8.5)	-	(3.8)	25		呉須 プリント	呉須線	重機搬出土			38
288	B-59	磁器湯呑(丸形)	(8.2)	3.0	4.6	42		呉須 プリント	「岐416」呉須印 呉須線	重機搬出土		土岐郡土岐津町定林寺(田中徳五)	-
289	B-60	磁器湯呑(丸形)	(7.8)	2.9	4.6	32		呉須 プリント	呉須線	Bトレンチ北2層・重機搬出土			-
290	B-61	磁器湯呑(丸形)	(8.5)	-	(4.5)	40		呉須 プリント	呉須線	Bトレンチ北2層			-
291	B-61	磁器湯呑(丸形)	(7.7)	(2.5)	2.7	12		呉須 プリント		重機搬出土			14
292	B-62	磁器湯呑(丸形)	-	(3.1)	(3.3)	28		呉須 プリント	呉須線	重機搬出土			-
293	B-63	磁器湯呑(丸形)	(7.8)	(3.0)	4.3	24		呉須 プリント	「黒屋」呉須印 呉須線	Cトレンチ5層・重機搬出土			28
294	B-64	磁器湯呑(丸形)	8.0	(2.8)	4.6	72		呉須 プリント	呉須線	Cトレンチ南・重機搬出土			-
295	B-65	磁器湯呑(丸形)	(8.5)	-	(3.8)	33		呉須 プリント		重機搬出土			-
296	B-66	磁器湯呑(丸形)	-	(3.0)	(3.0)	22		呉須 プリント	呉須線	重機搬出土			-
297	B-67	磁器湯呑(丸形)	-	3.0	(2.1)	28		呉須 プリント	呉須線	重機搬出土			24
298	B-68	磁器湯呑(丸形)	(7.8)	-	(4.6)	20		呉須 プリント	呉須線	重機搬出土・堀	㋐トレンチ上層		42
299	B-69	磁器湯呑(丸形)	-	-	-	16		呉須 プリント	呉須線	重機搬出土			-
300	B-70	磁器湯呑(丸形)	-	-	-	10		呉須 プリント		Cトレンチ5層			-
301	B-71	磁器湯呑(丸形)	-	(3.0)	(3.4)	36		呉須 プリント	呉須線	Cトレンチ南表採・Cトレンチ5層・重機搬出土			42
302	B-72	磁器湯呑(丸形)	-	(3.0)	(3.6)	36		呉須 プリント	呉須線	重機搬出土			40
303	B-73	磁器湯呑(丸形)	-	3.0	(4.2)	44		呉須 プリント	呉須線	重機搬出土			-
304	B-74	磁器湯呑(丸形)	(8.0)	(2.6)	4.6	34		呉須 プリント		重機搬出土			10
305	B-75	磁器湯呑(丸形)	(8.0)	(3.6)	4.7	30		呉須+鉄 プリント	判読不明 呉須印	重機搬出土			-
306	B-76	磁器湯呑(丸形)	-	(3.5)	(6.0)	74		呉須 プリント		Bトレンチ北2層・重機搬出土			-
307	B-77	磁器湯呑(丸形)	-	-	-	19		呉須 プリント		重機搬出土・石垣日面上表採	㋐トレンチ表土層		20
308	B-78	磁器湯呑(丸形)	(8.4)	(2.6)	4.6	43		呉須 プリント	呉須線	重機搬出土	㋐トレンチ上層		18
309	B-79	磁器湯呑(腰張丸形)	(7.8)	(3.6)	4.9	60		黒+ピンク プリント		Cトレンチ北3層・堀			10
310	B-80	磁器湯呑(丸形)	(8.0)	-	(1.8)	5		呉須 プリント		重機搬出土			-
311	B-81	磁器湯呑(筒丸形)	-	-	-	6		呉須 プリント		重機搬出土			-
312	B-82	磁器湯呑(丸形)	(8.2)	(3.0)	4.7	50		呉須 プリント	呉須線	重機搬出土・Cトレンチ北3層・Cトレンチ南			6
313	B-83	磁器湯呑(丸形)	(8.2)	-	(3.9)	16		呉須(黒) プリント		重機搬出土			-
314	B-84	磁器湯呑(丸形)	(8.4)	3.0	4.7	58		呉須 プリント	呉須線	重機搬出土・堀・Cトレンチ5層			6
315	B-85	磁器湯呑	-	3.0	(1.7)	16		呉須	「Ⓐ[illegible]」呉須印	重機搬出土			-
316	B-86	磁器湯呑(丸形)	-	(3.0)	(3.7)	14	呉須	呉須 プリント	呉須線	Eトレンチ・西下流・重機搬出土			7
317	B-87	磁器湯呑(丸形)	(7.8)	-	(3.9)	8		呉須 プリント		重機搬出土			-
318	B-88	磁器湯呑(丸形)	-	-	-	10		呉須 プリント		重機搬出土			1
319	B-89	磁器湯呑(丸形)	(8.2)	-	(3.9)	26		呉須 プリント		Bトレンチ南			-
320	B-90	磁器湯呑(丸形)	-	-	-	8		呉須 プリント	呉須線	重機搬出土			-

通番	整理番号	種類	法量(cm) 口径〈長〉	底径〈幅〉	器高〈厚〉	重量(g)	調整・文様 内面	外面	底部	出土位置 穴門排水口修理（TTT I）	旧プール解体（TTT II）	陶磁器統制番号(生産者名)	伝破片出土量(g)
321	B-91	磁器湯呑(丸形)	-	3.0	〈3.8〉	40		呉須　プリント		重機搬出土			-
322	B-92	磁器湯呑(丸形)	(8.0)	(2.6)	4.7	30		呉須　プリント	「岐口」呉須印	重機搬出土			16
323	B-93	磁器湯呑(丸形)	-	(3.0)	〈3.2〉	30		呉須　プリント	判読不明 呉須印　呉須線	重機搬出土			-
324	B-94	磁器湯呑(丸形)	(8.2)	(3.0)	〈3.0〉	12	呉須	呉須　プリント	呉須線	重機搬出土			29
325	B-95	磁器湯呑(丸形)	-	-	-	12		呉須　プリント		重機搬出土			2
326	B-96	磁器湯呑(丸形)	(8.1)	-	〈2.9〉	13		呉須　プリント		重機搬出土			-
327	B-97	磁器湯呑(丸形)	(8.3)	-	〈3.4〉	26		呉須　プリント		重機搬出土・Bトレンチ南			-
328	B-98	磁器湯呑(丸形)	(8.0)	3.4	4.6	30		呉須　プリント	呉須線	重機搬出土			-
329	B-99	磁器湯呑(丸形)	(8.3)	(3.0)	4.8	30		呉須　プリント	呉須線	重機搬出土			-
330	B-100	磁器湯呑(丸形)	-	3.2	〈4.8〉	30			「銘酒四海浪」朱印	重機搬出土			-
331	B-101	磁器湯呑(丸形)	-	(3.0)	〈3.6〉	40	「㊥ 中屋履物店」呉須	呉須　プリント		重機搬出土			10
332	B-102	磁器湯呑(丸形)	-	-	-	8		呉須　プリント		重機搬出土			-
333	B-103	磁器湯呑(丸形)	-	-	-	10		呉須　プリント		重機搬出土			-
334	B-104	磁器湯呑(丸形)	(8.0)	-	〈2.7〉	4		呉須　プリント		Bトレンチ南・重機搬出土			8
335	B-105	磁器湯呑(丸形)	(8.2)	(3.0)	4.4	40		呉須＋銅　プリント		重機搬出土			-
336	B-107	磁器湯呑(筒丸形)	(8.0)	(4.0)	4.5	40		呉須　プリント	凹高台	Cトレンチ南表採・重機搬出土	砲台南石垣石積補修		16
337	B-108	磁器湯呑(丸形)	(8.3)	(3.0)	4.7	38		上絵付		Bトレンチ南5層・重機搬出土・Cトレンチ			40
338	B-109	磁器湯呑(丸形)	(8.0)	-	〈4.3〉	26		上絵付		重機搬出土			-
339	B-110	磁器湯呑(丸形)	-	-	-	33		上絵付		重機搬出土			5
340	B-111	磁器湯呑(丸形)	(8.0)	-	〈4.2〉	12	呉須線	呉須＋鉄　プリント	呉須線	重機搬出土			-
341	B-112	磁器湯呑(丸形)	-	(3.0)	〈2.8〉	14		呉須	呉須線	重機搬出土			-
342	B-113	磁器湯呑(腰張形)	(7.0)	-	〈4.5〉	34		上絵付		Bトレンチ北2層・重機搬出土			-
343	B-114	磁器湯呑(丸形)	(7.6)	-	〈4.4〉	18		上絵付		Cトレンチ南表採・重機搬出土			74
344	B-115	磁器湯呑(丸形)	(8.2)	-	〈3.0〉	12		上絵付		重機搬出土			-
345	B-116	磁器湯呑(丸形)	(9.6)	-	〈4.3〉	18		上絵付		重機搬出土			-
346	B-117	磁器湯呑(筒丸形)	(7.2)	-	〈4.5〉	12		上絵付		重機搬出土・Cトレンチ北・Eトレンチ4層			18
347	B-118	磁器湯呑(筒丸形)	(7.2)	-	〈5.5〉	30		「梅底 乾物 青果」朱書 呉須　プリント		重機搬出土			-
348	B-119	磁器湯呑(筒形)	-	-	〈5.8〉	18		上絵付		Cトレンチ南表採・重機搬出土			-
349	B-120	磁器湯呑(端反形)	(7.3)	(3.2)	5.3	48		「口屋本店口口 日田五番」呉須書のものもあり　＋鉄		重機搬出土・Bトレンチ南・Eトレンチ・Cトレンチ北			100
350	B-121	磁器湯呑(端反形)	(7.6)	-	〈3.2〉	12		鉄		重機搬出土			-
351	B-122	磁器湯呑(筒丸形)	(6.5)	-	〈4.6〉	18		「分口黒下駅前梅店口口」呉須書　呉須		重機搬出土			-
352	B-123	磁器湯呑(端反形)	(7.2)	3.2	4.7	38		灰釉＋呉須	「[illegible]」呉須印	重機搬出土			54
353	B-124	磁器湯呑(筒丸形?)	-	3.2	〈2.4〉	48		上絵付	「九谷」朱印	重機搬出土			-
354	B-125	磁器湯呑(筒形)	(8.6)	(4.8)	7.1	69	呉須　プリント	呉須	判読不明　呉須印	Bトレンチ北2層・重機搬出土・堀			14
355	B-126	磁器湯呑(腰張形)	(7.0)	-	〈4.9〉	18	灰釉	灰釉＋呉須		重機搬出土			-
356	B-127	磁器湯呑(丸形)	-	(3.0)	〈2.5〉	24		上絵付		重機搬出土			-
357	B-128	磁器湯呑(丸形)	(7.4)	4.2	4.5	50		上絵付		Bトレンチ南			-
358	B-129	磁器湯呑(平杉形)	(7.8)	(3.2)	4.7	88		呉須＋プリント	呉須線	Cトレンチ・Bトレンチ北2層・Cトレンチ1層・堀・Cトレンチ南・重機搬出土			802
359	B-130	磁器湯呑(筒丸形)	6.8	3.3	6.7	96		呉須＋プリント	呉須線	Cトレンチ南表採・西下壕・Cトレンチ・Cトレンチ5層・Cトレンチ北・Cトレンチ北3層・Cトレンチ南・Eトレンチ・重機搬出土			1088
360	B-131	磁器湯呑(筒丸形)	(6.5)	-	〈5.5〉	24		呉須＋プリント		Cトレンチ1層・重機搬出土			8
361	B-132	磁器湯呑(筒丸形)	-	(4.2)	〈4.3〉	16		上絵付		重機搬出土			-

通番	整理番号	種類	法量(cm) 口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	重量(g)	調整・文様 内面	外面	底部	出土位置 穴門排水口修理(TTTⅠ)	旧プール解体(TTTⅡ)	陶磁器統制番号生産者(氏名)	絶破片出土量(g)
362	B-133	磁器湯呑(筒丸形)	(6.0)	-	〈4.7〉	18		上絵付		重機搬出土・Eトレンチ4層			16
363	B-134	磁器湯呑(筒丸形)	(6.0)	-	〈4.3〉	14		上絵付		堀			-
364-1	B-135-2	磁器湯呑 蓋	(5.0)	天井(6.4)	〈1.5〉	10		上絵付	判読不明 当窯印 呉須線	重機搬出土			-
364-2	B-135-1	磁器湯呑(腰張形)	-	-	-	14		上絵付		重機搬出土・Cトレンチ北3層・Cトレンチ南表採・Eトレンチ			86
365-1	B-136-1	磁器湯呑(筒丸形)	(5.8)	-	〈4.8〉	48	文字あり	上絵付		Eトレンチ4層・重機搬出土・Bトレンチ南・Cトレンチ南・Cトレンチ北			100
365-2	B-136-2	磁器湯呑(筒丸形)	-	-	-	14	文字あり	上絵付		重機搬出土			-
365-3	B-136-3	磁器湯呑(筒丸形)	(6.6)	-	〈4.7〉	4		上絵付		Bトレンチ南・重機搬出土			-
366	B-137	磁器湯呑(筒丸形)	(7.2)	-	〈4.1〉	14		上絵付		重機搬出土			-
367	B-138	磁器湯呑(筒丸形)	(6.8)	-	〈6.3〉	18		上絵付		重機搬出土・Cトレンチ南表採			14
368	B-139	磁器湯呑(筒丸形)	(6.0)	(3.0)	〈6.3〉	38		上絵付	「九谷」朱印	重機搬出土			-
369	B-140	磁器湯呑(筒丸形)	(7.2)	-	〈5.2〉	28		呉須		Cトレンチ南			-
370	B-141	磁器湯呑(腰張形)	(7.0)	-	〈4.5〉	38	みこみに呉須	鉄 彫込み		重機搬出土			52
371	B-142	磁器湯呑(筒丸形)	(6.4)	-	〈2.8〉	8		上絵付		重機搬出土			10
372	B-143	磁器湯呑(筒丸形)	(7.0)	-	〈3.0〉	8		上絵付		重機搬出土・Cトレンチ南	㊥トレンチ表土層		26
373-1	B-144-1	磁器湯呑(筒丸形)	(7.4)	-	〈4.3〉	11		(印) 「□□陶磁本店」		重機搬出土		(統制陶器工場食器)	50
373-2	B-144-2	磁器湯呑(筒丸形)	(7.4)	-	〈6.0〉	33		クロム二本		Eトレンチ4層		(統制陶器工場食器)	-
374	B-145	磁器湯呑(筒丸形)	-	-	-	17		呉須 プリント		重機搬出土			-
375	B-146	磁器湯呑(筒丸形)	(6.5)	-	〈4.4〉	12		上絵付		重機搬出土			-
376	B-147	磁器湯呑(丸形)	(8.0)	(3.6)	4.7	18		上絵付		重機搬出土			-
377	B-148	磁器湯呑(筒丸形)	(6.4)	-	〈3.9〉	18		「米穀肥料」 呉須書		Cトレンチ南表採・重機搬出土			-
378	B-149	磁器湯呑(丸形)	(7.2)	-	〈4.9〉	28		富士山のクロムプリント		Cトレンチ5層			-
379	B-150	磁器湯呑(筒丸形)	-	-	-	12		「□□を期す」 クロム		重機搬出土			-
380	B-151	磁器湯呑(筒丸形)	(7.0)	-	〈4.5〉	12		「エソチテー号 アンゼン号 卸小賣工藤自転商会 電話野沢二□」 呉須書		重機搬出土			-
381	B-152	磁器湯呑(筒丸形)	(6.6)	4.0	7.0	94		クロム 銅 プリント		Bトレンチ南5層・重機搬出土			-
382	B-153	陶器湯呑(筒丸形)	(6.8)	(4.2)	6.7	38		刻書あり	「皇紀二千六百年 □原参拝記念 □安焼」 押印	Cトレンチ・重機搬出土			-
383	B-154	磁器湯呑(筒丸形)	(7.0)	3.4	5.3	35		明山 施釉		Bトレンチ北2層・重機搬出土・Cトレンチ北			176
384	B-155	磁器湯呑(筒丸形)	-	-	-	37		上絵付消失		重機搬出土			-
385	B-156	磁器湯呑(丸形)	-	3.4	〈1.9〉	22	生地が緑色	カキ目+鉄	「岩崎弐服店」 呉須印	重機搬出土			-
386	B-157	磁器湯呑(丸形)	-	(3.5)	〈1.7〉	12		灰釉+鉄釉	錆釉	重機搬出土			
387	B-158-1	磁器湯呑(ロクロ形)	(7.6)	(5.4)	4.6	18	生地が緑色			重機搬出土・Cトレンチ1層・Cトレンチ南			40
388	B-158-2	磁器湯呑(丸形)	(7.0)	-	〈4.0〉	17	生地が緑色			堀			-
389	B-159	磁器湯呑(筒丸形)	(8.0)	(4.0)	〈3.9〉	47	青磁釉	呉須 青磁釉	円高台	堀・Cトレンチ南表採・重機搬出土			86
390	B-160	磁器湯呑(丸形)	(7.5)		〈3.8〉	10	灰釉	クロム+鉄 描		重機搬出土・Cトレンチ南表採			38
391	B-161	磁器湯呑(丸形)	(8.8)	3.2	〈1.6〉	20	生地が緑色			重機搬出土・Cトレンチ・堀			108
392	B-162	磁器湯呑(丸形)	-	(3.2)	〈4.8〉	20	生地が緑色	朱書文字		重機搬出土・Bトレンチ北2層・Cトレンチ1層	(ハ)ケ王トレンチ		66
393	B-163	磁器湯呑(丸形)	(8.0)	(3.8)	4.6	40		呉須 プリント	呉須線	堀・Bトレンチ北2層・重機搬出土			32
394	B-164	磁器湯呑(丸形)	(8.6)	(3.8)	4.7	24		呉須 プリント	呉須線	堀			-

通番	整理番号	種類	法量 (cm) 口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	重量(g)	調整・文様 内面	外面	底部	出土位置 穴門排水口修理（TTTⅠ）	旧プール解体（TTTⅡ）	黒門西側石垣(TTTⅢ)	他破片出土量(g)
395	B-165	磁器湯呑(丸形)	(8.2)	-	〈3.4〉	20		呉須　プリント		Cトレンチ5層・Bトレンチ北2層			-
396	B-166	磁器湯呑(丸形)	(7.4)	3.0	4.3	60		呉須　プリント		Cトレンチ南・重機搬出土			-
397	B-167	磁器湯呑(丸形)	7.3	2.8	4.4	72		呉須　プリント		Bトレンチ北2層・重機搬出土			-
398	B-168	磁器湯呑(丸形)	-	(3.0)	〈5.1〉	40		呉須　プリント	判読不明　呉須印	Bトレンチ南			-
399	B-169	磁器湯呑(丸形)	(8.0)	(2.8)	5.0	32		呉須　プリント	判読不明　呉須印 呉須線	Bトレンチ南			-
400	B-170	磁器湯呑(丸形)	-	-	-	16		呉須　プリント		Cトレンチ南・重機搬出土・Cトレンチ南1層・石垣B面B6-6東側石ド			12
401	B-171	磁器湯呑(筒丸形)	(7.8)	(4.0)	4.4	36		クロム　プリント	削高台	Eトレンチ4層・堀			-
402	B-172	磁器湯呑(丸形)	-	-	-	12		呉須　プリント		堀			-
403	B-173	磁器湯呑(丸形)	(7.8)	2.8	4.6	50		呉須　プリント	呉須線	Cトレンチ北3層・堀			5
404	B-174	磁器湯呑(筒丸形)	(6.0)	(3.0)	5.6	50		上絵付消失	「九谷」朱印	Cトレンチ北5層			-
405	B-175	磁器湯呑(筒丸形)	(6.4)	-	〈5.5〉	18		上絵付消失　プリント		Cトレンチ北5層			-
406	B-176	磁器湯呑(筒丸形)	(8.0)	(3.0)	4.5	50		呉須　プリント		Cトレンチ・Cトレンチ南表採・重機搬出土			30
407	B-177	磁器湯呑(丸形)	(8.5)	(3.2)	〈2.9〉	24		呉須　プリント		Eトレンチ4層・重機搬出土・堀	㊦トレンチ表土層	Ⅰ E区溝込 Ⅰ C区大溝石溝込	46
408	B-178	磁器湯呑(丸形)	(8.2)	-	〈3.5〉	16		呉須　プリント		Cトレンチ5層			-
409	B-179	磁器湯呑(丸形)	-	(3.0)	〈3.9〉	24		呉須　プリント	呉須線	Bトレンチ北2層			-
410	B-180	磁器湯呑(丸形)	(8.0)	(3.0)	3.8	24		呉須　プリント		Cトレンチ5層			-
411	B-181	磁器湯呑(端反形)	-	-	-	8		呉須　プリント		西下流			-
412	B-182	磁器湯呑(半筒形)	(7.6)	-	〈4.9〉	38		呉須　プリント		西下流			-
413	B-183	磁器湯呑(丸形)	(7.8)	-	〈3.9〉	26		呉須　プリント＋描		Cトレンチ5層・重機搬出土・Bトレンチ南5層			8
414	B-184	磁器湯呑(筒形)	(6.5)	-	〈4.3〉	18	呉須	呉須　プリント	呉須線	Eトレンチ4層			-
415	B-185	磁器湯呑(丸形)	-	-	-	8	呉須線	呉須　プリント		西下流			-
416	B-186	磁器湯呑(丸形)	-	-	-	14		呉須　プリント		Cトレンチ5層			-
417	B-187	磁器湯呑(丸形)	-	-	-	4		呉須　プリント		西下流			-
418	B-188	磁器湯呑(丸形)	(7.8)	-	〈3.7〉	15		呉須　プリント		Bトレンチ南・Cトレンチ			-
419	B-189	磁器湯呑(丸形)	(8.2)	(3.8)	4.8	24	呉須　青磁釉	呉須　青磁釉		Cトレンチ南表採	㊦トレンチ表土層		-
420	B-190	磁器湯呑(丸形)	-	2.7	〈1.4〉	13	呉須　プリント	呉須　プリント	判読不明　呉須印	Cトレンチ1層			-
421	B-191	磁器湯呑(丸形)	-	-	-	22		呉須　プリント	呉須線	Cトレンチ南			-
422	B-192	磁器湯呑(丸形)	(8.0)	3.6	4.8	45		呉須＋鉄	「春花精製」　呉須印	Eトレンチ4層			-
423	B-193	磁器湯呑(丸形)	-	3.2	〈1.7〉	22		クロム		Eトレンチ4層			-
424	B-194	陶器湯呑(丸形)	-	3.4	〈3.2〉	38		鉄釉＋クロム＋灰	鉄釉	重機搬出土・Bトレンチ南・Cトレンチ5層			-
425	B-195	陶器湯呑(丸形)	-	3.4	〈1.9〉	12		灰釉	灰釉	Cトレンチ			-
426	B-196	磁器湯呑(腰丸形)	(6.4)	-	〈3.6〉	24		クロム　プリント		Cトレンチ5層・重機搬出土			-
427	B-197	磁器湯呑(丸形)	-	2.9	〈1.6〉	22		上絵付　プリント	「九谷」　朱印	Cトレンチ南			-
428	B-198	磁器湯呑	(7.8)	-	〈3.9〉	14		彫込み　青磁釉		西下流			-
429	B-199	磁器湯呑(丸形)	(7.8)	-	〈3.3〉	20		呉須　プリント		Cトレンチ南			-
430-1	B-200-1	磁器湯呑(端反形)	-	3.4	〈1.7〉	17		鉄　プリント	「岐252」　押印	堀・Cトレンチ・Cトレンチ南・石垣H面上表採・重機搬出土		多治見市滝呂山万製陶所	276
430-2	B-200-2	磁器湯呑(端反形)	(8.8)	(3.2)	5.3	38		鉄　プリント		西下流			
431	B-201	磁器湯呑(丸形)	(7.8)	(3.5)	4.3	18	色釉	色釉　呉須　描		Cトレンチ			-
432	B-202	磁器湯呑(端反形)	-	-	-	12		上絵付消失		Eトレンチ4層			-
433	B-203	磁器湯呑(筒丸形)	(5.4)	-	〈6.1〉	26		呉須　描？		Bトレンチ南			-
434	B-204	磁器湯呑(筒丸形)	(6.2)	-	〈3.7〉	14		呉須　描？		Eトレンチ			-

通番	整理番号	種類	法量 (cm) 口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	重量(g)	調整・文様 内面	外面	底部	出土位置 穴門排水口修理 (TTT I)	旧プール解体 (TTT II)	陶磁器銘柄番号住所(氏名)	他破片出土量 (g)
435	B-205	磁器湯呑(筒丸形)	(7.4)	-	(4.9)	30		呉須 プリント		Cトレンチ			-
436	B-206	磁器湯呑(筒丸形)	(6.8)	-	(5.3)	20		上絵付		Cトレンチ1層・重機搬出土			20
437	B-207	磁器湯呑(筒丸形)	(6.6)	-	(6.4)	43		灰釉+呉須+クロム 描		西下流・堀	㋐トレンチ上層		24
438	B-208	磁器湯呑(筒丸形)	(7.6)	-	3.6	6	呉須 プリント	呉須 プリント		重機搬出土			-
439	B-209	磁器湯呑(筒丸形)	(6.4)	(3.6)	6.4	40		上絵付		Cトレンチ1層			-
440	B-210	磁器湯呑(筒丸形)	(6.4)	-	(5.5)	27		クロム 描		448と同個体か、 Eトレンチ4層	㋐トレンチ上層		6
441	B-211	磁器湯呑(筒丸形)	(8.0)	-	(6.7)	38	鉄釉	鉄釉		重機搬出土・Cトレンチ南表採			-
442	B-212	磁器湯呑(半筒形)	(7.4)	(3.2)	5.1	40		「[illegible]」 [illegible] 呉須書		西下流			-
443	B-213	磁器湯呑(端反形)	(8.0)	3.3	4.9	44		呉須+鉄 プリント	「高野材木店」 呉須書	Cトレンチ1層・重機搬出土			4
444	B-214	磁器湯呑(半筒形)	(7.8)	(3.5)	5.1	60		色釉 描	色釉	Eトレンチ3層	㋐トレンチ上層		24
445	B-215	磁器湯呑(半筒形)	(7.0)	-	(3.9)	20		色釉+鉄 描		Eトレンチ・西下流			-
446	B-216	磁器湯呑(半筒形)	(7.8)	-	(3.7)	8		色釉+クロム 描		西下流			-
447	B-217	陶器湯呑(筒形)	-	(3.6)	(1.9)	13		灰釉 鉄釉+呉須 プリント		Eトレンチ・重機搬出土・堀			16
448	B-218	磁器湯呑(半筒形)	-	3.6	(2.1)	24		クロム 描?		440と同個体か 西下流			-
449	B-219	磁器湯呑(半筒形)	-	(3.6)	(2.0)	13		鉄釉		西下流	㋐トレンチ表土層		45
450	B-220	磁器湯呑(半筒形)	(7.6)	-	(4.2)	24		鉄釉+クロム 描		Cトレンチ南表採・Eトレンチ4層・Eトレンチ8面・西下流・重機搬出土・堀			36
451	B-221	磁器湯呑(丸形)	-	3.0	(3.5)	40		呉須 プリント	呉須線	堀・重機搬出土			20
452	B-222	磁器湯呑(丸形)	(8.0)	(3.0)	(3.6)	10	呉須 プリント	呉須 プリント	呉須線	Bトレンチ北2層			14
453	B-223	磁器湯呑(丸形)	-	-	-	14		呉須 プリント	呉須線	Cトレンチ南表採			-
454	B-224	磁器湯呑(丸形)	(8.4)	-	(3.5)	9		呉須 プリント		Cトレンチ南表採			-
455	B-225	磁器湯呑(丸形)	(7.2)	-	(4.2)	14		呉須 プリント		Cトレンチ北3層			-
456	B-226	磁器湯呑	-	-	-	6		呉須	「岐287」呉須印	重機搬出土		土岐郡土岐津町定林寺 (伊藤健)	-
457	B-227	磁器湯呑(丸形)	-	(3.4)	(3.6)	24		上絵付	朱印あり	重機搬出土			-
458	B-228	磁器湯呑(丸形)	-	(3.0)	(3.2)	13		上絵付		Bトレンチ南5層・Bトレンチ北2層			9
459	B-229	磁器湯呑(筒丸形)	(6.6)	3.0	5.2	44		上絵付	「㋐精神薬」 印字	重機搬出土・Bトレンチ北2層			-
460	B-230	磁器湯呑(丸形)	(7.6)	3.5	4.6	30		上絵付		重機搬出土			-
461	B-231	磁器湯呑(筒丸形)	(6.4)	(4.2)	6.8	42		呉須+クロム 鉄		重機搬出土			-
462	B-232	磁器湯呑(筒丸形)	-	(4.0)	(5.4)	24		クロム+鉄		堀			-
463	B-233	磁器湯呑(筒丸形)	(5.8)	-	(5.3)	10		呉須 プリント		Cトレンチ南1層			-
464	B-234	磁器湯呑(筒丸形)	(6.1)	-	(5.7)	16		釉+鉄 描		重機搬出土	㋐トレンチ上層		18
465	B-235	磁器湯呑(筒形)	(7.0)	-	(4.9)	22		緑釉+鉄 銘「口郎口勝紀念」書		Cトレンチ北3層・Bトレンチ北2層			14
466	B-236	磁器湯呑(丸形)	-	(3.3)	(1.2)	10			「昭和陶器」 朱印	重機搬出土			-
467	B-237	磁器湯呑(丸形)	-	(3.3)	(1.6)	7		呉須	「富士姫口」 朱印	重機搬出土			-
468	B-238	磁器湯呑	-	(3.8)	(2.0)	12		呉須 プリント	判読不明 呉須印	重機搬出土	㋑㋒㋓トレンチ表土層		2
469	B-239	陶器湯呑(丸形)	(7.5)	(4.0)	5.2	16	灰釉	灰釉 呉須+クロム		Cトレンチ北3層			-
470	B-240	磁器湯呑	-	(3.9)	(2.6)	12		呉須 プリント	呉須線	重機搬出土	㋐トレンチ上層		1
471	B-241	磁器湯呑(端反形)	(7.4)	(4.0)	7.2	24		呉須 プリント		Eトレンチ4層			-
472	B-242	磁器湯呑	-	(3.8)	(2.3)	11		呉須	「瀬23口」 呉須印 呉須線	西下流			-
473	B-243	磁器湯呑(丸形)	-	(3.6)	(2.1)	12		呉須 プリント			㋐トレンチ下層		-
474	B-244	磁器湯呑(腰張形)	-	(3.5)	(5.2)	12		灰釉 クロム 銅			㋑トレンチ表土層・㋐トレンチ上層		-
475	B-245	磁器湯呑	(7.5)	-	(3.3)	18		呉須 クロム			㋑トレンチ表土層		-

通番	整理番号	種類	法量(cm) 口径〈長〉	底径〈幅〉	器高〈厚〉	重量(g)	調整・文様 内面	外面	底部	出土位置 六門排水口修理(TTTⅠ)	旧プール解体(TTTⅡ)	瀬門西側石垣(TTTⅢ)	他破片出土量(g)
476	B-247	陶器蓋香	(7.5)	(3.5)	〈2.5〉	18		呉須+鉄		重機搬出土	㋐トレンチ上層・㋑トレンチ表土層		28
477	B-248	磁器蓋香(端反形)	(9.0)	-	〈3.1〉	8	呉須　プリント	呉須　プリント			㋑㋒㋓トレンチ表土層		-
478	B-249	磁器蓋香(端反形)	(7.6)	-	〈3.0〉	6		呉須　プリント			㋔トレンチ表土層		-
479	B-250	磁器蓋香(丸形)	-	-	-	20		「□□」呉須書　呉須				Ⅱ工区道路埋土	-
480	B-251	磁器蓋香(筒丸形)	(5.4)	4.0	8.6	53		呉須－クロム　プリント				Ⅱ工区裏込	-
481	B-253	磁器蓋香(筒丸形)	-	(3.7)	〈5.5〉	24		上絵付		重機搬出土			28
482	C-0	磁器蓋	-	(3.0)	〈1.7〉	16		呉須　プリント	判読不明　呉須印			Ⅱ工区裏込	-
483	C-1	磁器蓋(484と同個体)	(5.4)	(2.2)	2.3	12	「銘酒佐久の花酒橋 印」呉須書			重機搬出土			-
484	C-2	磁器蓋(483と同個体)	(5.0)	2.2	2.8	20	「銘酒佐久の花酒橋」　呉須書			Cトレンチ西側			-
485	C-3	磁器蓋	-	2.0	〈1.6〉	6	「佐久の花」呉須書	呉須		重機搬出土			-
486	C-4	磁器蓋	-	2.0	〈1.8〉	8	「本菊泉」呉須書			重機搬出土			-
487	C-5	磁器蓋	-	(2.7)	〈1.8〉	10	「[illegible] 信州上田町石田[illegible]所」呉須書			重機搬出土			-
488	C-6	磁器蓋	-	(1.8)	〈1.4〉	4	「太古[illegible]」呉須書			重機搬出土			-
489	C-7	磁器蓋	(5.5)	-	〈1.8〉	3		「㊦銘酒口」呉須書		重機搬出土			-
490	C-8	磁器蓋	(5.0)	(2.0)	2.9	8		呉須　プリント		重機搬出土			20
491	C-9	磁器蓋	(5.6)	(2.2)	3.2	22		呉須　プリント		重機搬出土・堀			-
492	C-10	磁器蓋	-	(3.3)	〈2.8〉	14		呉須　プリント	「㊥」押印	重機搬出土			-
493	C-11	磁器蓋	(5.2)	-	〈2.2〉	2		呉須　プリント		重機搬出土			-
494	C-12	磁器蓋	-	(3.2)	〈2.9〉	13		呉須　プリント	呉須線	重機搬出土			-
495	C-13	磁器蓋	(6.6)	(2.7)	4.5	18	呉須線	呉須　プリント	筆字あり　呉須書	重機搬出土			-
496	C-14	磁器蓋	-	(3.4)	〈3.5〉	8		呉須　プリント		重機搬出土			12
497	C-15	磁器蓋	(5.4)	-	2.5	5	「高砂や　この浦ふね　あ」上絵付書	呉須　プリント		重機搬出土			-
498	C-16	磁器蓋	-	(2.7)	〈2.2〉	8		朱	「九谷」朱印	重機搬出土			-
499	C-17	磁器蓋	(6.4)	(3.0)	2.6	5				重機搬出土			-
500	C-18	磁器蓋	-	-	〈4.0〉	13		呉須　プリント		重機搬出土			-
501	C-19	磁器蓋	-	-	〈2.7〉	13		呉須線	呉須線	重機搬出土			-
502-1	C-21-1	磁器蓋	-	(3.0)	〈1.5〉	10		クロム	「九谷」朱印	Cトレンチ			-
502-2	C-21-2	磁器蓋	-	(3.0)	〈1.2〉	7		雷門陽刻	「九谷」朱印	Cトレンチ			-
503	C-22	陶器蓋	-	(3.4)	〈2.8〉	13	灰釉	灰釉＋呉須＋鉄　描		重機搬出土・Bトレンチ北2層			20
504	C-23	磁器蓋	(5.4)	1.6	2.8	19	「高砂 日[illegible]高橋」呉須書	鉄目を陽刻＋銅	高台は四角	重機搬出土			-
505	C-24	磁器蓋	-	(2.2)	〈2.0〉	13		陽刻＋色釉		重機搬出土・Bトレンチ北2層			18
506	C-25	磁器蓋	-	-	〈4.2〉	14		「口[illegible]」呉須書　陽刻＋色釉	高台は四角	重機搬出土			-
507	C-26-1	磁器蓋	-	(3.1)	〈3.1〉	30	色釉	陽刻＋色釉	釉なし　凹高台	重機搬出土		Ⅰ工区天端石裏込	54
508	C-26-2	磁器蓋	-	(3.3)	〈2.0〉	22	色釉	陽刻＋色釉	釉なし	堀		Ⅰ工区天端石裏込	5
509	C-27	磁器蓋	-	-	〈2.0〉	6				重機搬出土			-
510	C-28	陶器蓋	-	(3.1)	〈1.4〉	4				重機搬出土			4
511-1	C-29-1	磁器蓋	-	(3.2)	〈2.0〉	10	「岩口[illegible]　[illegible]町」クロム書	陽刻		Bトレンチ南・重機搬出土			-
511-2	C-29-2	磁器蓋	-	(3.2)	〈1.8〉	9		陽刻	「九谷」朱印	Cトレンチ5層			6
512	C-30	磁器蓋	-	(3.5)	〈1.0〉	5		朱線	判読不明 朱印	重機搬出土			8
513	C-31	磁器蓋	-	(3.6)	〈2.5〉	5		鉄釉	鉄釉	重機搬出土			-
514	C-32	陶器蓋	-	-	〈3.0〉	7		灰釉	灰釉	重機搬出土			14

通番	整理番号	種類	法量（cm）				調整・文様		底部	出土位置		陶磁器統制番号(工場氏名)	統制片出土量(g)
			口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	重量(g)	内面	外面		穴門排水口修理（TTTⅠ）	旧プール解体（TTTⅡ）		
515	C-33	磁器盃	3.8	2.8	4.0	25		「清酒　本菊泉」呉須印		西下流・Eトレンチ4層	㋐トレンチ上層		256
516	C-34	磁器盃	5.4	2.2	3.0	12	「銘酒 佐久の口」呉須書	呉須　プリント		Cトレンチ北			-
517	C-35	陶器盃(八角形)	-	(3.0)	〈5.0〉	24	灰釉	灰釉		Cトレンチ5層・重機搬出土・Cトレンチ1層・堀			26
518	C-36	陶器盃	-	(2.9)	〈2.0〉	9	灰釉	灰釉＋クロム	灰釉	Eトレンチ4層			-
519	C-37	磁器盃	-	(3.7)	〈2.3〉	14		色釉＋白	色釉	Eトレンチ4層			-
520	C-38	陶器盃	-	-	〈3.7〉	12	灰釉	灰釉＋鉄＋白		Cトレンチ1層・Cトレンチ5層・重機搬出土			-
521	C-39	磁器盃	-	(3.3)	〈2.5〉	24	銅釉	「醤油」呉須書　銅釉	銅釉	Bトレンチ北2層			-
522	C-40	磁器盃	-	(3.4)	〈1.2〉	4			「岐459」刻印	重機搬出土		土岐郡土岐津町土岐口（丹羽兼九郎）	-
523	C-41	磁器片口	(6.8)	-	〈2.9〉	10		◇M◇　クロム書		重機搬出土・Cトレンチ			14
524	C-42	磁器盃	-	(2.0)	〈2.1〉	8		呉須(黒)　プリント	呉須線	堀			-
525	C-43	磁器盃	-	-	〈3.0〉	2		呉須　描？		堀			-
526	C-44	磁器盃	-	2.3	〈1.3〉	6	呉須　プリント		判読不明　呉須印	堀			-
527	C-45	磁器盃	-	(2.8)	〈1.4〉	7		陽刻		重機搬出土・Cトレンチ北3層			5
528	C-46	磁器盃	-	-	〈2.2〉	3		陽刻		Bトレンチ南			-
529	C-47	磁器盃	-	-	〈2.3〉	6		「長と口囲よ白米」呉須書		重機搬出土			-
530	C-48	磁器盃	(5.6)	(2.6)	3.8	12	呉須線	呉須　プリント			㋑㋒㋓トレンチ表土層		-
531	D-1	磁器徳利	(2.4)	-	〈3.7〉	5		呉須　描		重機搬出土・Eトレンチ			8
532	D-2	磁器徳利	-	-	〈7.9〉	18		呉須　プリント		重機搬出土・Cトレンチ・Cトレンチ5層			58
533	D-3	磁器徳利	(2.8)	-	〈5.1〉	15		呉須線		重機搬出土	㋐トレンチ上層		5
534	D-4	磁器徳利	(2.5)	-	〈3.1〉	4				重機搬出土			-
535	D-5	磁器徳利	-	-	〈5.4〉	5		呉須　プリント		Eトレンチ4層			-
536	D-6	磁器徳利	-	-	〈6.2〉	15		「三反田駅前　酒口佐久の花　高橋酒口電話一口」呉須書　呉須　プリント		重機搬出土・堀			-
537	D-7	磁器徳利	-	-	〈6.3〉	20		呉須　プリント		Bトレンチ南			-
538	D-8	磁器徳利	-	3.6	〈1.4〉	13				重機搬出土			-
539	D-9	磁器徳利	-	(5.6)	〈2.7〉	8		呉須　描		重機搬出土			-
540	D-10	磁器徳利	-	-	〈1.7〉	4		呉須線		重機搬出土			-
541	D-11	磁器徳利	-	(5.3)	〈1.3〉	3		クロム	呉須線	西下流			-
542	D-12	磁器徳利	-	(5.2)	〈2.0〉	4		上絵付消失	呉須線	西下流			-
543	D-13	磁器徳利	-	-	〈5.6〉	15		呉須　プリント		西下流			-
544	D-14	磁器徳利	-	-	〈4.3〉	9		呉須　プリント		西下流			20
545	D-15	磁器徳利	-	-	〈2.5〉	3		呉須　プリント		重機搬出土			-
546	D-16	陶器徳利	-	4.3	〈2.2〉	30				西下流			-
547	D-17	磁器徳利	-	4.8	〈3.5〉	58		上絵付		Cトレンチ南			-
548	D-18	陶器徳利	-	(6.5)	〈5.2〉	30	上部施釉	上部施釉	釉なし	Bトレンチ北2層・重機搬出土			-
549	D-19	磁器徳利	-	(4.4)	〈4.6〉	8	鉄釉	鉄釉	釉なし	Eトレンチ4層			-
550	D-20	磁器徳利	-	-	〈7.7〉	24		釉なし		Cトレンチ・重機搬出土			-
551	D-21	磁器徳利	-	-	〈3.4〉	7	下部釉なし	呉須プリント		Cトレンチ南表採			-
552	D-22	陶器徳利	-	-	〈2.5〉	9	釉なし	一部灰釉		Cトレンチ5層			-
553	D-23	磁器徳利	(5.0)	-	〈2.4〉	8				重機搬出土			-

通番	整理番号	種類	法量(cm) 口径〈長〉	底径〈幅〉	器高〈厚〉	重量(g)	調整・文様 内面	外面	底部	出土位置 六門排水口修理(TTTⅠ)	旧プール解体(TTTⅡ)	黒門西側石垣(TTTⅢ)	他破片出土量(g)
554	D-24	磁器徳利	(5.0)	-	〈2.4〉	12	口縁施釉	呉須線		西下流			-
555	D-25	陶器徳利	-	(3.4)	〈2.1〉	18	釉なし	呉須　描		Cトレンチ3層			-
556	D-26	磁器徳利	(3.6)	-	〈3.0〉	9				重機搬出土			-
557	D-27	磁器徳利	-	-	〈7.2〉	20	口縁施釉	呉須　プリント		重機搬出土			-
558	D-28	磁器徳利	-	(6.2)	〈3.1〉	24		呉須線	判読不明　呉須書	重機搬出土			-
559	D-29	磁器徳利	-	(6.3)	〈2.8〉	18	釉なし　一部に釉付着	呉須線	判読不明　呉須書	重機搬出土			-
560	D-30	陶器徳利	-	(10.8)	〈4.4〉	40		鉄			㋐トレンチ下層		-
561	D-31	磁器徳利	-	-	〈4.6〉	5		呉須　描				Ⅰ工区土□	-
562	E-1	磁器花瓶	(4.9)	-	〈7.0〉	22	釉なし	陽刻　呉須		重機搬出土・Bトレンチ北2層・Bトレンチ南5層・Cトレンチ・Cトレンチ北・Cトレンチ北3層・南側石組護岸・西下流・堀			260
563	E-2	磁器花瓶	-	〈1.3〉	〈6.1〉	16	釉なし	陽刻　青磁釉		重機搬出土・Cトレンチ北・Cトレンチ北3層			10
564	E-3	磁器花瓶	(5.4)	-	〈6.4〉	12	下部釉なし	陽刻　呉須		重機搬出土・Eトレンチ4層・Bトレンチ南			18
565	E-4	磁器花瓶	-	-	〈6.3〉	24	釉なし	陽刻　鉄－呉須+青磁釉		Eトレンチ4層・重機搬出土・Cトレンチ5層・Cトレンチ南1層・堀			30
566	E-5	陶器花瓶	(11.8)	-	〈4.3〉	12	銅釉	銅釉		重機搬出土・Bトレンチ南5層			26
567	E-6	磁器花瓶	-	-	〈7.7〉	144	釉なし	陽刻　青磁釉		Cトレンチ南・Cトレンチ南表採・重機搬出土・Eトレンチ4層			68
568	E-7	陶器花瓶か徳利	-	(4.4)	〈4.8〉	14		呉須		重機搬出土			8
569	E-8	陶器花瓶か徳利	-	(3.8)	〈7.2〉	50		呉須	「善光寺」朱印	重機搬出土			14
570	E-9	磁器花瓶	-	-	〈2.7〉	15	釉なし	陽刻　呉須		重機搬出土・Bトレンチ北2層			25
571	E-10	陶器花瓶	-	-	〈10.0〉	38	色釉	陽刻　鉄+色釉		Bトレンチ南・重機搬出土・Bトレンチ北2層・Cトレンチ1層・Cトレンチ南1層・Cトレンチ北・北側土塁上面・Eトレンチ	㋒トレンチ表上層		82
572	E-11	磁器花瓶	-	(3.8)	〈5.5〉	19	釉なし	陽刻　呉須　プリント	釉なし		㋐トレンチ下層		-
573	N-1	プラスチック蓋	4.1	3.0	5.1	12				西下流			-
574	N-2	鉛筆キャップ	0.7	0.9	5.6	1				Bトレンチ南5層			-
575	N-3	プラスチック製品	2.0	2.3	〈5.0〉	6		「〒京都市□□区四□□□烏丸東入ル、株式会社ナカクキ□」		重機搬出土			-
576	N-4	ボール	5.5			20				重機搬出土			-
577	N-5	セルロイド人形の足	2.5	1.2	〈1.2〉	1				重機搬出土			-
578	N-6	ライター	2.3	1.2	7.8	13			「CHINA」	重機搬出土			-
579	N-7	ライター	2.0	1.0	8.0	12		「長野フジカラーチェーン店　ビーナス写真店　南佐久郡高野町6-3619」	「JAPAN」	重機搬出土			-
580	N-8	菓子軸	〈2.2〉	1.9	0.3	1				重機搬出土			-
581	N-10	ゴム通し	8.2	0.7	8.3	1				重機搬出土			-
582	N-12	プラスチック製コマ	2.5		1.8	0.5					㋑㋒㋓トレンチ表上層		-
583	O-1	磁器タイル(正方形)	2.5	2.5	0.4	7	陽刻 刻印 釉なし	鉄釉		重機搬出土			-
584	O-2	磁器タイル(楕円形)	3.5	2.8	0.4	8	陽刻 刻印 釉なし	銅釉		堀			-
585	O-3	磁器タイル(方形)	〈4.3〉	〈2.3〉	0.5	10	陽刻 刻印 釉なし	黒釉		Cトレンチ南表採	ゲートサイド表上層・㋕㋖トレンチ表上層		10
586	P-1	ガラス蓋	長 3.6	短 3.3	0.8	18		巴文あり		Cトレンチ1層			-
587	P-2	ガラス小瓶	3.4	6.9	5.7	16				西下流			-
588	P-3	ガラスクリーム瓶	4.0	8.6	5.2	88			「サエクリーム」	西下流			-

通番	整理番号	種類	法量(cm) 口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	重量(g)	調整・文様 内面	外面	底部	出土位置 六門排水口修理(TTTⅠ)	旧プール解体(TTTⅡ)	黒門西側石垣(TTTⅢ)	破片出土量(g)
589	P-4	牛乳瓶	4.6	5.6	14.0	242		「リーコー牛乳 育児用粉乳は1口 ソミルクA」④ 180cc」	4 〈TK〉」	西下流			-
590	P-5	ガラス瓶	4.4	-	〈3.0〉	40				西下流			-
591	P-6	ビール瓶	2.7	-	〈11.4〉	110				西下流			-
592	P-7	ガラスおはじき	長 1.5	短 1.4	0.4	1				堀			1
593	P-8	ガラス小瓶	2.4	2.8	4.5	30				堀		石垣A断面土塁表層	-
594	P-9	ガラス薬瓶	2.4	3.7	8.2	48		「カトウコロダイン」 KATO		Bトレンチ北2層			-
595	P-10	ガラス薬瓶	1.9	3.1	7.1	31		「ロート目薬 本舗山田安民」		Bトレンチ南			-
596	P-11	ガラス小瓶	2.9	3.3	4.4	38	「みや古染」			重機搬出土			-
597	P-12	ガラス薬瓶	-	2.0	〈2.3〉	1				Bトレンチ南			-
598	P-13	ガラス小瓶	(7.0)	-	5.4	18				Bトレンチ南5層			-
599	P-14	ガラス小瓶	(6.0)	-	〈3.9〉	16				Bトレンチ南5層			-
600	P-15	ガラス長頸瓶	2.6	-	〈7.2〉	52				Bトレンチ南5層			-
601	P-16	ガラス薬瓶(アルミ蓋付)	2.8	4.5	12.0	116		「TAISHO PHARM.CO.	「139」「TI」			Ⅱ工区土塁	-
602	F-1	磁器皿	-	〈2.4〉	〈2.9〉	18	呉須 プリント		底部舟形	重機搬出土			-
603	F-2	磁器皿	(7.0)	(6.2)	1.9	10	クロム プリント			重機搬出土			-
604	F-3	磁器蓋	(6.3)	つまみ径 (4.0)	1.8	18		呉須 プリント		重機搬出土			-
605	F-4	磁器皿	(12.4)	(6.6)	2.0	20	呉須 プリント	呉須 プリント		重機搬出土			-
606	F-5	磁器皿	(13.6)	(7.4)	2.5	63	呉須 プリント	呉須 プリント	呉須印あり	堀		Ⅰ工区裏石裏込 Ⅱ工区裏込	6
607	F-6	磁器蓋	-	-	〈1.5〉	27		呉須 プリント	呉須線	Bトレンチ北2層			-
608	F-7	磁器皿	(11.3)	(7.8)	2.1	20	呉須+クロム プリント			重機搬出土			-
609	F-8	磁器皿	(9.2)	-	〈1.3〉	8	呉須 プリント	呉須 プリント		重機搬出土			-
610	F-9	磁器皿	-	-	〈1.5〉	14	呉須 プリント	呉須 プリント	呉須線	重機搬出土			-
611	F-10	磁器皿	(8.3)	-	〈1.8〉	7	呉須 プリント	呉須 プリント		重機搬出土・石垣B面B6-6東側石下	⑦トレンチ表土層		1
612	F-11	磁器皿	(11.2)	(5.2)	2.6	32	呉須 プリント		呉須線	重機搬出土			8
613	F-12	磁器皿	(14.0)	-	〈3.0〉	20				重機搬出土			9
614	F-13	磁器皿(口縁波形)	-	-	〈4.4〉	10	呉須 プリント	呉須 プリント		重機搬出土			6
615	F-14	磁器皿	(4.3)	-	〈3.6〉	6	呉須 プリント	呉須 プリント		重機搬出土			-
616	F-15	磁器皿(輪花)	(11.6)	(6.0)	2.3	38	呉須 プリント			Cトレンチ南表採・重機搬出土・堀・Cトレンチ5層			104
617	F-16	磁器皿	-	(11.7)	〈2.5〉	14	呉須 プリント	呉須 プリント		堀			-
618	F-17	磁器皿	(12.2)	(5.6)	2.6	33	呉須 プリント	呉須線	呉須線	南東石垣カクラン・Cトレンチ西・重機搬出土	⑦トレンチ下層		157
619	F-18	磁器皿	-	(6.0)	2.8	20	呉須 プリント	呉須線	呉須線	重機搬出土・Cトレンチ南表採・Cトレンチ北3層			74
620	F-19	磁器皿	(11.7)	(5.1)	〈2.1〉	42	呉須 プリント			重機搬出土			32
621	F-20	磁器皿	-	-	1.4	7	鉄			重機搬出土			18
622	F-21	磁器皿	-	(4.4)	〈2.0〉	24	呉須+鉄 プリント		呉須線	重機搬出土			-
623	F-22	磁器皿	-	(8.6)	〈1.1〉	15	呉須 プリント	呉須線	呉須線	重機搬出土			-
624	F-23	磁器皿	(13.4)	(7.4)	2.5	63	呉須 プリント	呉須線	呉須線	重機搬出土・Cトレンチ南表採・Eトレンチ4層			136
625	F-24	磁器皿	(10.9)	(5.6)	2.4	59	クロム プリント		「□DE」 刻印	重機搬出土			-
626	F-25	磁器皿	-	(6.8)	〈4.1〉	46	青磁釉	青磁釉	青磁釉	重機搬出土			-
627	F-26	磁器皿	-	(8.8)	〈1.2〉	24	呉須 描		一部釉なし	重機搬出土			-
628	F-27	磁器皿	-	(7.0)	〈2.0〉	20		呉須		重機搬出土			-
629	F-28	磁器皿	-	(6.8)	〈2.4〉	56	呉須 プリント	呉須線	判読不明 呉須印	Bトレンチ北2層・重機搬出土			-

通番	整理番号	種類	法量(cm) 口径〈長〉	底径〈幅〉	器高〈厚〉	重量(g)	調整・文様 内面	外面	底部	出土位置 穴門排水口修理(TTTⅠ)	旧プール解体(TTTⅡ)	黒門西側石垣(TTTⅢ)	他破片出土量(g)
630	F-29	磁器皿	(13.4)	(9.1)	3.1	42	呉須(黒) プリント	呉須(黒) 描	呉須線	重機搬出土			22
631	F-30-1	磁器皿	-	(7.4)	〈2.0〉	40	呉須 型紙	呉須 描	釉なし	重機搬出土・堀			44
632	F-30-2	磁器皿	-	(8.4)	〈2.8〉	45	呉須 型紙	呉須 描	釉なし	南堀石垣ｶｸﾗﾝ			-
633	F-31-1	磁器皿	-	(4.2)	〈2.4〉	30	呉須 型紙	呉須 型紙		重機搬出土・北側土塁上面	㋕トレンチ表土層	2トレンチ2層	104
634	F-31-2	磁器皿	-	3.7	〈1.9〉	36	呉須 型紙	呉須 型紙				1工区裾石前粘土	-
635	F-32	磁器皿	(16.2)	-	〈7.3〉	50	呉須+クロム プリント	呉須線			㋐トレンチ上層		-
636	F-33	磁器皿	(16.0)	-	3.5	20	呉須 描	呉須 描		南堀石垣ｶｸﾗﾝ			-
637	F-34	磁器皿	(13.8)	(7.4)	2.7	80	呉須(黒) プリント	呉須線		Cトレンチ1層・重機搬出土			240
638	F-35	磁器皿	(10.0)	(5.6)	1.6	30	上絵付 プリント		「岐491」 呉須印	重機搬出土		土岐郡肥田村肥田(宮川陶所)	-
639	F-36	磁器皿	-	(9.0)	〈1.4〉	10	上絵付 プリント			重機搬出土			-
640	F-37	磁器皿	(24.8)	(14.8)	3.7	270	呉須+鉄 プリント	呉須 プリント	呉須線	Bトレンチ北2層・南堀石垣ｶｸﾗﾝ	㋐トレンチ下層		-
641	F-38	磁器皿	(11.8)	(10.0)	2.8	24	クロム+呉須 ﾌﾟﾘﾝﾄ+描	呉須線		Cトレンチ5層			-
642	F-39	磁器皿	-	(10.4)	〈1.5〉	20	呉須 描			重機搬出土			-
643	F-40	磁器皿	-	(5.6)	2.2	9	陽刻 呉須		変形高台	重機搬出土			-
644	F-41	磁器皿(輪花)	(13.5)	(7.2)	2.9	68	文字あり 呉須 プリント	呉須線	呉須線	重機搬出土・Cトレンチ北3層			154
645	F-42	磁器皿	-	(8.0)	〈2.1〉	18	呉須 プリント			重機搬出土			-
646	F-43	磁器皿	-	-	〈4.1〉	6	「卍」呉須 プリント			重機搬出土			-
647	F-44	磁器皿	(12.4)	(7.3)	2.7	48	呉須 プリント			重機搬出土・Bトレンチ南・Cトレンチ南表採・Cトレンチ5層	砲台南石垣石組暗渠		460
648	F-45	磁器皿	-	-	〈3.9〉	7	呉須 型紙			堀			-
649	F-46	磁器皿	(14.0)	(7.3)	2.8	30	「清泉中悠然天際相木口真山」 文字あり 呉須(黒) ﾌﾟﾘﾝﾄ	呉須線	呉須線	Cトレンチ南・Bトレンチ南・Cトレンチ南表採・西下流・重機搬出土			738
650	F-47	磁器皿	-	(2.6)	〈1.4〉	12	陽刻 白色釉		変形高台	重機搬出土			-
651	F-48	磁器皿	-	(9.6)	〈2.2〉	72	呉須 プリント	呉須線		重機搬出土			-
652	F-49	磁器皿	-	(9.0)	〈3.8〉	172	呉須+クロム	呉須線	釉なし	Bトレンチ北2層・Cトレンチ北5層・重機搬出土・Cトレンチ1層・西下流	㋐トレンチ上層		53
653	F-50	磁器皿	-	-	〈3.3〉	14	呉須 プリント	呉須 プリント		重機搬出土			-
654	F-51	磁器皿	(22.2)	(10.8)	〈2.4〉	104	呉須 プリント	呉須 プリント	釉なし	重機搬出土・Bトレンチ北2層・南側石垣ｶｸﾗﾝ			27
655	F-52	磁器皿	(19.0)	(11.0)	2.6	57	陽刻 呉須			重機搬出土・Bトレンチ北2層・西下流			180
656	F-53	磁器皿	(17.5)	(12.0)	2.0	10	青磁釉	青磁釉		Cトレンチ北3層			-
657	F-54	磁器皿	(14.3)	-	〈3.5〉	22		クロム線		Cトレンチ5層	㋒トレンチ表土層		15
658	F-55	磁器皿	(16.3)	(15.3)	3.3	148	「陸軍被服本廠」 クロム書・クロム線2本			Bトレンチ南・Cトレンチ南・重機搬出土		(工場食器)	74
659	F-56	磁器変形皿	(短23.6)	16.6	4.1	160	呉須 描	呉須 描		重機搬出土・Bトレンチ南5層・Bトレンチ北2層			160
660	F-57	磁器深皿	(17.6)	9.7	5.9	330	呉須 型紙	呉須 型紙(明治25年以降)	釉なし 円高台	Bトレンチ北2層・Cトレンチ南表採・重機搬出土			20
661	F-58	磁器皿	-	-	〈8.0〉	28	呉須 プリント		呉須線	重機搬出土			-
662	F-59	陶器ディナー皿	(21.1)	(16.4)	〈1.9〉	75	呉須線			重機搬出土・Cトレンチ・Cトレンチ5層・Bトレンチ4層・西下流	㋑㋒㋓トレンチ		1440
663	F-60-1	磁器ディナー皿	(18.6)	(11.4)	1.8	28	呉須線			重機搬出土			-
664	F-60-2	陶器ディナー皿	(20.6)	(10.8)	2.3	94	呉須線			Bトレンチ南・重機搬出土・Cトレンチ・Cトレンチ1層			410
665	F-61	磁器ディナー皿	(20.6)	(12.4)	2.0	112	上絵付 プリント			重機搬出土・Bトレンチ北2層			610
666	F-62	磁器スープ皿	(11.8)	-	〈3.1〉	18	呉須 プリント	呉須 プリント		重機搬出土			-
667	F-63	磁器小皿	-	(5.1)	〈1.0〉	12	青磁釉 上絵付	青磁釉		重機搬出土・Bトレンチ南			2
668	F-64	磁器角皿	-	〈5.6〉	3.0	20			釉なし	Bトレンチ北2層			-

遺番	整理番号	種類	法量 (cm) 口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	重量(g)	調整・文様 内面	外面	底部	出土位置 穴門排水口修理(TTTⅠ)	旧プール解体(TTTⅡ)	御蔵器統制番号付(生産者氏名) 黒門西側石垣(TTTⅢ)	破片出土量(g)
669	F-65	磁器皿	-	-	⟨4.2⟩	5	「TOKI□□□TSU」「岐260」クロム絵付			重機搬出土		土岐郡笠原町[illegible]	-
670	F-66	磁器深皿	-	(10.5)	⟨1.1⟩	117	呉須 型紙(明治25年以降)	呉須線	釉なし	西下流	㋐トレンチ下層		-
671	F-67	磁器皿(輪花)	(19.0)	(11.7)	3.0	140	印刻 呉須 青磁釉	青磁釉	釉なし カキ目	南袖石垣ｶｸﾗﾝ・Eトレンチ4層	㋐トレンチ上層		172
672	F-68	磁器皿	-	⟨7.3⟩	⟨2.2⟩	32	呉須 描	呉須線	「五老」呉須書	Cトレンチ南表採			-
673	F-69	磁器深皿(輪花)	(14.6)	⟨7.8⟩	4.5	37	呉須 描			Cトレンチ・重機搬出土			18
674	F-70	磁器端反小皿	(12.4)	(6.9)	2.0	11				西下流・重機搬出土			12
675	F-71	磁器皿	(9.8)	-	⟨1.5⟩	6	呉須 描	呉須 プリント		西下流			-
676	F-72	磁器皿	(11.2)	(6.2)	2.5	48	呉須 鉄 クロム 描			Cトレンチ			-
677	F-73	磁器皿	(6.3)	-	⟨2.0⟩	5	呉須 プリント	呉須 プリント		Cトレンチ1層・石垣B面B5-6東側石下			-
678	F-74	磁器小皿	(13.7)	-	⟨2.0⟩	5	上絵付 プリント			Cトレンチ1層			-
679	F-75	磁器パレット	(13.0)	(13.0)	1.1	74			釉なし 「OF久松OO 兵衛」墨書	重機搬出土・Bトレンチ北2層・Bトレンチ南			60
680	F-77	磁器皿	-	(9.1)	⟨1.2⟩	30	呉須 プリント	呉須線		南袖石垣ｶｸﾗﾝ			-
681	F-78	磁器端反皿	(18.0)	-	⟨2.4⟩	14	呉須 プリント	呉須 プリント		Cトレンチ5層・西下流・重機搬出土			-
682	F-79	磁器小皿	-	(11.4)	⟨1.2⟩	9	呉須 プリント	呉須線	呉須線	Cトレンチ南表採			-
683	F-80	陶器皿	(12.0)	(4.2)	⟨2.5⟩	28	灰釉	灰釉		Cトレンチ南表採			-
684	F-81	磁器皿	-	(5.0)	⟨1.5⟩	4	呉須 プリント			Bトレンチ南			-
685	F-82	磁器皿	-	(3.8)	⟨1.1⟩	10	クロム			西下流			-
686	F-83	磁器皿	(11.4)	-	5.1	24		呉須 描		Eトレンチ			-
687	F-84	磁器皿	(13.4)	-	⟨3.3⟩	6	青磁釉	青磁釉		Eトレンチ4層			-
688	F-85	陶器ディナー皿	(14.8)	-	⟨4.3⟩	24	クロム			重機搬出土			-
689	F-86	磁器皿	(31.6)	-	⟨1.7⟩	2	陽刻 呉須			Eトレンチ4層	㋐トレンチ上層		-
690	F-87	磁器皿	(11.3)	-	⟨2.0⟩	3	陽刻 呉須			Eトレンチ4層			-
691	F-89	磁器皿	(10.6)	-	⟨1.0⟩	2	呉須 プリント	呉須		Cトレンチ南表採			-
692	F-91	磁器小皿	-	(6.0)	⟨1.1⟩	10	白釉			Eトレンチ4層・西下流			-
693	F-92	磁器深皿	(20.4)	-	⟨2.2⟩	9	呉須 描	呉須 描		Eトレンチ4層			-
694	F-93	磁器深皿	(14.6)	-	⟨1.3⟩	18	上絵付			西下流			-
695	F-94	磁器深皿	-	(8.8)	⟨5.1⟩	140	クロム	クロム			㋐トレンチ下層		-
696	F-95	磁器皿	-	(7.0)	⟨2.7⟩	70	陰刻 呉須	呉須(幕末から明治初)			㋐トレンチ下層		-
697	F-96	磁器皿	-	-	1.5	9	呉須 プリント	呉須 プリント			㋔トレンチ表土層		-
698	F-97	磁器皿	(11.8)	(7.2)	2.0	11	呉須 プリント				㋠トレンチ表土層		-
699	F-98	磁器皿	-	(7.7)	⟨2.0⟩	14	クロム プリント					Ⅱ工区裏込	-
700	F-99	磁器皿	(10.0)	4.9	2.1	57	みこみ陰刻 呉須帯(幕末から明治初)					Ⅰ工区根石前粘土	-
701	F-100	磁器皿	(10.8)	(6.4)	2.0	40	呉須 型紙(明治25年以降)					Ⅰ工区裏込	-
702	G-1	磁器丼	(16.2)	6.3	7.8	290	朱線	上絵付 プリント		重機搬出土・Bトレンチ北2層・Cトレンチ			174
703	G-2	磁器丼 蓋	(13.0)	つまみ径(4.0)	4.3	80	呉須線	呉須＋上絵付 プリント		重機搬出土			-
704	G-3	磁器丼(703の身部)	(15.8)	6.2	7.5	137	呉須線	呉須＋上絵付 プリント		Bトレンチ南・Cトレンチ北・重機搬出土			100
705	G-4	磁器丼	-	(6.4)	⟨6.0⟩	76		上絵付 消失		重機搬出土			-
706	G-5	磁器丼	(15.8)	-	⟨4.6⟩	40	朱線	上絵付 消失		重機搬出土			5
707	G-6	磁器丼	(15.2)	-	⟨6.0⟩	32		上絵付 消失		北側土塁上面・Cトレンチ南表採			-
708	G-7	磁器丼 蓋	-	-	⟨3.0⟩	27	朱線	上絵付 摩耗		重機搬出土・Cトレンチ南表採・石垣B面B6-6東側石下			110
709	G-8	磁器丼	(16.2)	-	⟨3.2⟩	15	朱線	上絵付 摩耗		Cトレンチ南・重機搬出土			12

通番	整理番号	種類	法量(cm)				調整・文様		底部	出土位置			他破片出土量(g)
			口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	重量(g)	内面	外面		穴門排水口修理(TTTⅠ)	旧プール解体(TTTⅡ)	加門西側石垣(TTTⅢ)	
710	G-9	磁器丼	〈16.0〉	-	〈4.0〉	16		上絵付　摩耗		重機搬出土			-
711	G-10	磁器丼 蓋	(13.2)	つまみ径(5.4)	3.1	60		呉須　プリント	呉須線	重機搬出土			35
712	G-11	磁器丼	(15.0)	-	〈3.0〉	12	朱　プリント	朱　プリント		重機搬出土・Cトレンチ5層			22
713	G-12	磁器丼	(12.0)	-	〈2.9〉	22	朱線	朱　プリント		Cトレンチ南・重機搬出土			15
714	G-13	磁器丼	(16.0)	-	〈4.6〉	32		クロム線		西下流			-
715	G-14	磁器丼	-	(7.2)	〈2.9〉	43		朱線		Cトレンチ5層			-
716	G-15	磁器ラーメン丼	(20.0)	-	〈3.0〉	18	朱　呉須　黄	朱線		西下流・堀			-
717	H-1	陶器壺	(12.4)	-	〈2.5〉	14		呉須		重機搬出土			-
718	H-2	陶器壺	(7.2)	-	〈4.5〉	22	口縁上部施釉	灰釉+鉄+呉須		重機搬出土			-
719	H-3	磁器壺	-	(8.0)	〈5.0〉	70	青磁釉	陰刻　青磁釉		重機搬出土・Cトレンチ			40
720	H-4	陶器壺	(4.4)	-	〈1.7〉	10	色釉	色釉		Cトレンチ5層			-
721	H-6	陶器壺	-	-	〈4.0〉	12	灰釉+呉須+鉄+クロム	灰釉+呉須+鉄+クロム　描		西下流・重機搬出土			-
722	H-7	磁器大壺	(24.9)	-	〈8.0〉	140	上絵付	呉須+クロム　描		重機搬出土			-
723	H-8	陶器壺	-	-	〈4.0〉	8	灰釉	灰釉		重機搬出土			-
724	H-9	磁器壺	-	9.7	〈2.9〉	122				Cトレンチ南1層・重機搬出土			-
725	H-10	磁器壺	(6.5)	(6.4)	4.0	44	釉なし		釉なし	重機搬出土			-
726	H-11	磁器壺	6.2	6.0	5.1	92	釉なし		釉なし	Bトレンチ北2層			-
727	H-12	磁器壺	(6.5)	(6.2)	5.2	40	釉なし			Bトレンチ南・重機搬出土			40
728	H-13	磁器楊枝入れ	〈3.5〉	〈2.3〉	4.4	17	釉なし	上絵付		重機搬出土			18
729	H-14	陶器壺	-	(15.2)	〈4.0〉	21	灰釉　ハケ塗	灰釉　下部ハケ塗	ハケ塗	堀			-
730	H-15	陶器壺	-	-	〈6.0〉	24	錆釉	下部釉なし　灰釉+呉須		重機搬出土			-
731	H-16	陶器壺	-	-	〈5.6〉	16	一部釉なし	銅釉		Cトレンチ南			-
732	H-17	磁器壺の口(代用品)	2.7	-	〈3.5〉	22				堀			-
733	H-18	磁器壺の口	1.2	-	〈1.2〉	4				堀			-
734	I-1	陶器鉢	(18.0)	-	〈4.8〉	52	灰釉+鉄	灰釉+鉄+呉須+黄釉		重機搬出土・Bトレンチ南			84
735	I-2	磁器鉢	(12.7)	-	〈4.5〉	24	釉なし			重機搬出土・西下流・北側土塁上面	㋜㋛トレンチ・㋑㋒㋓トレンチ表土層		56
736	I-3	陶器片口鉢	(16.5)	-	〈4.1〉	42	灰釉+朱+鉄	灰釉+朱+鉄		重機搬出土			-
737	I-5	磁器鉢	-	(6.3)	〈4.1〉	40	呉須　プリント	呉須　プリント		Bトレンチ北2層			-
738	I-6	磁器鉢	-	(4.3)	〈3.3〉	54	呉須　プリント	呉須　プリント		重機搬出土			-
739	I-7	磁器鉢(輪花)	(9.5)	4.0	〈4.7〉	56	呉須　プリント			石垣B面B6-6東側石下・西下流・Eトレンチ4層・重機搬出土			80
740	I-8	磁器鉢	(12.0)	-	〈4.5〉	22	クロム　描	クロム　描		重機搬出土			-
741	I-9	磁器鉢	(10.8)	(11.7)	6.7	72		呉須　プリント		西下流・重機搬出土			18
742	I-10	磁器鉢	-	(11.6)	〈3.1〉	24		呉須　プリント		Cトレンチ北			-
743	I-11	磁器鉢	(11.5)	-	〈1.8〉	11		呉須　プリント		Cトレンチ南表採			8
744	I-12	磁器鉢	-	(6.2)	〈5.2〉	70		青磁釉+呉須+クロム　描		西下流			-
745	I-13	磁器鉢(輪花)	(11.8)	(6.4)	4.0	60	クロム+呉須+鉄			Cトレンチ南1層			-
746	I-14	磁器植木鉢	短7.2	-	〈4.2〉	64	口縁のみ施釉	呉須　描		西下流・重機搬出土			-
747	I-15	陶器植木鉢(楕円形)	-	-	4.1	134	口縁のみ施釉	青色釉	釉なし	南端石垣カクラン			-
748	I-16	磁器小鉢	-	-	5.0	89	呉須　プリント	陽刻+呉須	「山川口製」呉須印	重機搬出土・Bトレンチ北2層・Cトレンチ南・Eトレンチ4層・西下流			456
749	I-17	磁器鉢	-	(9.4)	(0.9)	24	灰釉+鉄	灰釉+鉄	「MA口」刻印　灰釉	重機搬出土			-
750	I-18	陶器こね鉢	(31.6)	(20.2)	6.4	264	灰釉	灰釉	釉なし	重機搬出土			350

通番	整理番号	種類	法量(cm) 口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	重量(g)	調整・文様 内面	外面	底部	出土位置 穴門排水口修理(TTTⅠ)	旧プール解体(TTTⅡ)	黒門西側石垣(TTTⅢ)	他破片出土量(g)
751	I-19	陶器鉢	(23.0)	-	(5.7)	52	灰釉	灰釉		重機搬出土・Cﾄﾚﾝﾁ3層			36
752	I-20	陶器鉢	-	(11.2)	(2.2)	30	錆釉	鉄釉	鉄釉	堀			-
753-1	I-21-1	陶器鉢 }同個体	(15.0)	-	(2.4)	15	灰釉	灰釉		重機搬出土・堀			40
753-2	I-21-2	陶器鉢	-	8.1	(3.1)	180	灰釉	灰釉　下部釉なし	釉なし	Eﾄﾚﾝﾁ			-
754	I-22	陶器鉢	-	-	(1.4)	13	灰釉＋鉄	灰釉　下部釉なし	釉なし	重機搬出土			-
755	I-23	陶器鉢	(16.5)	-	(1.9)	42	灰釉	灰釉＋鉄		重機搬出土			-
756	I-24	磁器鉢	-	(4.2)	(2.4)	62		呉須　型紙				Ⅱ工区砲台土塁	-
757-1	L-1-1	陶器鍋	(10.7)	-	(3.3)	25	鉄釉　口縁釉なし	鉄釉		Cﾄﾚﾝﾁ南1層・Cﾄﾚﾝﾁ5層・Cﾄﾚﾝﾁ北・Eﾄﾚﾝﾁ3層・Eﾄﾚﾝﾁ4層・西下流・重機搬出土・堀			160
757-2	L-1-2	陶器鍋	-	(12.2)	(1.0)	22	鉄釉	下部釉なし　カキ目	釉なし　カキ目	堀			-
757-3	L-1-3	陶器鍋　釣手	長 (4.7)	幅 (3.7)	厚 (1.4)	18	鉄釉	鉄釉		西下流			-
758	L-2	陶器鍋蓋	(12.0)	(8.6)	2.8	64	錆釉　かえり釉なし	鉄釉		Bﾄﾚﾝﾁ北2層・Eﾄﾚﾝﾁ3層			-
759	L-3	陶器鍋	-	(8.4)	(2.1)	14	鉄釉	釉なし	釉なし	重機搬出土			-
760	L-4	陶器鍋	(18.4)	-	(5.0)	45	口縁釉なし　灰釉	灰釉＋呉須		重機搬出土			-
761	L-5	陶器鍋	(17.0)	-	(1.8)	4	口縁釉なし　鉄釉	錆釉		石垣F面土塁			-
762	L-6	陶器鍋	(24.2)	-	(1.6)	6	口縁釉なし　灰釉	灰釉		重機搬出土			-
763	M-1	陶器甕	(12.4)	(9.2)	(13.0)	260	鉄釉	鉄釉	「⑱」ｽﾀﾝﾌﾟあり　釉なし	Cﾄﾚﾝﾁ1層・重機搬出土・Bﾄﾚﾝﾁ北2層・Cﾄﾚﾝﾁ北3層	ﾌﾟｰﾙｻｲﾄﾞ表土層		420
764	M-2	陶器甕	(11.8)	-	(4.5)	33	鉄釉	鉄釉		Bﾄﾚﾝﾁ北2層			-
765	M-3	陶器甕	(11.0)	-	(3.4)	20	鉄釉	鉄釉		重機搬出土			-
766	M-4	陶器甕	-	(7.8)	(1.7)	70	鉄釉	鉄釉	釉なし	堀・西下流			30
767	M-5	陶器甕	-	(9.4)	(3.6)	42	鉄釉	鉄釉	釉なし	重機搬出土			-
768	M-6	陶器甕	-	(8.4)	(2.0)	32	鉄釉	鉄釉	釉なし	重機搬出土			-
769	M-7	陶器甕	-	(8.2)	(2.3)	18	鉄釉	鉄釉	釉なし	重機搬出土			-
770	M-9	陶器甕	-	(6.6)	(2.2)	28	灰釉	灰釉	灰釉	Cﾄﾚﾝﾁ・重機搬出土			-
771-1	M-10-1	陶器甕 }同個体	-	(8.8)	(4.0)	50	灰釉	灰釉	釉なし	Cﾄﾚﾝﾁ5層			-
771-2	M-10-2	陶器甕	(6.0)	-	(3.5)	14	灰釉	灰釉		重機搬出土			-
772	M-11	陶器甕	(17.5)	-	(5.2)	47	灰釉	灰釉		重機搬出土			-
773	M-12	陶器甕	-	-	(4.6)	14	灰釉	灰釉　下部釉なし		重機搬出土			-
774	M-14	陶器甕	-	-	(6.6)	22	鉄釉	釉なし		堀			-
775	M-15	陶器甕	-	-	(4.5)	6	鉄釉	灰釉			㋐ﾄﾚﾝﾁ表土層		-
776	M-16	陶器甕	-	-	(3.2)	8	錆釉	鉄釉　下部釉なし		重機搬出土			-
777	M-17	陶器土甕	(31.2)	-	(3.5)	220	鉄釉	鉄釉			㋔㋖ﾄﾚﾝﾁ表土層		-
778	J-1	陶器擂鉢	-	-	-	122	鉄釉　擂目	鉄釉		Cﾄﾚﾝﾁ南表採・Eﾄﾚﾝﾁ3層・Eﾄﾚﾝﾁ4層・西下流			191
779	J-2	陶器擂鉢	-	-	-	24	鉄釉	鉄釉		重機搬出土			-
780	J-3	陶器擂鉢	(33.5)	16.2	(14.5)	1240	鉄釉　錆釉	鉄釉	釉なし	Bﾄﾚﾝﾁ南・Bﾄﾚﾝﾁ北2層・Cﾄﾚﾝﾁ南表採・Cﾄﾚﾝﾁ西・重機搬出土・堀			281
781	J-4	陶器擂鉢	(28.2)	14.3	11.8	830	鉄釉　錆釉	鉄釉	釉なし	Bﾄﾚﾝﾁ北2層・Cﾄﾚﾝﾁ南・重機搬出土			169
782	J-5	陶器擂鉢	(32.6)	(15.9)	13.7	53	鉄釉　錆釉	鉄釉　下部釉なし	釉なし	重機搬出土			327
783-1	J-6-1	陶器擂鉢 }同個体	-	-	-	60	錆釉	鉄釉		西下流・Eﾄﾚﾝﾁ4層			142
783-2	J-6-2	陶器擂鉢	-	-	-	127	錆釉	鉄釉	釉なし		㋐ﾄﾚﾝﾁ上層		-
784	K-1	陶器器油甕	10.1	-	(11.4)	3020	錆釉	鉄釉　「13」刻書		Bﾄﾚﾝﾁ南・重機搬出土			-
785	K-2	陶器器油甕	-	-	-	492	鉄釉	鉄釉　「仝16」刻書		重機搬出土			-
786	K-3	陶器器油甕	(10.1)	-	(10.6)	630	鉄釉	鉄釉		Eﾄﾚﾝﾁ4層・西下流			470

通番	整理番号	種類	法量(cm) 口径(長)	底径(幅)	器高(厚)	重量(g)	調整・文様 内面	外面	底部	出土位置 穴門赤水口修理(TTTⅠ)	旧プール解体(TTTⅡ)	黒門西側石垣(TTTⅢ)	他破片出土量(g)
787-1	K-4-1	陶器醤油甕（同個体）	-	-	(25.7)	3210	鉄釉	鉄釉				Ⅰ工区中石裏込	-
787-2	K-4-2	陶器醤油甕（同個体）	-	(28.4)	(29.0)	3940	鉄釉	鉄釉				Ⅰ工区中石裏込	-
788	Q-1	瓦質甕	-	-	(9.3)	162	ナデ	ミガキ　黒色処理		Bトレンチ北2層・重機搬出土			-
789	R-1	土鍋(鉄鍋代用品)	-	(8.8)	(4.5)	67	ナデ→雑ミガキ　黒色処理	ミガキ　黒色処理	足付			2トレンチ2層	-
790	R-2	焙烙	(33.0)	-	(2.8)	34	横ナデ	横ナデ	ヘラナデ			4トレンチ1層	-
791	R-3	内耳	-	(17.2)	(2.0)	28	ナデ	ヘラナデ	ナデ			3トレンチ2層	-
792	R-4	縄文土器	長 4.1	短 3.5	1.5	18		渦巻				Ⅱ工区裏込	-
793	S-1	砲台型土製品	(24.0)	(21.6)	5.5	130	ミガキ　黒色処理	ミガキ　黒色処理		Cトレンチ5層・Bトレンチ北2層	砲台南石垣石組暗渠		160
794-1	S-2-1	砲台型土製品（同個体か）	(29.0)	(21.8)	6.8	154	横ナデ　上部煤付着	横ナデ		重機搬出土・Bトレンチ北2層・Cトレンチ・Cトレンチ3層・Cトレンチ5層・Cトレンチ北3層・Cトレンチ南表採・石垣H面上表採	砲台南石垣石組暗渠		470
794-2	S-2-2	砲台型土製品（同個体か）	(29.0)	−	(5.5)	40	補強粘土棒あり			重機搬出土			
795	T-1	磁器電気部品	-	(5.0)	(3.3)	22				重機搬出土			-
796	T-2	磁器電気部品	(3.1)	(3.1)	3.7	54				重機搬出土	㋣トレンチ表土層	Ⅰ工区中石裏込	58
797	T-3	磁器電気部品	(4.5)	(3.0)	1.1	22	釉なし			重機搬出土			-
798	T-4	磁器電気部品	(8.2)	-	(6.8)	24	口縁釉なし			堀			-
799	U-1	陶器行平 蓋	(12.0)	(10.8)	1.6	8	釉なし	灰釉+鉄		Eトレンチ4層			-
800	U-2	陶器行平 蓋	(8.4)	(7.3)	1.7	11	釉なし	灰釉+緑釉		重機搬出土			-
801	U-3	磁器蓋	3.0	1.7	1.8	14	釉なし	緑釉		重機搬出土			-
802	V-1	磁器フック	長 4.1	短 2.0	3.6	22	背面釉なし			重機搬出土・Cトレンチ北3層・Cトレンチ北5層			74
803	W-1	磁器合子 蓋	長(9.9)	短(3.8)	2.6	52	口縁釉なし	上絵付		Cトレンチ			-
804-1	W-2-1	磁器合子 蓋	長(6.7)	短(6.7)	1.3	17	口縁釉なし 口縁朱付着	陽刻　銅		重機搬出土			58
804-2	W-2-2	磁器合子	5.7	6.7	1.8	72	口縁釉なし 口縁朱付着		釉なし	重機搬出土			
805	W-3	磁器合子 蓋(菱形)	(6.7)	(3.1)	2.0	21	口縁釉なし		銘あり	堀			-
806	X-1	陶器万古　急須	(7.4)	-	(1.6)	4	錆釉	錆釉		Cトレ北3層	㋛㋜トレンチ		14
807	X-2	陶器万古　急須	-	(5.0)	(1.1)	6	錆釉	錆釉	錆釉　布目	Cトレ北3層			-
808	X-3	陶器万古　急須	-	(7.2)	(1.6)	6	錆釉	錆釉	錆釉	重機搬出土			-
809	X-4	陶器万古　急須	-	(7.6)	(2.5)	8	錆釉	錆釉	錆釉	重機搬出土			-
810	X-5	陶器万古急須把手	-	-	(5.1)	17	錆釉	錆釉		重機搬出土			-
811	X-6	磁器急須　注口	-	-	(2.6)	9	穴7個あり			重機搬出土			-
812	X-7	磁器急須　注口	-	-	(4.4)	15	穴3個あり	灰釉+鉄		重機搬出土			-
813	X-8	陶器急須　注口	-	-	(5.5)	42	穴7個あり　釉なし	鉄釉		重機搬出土			-
814	X-9	磁器急須　把手	(2.6)	-	(4.2)	15	片側施釉	呉須				Ⅱ工区裏込	-
815	Y-1	磁器仏飯	-	(5.6)	(2.3)	10	施釉なし			西下流			-
816	Z-1	陶器土管	(19.6)	-	(8.4)	296	鉄釉	鉄釉		Cトレンチ南・堀	㋐㋒トレンチ表土層・砲台南石垣石組暗渠上層		204
817	AA-1	植木鉢	-	(11.7)	(2.7)	16	釉なし ナデ	釉なし　ミガキ		Cトレンチ5層・Cトレンチ3層・Eトレンチ・Eトレンチ3層・重機搬出土・堀			309
818	AA-2	植木鉢	-	(9.8)	(2.6)	24	釉なし ナデ	釉なし　ミガキ		Cトレンチ3層			-
819	AA-3	植木鉢	(15.4)	-	(5.5)	38	釉なし ナデ	口縁のみ錆釉　釉なし		堀			-
820	AA-4	植木鉢	(15.4)	-	(4.6)	41	釉なし 口縁横ナデ ナデ	口縁のみ錆釉　釉なし		重機搬出土			-
821	AA-5	植木鉢	(16.2)	-	(9.2)	132	釉なし 口縁横ナデ ナデ	口縁のみ錆釉　釉なし			㋖トレンチ上層		-
822	AA-6	植木鉢	(16.4)	-	(10.1)	82	釉なし 口縁横ナデ ナデ	口縁のみ錆釉　釉なし墨付着			㋖トレンチ上層		-
823	AA-7	植木鉢	(11.9)	-	(4.5)	26	釉なし ナデ	横ナデ			㋖トレンチ上層		-

通番	整理番号	種類	法量(cm) 長さ	幅	厚さ	重量(g)	備考	出土位置
824	BB-1	巴瓦	径14.8	〈3.6〉	2.0	292	外面　巴文あり	穴門排水口 西下流
825	BB-2	冠瓦	〈12.7〉	〈14.8〉	1.9	417		穴門排水口 西下流
826	BB-3	万十軒瓦	径〈8.8〉	〈2.5〉	2.6	140	外面　文様なし	穴門排水口 重機掘出土
827	BB-4	冠瓦	〈6.8〉	〈7.8〉	3.2	158		穴門排水口 重機掘出土
828	BB-5	冠瓦	〈8.7〉	〈9.9〉	3.5	207		穴門排水口 Eトレンチ3層
829	BB-6	軒瓦	〈6.0〉	2.7	2.1	56	外面　文様あり	穴門排水口 重機掘出土
830	BB-7	軒瓦	〈13.6〉	〈3.6〉	2.4	204	外面　文様なし	穴門排水口 西下流
831	BB-8	軒瓦　顎付き	〈5.2〉	〈10.7〉	1.5	120		穴門排水口 西下流
832	BB-9	袖瓦	〈6.0〉	〈8.0〉	2.5	170		穴門排水口 西下流
833	BB-10	桟瓦	〈18.3〉	27.8	1.8	1120	外面「[illegible]」刻印あり	穴門排水口 Cトレンチ南1層
834	BB-11	のし瓦	〈9.4〉	〈7.1〉	1.4	130		穴門排水口 Cトレンチ南1層
835	BB-12	桟瓦	〈16.1〉	〈12.1〉	1.6	365		穴門排水口 重機掘出土
836	BB-13	桟瓦	〈14.3〉	〈14.0〉	2.1	460		穴門排水口 重機掘出土
837	BB-14	軒瓦	〈9.5〉	〈4.7〉	2.3	250	外面　文様あり	旧プール解体 ⑤㋓トレンチ
838	BB-15	軒瓦	〈12.1〉	〈7.6〉	2.0	198	外面　文様あり	旧プール解体 ㋑㋒㋓トレンチ表土層
839	BB-16	軒瓦	〈11.4〉	〈2.7〉	〈2.6〉	130	外面　文様あり	旧プール解体 砲台南石垣石組暗渠
840	BB-17	冠瓦	〈9.6〉	〈6.6〉	1.7	128		旧プール解体 砲台南石垣石組暗渠
841	BB-20	桟瓦	〈16.0〉	〈13.7〉	2.0	398	外面　穴あり	旧プール解体 ㋒トレンチ表土層
842	BB-21	桟瓦	〈20.2〉	〈28.5〉	2.0	1130		旧プール解体 ㋒トレンチ表土層
843	BB-22	桟瓦	〈13.4〉	〈18.2〉	1.8	470		旧プール解体 ⑤㋓トレンチ
844	BB-24	万十軒瓦	径〈5.6〉	1.8	2.0	37	外面　文様あり	黒門西側石垣 2トレンチ2層
845	BB-25	冠瓦	〈4.6〉	〈6.6〉	1.5	42		黒門西側石垣 3トレンチ2層
846	BB-26	冠瓦	〈8.8〉	〈6.8〉	3.5	174		黒門西側石垣 3トレンチ1層
847	BB-27	冠瓦	〈12.5〉	〈5.2〉	2.6	122	内面　布目	黒門西側石垣 5トレンチ2層
848	BB-28	冠瓦	〈6.6〉	〈7.6〉	3.5	124		黒門西側石垣 3トレンチ2層
849	BB-29	軒瓦	〈4.7〉	〈2.6〉	1.9	20	外面　文様あり	黒門西側石垣 3トレンチ2層
850	BB-30	軒瓦	〈11.6〉	〈1.5〉	0.7	62	外面　文様あり	黒門西側石垣 5トレンチ2層
851	BB-31	軒瓦	〈5.4〉	〈1.5〉	1.9	18	外面　文様あり	黒門西側石垣 1トレンチ表土層
852	BB-32	軒瓦	〈5.6〉	〈2.1〉	2.0	28	外面　文様あり	黒門西側石垣 3トレンチ1層
853	BB-33	軒瓦	〈4.4〉	〈2.4〉	1.8	18	外面　文様あり	黒門西側石垣 1トレンチ表土層
854	BB-34	鬼瓦	〈10.7〉	10.1	1.9～4.3	590	外面　文様あり	黒門西側石垣 3トレンチ1層
855	BB-35	巴瓦	〈17.0〉	〈2.7〉	2.2	188	外面　文様あり	黒門西側石垣Ⅰ工区中石裏込
856	BB-37	巴瓦	〈8.0〉	〈3.0〉	3.2	92	外面　文様あり	黒門西側石垣Ⅰ工区中石裏込
857	BB-38	京花軒瓦	径〈8.5〉	-	2.2	98	外面　文様あり	黒門西側石垣Ⅰ工区中石裏込
858	BB-39	万十軒瓦	径8.8	-	〈3.5〉	257	868と同一個体か 外面　文様なし	黒門西側石垣Ⅰ工区天端石裏込
859	BB-40	京花軒瓦	〈12.3〉	〈8.4〉	1.9	252	外面　文様あり	黒門西側石垣Ⅰ工区天端石裏込
860	BB-41	巴瓦	〈15.3〉	〈7.3〉	1.9	436	外面　文様あり	黒門西側石垣Ⅰ工区道路埋土
861	BB-42	京花軒瓦	〈14.4〉	〈10.4〉	1.5	458	外面　文様あり	黒門西側石垣Ⅰ工区中石裏込
862	BB-43	万十軒瓦	〈8.4〉	〈2.7〉	2.3	78	外面　文様なし	黒門西側石垣Ⅰ工区中石裏込

通番	整理番号	種類	法量(cm) 長さ	幅	厚さ	重量(g)	備考	出土位置
863	BB-44	京花軒瓦	〈14.4〉	〈9.2〉	1.8	332	外面　文様あり	黒門西側石垣Ⅰ工区中石裏込
864	BB-45	京花軒瓦	〈11.3〉	〈4.7〉	1.7	223	外面　文様あり	黒門西側石垣Ⅰ工区中石裏込
865	BB-46	巴瓦	〈9.0〉	〈2.0〉	1.9	94	外面　文様あり	黒門西側石垣Ⅰ工区中石裏込
866	BB-47	万十軒瓦	〈8.5〉	〈2.3〉	1.7	137	外面　文様なし	黒門西側石垣Ⅰ工区天端石裏込
867	BB-48	万十軒瓦	〈12.2〉	〈17.1〉	1.7	670	外面　文様なし	黒門西側石垣Ⅰ工区中石裏込
868	BB-49	万十軒瓦	〈12.5〉	〈5.2〉	2.0	228	858と同一個体か 外面　文様なし	黒門西側石垣Ⅰ工区土塁
869	BB-50	京花軒瓦？	径9.5	-	1.8	104	外面　文様あり	黒門西側石垣Ⅰ工区表採
870	BB-52	冠瓦	〈15.4〉	〈11.2〉	3.1	416		黒門西側石垣Ⅰ工区中石裏込
871	BB-54	冠瓦	〈10.3〉	〈6.5〉	1.5	188		黒門西側石垣Ⅰ工区中石裏込
872	BB-55	冠瓦	〈14.7〉	〈16.7〉	1.6	600	内面　ヘラナデ 外面　穴あり	黒門西側石垣Ⅰ工区中石裏込
873	BB-56	冠瓦	〈9.9〉	〈3.7〉	2.0	265	内面　布目	黒門西側石垣Ⅰ工区土塁
874	BB-57	冠瓦	〈11.5〉	〈11.2〉	2.4	230	内面　布目 ヘラナデ	黒門西側石垣Ⅰ工区土塁
875	BB-58	巴瓦	〈10.6〉	〈12.9〉	2.2	284	内面　布目ヘラナデ 外面　文様なし	黒門西側石垣Ⅰ工区天端石裏込
876	BB-59	巴瓦	〈10.4〉	〈4.5〉	2.8	282	内面　ヘラナデ	黒門西側石垣Ⅰ工区天端石裏込
877	BB-60	冠瓦	〈10.1〉	〈15.2〉	1.8	264	内面　布目ヘラケズリ	黒門西側石垣Ⅰ工区天端石裏込
878	BB-61	袖瓦	〈5.1〉	〈13.9〉	2.0	318		黒門西側石垣Ⅰ工区土塁
879	BB-62	軒瓦	〈4.3〉	〈10.9〉	1.7	162		黒門西側石垣Ⅰ工区天端石裏込
880	BB-65	袖瓦	〈11.1〉	〈7.6〉	1.9	184	内面 ナデ 外面ナデ・トチン痕	黒門西側石垣Ⅰ工区天端石裏込
881	BB-68	桟瓦	〈12.8〉	〈26.1〉	1.9	670		黒門西側石垣Ⅰ工区土塁
882	BB-69	桟瓦	〈14.3〉	〈10.3〉	1.8	302	外面　穴あり	黒門西側石垣Ⅰ工区中石裏込
883	BB-71	軒瓦	〈8.5〉	〈8.0〉	〈2.0〉	378	外面　文様(鳥)	黒門西側石垣Ⅰ工区中石裏込
884	BB-72	軒瓦	〈14.8〉	〈7.7〉	〈1.9〉	350	外面　文様あり	黒門西側石垣Ⅰ工区根石裏込
885	BB-73	軒瓦	〈6.2〉	〈2.0〉	2.0	52	外面　文様あり	黒門西側石垣Ⅰ工区裏込
886	BB-74	軒瓦	〈10.4〉	〈6.0〉	1.7	168	外面　文様あり	黒門西側石垣Ⅰ工区天端石裏込
887	BB-75	軒瓦	〈14.2〉	〈5.5〉	2.4	180	外面　文様あり	黒門西側石垣Ⅰ工区 跳ね出し石天端石裏込
888	BB-76	軒瓦	〈13.6〉	〈5.1〉	1.8	222	外面　文様あり	黒門西側石垣Ⅰ工区天端石裏込
889	BB-77	軒瓦	〈12.3〉	〈2.7〉	2.7	128	外面　文様あり	黒門西側石垣Ⅰ工区天端石裏込
890	BB-78	軒瓦	〈12.4〉	〈3.2〉	1.7	150	外面　文様あり	黒門西側石垣Ⅰ工区中石裏込
891	BB-79	万十軒瓦	〈10.2〉	〈4.2〉	2.7	146	外面　巴欠落	黒門西側石垣Ⅰ工区天端石裏込
892	BB-80	軒瓦	〈10.4〉	〈3.6〉	2.0	124	外面　文様あり	黒門西側石垣Ⅰ工区天端石裏込
893	BB-81	軒瓦	〈12.0〉	〈7.0〉	2.0	237	外面　文様あり	黒門西側石垣Ⅰ工区天端石裏込
894	BB-82	軒瓦	〈11.1〉	〈4.5〉	2.7	163	外面　文様あり	黒門西側石垣Ⅰ工区天端石裏込
895	BB-83	軒瓦	〈16.2〉	〈10.9〉	1.5	390	外面　文様あり	黒門西側石垣Ⅰ工区天端石裏込
896	BB-84	のし瓦	〈6.7〉	〈3.9〉	1.9	46	外面「○」印あり	黒門西側石垣Ⅰ工区 土塁
897	BB-85	のし瓦	〈13.4〉	〈9.9〉	1.7	272		黒門西側石垣Ⅰ工区中石裏込
898	BB-86	万十軒瓦	9.7	〈2.4〉	2.4	220	巴部	黒門西側石垣Ⅱ工区裏込
899	BB-87	軒瓦	〈9.3〉	〈6.2〉	2.4	140	外面　文様あり	黒門西側石垣Ⅱ工区裏込
900	BB-88	万十軒瓦	〈13.3〉	〈5.1〉	1.7	198	外面　文様なし	黒門西側石垣Ⅱ工区土塁
901	BB-91	万十軒瓦	〈4.4〉	〈1.2〉	1.5	26	外面 [illegible]	黒門西側石垣Ⅱ工区裏込

通番	整理番号	種類	法量(cm)				備考	出土位置	通番	整理番号	種類	法量(cm)				備考	出土位置
			長さ	幅	厚さ	重量(g)						長さ	幅	厚さ	重量(g)		
902	CC-1-1	錠	14.5	0.6	0.6	45		穴門排水口 重機搬出土	944	CC-17-2	不明	〈4.0〉	径 1.5		12	筒状	旧ゲート解体㋑㋒㋓トレンチ表土層
903	CC-1-2	把手	〈7.5〉	1.0	1.0	28	鉄製	穴門排水口 重機搬出土	945	CC-18-1	丸軸	〈11.0〉	0.5		11	他9片	旧ゲート解体㋑㋒㋓トレンチ表土層
904	CC-1-3	鉄鋼	〈9.0〉	〈3.5〉	1.0	76		穴門排水口 重機搬出土	946	CC-18-12	止め金具	〈3.2〉	1.7	0.6	4		旧ゲート解体㋑㋒㋓トレンチ表土層
905	CC-1-4	ボルト金具	5.2	4.8	0.5	79		穴門排水口 重機搬出土	947	CC-19-1	鉄環	〈7.5〉	1.0	0.5	17		旧ゲート解体㋑㋒㋓トレンチ
906	CC-1-5	鉄板	7.3	3.0	0.4	69		穴門排水口 重機搬出土	948	CC-19-2	D環	2.6	2.2	0.3	3		旧ゲート解体㋑㋒㋓トレンチ
907	CC-1-6	丸釘5寸	15.0	1.1		24		穴門排水口 重機搬出土	949	CC-20-1	南京錠	8.0	5.0	1.2	87		旧ゲート解体㋑㋒㋓トレンチ表土層
908	CC-2-1	刀子	〈5.5〉	1.0	3.0	17		穴門排水口 Cトレンチ北3層	950	CC-20-2	眼鏡	11.8	3.5	0.5	13		旧ゲート解体㋑㋒㋓トレンチ表土層
909	CC-2-2	鉄軸	〈6.0〉	〈0.7〉	0.2	2		穴門排水口 Cトレンチ北3層	951	CC-21	角釘	7.4	1.4	0.6	5		旧ゲート解体㋑㋒㋓トレンチ
910	CC-2-3	不明	〈2.8〉	〈2.5〉	〈0.4〉	4	さび付着	穴門排水口 Cトレンチ北3層	952	CC-22	角釘	19.5	0.6	0.5	41	頭部わずかに欠損	旧ゲート解体㋑㋒㋓トレンチ表土層
911	CC-2-4	不明	〈3.5〉	〈0.6〉	〈0.2〉	2		穴門排水口 Cトレンチ北3層	953	CC-23	鉄鋼	〈10.4〉	6.6	0.3	53		旧ゲート解体㋑㋒㋓トレンチ表土層
912	CC-3-1	角釘	〈4.0〉	0.5	0.3	3		穴門排水口 Cトレンチ5層	954	CC-24	学生ボタン	径 2.0		0.3	1		旧ゲート解体㋑㋒㋓トレンチ表土層
913	CC-3-2	樋の受け	〈16.2〉	1.5	0.3	94		穴門排水口 Cトレンチ5層	955	CC-25	樋の受け	〈14.0〉	0.9	0.3	22		旧ゲート解体㋑㋒㋓トレンチ表土層
914	CC-3-3	蝶番の軸	12.0	1.5	1.5	104		穴門排水口 Cトレンチ5層	956	CC-26	樋の受け	25.8	0.9	0.7	92		旧ゲート解体㋑㋒㋓トレンチ表土層
915	CC-4	樋の受け	〈39.5〉	1.1	0.3	233		穴門排水口 西下流	957	CC-27	角釘	〈7.0〉	0.5	0.5	6		旧ゲート解体㋑㋒㋓トレンチ表土層
916	CC-5	角釘	〈5.5〉	0.8	0.4	2		穴門排水口 石垣B面B5-1下	958	CC-28-1	丸釘	5.6	0.7		2		黒門西側石垣 2トレンチ2層
917	CC-6	角軸	〈14.0〉	0.3	0.3	9		穴門排水口石垣B面B6-6東側石下	959	CC-28-2	丸釘	3.0	0.5		1		黒門西側石垣 2トレンチ2層
918	CC-7-1	鉄製品	〈18.0〉	2.2	0.9	199	両端欠損	穴門排水口 Cトレンチ南1層	960	CC-28-3	鉄薄板	〈3.5〉	3.5	0.1	5		黒門西側石垣 2トレンチ2層
919	CC-7-2	草刈機の歯	〈3.0〉	1.5	0.1	3		穴門排水口 Cトレンチ南1層	961	CC-29	丸釘	〈4.5〉	0.7		2		黒門西側石垣 2トレンチ2層
920	CC-8-1	丸釘	〈12.5〉	1.1		16		穴門排水口 石垣F面土留	962	CC-30	鉄筋	〈6.5〉	〈6.0〉	0.1	24		黒門西側石垣 2トレンチ1層
921	CC-8-2	丸釘	〈12.5〉	0.5		15		穴門排水口 石垣F面土留	963	CC-31-1	丸釘	7.4	0.9		5		黒門西側石垣 I 工区中石裏込
922	CC-8-3	丸釘	〈10.1〉	0.8		10		穴門排水口 石垣F面土留	964	CC-31-2	止め金具	2.9	1.7	0.6	2		黒門西側石垣 I 工区中石裏込
923	CC-8-4	丸釘	〈9.7〉	0.4		8		穴門排水口 石垣F面土留	965	CC-32	アルミ製品	3.4	径 6.0	2.9	12		黒門西側石垣 I 工区土留
924	CC-8-5	丸釘	9.0	0.7		7		穴門排水口 石垣F面土留	966	CC-33	針金	〈4.5〉	0.5		5	ねじり合わせてある	黒門西側石垣 I 工区天端石裏込
925	CC-8-6	丸釘	〈8.6〉	0.8		7		穴門排水口 石垣F面土留	967	CC-34	丸釘	〈9.0〉	0.9		10		黒門西側石垣 I 工区跳ね出し石天端石裏込
926	CC-8-7	丸釘	6.5	0.5		3		穴門排水口 石垣F面土留	968-1	CC-35	鉄蓋 } 同一個体	〈9.0〉	〈6.2〉	0.6	9	ストーブの蓋	黒門西側石垣 I 工区裏込
927	CC-8-8	丸釘	〈4.4〉	0.7		1		穴門排水口 石垣F面土留	968-2	CC-36	鉄蓋	〈14.7〉	〈9.0〉	1.0	272	ストーブの蓋	黒門西側石垣 I 工区根石裏込
928	CC-8-9	丸釘	3.7	0.3		1		穴門排水口 石垣F面土留	969	CC-37	鉄筋	〈9.0〉	〈7.5〉	3.0	66		黒門西側石垣 I 工区中石裏込
929	CC-8-10	ボルト金具	3.9	3.9	0.4	32		穴門排水口 石垣F面土留	970	CC-38-1	鉄筋	〈9.0〉	〈8.7〉	2.0	39		黒門西側石垣 I 工区天端石裏込
930	CC-9-1	丸釘	〈8.5〉	0.5		6		穴門排水口 石垣A面土留	971	CC-38-2	鉄筋	〈10.3〉	〈5.0〉	3.2	17		黒門西側石垣 I 工区天端石裏込
931	CC-9-2	丸釘	4.4	0.4		1		穴門排水口 石垣A面土留	972	CC-39	刀子	〈9.0〉	〈1.3〉	0.3	9		黒門西側石垣 3トレンチ1層
932	CC-10-1	鉄環	1.5	1.8	1.8	23		旧ゲート解体㋒トレンチ表土層	973	CC-40-1	鎌	〈5.2〉	〈2.1〉	0.2	4		黒門西側石垣 3トレンチ2層
933	CC-10-2	学生ボタン	径 2.0		0.4	1		旧ゲート解体㋒トレンチ表土層	974	CC-40-2	ボルト	6.0	2.2		70	六角ねじボルト	黒門西側石垣 3トレンチ2層
934	CC-10-3	止め金具	4.0	2.0	0.4	5		旧ゲート解体㋒トレンチ表土層	975	CC-41-1	角釘	〈5.5〉	〈0.4〉	〈0.4〉	3	頭部欠損	黒門西側石垣 5トレンチ2層
935	CC-11	角釘	8.0	0.5	0.4	6		旧ゲート解体㋔トレンチ表土層	976	CC-41-2	角釘	6.0	0.8	0.5	5		黒門西側石垣 5トレンチ2層
936	CC-12	鎌	〈20.5〉	2.8	0.3	57		旧ゲート解体㋕㋔トレンチ表土層	977	CC-41-3	丸釘	6.7	0.6		2		黒門西側石垣 5トレンチ2層
937	CC-13-1	角釘	〈6.0〉	0.4	0.3	4		旧ゲート解体㋕㋔トレンチ表土層	978	CC-41-4	丸釘	6.3	0.5		3		黒門西側石垣 5トレンチ2層
938	CC-13-2	シートの穴環	径 2.1		0.3	1	アルミ製	旧ゲート解体㋕㋔トレンチ表土層	979	CC-41-5	丸釘	5.0	0.6		1		黒門西側石垣 5トレンチ2層
939	CC-14	鉄の輪環	4.8	0.3	0.3	8	断面角	旧ゲート解体㋑㋒㋓トレンチ表土層	980	CC-41-6	丸釘	3.9	0.4		1		黒門西側石垣 5トレンチ2層
940	CC-15	ワッシャー	径 1.8		0.01	0.2	アルミ製	旧ゲート解体㋑㋒㋓トレンチ表土層	981	CC-41-7	銅線	7.5		0.15	2		黒門西側石垣 5トレンチ2層
941	CC-16-1	止め金具	3.2	1.8	0.5	5		旧ゲート解体㋑㋒㋓トレンチ表土層	982	CC-41-8	びんの栓	径 3.0		0.6	2		黒門西側石垣 5トレンチ2層
942	CC-16-2	ビンねじふた	径 3.0		0.9	3	鉄製	旧ゲート解体㋑㋒㋓トレンチ表土層	983	CC-42	丸釘	15.0	1.0		24		黒門西側石垣 5トレンチ2層
943	CC-17-1	丸釘	〈6.5〉	0.4		5		旧ゲート解体㋑㋒㋓トレンチ表土	984	CC-43-1	丸釘	4.6	0.4		1		黒門西側石垣 5トレンチ2層

通番	整理番号	種類	法量 (cm) 長さ	幅	厚さ	重量(g)	備考	出土位置	通番	整理番号	種類	法量 (cm) 長さ	幅	厚さ	重量(g)	備考	出土位置
985	CC-43-2	針金	〈8.5〉	5.5	0.3	12	二重輪	黒門西側石垣 5トレンチ2層	1006	CC-65	鉄筋	〈10.7〉	0.8		40		穴門排水口 重機掘出土
986	CC-44	番線	〈26.7〉	径0.4		23		黒門西側石垣 5トレンチ2層	1007	CC-66	針金	〈25.0〉	0.4		20		穴門排水口 重機掘出土
987	CC-45-1	角釘	〈6.5〉	0.4	0.3	5	先端欠損	黒門西側石垣 5トレンチ3層	1008	CC-67	針金	〈27.2〉	0.4		16		穴門排水口 重機掘出土
988	CC-45-2	角釘	〈6.5〉	0.4	0.3	4	頭部欠損	黒門西側石垣 5トレンチ3層	1009	CC-68	針金	〈38.5〉	1.0		34		穴門排水口 重機掘出土
989	CC-45-3	角釘	〈5.8〉	0.4	0.3	2		黒門西側石垣 5トレンチ3層	1010	CC-69	鉄?	9.0	5.7	0.8	326		穴門排水口 重機掘出土
990	CC-45-4	丸釘	〈6.3〉	0.6		3		黒門西側石垣 5トレンチ3層	1011	CC-70	止め金具	10.2	3.3	0.3	27		穴門排水口 重機掘出土
991	CC-45-5	丸釘	〈3.5〉	0.4		0.5		黒門西側石垣 5トレンチ3層	1012	CC-71	アルミ製の縁	〈24.7〉	2.4	0.3	36		穴門排水口 重機掘出土
992	CC-45-6	丸釘	〈12.6〉	0.9		15		黒門西側石垣 5トレンチ3層	1013	CC-72	鉄製の縁	〈15.2〉	1.7	0.2	10		穴門排水口 重機掘出土
993	CC-46	鑿	〈9.4〉	2.1	1.5	91		黒門西側石垣 1トレンチ表層	1014	CC-73	樋の受け	〈27.6〉	0.8	3.0	40	鉄製	穴門排水口 重機掘出土
994	CC-47-1	丸釘	〈6.2〉	0.6		3		黒門西側石垣 土塁表採	1015	CC-74	樋の受け	29.5	1.0	0.3	62	鉄製	穴門排水口 重機掘出土
995	CC-47-2	丸釘	〈6.5〉	0.6		2		黒門西側石垣 土塁表採	1016-1	CC-75-1	洗濯ばさみ (同個体)	〈5.3〉	1.0	0.01	0.5	アルミ製	穴門排水口 重機掘出土
996	CC-58	銅針金	〈4.2〉	2.5	0.1	1		黒門西側石垣 4トレンチ1層	1016-2	CC-75-2	洗濯ばさみ (同個体)	〈4.3〉	0.9	0.01	0.5	アルミ製	穴門排水口 重機掘出土
997	CC-59	止め金具	3.1	2.0	0.5	3	アルミ製	黒門西側石垣 4トレンチ1層	1017	CC-76	ベルト鉸具	4.9	2.8	0.1	1.0	アルミ製	穴門排水口 重機掘出土
998	CC-60	ワッシャー	径 2.5		0.1	3		旧プール解体㋒トレンチ表土層	1018	CC-77	ライター	5.1	3.6	1.0	26	アルミ製	穴門排水口 重機掘出土
999	CC-61	鉄缶	〈4.6〉	1.5	0.6	3		旧プール解体㋒トレンチ表土層	1019	CC-78	ナット	3.1	2.0	1.9	60	鉄製	穴門排水口 重機掘出土
1000	CC-62-1	蝶番	3.6	4.5	0.4	19	銅製	旧プール解体 プール㋒トレンチ	1020	CC-79	不明	〈4.3〉	3.7	0.3	23		穴門排水口 重機掘出土
1001	CC-62-2	蝶番の軸	〈1.8〉	径0.2		0.1		旧プール解体 プール㋒トレンチ	1021	CC-80	アルミ缶 蓋	〈4.8〉			2		穴門排水口 重機掘出土
1002	CC-63-1	樋の受け	〈34.5〉	1.9	0.5	295		旧プール解体 プール㋒トレンチ	1022	CC-81	アルミ缶	9.0	6.2		22		穴門排水口 重機掘出土
1003	CC-63-2	鉄の板	〈10.5〉	6.5	0.7	363		旧プール解体 プール㋒トレンチ	1023	CC-82	スチール缶	10.0	5.4		36		穴門排水口 重機掘出土
1004	CC-63-3	スプーン	12.3	2.6	0.1	13	鉄製	旧プール解体 プール㋒トレンチ	1024	CC-83	急須の蓋	7.9			9.0	アルミ製	穴門排水口 重機掘出土
1005	CC-64	丸釘	〈6.4〉	0.6		1		穴門排水口 重機掘出土	1025	CC-84	ホーローボウル	8.0	〈2.5〉	0.1	27		穴門排水口 重機掘出土

通番	整理番号	種類	法量 (cm) 最大長	最大幅	最大厚	重量(g)	備考	出土位置 穴門排水口修理 (TTTⅠ)	旧プール解体 (TTTⅡ)	黒門西側石垣(TTTⅢ)
1026	CC-48	十銭	2.2			3.96	「大日本昭和十四年」		㋑㋒㋓トレンチ表土層	
1027	CC-49	五円	2.1			3.70	「日本国昭和四十八年」		㋑㋒㋓トレンチ表土層	
1028	CC-50	十円	2.3			4.45	「昭和四十六年日本国十円」		㋒トレンチ表土層	
1029	CC-51	一銭	2.3			3.56	「大日本大正九年」		㋓トレンチ表土層	
1030	CC-52	寛永通寳	2.4			2.77			㋔トレンチ	
1031	CC-53	寛永通寳	2.4			3.32		Cトレンチ3層		
1032	CC-54	百円	2.2			4.73	「昭和44年日本国百円」			2トレンチ2層
1033	CC-55	一銭	2.2			3.57	「大日本大正九年」			2トレンチ2層
1034	CC-56	十円	2.3			4.52	「日本国十円昭和三十四年」			5トレンチ2層
1035	CC-57	十円	2.3			4.40	「日本国十円昭和三十五年」			4トレンチ1層
1036	DD-1	硯	〈11.2〉	6.5	〈1.8〉	246.50	被熱なし。上部、右下角欠損。正面剥落。(条痕残る)裏面に線刻文字。粘板岩			Ⅱ工区道路埋土
1037	DD-2	茶臼(下臼)	〈20.8〉	〈14.8〉	〈8.6〉	〈3110〉	被熱なし。径(29.0) 芯棒孔径(2.0) 安山岩			Ⅰ工区裏込
1038	DD-3	粉挽き臼(上臼)	〈19.1〉	〈16.9〉	〈9.1〉	〈4400〉	被熱なし。径(32.0) 芯棒孔径(1.6) 縁が低い、中心孔が大きい、一転用使用か。ものくばり、挽き木ならしき方形の孔あり。花崗岩			Ⅰ工区中石裏込
1039	DD-4	打製石斧	14.9	12.0	1.8	324.20	被熱なし。下辺を刃部とする石斧か?安山岩	重機掘出土		
1040	DD-5	礫岩	10.8	6.1	3.9	339.00	石質の異なる石。硬砂岩			Ⅱ工区裏込
1041	DD-6	石板	〈5.3〉	〈5.7〉	0.25	16.72	粘板岩		㋑㋒㋓トレンチ表土層	
1042	EE-1	瓦	〈12.0〉	〈8.8〉	6.2	848.10				Ⅱ工区裏込
1043	FF-1	木	〈8.5〉	7.5		114	樹種は「マツ」・木樋暗渠として利用か	石組暗渠下の粘土層		

佐久市埋蔵文化財調査報告書　第216集

龍岡城跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ

2014年3月

編集・発行　佐久市教育委員会
〒385-8501　長野県佐久市中込 3056
社会教育部　文化財課
〒385-0006　長野県佐久市志賀 5953
ＴＥＬ 0267-68-7321
印刷所　キクハラインク有限会社

報告書抄録

ふりがな	たつおかじょうせき　いち・に・さん・よん		
書名	龍岡城跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ		
シリーズ名	佐久市埋蔵文化財調査報告書　第２１６集		
編著者名	森泉かよ子		
編集機関	佐久市教育委員会		
発行年月日	２０１４０３		
郵便番号	３８５０００６		
電話番号	０２６７－６８－７３２１		
住所	長野県佐久市志賀５９５３		
ふりがな	たつおかじょうせき		
遺跡名	龍岡城跡		
ふりがな	ながのけんさくしたぐち		
遺跡所在地	長野県佐久市田口		
遺跡番号	佐久市　７７９		
北緯	３６°－１９′－６０″（世界測地系）		
東経	１３８°－５０′－１５″（世界測地系）		
	調査期間	調査面積	調査原因
龍岡城跡Ⅰ	２００５１１２０－２００８０３１８	１７０㎡	穴門排水口修復
龍岡城跡Ⅱ	２００７０９１４－２００８０３０４	２０００㎡	プール撤去
龍岡城跡Ⅲ	２００８１１０４－２０１１０３１４	２００㎡	石垣解体修復
龍岡城跡Ⅳ	２００８１２０１－２００９０３２４	１７２㎡	市道改良舗装工事
種別	近世城郭		
主な時代	近世		
遺跡の概要	城郭－近世－陶磁器＋瓦－近代－陶磁器＋土器＋瓦＋鉄製品＋プラスチック製品＋ガラス＋ガラス製品＋石製品＋木		